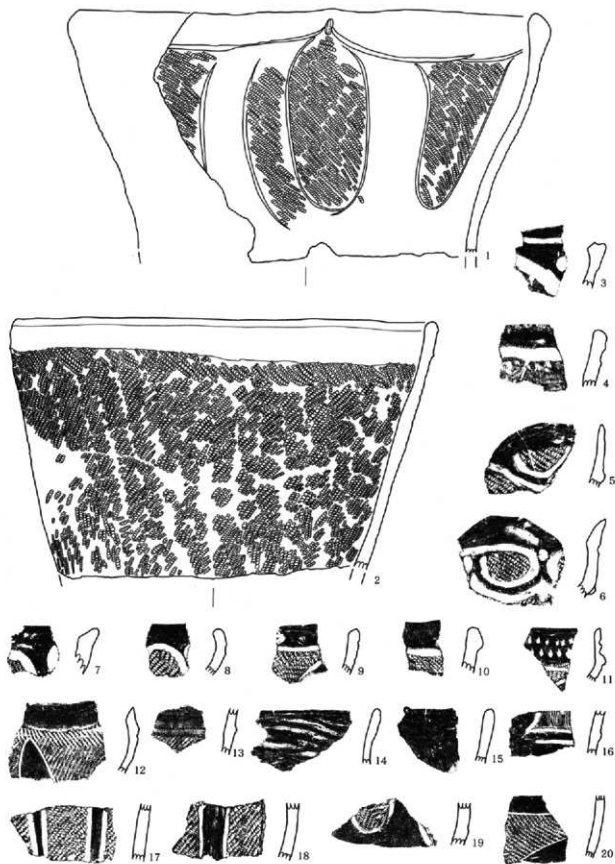


J-52出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	細かい砂粒、軽石粒、角閃石	普通	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位の区画。	
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	LR	横	加曾利E	口縁部太さ5ミリの沈線による横位横円区画。	

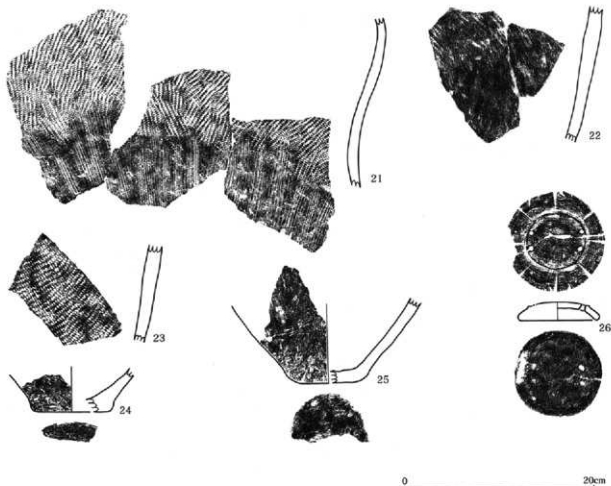
J-53出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁～胴部	洗黄橙	7.5YR8/4	φ1～2ミリの小石、白色粒多い	良	LR	縦	Ⅱ群1類	太さ2～3ミリの沈線を弧状に引き口縁部を無文帯と区画する。弧線の連結部には縦長の粘土層を貼り付け突起とする。胴部は、曲線による横円区画、区画間には磨り消し施文による無文帯。	
2	深鉢	口縁～胴部	暗褐	7.5YR3/4	φ1～3ミリの小石多い	良	RL	縦	Ⅱ群3類	口縁部に太さ3ミリの断面三角になる隆線が走り、無文帯。隆線下には、施文が方向を変え施文され羽状施文を構成する。胴部には、縦位方向に帯状施文が施文。	
3	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒	良			加曾利E	波状口縁。口唇部浅い沈線を通らす。頂部外傾し円形の突起を加える。太さ12ミリの沈線による区画を施す。	
4	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒、軽石粒	普通			加曾利E	口縁部無文帯。横位の彫形。頸部に太さ10ミリの沈線を横位に通らす。	
5	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/2	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E	口縁部弧状になる。太さ6ミリの2条の沈線とその間の隆線による弧状の区画。	
6	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	横	Ⅱ群1類	波状口縁。太さ7ミリの2条の沈線とその間の太さ8ミリの隆線による横位横位区画。隆線上面にφ10ミリの突起が施文される。	
7	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	Ⅱ群	波状口縁。太さ8ミリの沈線と隆線により弧状区画を作る。	
8	深鉢	口縁	褐灰	10YR4/1	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL		Ⅱ群	口縁部や内傾し、太さ6ミリの沈線により「U」状の区画をする。	
9	深鉢	口縁	赤褐	2.5YR4/6	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	LR		加曾利E	口縁部無文帯。横位の彫形。胴部に太さ5ミリの沈線により横位区画。胴部は、同じ沈線により弧状区画。施文0度多。	
10	深鉢	口縁	黄	5YR6/6	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通			加曾利E	口縁部無文帯。頸部太さ7ミリの沈線により横位区画。	
11	深鉢	口縁	黒褐	7.5YR3/2	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	斜横	Ⅱ群2類	波状口縁。ペン先状工具により2列の刺突列を施文。頸部太さ6ミリの隆線を横位に通らす。胴部太さ4ミリの沈線により磨り消し施文帯を区画する。	
12	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	縦横	Ⅱ群	波状口縁。頸部は隆線部を巡らした後、施文施文。	
13	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	縦	Ⅱ群	口縁部無文帯。胴部に太さ5ミリの隆線により横位区画。	
14	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—		加曾利E	口縁部無文帯。横位の彫形。	
15	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—		加曾利E	口縁部無文帯。横位の彫形。	
16	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		Ⅱ群4類	口縁部太さ4ミリの沈線とその間に沿う隆線による横円区画。ヘラ状工具による幅広の刻み列。	



第144图 J-53出土土器(1)

0 20cm



第145図 J-53出土土器(2)

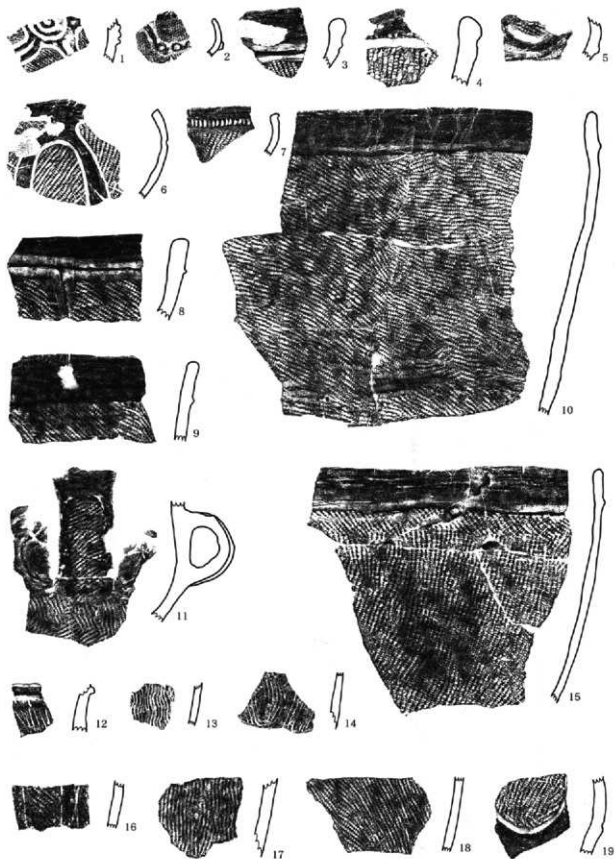
J-53出土土器調査表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 部位	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
17	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	胴部太さ4ミリの沈線2条を対にして縦位の区画。	
18	深鉢	胴部	灰黄褐色	10YR6/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	胴部太さ4ミリの2条1組の沈線による縦位区画。	
19	深鉢	胴部	黒	10YR2/1	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦斜	VI群	胴部太さ5ミリの沈線による波状区画を作る。	
20	深鉢	胴部	暗褐色	10YR3/4	細かい砂粒、軽石粒、角閃石	普通	RL	縦	VI群	胴部太さ2ミリの沈線により「U」「n」状の文様区画。	
21	深鉢	胴部	灰褐色	7.5YR5/2	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	斜横	加曾利E	胴上半部は、縄文施文。胴下半部は、縷状工具による条線施文。	
22	深鉢	胴部	黒褐色	10YR3/2	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	横	加曾利E	胴上半部は縄文施文。胴下半部は、縦位の整形。	
23	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR6/3	細かい砂粒	普通	LR	横	加曾利E	胴部に縄文施文。	
24	深鉢	底部	灰黄褐色	10YR6/2	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	底面整形。	
25	深鉢	胴部～底部	灰黄褐色	10YR6/2	φ1～2ミリの砂粒	不良	—	—	加曾利E	胴下部は、縦位の整形。	
26	蓋		黒褐色	10YR3/1	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	無文。横位の整形。内側に隆起線を作り段をなす。縁には、孔を2個対に持つ。	

第4章 出土遺物

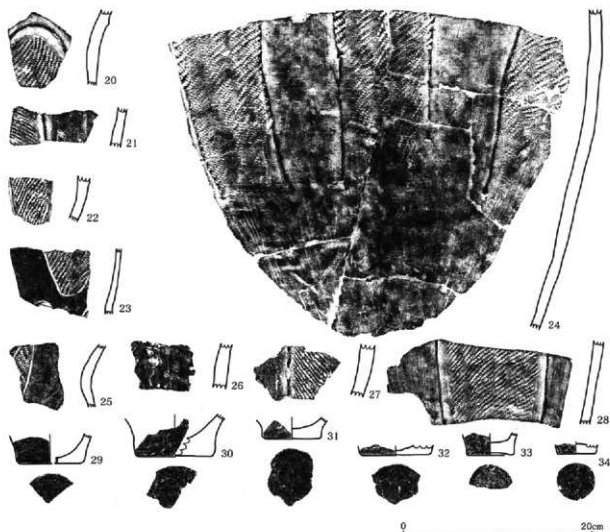
J-54出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	裏文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	R	縦	I群	口縁部隆帯を貼り付け、上面に太さ3ミリの沈線を引き、縦位の連続する褐色文様を構成する。裏文は、捺赤文。	
2	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	LR	縦	I群	口縁部に捺赤文施文後太さ5ミリの隆帯を貼り付ける。その上面に指頭圧痕を等間隔に施文。	
3	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒、軽 石粒	普通	LR	縦	加曾利E	口縁部無文帯。横位の整形。頸部太さ4ミリの沈線による横位区画。	
4	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR5/3	φ1～2ミリの小 石、軽石粒	不良	RL	縦斜	加曾利E	波状口縁。無文帯横位の整形。頸部太さ7ミリの沈線による区画。	
5	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR6/4	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通			加曾利E	口縁部太さ8ミリの隆線による横位横円区画。	
6	深鉢	口縁～ 胴部	にぶい黄褐色	10YR6/4	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	RL	縦横	VI群	口縁部無文帯。頸部から胴部に太さ4ミリの沈線による弧状・横円区画。区画内は、磨り消し施文。	
7	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒、軽 石粒	良	RL	縦	V群	口縁部太さ7ミリの爪形の刻み列。胴部は、弧状の文様区画。	
8	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒、軽 石粒	普通	RL	横	VI群3類	口縁部無文帯。太さ3ミリの隆線が回り口縁部無文帯を区画。胴部には縦位の区画線。	
9	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒、角 四石	普通	RL	横	VI群3類	口縁部平線。太さ3ミリの隆線が回り口縁部無文帯を区画。	
10	深鉢	口縁～ 胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	RL	横斜	VI群3類	口縁部平線。隆線起縁が回り口縁部無文帯を区画。	
11	両耳壺	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒、軽 石粒	普通	LR	縦横	V群2類	口縁部無文帯を持つ。頸部は、隆起縁による横位横円区画。幅50ミリの横状把手。	横状把手
12	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/4	細かい砂粒	良	R	縦	加曾利E	太さ9ミリの隆線による横位区画。裏文は、捺赤文。	
13	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの小石	不良	一		蓮群2類	擦状工具による縦位の波状沈線。	
14	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒、角 四石	普通	一		加曾利E	太さ1ミリの集合沈線文。	
15	深鉢	口縁～ 胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	LR	縦斜	VI群3類	口縁部平線。隆線起縁が回り口縁部無文帯を区画。	
16	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E	胴部太さ2ミリの沈線による縦位区画。	
17	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒、角 四石	不良		斜	加曾利E	裏文施文が薄く原形不明。	
18	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	φ1ミリの砂粒、 軽石粒、角四石	普通	RL	横	加曾利E	胴部に縦文施文。	
19	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒、軽 石粒	普通	RL	縦	VI群	胴部太さ3ミリの沈線による横円区画。区画の外は、磨り消し施文。	
20	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR6/4	細かい砂粒、軽 石粒	普通	RL	縦	VI群	胴部太さ4ミリの隆線による横円区画。	
21	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/4	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	良	RL	横	VI群3類	胴部太さ4ミリの隆起縁による縦位区画。	
22	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒、軽 石粒	普通	RL	縦	VI群3類	胴部沈線による縦位区画。裏文0段多条。	
23	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	良	RL	縦	VI群1類	胴部太さ2ミリの沈線により波状、「U」状の文様区画。無文帯磨り消し施文。	
24	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR6/3	φ1ミリの小石	普通	LR	横	VI群3類	胴部太さ3ミリの隆起縁による縦位の区画。下部は、縦位の整形。	
25	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	普通	LR	縦	VI群1類	胴部太さ2ミリの沈線による「U」状文様。	
26	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒、角 四石	普通	一		VI群3類	胴下部横位の整形。	
27	深鉢	胴部	黄灰	2.5Y4/1	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	LR	縦	VI群3類	胴部太さ4ミリの隆線による縦位区画。無文帯は、磨り消し施文。	



第146图 J-54出土土器(1)

0 20cm



第147図 J-54出土土器(2)

J-54出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
28	深鉢	胴部	にぶい黄緑	10YR7/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	VI群3類	胴部太さ2ミリの縦線による縦位区画。区画内は、磨り消し縄文。	
29	深鉢	底部	にぶい黄緑	10YR7/4	細かい砂粒	普通	—	—	加曽利E	外面整形痕が残る。	
30	深鉢	底部	にぶい黄緑	10YR6/4	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	—	—	加曽利E	外面整形痕が残る。	
31	深鉢	底部	にぶい黄緑	10YR7/4	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	—	—	加曽利E	外面整形痕が残る。	
32	深鉢	底部	にぶい黄緑	10YR7/4	細かい砂粒	普通	—	—	加曽利E	外面整形痕が残る。	
33	深鉢	底部	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒、軽 石粒	普通	—	—	加曽利E	外面整形痕が残る。やや高台状の 上げ底になる。	
34	深鉢	底部	浅黄緑	10YR8/4	細かい砂粒、軽 石粒	普通	—	—	加曽利E	外面整形痕が残る。胴部の立ち上 がりの輪積みから判断している。	

J-55出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
I	深鉢	口縁	明黄褐	10YR7/6	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	LR	縦	加曽利E	口縁部隆線により黄褐色文様。	

J-56出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/2	細かい砂粒、軽石粒、角閃石	普通	LR	縦	Ⅳ群1類	口縁部波状を呈し、太さ5ミリの浅い沈線による渦巻文様を区画する。胴部太さ5ミリの隆線により弧線状の区画。その下部に縦位の整形。	
2	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1ミリの砂粒、軽石粒	良	LR	縦	Ⅳ群	口縁部太さ7ミリの隆線とそれに沿う太さ10ミリの沈線により横位の渦巻状区画を作る。隆線状に円形の突起。	
3	深鉢	口縁～胴部	黒褐	10YR3/1	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	Ⅳ群1類	口縁部内傾し、無文帯横位の整形。胴部太さ3ミリの隆線により横位区画。胴部は、同じ隆線を胴部より連続して垂下させ方形状の区画を構成する。	
4	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒	普通	—	—	Ⅳ群4類	口縁部細やかな波状。沈線2条を横位に巡らす。胴部は、条線施文。	
5	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	φ1～2ミリの砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利E	口縁部山形を呈する。口縁部横位状のモチーフを持つ突起。	
6	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	横	Ⅳ群1類	口縁部縦い波状を呈し、胴部から傾斜部にかけて横位の凹みを作る。胴部は、太さ11ミリの沈線による横位渦巻状区画。	
7	盥台	脚	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利E	30×15ミリの楕円形の遺かしが付けられる。	

J-57出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、角閃石	普通	RL	縦	加曾利E	胴部太さ5ミリの沈線2条を縦にして縦位区画を作る。	

J-59出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1～3ミリの小石	不良	RL	縦	加曾利E	太さ6～8ミリの沈線を2条対にして縦位の区画を作る。上部に条線施文。	
2	深鉢	口縁～底部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの小石	不良	LR	縦	加曾利E	口縁部に無文帯を持つ。底部付近は、磨り消し施文。	
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石	不良	LR	縦	加曾利E	太さ7ミリの沈線2条を対にして縦位の区画。上部は、細い沈線による条線。上端は、疑似口縁になり、磨かれている。	

J-60出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石、白色粒	良	RL	縦	Ⅳ群1類	口縁部には、太さ6～7ミリの沈線が回り口縁部無文帯を区画する。胴部文様は「〇」状の磨り消し施文による無文帯を持つ。	

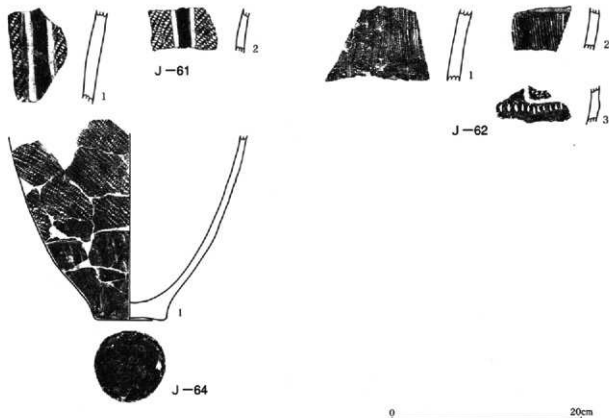
J-61出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1～3ミリの小石	不良	RL	縦	加曾利E	太さ6ミリの沈線2条を対にして縦位の区画。	
2	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線2条を対にして縦位の区画。	

第4章 出土遺物



第148圖 J-55~57·59·60出土土器



第149図 J-61・62・64出土土器

J-62出土土器観察表

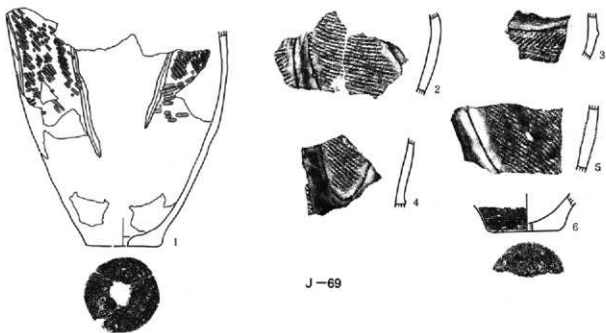
図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	白色粒	不良	—	—	加曾利E	櫛状工具による条線。	
2	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	細かい砂粒	不良	—	—	加曾利E	太さ5~6ミリの沈線で口縁部を区画。太さ1ミリの沈線による条線。	
3	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL	—	加曾利E	低い隆線上に幅6ミリの竹管による爪形文を施文。	

J-64出土土器観察表

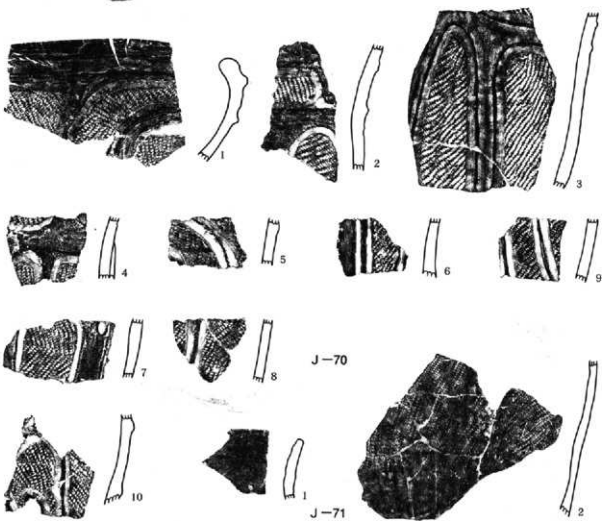
図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部~ 底部	淡黄	2.5YR/3	φ1~2ミリの小石	普通	LR	縦	加曾利E	底部近くは、無文になり、縦位の彫形で施文を磨り消している。	

J-69出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	不良	LR	縦	加曾利E	太さ3ミリの隆線による縦位の区画。	底部穿孔
2	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	細かい白色粒	良	LR	縦	VI群	断面三角の隆線による柵目区画。	
3	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	細かい白色粒多い	良	LR	縦	VI群	口縁部に隆起線が巡り無文部を作る。	
4	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	細かい白色粒	良	LR	縦	VI群	断面三角の隆線による柵目区画。刻みのある隆線が縦位に貼付。	
5	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい白色粒	良	LR	縦	VI群	断面三角の隆線による文様区画。	
6	深鉢	底部	黒褐	10YR3/2	φ1~3ミリの白色粒	良	—	—	加曾利E	外面縦位の彫形。	



J-69



J-70

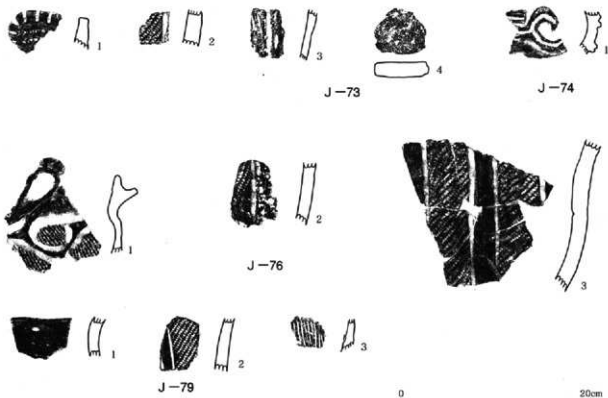
J-71

第150図 J-69~71出土土器

0 20cm

J-70出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 敷体	地文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの黄色粒	良	LR	縦横	Ⅵ群	太い断面三角の隆線により横凹の文様が描かれる。	
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~5ミリの小石、黄色粒	良	RL	縦横	Ⅵ群	低い隆線による横位の横凹区画。太さ7ミリの沈線による縦位の横凹区画。	
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	黒色粒	良	RL	縦	Ⅵ群	太さ3ミリの断面三角の隆線で横凹区画を作る。	
4	深鉢	口縁~胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	RL		Ⅵ群	隆線による横凹区画。	
5	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	白色粒多い	良	RL		Ⅵ群	断面三角の隆線で弧を描く。	
6	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL	縦	Ⅵ群	太さ6ミリの沈線による縦位区画で縄文帯と磨り消し縄文による無文帯を作る。	
7	深鉢	胴部	明黄褐	10YR7/6	φ1~2ミリの小石、白色粒	良	RL	縦横	Ⅵ群	太さ6ミリの沈線により縦位区画。無文帯、磨り消し縄文帯を作る。磨り消し縄文帯には、扇筒形の刺突を加える。	
8	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい白色粒	良	RL	縦	Ⅵ群	断面三角の隆線による縦位の区画。	
9	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの白色粒	良	RL	縦	Ⅵ群	太さ4~6ミリの断面三角の隆線で縦位の区画。	
10	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	白色粒多い	良	RL	横	Ⅵ群	隆線による渦巻文様。	



第151図 J-73・74・76・79出土土器

第4章 出土遺物

J-71出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	浅鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR6/3	白色粘多い	良	—	—	加曾利E	横位の彫形。	
2	深鉢	胴部	褐色	5YR6/6	φ1~3ミリの小石	—	RL	縦	加曾利E	上半に縄文施文。底部近くは、縦位の彫形。	

J-73出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの砂粒	良	—	—	阿玉台	口縁部「口」状突起で上面に刻みを施す。外面半截竹管による押し引き文。	
2	深鉢	胴部	浅黄褐	2.5Y7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	胴部太さ5ミリの沈線による縦位区画。	
3	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	不良	—	—	勝坂	胴部太さ5ミリの隆起線を縦位に施文する。幅12ミリの爪形文を2列施文。	
4	土製円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの砂粒、石英	普通	—	—			

J-74出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒、軽石粒	良	—	—	勝坂	口縁部縦位の連続する渦巻を降線で施文。降線には太さ2ミリの沈線が施文される。	

J-76出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	I群	口縁部波状を呈し、胴部円柱状の突起になる。沈線による渦巻・帯円区画。	舌状突起
2	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	7.5YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	胴部下半に太さ4ミリの沈線による縦位区画。	
3	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。磨り消し縄文による無文帯。	

J-79出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	浅鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR4/3	細かい砂粒、白色粘	不良	—	—	加曾利E	横位のナツ彫形。	
2	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR5/3	細かい砂粒、白色粘	普通	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線で縦位の区画。磨り消し縄文による無文帯。	
3	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	間隔を開けた爪形文で承縁状に施文。	

J-81出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	暗褐	10YR3/3	φ1~3ミリの小石、白色粘	普通	—	—	VI群	太さ5ミリの帯円区画。	
2	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	VI群	太さ5ミリの沈線による弧状区画。	
3	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR4/3	細かい砂粒、雲母	不良	—	—	阿玉台	隆線による突起と刺突。	
4	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒	良	—	—	加曾利E		
5	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	白色粘多い	良	LR	—	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位の区画。	
6	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL	—	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位の区画。磨り消し縄文による無文帯。	



J-81



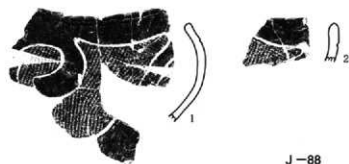
J-82



J-84



J-85



J-88

0 20cm

第152図 J-81・82・84・85・88出土土器

J-82出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	有孔罎付土器	口縁	褐	7.5YR4/6	細かい砂粒、金雲母	良	-	-	阿玉台	横位のナメ整形。	
2	深鉢	胴部	褐	10YR4/4	細かい砂粒	良	LR RL	横	讃岐b	羽状縄文。	
3	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/4	φ1~3ミリの小石、雲母	良			阿玉台	無文。	

第4章 出土遺物

J-84出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	ぶい黄褐色	10YR6/3	細かい砂粒	良	RL	縦	Ⅵ群	波状口縁突起。突起は、カップ状になる。太い沈線による文様施文。	突起2と同一個体
2	深鉢	口縁	ぶい黄褐色	10YR6/3	細かい砂粒	良	RL	縦	Ⅵ群	波状口縁突起。突起は、カップ状になる。太い沈線による文様施文。	突起1と同一個体
3	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの砂粒	不良	LR	縦	Ⅵ群	太さ3ミリの沈線による縦位の区画。	
4	深鉢	胴部	ぶい黄褐色	10YR6/3	細かい黒色粒	不良	—	—	加曾利E		
5	深鉢	胴部	ぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	不良	RL	縦	加曾利E		

J-85出土土器観察表

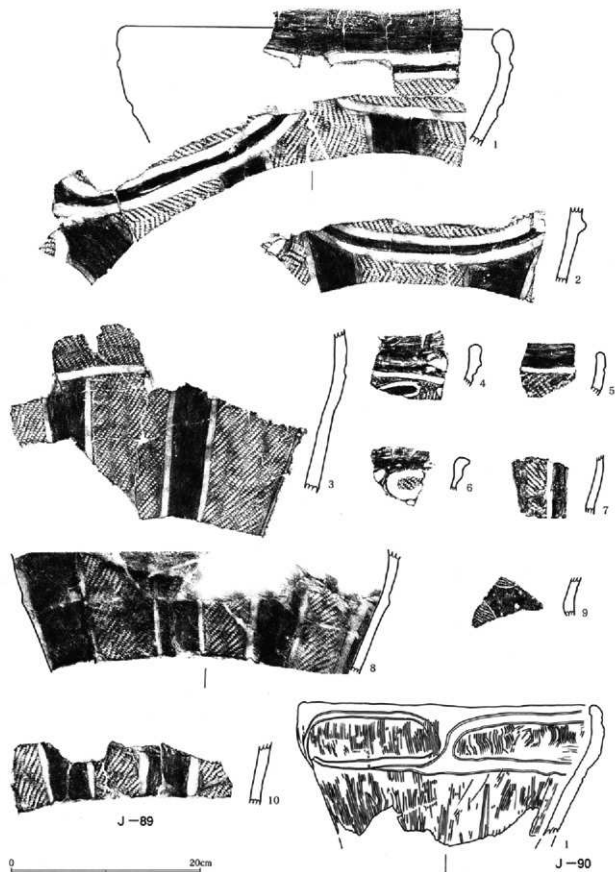
図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	黒	7.5YR2/1	細かい砂粒	普通	RL	横	加曾利E	障・沈線による扇門区画。	
2	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	普通	LR	横	加曾利E	太さ4ミリの障帯による文様区画。	
3	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	細かい白色粒	良	LR	横	勝友	無文。	
4	深鉢	胴部	暗赤褐	5YR3/4	細かい砂粒	良	—	—	清瀬c	縦2~3ミリの平行沈線を集合させて縦位の区画と矢状施文。	
5	深鉢	胴部	ぶい黄褐色	10YR6/3	細かい白色粒	不良	—	—	加曾利E	条線が浅く施文される。	

J-88出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁~ 胴部	黒褐	10YR3/2	φ1~2ミリの白色粒多い	良	RL	縦	称名寺	太さ2ミリの沈線による「J」字の文様区画。磨り消し縄文による無文帯。	2と同一個体
2	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/2	φ1~2ミリの白色粒多い	良	RL	縦	称名寺	太さ2ミリの沈線による「J」字の文様区画。磨り消し縄文による無文帯。	1と同一個体

J-89出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁~ 胴部	暗赤褐	2.5YR3/6	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	RL	縦 横	Ⅵ群2類	太さ10ミリの沈線で扇門文様を口縁部に描く。胴部は、太さ6~8ミリの沈線により縦位区画。磨り消し縄文による無文帯。	2と同一個体
2	深鉢	口縁~ 胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	RL	縦	Ⅵ群2類	太さ10ミリの沈線で扇門文様を口縁部に描く。胴部は、太さ6~8ミリの沈線により縦位区画。磨り消し縄文による無文帯。	1と同一個体
3	深鉢	口縁~ 胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石	良	RL	縦	Ⅵ群2類	太さ10ミリの沈線で口縁部文様帯を区画する。胴部は、太さ6ミリの沈線が縦位に施文される。磨り消し縄文による無文帯。	
4	深鉢	口縁	ぶい黄褐色	10YR6/4	細かい砂粒、白色粒多い	不良	RL	—	Ⅵ群	太さ5ミリの沈線が口縁に施る。小波状口縁頸部に突起。口縁部は、扇門の区画文。	舌状突起
5	深鉢	口縁	黒褐	10YR2/2	φ1~3ミリの小石、白色粒	普通	LR	縦	Ⅵ群	口縁部に太さ6ミリの沈線が施る。	
6	深鉢	口縁	黒褐	10YR2/2	白色粒	良	RL	横	Ⅵ群	太さ9ミリの沈線による扇帯文様。	
7	深鉢	胴部	暗赤褐	5YR3/6	φ1~2ミリの小石	良	LR	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	
8	深鉢	胴部	明黄褐	10YR7/6	細かい黄色粒	不良	RL	縦	加曾利E	口縁部は太い障・沈線で扇門区画の文様を描く。胴部は、太さ6~7ミリの沈線による縦位の区画。磨り消し縄文による無文帯。	
9	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	φ1~2ミリの小石、白色粒	普通	LR	—	Ⅵ群	太さ1ミリの沈線による扇門文様区画。磨り消し縄文による無文帯。	
10	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	φ1~3ミリの小石、白色粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ6~12ミリの沈線による縦位の区画。磨り消し縄文による無文帯。	



第153图 J-89·90出土土器

第4章 出土遺物

J-90出土土器観察表

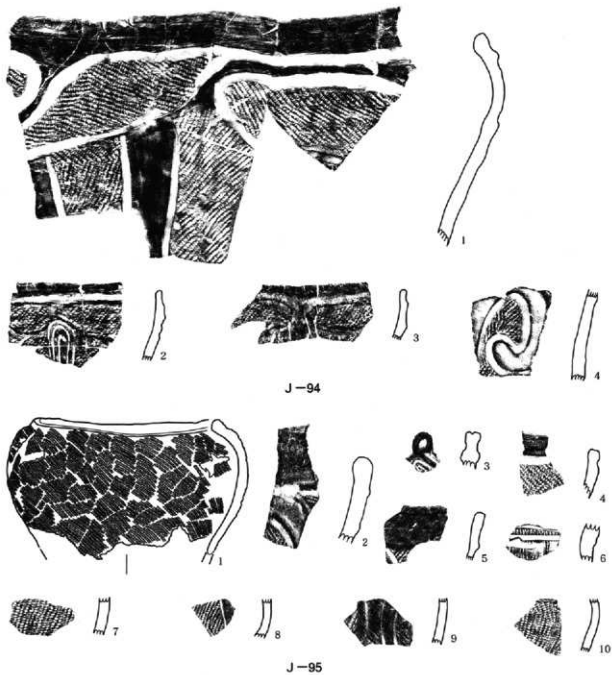
図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁～胴部	灰白	5YR8/2	φ1～3ミリの砂粒、雲母	良	—	—	Ⅳ群1類	口縁部浅い沈線による櫛目区画。地文は、磨り消しによる条線。	

J-94出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁～胴部	灰黄褐	10YR6/2	φ1～2ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦横	Ⅳ群1類	口縁部横位の整形。太さ7ミリの沈線と隆帯により横位の区画と櫛目区画。頸部から胴部にかけて2条対の沈線と縦位の区画。磨り消し織文。	
2	深鉢	口縁～胴部	にぶい黄褐	10YR4/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	Ⅳ群1類	口縁部平織竹管で横位の整形を行い太さ6ミリの沈線による横位区画。口縁部文帯部は、太さ4ミリの隆起線による横位櫛目区画を連続させる。胴部から頸部は、太さ2ミリの沈線を垂下させる。	
3	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR4/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	Ⅳ群	口縁部太さ3ミリの隆起線により横位櫛目区画を連続させる。胴部には、太さ2ミリの沈線を2条対にして垂下させ縦位の区画。	
4	深鉢	胴部	浅黄褐	10YR8/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦斜	Ⅳ群	胴部太さ6ミリの沈線とそれに沿う隆起線により渦巻状区画を施文する。	

J-95出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁～胴部	褐	7.5YR4/4	細かい砂粒	良	LR	縦	Ⅳ群3類	口縁部に2単位の突起。隆起線が回り無文帯を作る。胴部には、織文原体を向きを変えて施文。	
2	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦横	Ⅳ群3類	口縁部無文帯横位の整形。胴部太さ6ミリの隆起線による横位区画。胴部は、隆起線による弧線文。文様部は、磨り消し織文。	
3	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/3	φ1ミリの砂粒、軽石粒	良	—	—	磨板	口縁部円形突起が付き、上面に沈線と2列の刻み列が加えられる。突起から延長するように太さ5ミリの隆帯が斜位に施文される。その両側に平織竹管による鉛筆線と平行沈線を巡らす。	突起
4	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの砂粒、軽石粒	良	LR	縦横	Ⅳ群	口縁部太さ10ミリの沈線を横位に巡らす。無文部は横位の整形。	
5	深鉢	口縁～胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1ミリの砂粒、軽石粒	良	RL	縦	Ⅳ群	口縁部無文帯。横位の整形。胴部太さ3ミリの隆起線による区画。胴部は、太さ3ミリの沈線による弧状の文様。	
6	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	L	—	磨板	胴部横位隆帯とそこから垂下する隆帯貼り付け文。横位に太さ5ミリの沈線を巡らす。地文無文。	
7	深鉢	胴部	褐	7.5YR6/6	φ1ミリの砂粒、軽石粒	良	RL	縦	加曽利E	胴部に織文施文。	
8	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	φ1ミリの砂粒、軽石粒	良	RL	縦横	加曽利E	胴部太さ2ミリの沈線による縦位の区画。	
9	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR7/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曽利E	太さ2ミリの2条1組の沈線による弧状区画。磨り消し織文。	
10	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	普通	RL	縦横	加曽利E	胴部織文施文。	



第154图 J-94·95出土土器

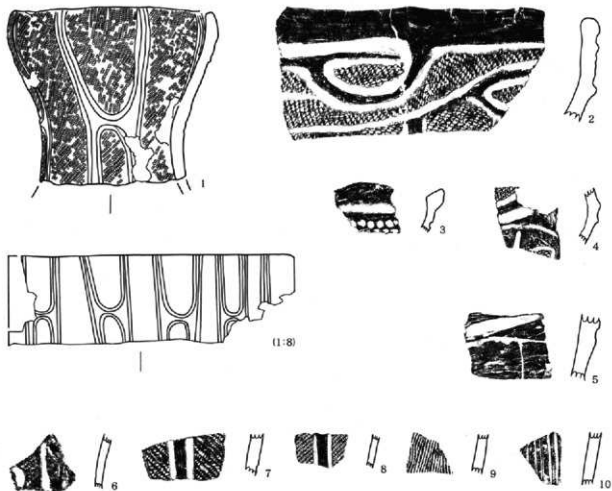
第4章 出土遺物

J-96出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁～ 胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒、白 色粒	普通	RL	縦	V群	太さ4ミリの沈線による縦位の区 画。「U」「n」状の文様。	
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	LR	縦 横	V群2類	口縁部隆帯による横位渦巻状区画。 頸部から胴部は太さ6ミリの沈線 による区画。	
3	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	口縁部山形状突起になる波状口縁。 太さ6ミリの沈線による横位区画。 さらに、2列の列突文が通る。	
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒、角 四石	普通	LRL	縦 横	加曾利E	頸部隆帯による弧線区画。胴部太 さ4ミリの沈線による縦位側門区 画。	
5	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	細かい砂粒、軽 石粒	普通	—	—	加曾利E	太さ11ミリの沈線による横位区画。	
6	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの砂粒、 石英粒	普通	RL	縦	加曾利E	豆竇状の突起とそれに沿う太さ5 ミリの縦位沈線と弧線。厚薄多い。	
7	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/3	細かい砂粒、軽 石粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ6ミリの沈線2条対にした縦 位区画。磨り消し縄文。	
8	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による2条対に なる縦位区画。磨り消し縄文。	
9	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの砂粒	普通	LR	—	加曾利E	褐色。	
10	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR5/3	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	太さ1ミリの沈線による赤線文。	

J-97出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒、角 四石	普通	—	—	V群4類	口縁部横位の整形。太さ10ミリの 沈線による方形区画と兼手状文 様。	2～4と同 一側体
2	深鉢	口縁	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒、角 四石	普通	—	—	V群4類	口縁部横位の整形。太さ10ミリの 沈線による方形区画と兼手状文 様。	1・3・4と 同一側体
3	深鉢	胴部	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒、角 四石	普通	—	—	V群4類	太さ7ミリの沈線による縦位区画。	1・2・4と 同一側体
4	深鉢	胴部	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒、角 四石	普通	—	—	V群4類	太さ7ミリの沈線による縦位区画。	1～3と同 一側体



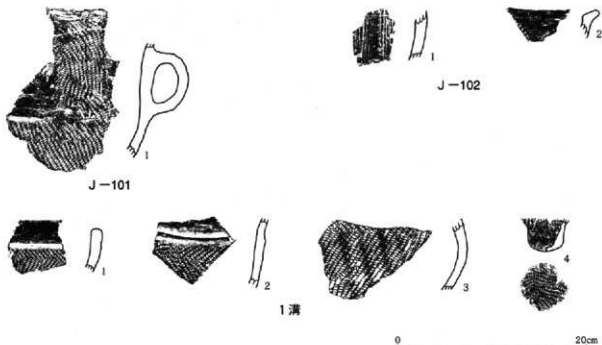
J-96



J-97

第155图 J-96・97出土土器

第4章 出土遺物



第156図 J-101・102・1号溝出土土器

J-101出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原形	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	両耳壺	把手	灰白	2.5Y8/2	φ1ミリの砂粒、普通軽石粒	普通	RL	縦横	V群2類	口縁部無文帯。横位の帯形。幅50ミリの横状把手になる。	横状把手

J-102出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原形	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	φ1~2ミリの砂粒	やや不良	—	—	加曾利E	櫛状工具による条線文。	
2	深鉢	口縁	ぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石	良	—	—	阿玉台	半截竹管による爪形文施文。	

1号溝出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原形	施文方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	灰白	2.5Y8/2	細かい白色粒	良	RL	縦横	加曾利E	太さ6ミリの沈線が口縁部に巡る。縄文は、施文方向を変えて羽状縄文にしている。	
2	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	φ1~2ミリの白色粒	良	LR	縦横	VI群	口縁部に新断面三角形の散線線が通る。	
3	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	白色粒多い	良	RL	縦横	加曾利E	縄文が帯状に施文される。	
4	鉢	胴部~底部	橙	7.5YR7/6	細かい白色粒	良	RL	—	—	縄文施文。把手の可能性もある。	ミニチュア土器

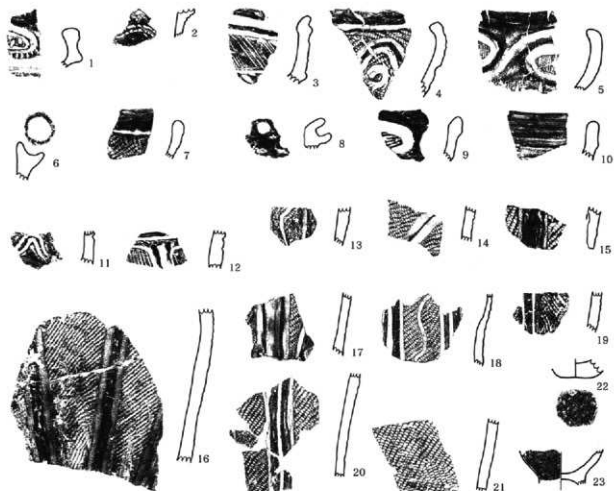
類1出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR5/4	細かい砂粒	良	—	—	群	口唇部内側に折り返し、口縁部に隆線とそれに沿う沈線による区画。	
2	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒、金雲母	普通	—	—	阿玉台	弧状の隆線とその両側2列ずつの押し引き文。	
3	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒、角閃石	普通	—	—	加曾利E	口縁部太さ10ミリの隆線による縦位椀口区画。区画内糸織充填。	
4	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	横	群	口縁部波状を呈し、それに沿う太さ4ミリの沈線が施文され、下部に褐色文様。	
5	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1ミリ前後の砂粒	普通	—	—	N群	口縁部やや波状になる。隆・沈線による入り組の椀口区画。区画内糸織施文。	
6	深鉢	突起	にぶい黄褐色	10YR7/4	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒	不良	—	—	加曾利E	口縁部に付く瘤状突起。頂部より口縁に沿って沈線を施文する。	
7	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	V群	波状口縁。胴部に太さ5ミリの沈線により、口縁部を無文帯に区画。	
8	深鉢	口縁	にぶい赤褐色	5YR4/4	φ1ミリの砂粒	普通	—	—	加曾利E	口唇部外反して厚みを持つ。φ10ミリの孔が突起により開けられる。	
9	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	横	加曾利E	口縁部波状を呈する。太さ8ミリの沈線と隆線により椀口区画。区画内を縄文で充填。	
10	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒	良	—	—	加曾利E	波状口縁。胴部に太さ3ミリの隆起線により、口縁部を無文帯に区画。	
11	深鉢	口縁	暗赤褐色	2.5YR3/6	φ1ミリ前後の砂粒	良	—	—	加曾利E	口縁部小形突起。それに沿うように2条の沈線を施文。	
12	深鉢	胴部	赤褐色	2.5YR4/8	φ1ミリの砂粒	良	L	—	目群	口縁部太さ5ミリの2条の縦位隆線とそこから垂下する2条の隆線とそれに沿う太さ3ミリの沈線による区画。断片。	
13	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1~2ミリの砂粒	不良	RL	縦	加曾利E	胴部太さ5ミリの沈線により縦位区画。沈線による波状文。	
14	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	胴部に太さ5ミリの隆線による弧状の文様。	
15	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/4	細かい砂粒、角閃石	普通	RL	縦	加曾利E	胴部太さ4ミリの沈線による縦位区画。磨り消し縄文。	
16	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	胴部に太さ6ミリの沈線による縦位区画。磨り消し縄文。	
17	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒、角閃石	良	RL	縦	加曾利E	胴部太さ6ミリの沈線と隆起線による文様施文。	
18	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	胴部太さ3ミリの沈線による縦位区画。区画内に波状の沈線。磨り消し縄文。	
19	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横	加曾利E	胴部太さ2ミリの沈線による縦位区画。磨り消し縄文。	
20	深鉢	胴部	明黄褐色	10YR6/6	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	胴部太さ5ミリの3条の沈線による縦位区画。磨り消し縄文。	
21	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	縦	加曾利E		
22	深鉢	底部	明黄褐色	10YR7/6	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利E		
23	深鉢	底部	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利E	底部上げ底になる。	

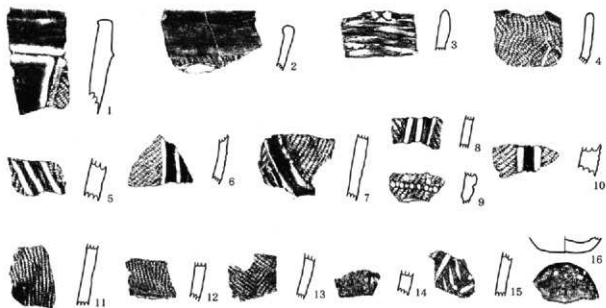
第4章 出土遺物

類2出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	地文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	口縁	淡黄	2.5YR/4	白色粒多い	良	LR	縦	V群3類	太さ5ミリの断面三角になる隆線により口縁部無文帯を区画。胴部は縦位に区画。磨り消し縄文。	
2	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y7/2	白色粒多い	良	RL	横	V群	口縁部に微隆起線が走り、無文帯と区画する。	
3	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y7/2	細かい白色粒	普通	—	—	加曾利E	横位の整形により微隆起線上の整形痕が見える。	
4	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/8	細かい砂粒多い	普通	RL	横	加曾利E	太さ2ミリの沈線による横円区画。	
5	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線で縦位の区画。	
6	深鉢	胴部	灰白	10YR7/1	φ1~2ミリの小石、白色粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位の区画。磨り消し縄文。	
7	深鉢	胴部	淡黄	2.5YR/4	φ1~3ミリの小石	不良	RL	縦	加曾利E	太さ3~4ミリの沈線による弧状の文様。	
8	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	白色粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ4~6ミリの沈線による縦位の区画。	
9	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒	不良	RL	縦	加曾利E	φ3ミリの刺突列。	
10	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/8	白色粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ7ミリの沈線2条を対にして縦位の区画を作る。	
11	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	φ1~2ミリの小石、砂粒	良	LR	斜	加曾利E	縄文縦文。	
12	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1~2ミリの小石、白色粒	普通	RL	斜	加曾利E	細い沈線による文様区画。	
13	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい黒色粒	不良	RL	縦横	加曾利E	原体の地文方向を変え羽状縄文にしている。	
14	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	無文。	
15	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	黒色粒	良	—	—	加曾利E	太さ4~6ミリの沈線による縦位の区画と区画内に矢羽状の文様。	
16	深鉢	底部	にぶい黄	2.5Y6/3	φ1~2ミリの小石、白色粒	良	—	—	加曾利E		



畑1



畑2

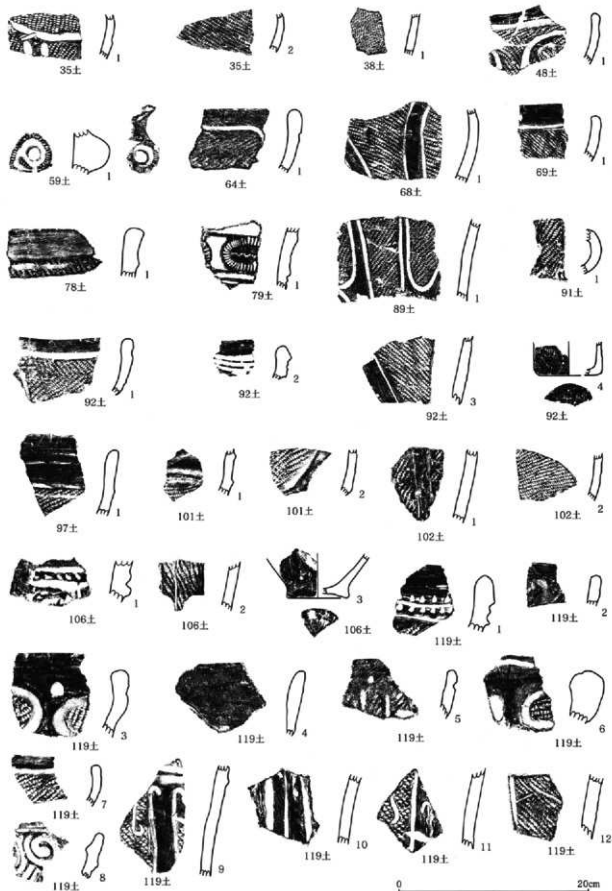
0 20cm

第157図 畑1・2出土土器

第4章 出土遺物

中・近世土坑出土土器観察表

土坑名	図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴
35号	1	深鉢	口縁	にぶい黄 橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石	良	RL	横 縦	Ⅱ群	太さ7ミリの沈線による口縁部横凹区画と胴部縦位の区画。
35号	2	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	白色粒多い	普通	RL		加曾利E	
38号	1	深鉢	胴部	明黄	7.5YR5/6	φ1~2ミリの小石、 白色粒	良	LR		加曾利E	無糸。
48号	1	深鉢	口縁	明赤褐	10YR7/6	細かい砂粒	良	LR	縦 横	加曾利E	波状口縁。太さ7ミリの沈線による渦巻文。
59号	1	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	—		勝取	器面器面に付けられる反斗状の突起。縁辺に削みが付けられる。
64号	1	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	白色粒多い	不良	LR	横	加曾利E	太さ4ミリの沈線による横凹区画。表面厚み多い。
68号	1	深鉢	胴部	黒褐	10YR3/1	φ1~3ミリの小石、 白色粒	良	RL	横	Ⅱ群	太さ3~4ミリの沈線2条で文様を描く。磨り消し渦文。
69号	1	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	LR	縦	Ⅱ群	太さ4ミリの沈線が口縁を回り無文帯と区画する。
78号	1	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	不良	RL		Ⅱ群	口縁部に断面三角の隆線が回り無文帯と区画する。
79号	1	深鉢	口縁	橙	7.5YR8/6	細かい砂粒、雲母	普通	—		勝取	太さ5ミリの隆線と沈線で文様帯を横位区画。区画内に隆線に沿って幅8ミリの爪形文による横凹区画。
89号	1	深鉢	胴部	にぶい黄 橙	10YR8/4	φ1~3ミリの小石、 白色粒	普通	RL	縦	勝取	太さ4ミリの沈線で「U」「口」状の文様。磨り消し渦文。
91号	1	深鉢	把手	黒褐	10YR3/2	細かい白色粒	良	RL	縦	Ⅱ群	棒状把手。
92号	1	深鉢	口縁	黄橙	10YR8/6	細かい砂粒	不良	RL	横 縦	Ⅱ群2 型	太さ6ミリの沈線が口縁部に回り、無文帯と区画する。
92号	2	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒	良	—		Ⅱ群	幅5~6ミリの平行沈線横位施文。
92号	3	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒多い	普通			加曾利E	太さ2ミリの沈線による縦位の区画。
92号	4	深鉢	胴部~底 部	黄橙	10YR8/6	細かい砂粒	不良			加曾利E	太さ2ミリの沈線による縦位の区画。
97号	1	深鉢	口縁	にぶい黄 橙	10YR8/3	細かい砂粒	普通	LR	横	加曾利E	口縁部に太さ3~4ミリの隆線が回り、無文帯と区画する。
101号	1	深鉢	胴部	褐灰	10YR8/1	細かい砂粒、白色 粒	良	LR	横	加曾利E	断面三角の隆線による横凹区画。区画内渦文施文。
101号	2	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒、白色 粒	普通	RL	横	加曾利E	太さ2~3ミリの沈線による横凹区画。
102号	1	深鉢	胴部	黄橙	10YR7/8	細かい砂粒多い	不良	RL	縦	加曾利E	太さ1ミリの沈線による縦位の区画。
102号	2	深鉢	胴部	黄橙	10YR8/6	細かい砂粒	普通	RL	横	加曾利E	
106号	1	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	白色粒	普通	—		加曾利E	太さ10ミリの隆線による区画。隆線の上に削みが入る。
106号	2	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	LR	縦	加曾利E	太さ1ミリの沈線による縦位の区画。
106号	3	深鉢	胴部~底 部	にぶい黄 橙	10YR7/4	白色粒多い	普通	—		加曾利E	底部が高台状になる。
119号	1	深鉢	口縁	にぶい黄 橙	10YR7/4	白色粒多い	普通	RL	横	加曾利E	断面三角の隆線2条が口縁部に回り、隆線には、三角の突起が回る。
119号	2	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒多い	普通			加曾利E	太さ7~8ミリの浅い沈線による施文。
119号	3	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒、小石	良	RL	横	Ⅱ群	太さ7~12ミリの沈線による横凹区画。



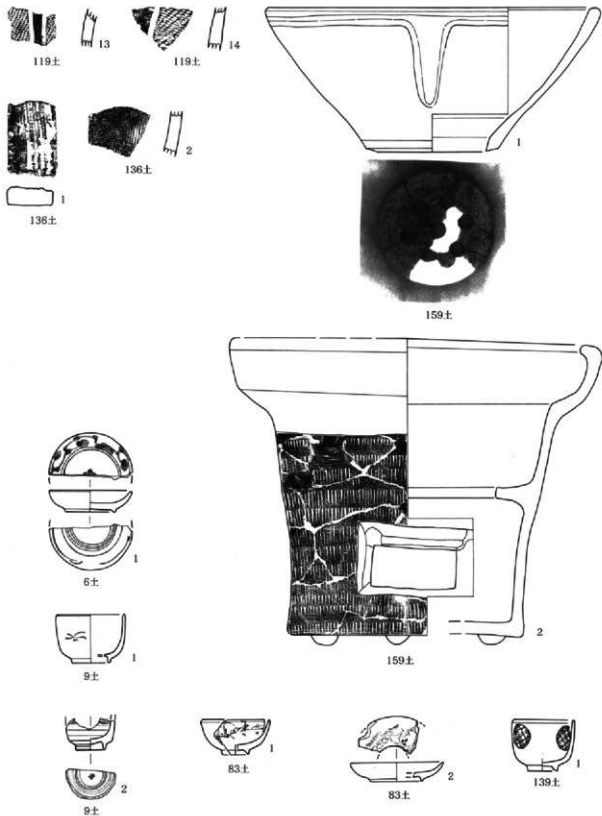
第158圖 中・近世土坑出土土器(1)

第4章 出土遺物

中・近世土坑出土土器観察表

土坑名	図版No	種類 器種	部位	色調	記号	胎土	焼成 地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴
119号	4	深鉢	口縁	灰黄	2.5YR/2	砂粒多い	普通	—	加曽利E	横位の整形痕。
119号	5	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒多い	不良	—	加曽利E	太さ4ミリの沈線2条が対になり縦位の区画。
119号	6	深鉢	口縁	浅黄	2.5YR/3	白色粒多い	普通	—	加曽利E	隆・沈線による帯円区画。
119号	7	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	不良	LR 横	加曽利E	太さ4ミリの沈線が口縁部に通る。
119号	8	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの小石、砂粒	良	—	加曽利E	隆線による褐色文。
119号	9	深鉢	胴部	にぶい黄	7.5YR5/3	細かい砂粒	良	LR	目録	口縁部は、隆線による文様区画。胴部は、太さ4ミリの沈線による横手文。
119号	10	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒多い	良	—	加曽利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。
119号	11	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR5/3	細かい砂粒	不良	LR 縦	加曽利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。
119号	12	深鉢	胴部	暗灰黄	2.5Y5/2	砂粒	普通	RL 横	加曽利E	太さ3~4ミリの沈線による文様区画。
119号	13	深鉢	胴部	にぶい黄	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	RL 縦	加曽利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。
119号	14	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒多い	普通	RL 縦	加曽利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。

土坑名	図版No	器種	製作地	特徴
136号	1	軒丸瓦		
136号	2	麩		須恵器片
6号	1	磁器皿	肥前(徳佐見系)	豆皿み5弁花コンキヤク判。18世紀中頃から後半。
9号	1	磁器碗	肥前?	腰部が丸く、腰部が隆状を呈する碗。19世紀前半から中頃。
9号	2	磁器小杯	瀬戸・美濃	腰部外面と高台内部筋は刷毛転写。近代から昭和。
83号	1	磁器小碗	肥前	腰部は深く開き、器高に比して口径が大きい。
83号	2	磁器皿	瀬戸・美濃	高台内を除きクロム青磁釉。内面に緑色絵の具による型紙押しで団扇と植物文を編く。近代から昭和。
139号	1	磁器碗	肥前?	腰部が丸く、腰部が隆状を呈する碗。焼成不良。高台海部幅広い。19世紀前半から。
159号	1	コンロ	不詳	コンロの内側で、鉢形を呈する。外面や口縁部外面に接合痕が認められず、組み合わせた型であろう。内面下半は被熱により変色と剥離が認められる。体部には、1ヶ所僅く地上の張り出しを設ける。片面が著しく被熱した火皿も押うと考えられる。近代から。
159号	2	コンロ	不詳	外面刷毛施文による施文。風口1ヶ所。江戸から近代。



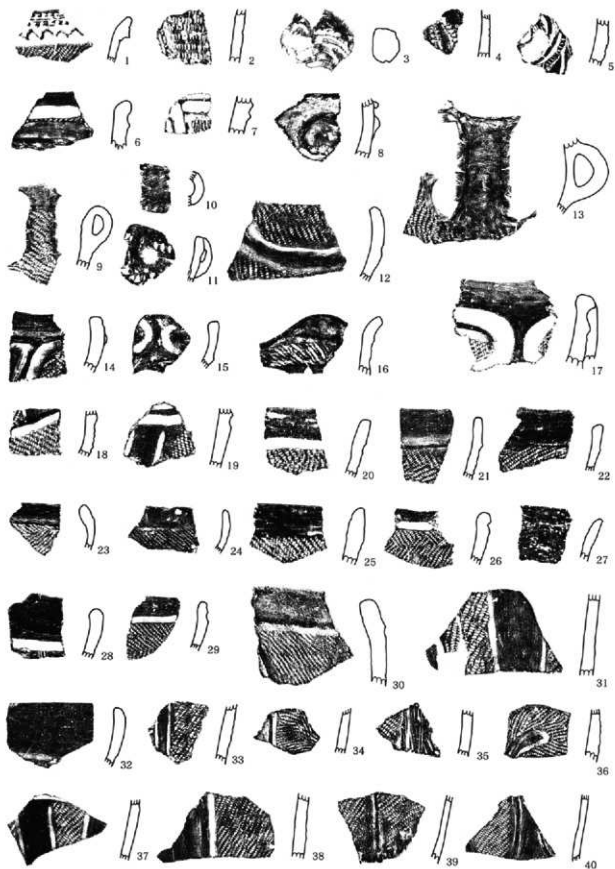
第159圖 中・近世土坑出土土器 (2)

日区910・915グリッド出土土器観察表

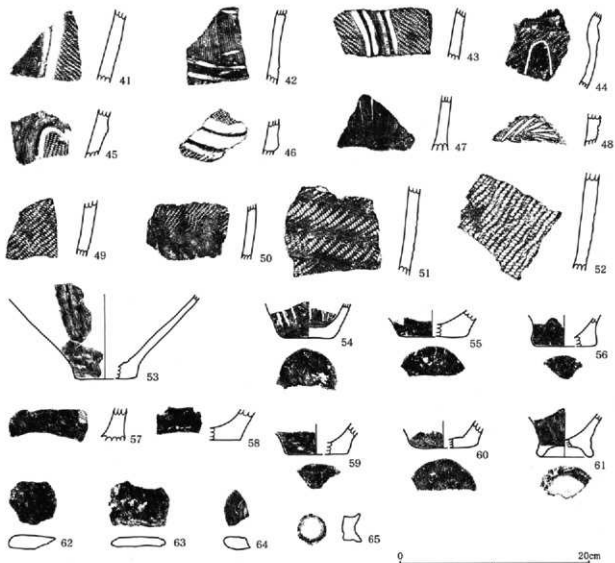
図版 No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
1	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/3	φ1~3ミリの小石	良	LR	横	漆職c	口縁に粘土線を2条施り付け結節の爪形文。その下部に鋸歯状に粘土線を施り付ける。	910-980
2	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒	良	-	-	勝坂	太さ6ミリの隆線が縦位に施文区画。幅6ミリの爪形文が横位に施文。	915-975
3	深鉢	把手	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	-	-	勝坂	太さ3ミリの沈線による重凸状の文様。	915-985
4	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~2ミリの砂	普通	-	-	勝坂	太さ7ミリの2条の筋をもつ隆線による区画。	915-985
5	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの白色粒	不良	-	-	勝坂	太さ5ミリの隆線で渦巻を作る。隆線には刻みが付けられる。	915-980
6	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	横	加曾利E	口縁部幅10ミリの沈線による横位区画。胴部から胴部隆起線による縦線状区画。	915-985
7	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/4	細かい砂粒	良	LR	-	加曾利E	太さ8ミリの隆線による文様が描かれる。渦巻。	915-980
8	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR5/3	細かい砂粒、軽石粒、角閃石	普通	-	-	加曾利E	口縁部幅6ミリの隆線による横位区画。渦巻状の施文。	915-985
9	両耳壺	把手	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	横	Ⅴ群2類	縄文施文。	915-995
10	深鉢	把手	にぶい黄橙	10YR7/4	白色粒	不良	-	-	Ⅴ群2類	無文。全体に厚塗している。	915-975
11	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒、角閃石	普通	-	-	Ⅴ群2類	口縁部幅16ミリの縦位隆起把手。手織竹管による刺突列を施文する。	915-985
12	深鉢	口縁	淡黄橙	10YR8/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横	Ⅳ群2類	太さ12ミリの隆線とそれに沿う沈線による縦線状区画。	915-985
13	両耳壺	把手	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	RL	斜	Ⅴ群2類	把手部は、無文。上下に縄文施文。	910-980
14	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	Ⅴ群2類	口縁部無文帯横位の整形。その下部太さ5ミリの隆線による方形・弧線状区画を施文する。	915-985
15	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒	普通	-	-	Ⅴ群2類	太さ7ミリの隆線と太さ5ミリの沈線による縦線状の区画。	915-985
16	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	Ⅴ群2類	波状口縁。頂部はやや外反する。沈線による横位閉円区画。舌状突起	915-985
17	深鉢	口縁	淡黄橙	10YR8/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	横	Ⅱ群	太さ10ミリの隆線による横位閉円渦巻状区画。	915-995
18	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	白色粒多い	良	RL	横	加曾利E	太さ8ミリの沈線が縦位の区画。	915-980
19	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの砂粒	普通	LR	縦	Ⅴ群	太さ10ミリの沈線による横位区画と太さ6ミリの沈線による縦位区画。	915-985
20	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y/8	φ1~3ミリの黄色粒多い	普通	R	横	Ⅴ群	太さ10ミリの沈線が口縁を巡り文様帯を区画する。	910-980
21	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	良	RL	縦	Ⅴ群	口縁部波状を呈す。太さ3ミリの隆線により無文帯を区画する。	915-985
22	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y/8	φ1~2ミリの小石	普通	LR	横	Ⅴ群	口縁に微隆起線が巡り無文帯を区画する。	915-980
23	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	細かい白色粒	良	RL	縦	Ⅴ群	口縁に沿って微隆起線が巡り無文帯を区画する。	915-975
24	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y6/2	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒	不良	LR	縦	Ⅴ群	口縁部中や沈線を呈し隆線による横位区画。	915-985
25	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石、砂粒	良	RL	横	Ⅴ群	縦位の縄文。口縁部に微隆起線が巡り、無文帯を区画。	915-980
26	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/6	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	Ⅴ群	口縁部太さ7ミリの沈線による横位区画。	915-985

II K910・915グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 器体	器文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 番号
27	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	白色粒	不良	—	—	Ⅵ群	表面に細かい刻溝。	915-975
28	深鉢	口縁	淡黄	2.5YR/3	白色粒多い	普通	—	—	Ⅵ群	口縁部に隆起線が走る。地文に糸織。	915-980
29	深鉢	口縁	明黄褐	10YR7/6	φ1ミリの砂粒	良	RL	縦横	Ⅵ群	口縁部無文帯を持ち太き7ミリの沈線による縦位区画。	915-985
30	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい白色粒	不良	RL	横	Ⅵ群	太き8ミリの隆線による文様区画。	915-975
31	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	胴部太き4ミリの隆起線による縦位区画。	915-985
32	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/1	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利E	口縁部無文帯模様の整形。	915-985
33	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1〜3ミリの砂粒、小石	不良	R/LR	縦	加曾利E	胴部太き3ミリの沈線による縦位区画。縄文前々段合張り。	915-985
34	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒、角閃石	普通	RL	縦斜	加曾利E	胴部太き4ミリの隆線による区画。	915-985
35	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E	胴部太き4ミリの隆起線による縦位の区画。	915-985
36	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒、角閃石	普通	RL	縦斜	加曾利E	胴部太き5ミリの沈線による文様区画と磨り消し縄文。	915-985
37	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	良	LR	横	加曾利E	太き5ミリの沈線による縦位区画。	915-995
38	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	胴部太き7ミリの隆線による縦位区画。	915-985
39	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1〜3ミリの小石	普通	RL	縦	Ⅵ群	太き4ミリの断面三角の隆線が縦位に貼付される。	915-975
40	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒、角閃石	普通	RL	縦	Ⅵ群	胴部太き4ミリの隆起線による「U」状の区画文と磨り消し縄文。	915-985
41	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい黒色粒	普通	LR	横	Ⅵ群	断面三角の隆線による文様区画。	910-980
42	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	良	—	—	Ⅵ群4期	太き3ミリの沈線による帯状区画を呈し、糸織を充満する。煤付着。	915-985
43	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR8/3	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	Ⅵ群	胴部太き4ミリの隆線による帯状の文様。	915-985
44	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR8/3	φ1〜2ミリの白色粒	普通	RL	縦	Ⅵ群	太き2ミリの沈線による帯状区画。区画内は磨り消し縄文。口縁部は隆線区画する。	915-980
45	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	φ1〜3ミリの小石	良	RL	縦	Ⅵ群	太き3ミリの隆線が帯状区画を作る。	910-980
46	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1〜2ミリの小石、砂粒多い	不良	RL	縦横	Ⅵ群	隆・沈線で帯色の文様を描く。	915-980
47	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通	—	—	Ⅵ群	太き2〜3ミリの沈線による縦位区画。	915-995
48	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利E	太き3ミリの沈線による大きな連続する矢羽状の型み。	915-985
49	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	縦	加曾利E	縄文施文。	915-985
50	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	帯状に縄文を施文。	915-985
51	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦横	加曾利E	帯状に縄文を施文。	915-985
52	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1ミリの白色粒	普通	RL	斜	加曾利E	—	915-975
53	深鉢	胴部〜底部	にぶい褐	7.5YR6/3	φ1ミリの小石	普通	—	—	加曾利E	隆線による縦位の区画。	915-975
54	深鉢	胴部〜底部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	縦	加曾利E	胴下部太き2ミリの沈線による縦位区画。	915-985
55	深鉢	底部	浅黄橙	10YR8/4	φ1〜2ミリの白色粒	良	—	—	加曾利E	無文。	915-975
56	深鉢	底部	明褐	7.5YR5/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	—	無文。	915-995



第160図 910・915グリッド出土土器(1) 0 20cm



第161図 910・915グリッド出土土器(2)

Ⅱ区910・915グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
57	深鉢	底部	橙	7.5YR7/6	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—	—	—	無文。	915-995
58	深鉢	胴部～ 底部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～3ミリの黄色粒	良	—	—	加曾利E	外面横位の整形。	915-980
59	深鉢	底部	淡黄	2.5Y8/3	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒	普通	—	—	—	無文。	915-995
60	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの白色粒多い	普通	—	—	加曾利E	外面整形。	915-980
61	深鉢	胴部～ 底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～3ミリの白色粒	普通	RL	—	加曾利E	太さ2ミリの沈線による縦位区画。	915-975
62	土製円盤		浅黄橙	10YR8/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—	—	—	無文。	915-995
63	土製円盤		にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	—	表面剥落が多い。	915-995
64	土製円盤		浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	—	無文。波状口縁底部を転用して土製円盤にしている。	915-985
65	耳飾り		浅黄橙	10YR8/3	白色粒多い	普通	—	—	中期	—	915-975

第4章 出土遺物

H区920グリッド出土土器観察表

図版 No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
1	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	RL		五領ヶ台	太さ2ミリの沈線による文様区画。φ6ミリの円形刺突。	920-990
2	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒、軽石粒	良	—		勝坂	口縁部横位の帯形筋。太さ6ミリの隙線を縦位に貼り付ける。	920-995
3	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石	良	—		阿玉台	隙線による口縁横位区画。区画内に幅3~4ミリの爪形文が隙線に沿って施文される。	920-980
4	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~2ミリの小石	良	—		I群	太さ7~10ミリの隙線による褐色文様。	920-980
5	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの砂粒、金雲母	普通	—		阿玉台	太さ8ミリの隙線とそれに沿う幅6ミリの半截竹管の結節文による区画。	920-995
6	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/6	φ1ミリの小石	良	—		勝坂	隆帯部に太さ4ミリの沈線による褐色文。外側に半截竹管による組み目を施す。	920-000
7	深鉢	胴部	にぶい赤褐	2.5YR4/4	φ1~3ミリの小石	良	—		勝坂	太さ8ミリの隙線で渦巻状の文様を描く。隙線には、組みを持つ。	920-990
8	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1~2ミリの小石	不良	—		勝坂	幅7ミリの爪形文が隙線に沿って施す。	920-975
9	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1ミリの砂粒	普通	—		I群	太さ2ミリの沈線による横位文様。2条の沈線上を上下交互にペン先状の工具で刺突する。交互刺突文様には、大きめの爪形文施文。	920-000
10	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	白色粒多い	普通	LR		II群	太さ7ミリの平行沈線による文様施文。区画内に横文が充満する。	920-980
11	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR7/4	細かい砂粒	普通	LR		I群	太さ5ミリの沈線で口縁全区画。黒糸。	920-980
12	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/3	細かい砂粒	良	LR		I群	太さ7ミリの組みを持つ隙線で文様部を分ける。黒糸。	920-990
13	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	不良	LR		加曾利E	黒糸。	920-980
14	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y6/2	細かい砂粒	普通	RL		III群	口縁部に沈線が回り、横位区画文様を作る。	920-990
15	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR6/4	細かい砂粒	普通	LR	縦横	III群	太さ3ミリの隆起線による横位区画と斜めの区画線。	920-000
16	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	横	III群1類	波状口縁。太さ6ミリの沈線による横位区画。太さ7ミリの隆起線とそれに沿う沈線による区画。	920-000
17	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	III群	太さ6ミリの沈線による横位横位区画。	920-000
18	深鉢	口縁	にぶい赤褐	2.5YR5/4	φ1~2ミリの黄色粒	良	LR	縦	III群1類	波状口縁。波頂部には、渦巻・横位区画。胴部に縦位の区画線が施文される。	920-990
19	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR7/3	細かい砂粒	不良	RL		VI群1類	口縁部に太さ8ミリの沈線で横位区画を作る。	920-980
20	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR6/4	細かい砂粒	普通	RL		III群1類	太さ10ミリの沈線による横位の横位区画。	920-995
21	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通			III群	口縁部太さ10ミリの隆起線と沈線による横位の横位渦巻状区画。	920-995
22	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1~3ミリの小石	普通	RL	横	III群	太さ10~15ミリの沈線2条が口縁部を巡る。	920-985
23	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y6/2	φ1~3ミリの白色粒	普通	RL	横	III群	口縁部は、折り返し口縁になり肥厚する。横位区画文。	920-990
24	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	良	RL		III群	太い隆起線による文様。口縁区画の隆起線と横位区画の隆起線が合わさり突起を作る。	920-980
25	岡耳壺	把手	にぶい褐	7.5YR8/3	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—		V群1類	幅50ミリの楕円把手。	920-000
26	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y8/3	細かい砂粒多い	不良	LR		III群1類	太い沈線で横位区画文様を描く。舌状突起	920-975

Ⅱ区920グリッド出土土器編解表

図版No.	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	地文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
27	深鉢	口縁	黒褐	7.5YR3/1	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	縦	Ⅲ群	太さ7ミリの沈線による横位区画。	920-995
28	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	横	Ⅲ群	口縁部太さ2ミリの沈線による横位区画。	920-000
29	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	RL	横	Ⅲ群	太さ6ミリの隆起線の横位区画。	920-995
30	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	普通	RL	斜	Ⅲ群	太さ10ミリの沈線による横位区画。	920-985
31	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	横	Ⅲ群	隆起線に付け後太さ3ミリの横位横位区画と縦位区画を施文し、 ϕ 6ミリの刺突文を施す。	920-995
32	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	Ⅲ群2期	太さ9ミリの沈線による横位区画。 香状突起	920-995
33	深鉢	口縁	灰白	10YR8/2	細かい砂粒	不良	—	—	加曽利E	ϕ 5ミリの刺突が口縁に巡る。	920-980
34	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	ϕ 1~2ミリの小石	良	LR	—	加曽利E	波状口縁頂部から弧状に太さ3ミリの沈線が施文される。	920-980
35	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	LR	—	加曽利E	太さ8ミリの沈線による横位区画。	920-990
36	深鉢	口縁	淡黄	2.5YR/3	白色粒	不良	—	—	加曽利E	隆起線による口縁部文様区画。	920-980
37	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	加曽利E	太さ3ミリの沈線による横位区画。	920-995
38	深鉢	把手	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横	加曽利E	太さ10~15ミリの隆起による区画。 隆起線欠損。	920-995
39	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	ϕ 1~3ミリの小石	良	RL	—	加曽利E	太さ6ミリの沈線による横位区画。	920-985
40	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ6ミリの沈線による横位区画。 ϕ 7ミリの沈線による横位区画。	920-995
41	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	—	—	加曽利E	太さ3~5ミリの隆起線を描く。	920-980
42	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通	LR	斜	加曽利E	口縁部に太さ3ミリの隆起線を描く。	920-985
43	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	加曽利E	太さ3ミリの隆起線による横位区画と刺突の区画。	920-000
44	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	ϕ 1~3ミリの小石	良	LR	—	加曽利E	口縁部に隆起線が巡る。	920-980
45	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	—	—	加曽利E	口縁に太さ12ミリの沈線が巡る。	920-990
46	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	ϕ 1ミリの砂粒、黒色粒	普通	RL	横	Ⅲ群3期	口縁に横位の微隆起線が巡る。	920-985
47	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	Ⅲ群3期	口縁部無文帯横位の整形。太さ3ミリの隆起線による横位区画。	920-000
48	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	ϕ 1~2ミリの小石	普通	LR	—	Ⅲ群3期	口縁に沿って隆起線が巡る。	920-980
49	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y7/2	白色粒多い	良	LR	—	Ⅲ群3期	口縁部に微隆起線が巡る。	920-975
50	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	良	—	—	Ⅲ群3期	隆起線が口縁を区画し、胴部に垂線が隆起する。	920-975
51	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	ϕ 1ミリの白色粒	普通	RL	横	Ⅲ群3期	太さ6ミリの沈線が口縁に巡る。	920-985
52	両耳壺	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	ϕ 1~3ミリの小石	普通	RL	—	Ⅲ群3期	口縁部に隆起線による区画線。 壺状把手が付くが脱落している。	920-975
53	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y7/2	細かい砂粒	普通	—	—	加曽利E	口縁部無文帯横位の整形とミガキ。	920-000
54	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y7/2	白色粒	不良	—	—	加曽利E	—	920-975
55	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	ϕ 1~2ミリの小石	良	LR	—	Ⅲ群3期	口縁部に隆起線が巡る区画する。沈線により文様を描く。	920-980
56	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/4	細かい砂粒	不良	—	—	加曽利E	太さ5ミリの沈線が口縁に巡る。	920-985
57	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	不良	RL	縦	Ⅲ群3期	口縁部に太さ6ミリの沈線が巡る。 口縁部に彩色。	920-975
58	深鉢	口縁	褐灰	7.5YR4/1	細かい砂粒	普通	RL	縦	Ⅲ群3期	太さ7ミリの沈線が口縁に巡る。	920-985
59	深鉢	口縁	にぶい赤褐	10YR5/4	ϕ 1~2ミリの白色粒	普通	LR	横	Ⅲ群3期	太さ4ミリの沈線が口縁に巡る。	920-980
60	深鉢	口縁	にぶい黄	2.5Y6/3	白色粒	普通	RL	—	Ⅲ群	太さ3ミリの沈線が口縁部に巡る。	920-975
61	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい黒色粒	良	—	—	Ⅲ群	口縁部に太さ4ミリの沈線が巡る。	920-990
62	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	白色粒多い	良	RL	—	Ⅲ群	太さ5ミリの沈線が口縁部に巡る。	920-975
63	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	縦	Ⅲ群	口縁部無文帯、横位の整形。太さ2ミリの刺突線による横位区画。	920-995

第4章 出土遺物

日区920グリッド出土土器調査表

図版No	種類・形状	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
64	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y7/2	細かい砂粒	良	LR		V群	太さ4ミリの沈線が口縁に走る。	920-980
65	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	横	V群	太さ4ミリの沈線による横位槽内区画。	920-995
66	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	φ1~3ミリの白色粒	良	LR	斜	V群	太さ2ミリの沈線が口縁部を区画する。	920-985
67	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/1	φ1~2ミリの白色粒	普通	LR	横	V群	太さ7ミリの沈線で横位の区画。	920-985
68	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y7/2	白色粒多い	普通	—		Ⅴ群4類	太さ8ミリの沈線が口縁を走る。	920-975
69	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい白色粒	普通	—		V群	口縁部に太さ10ミリの沈線が走る。地文に染線。	920-975
70	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y6/3	φ1~3ミリの白色粒	良	LR		V群	隆起線で口縁部を区画。太さ4ミリの沈線で弧線を描く。	920-980
71	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの白色粒	普通	RL		V群	太さ4ミリの沈線で弧線を描く。	920-980
72	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい白色粒	良	LR	縦横	V群	太さ4ミリの沈線が口縁を走る。	920-975
73	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、黒色粒	不良	RL	縦	V群	太さ8ミリの沈線による文様区画。区画内に隅文が彫文される。	920-990
74	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y7/2	細かい白色粒	良	RL	縦横	V群	太さ6ミリの沈線による文様彫文。	920-980
75	深鉢	口縁	暗褐	7.5YR3/3	細かい砂粒	良	RL	横	V群	太さ4ミリの沈線で方形に区画。焼成後φ6ミリの孔を開ける。	920-990
76	両耳壺	口縁	橙	7.5YR7/6	φ1~2ミリの白色粒	普通	LR		V群2類	流状口縁頂部に把手が付く。口縁部は隆起線で区画される。	920-980
77	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒、角閃石	普通	RL	横斜	V群	口縁波状になり、横長の槽内区画。口縁文様下に太さ3ミリの沈線による文様区画。	920-995
78	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	白色粒多い	良	RL	横	加曾利E	太さ4ミリの沈線で口縁部を区画し、胴部文様も区画する。	920-975
79	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	RL	横	加曾利E	口縁部を太い沈線で区画する。	920-980
80	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	RL		加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。無文部は、磨り消し施文。	920-985
81	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい白色粒	普通	RL		加曾利E	太さ7ミリの沈線による縦位区画。	920-980
82	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	φ1~2ミリの小石	普通	RL		加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	920-975
83	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ7ミリの沈線による縦位区画。	920-995
84	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	砂粒多い	不良	LR		加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	920-975
85	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~2ミリの小石	普通	RL		加曾利E	太さ8ミリの沈線2条を対にして縦位の区画を作る。	920-990
86	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/3	φ1~3ミリの小石	普通	RL		加曾利E	太さ10ミリの沈線が2条彫文される。	920-980
87	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1~2ミリの白色粒	普通	LR		加曾利E	太さ2ミリの沈線による縦位区画。	920-980
88	深鉢	胴部	黄灰	2.5Y4/1	白色粒	普通	LR		加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	920-980
89	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリ黒色粒	不良	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	920-985
90	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒、輝石粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	920-995
91	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの砂粒	普通	LR	縦	V群	太さ2ミリの沈線による垂線・縦位区画。	920-985
92	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの黒色粒	良	RL		V群	太さ4ミリの断面三角形の隆線による縦位区画。	920-990
93	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	LR		V群	太さ3ミリの断面三角形の隆線で弧線を描く。	920-980
94	深鉢	胴部	褐灰	7.5YR4/1	φ1~3ミリの小石	普通	RL		加曾利E	太さ12ミリの沈線による縦位区画。無文部は、縦位のミガキによる磨り消し施文。	920-990
95	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	白色粒多い	普通	RL		V群	太さ5ミリの隆線による縦位区画。無文部は、磨り消し施文。	920-985

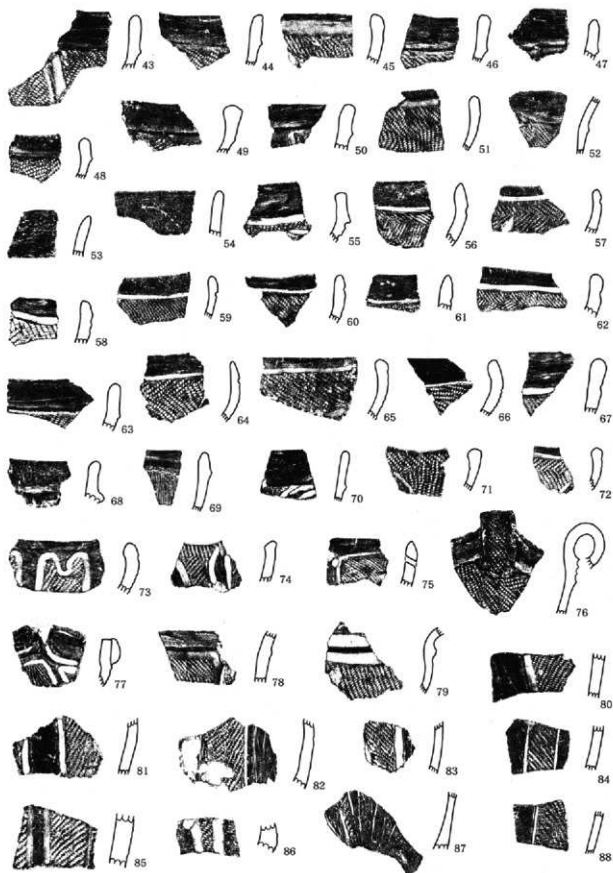
Ⅱ区920グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 彫体	胎文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
96	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR4/3	白色粒	普通	RL	縦	Ⅵ群	太さ7ミリの沈線による縦位区画。	920-985
97	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦斜	Ⅵ群	太さ3ミリの沈線による垂直状の区画。	920-995
98	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y6/2	細かい砂粒	普通	RL		Ⅵ群	太さ3～5ミリの沈線で文様を区画する。	920-975
99	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒	良	LR		Ⅵ群	太さ2ミリの沈線が弧状に文様を描く。無文彫り消し施文。	920-980
100	深鉢	胴部	にぶい黄	2.5Y6/4	細かい砂粒	普通	LR		Ⅵ群	太さ2ミリの沈線による縦線で文様を描く。	920-990
101	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒	不良	RL		Ⅵ群	太さ3ミリの沈線で文様を描く。	920-980
102	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒	良	LR		Ⅵ群	太さ3ミリの沈線による文様施文。無文彫り消し施文。	920-975
103	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR6/4	φ1ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E	太さ8ミリの沈線による腰凹区画。	920-975
104	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	白色粒	普通	—		加曾利E	太さ3ミリの沈線が縦位に施文される。	920-985
105	浅鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	φ1～2ミリの小石	良	—		Ⅶ群3類	太さ1ミリ以下の沈線による縦位の条線。	920-990
106	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	φ1～3ミリの小石	普通	—		Ⅶ群2類	3ミリ間隔の線状工具による弧状沈線。	920-990
107	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/4	φ1～2ミリの小石	普通	RL		加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位の区画。	920-975
108	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR5/3	φ1～3ミリの白色粒	普通	RL		加曾利E		920-980
109	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/4	φ1～3ミリ小石	普通	RL		加曾利E		920-975
110	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y6/2	φ1～2ミリ砂粒	普通	RL		前期～中期	爪形文が横位に施文される。	920-975
111	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/4	白色粒	不良	RL	縦	加曾利E	太さ2ミリの沈線が縦位方向に施文される。	920-985
112	深鉢	口縁	にぶい橙	2.5YR6/3	φ1～2ミリ小石	普通	—		後期	太さ1ミリの沈線で弧線を描く。	920-990
113	深鉢	胴部	浅黄褐色	10YR8/3	細かい砂粒	良	—		後期	太さ3ミリの沈線による文様施文。	920-980
114	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの小石	良	—		Ⅷ之内	幅10ミリの平行沈線が横位に施文される。	920-980
115	深鉢	胴部～底部	にぶい黄褐色	10YR7/4	細かい砂粒	良	—		加曾利E	外面縦位方向のミガキ。	920-975
116	深鉢	胴部～底部	にぶい黄褐色	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		加曾利E		920-995
117	深鉢	底部	にぶい黄褐色	10YR7/4	細かい砂粒	不良	—		加曾利E	無文。	920-985
118	深鉢	胴部～底部	にぶい黄褐色	10YR6/3	φ1～3ミリの小石、白色粒	良	—		加曾利E	外面縦位方向の菱形痕。縦位の沈線による区画。	920-990
119	深鉢	胴部～底部	にぶい黄褐色	10YR6/3	細かい砂粒	普通	—		加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	920-995
120	深鉢	胴部～底部	にぶい黄	7.5YR5/4	φ1～2ミリの白色粒	良	—		加曾利E	縦位の沈線による区画。	920-990
121	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	砂粒	普通	—		加曾利E	外面縦位方向の整形。	920-980
122	深鉢	底部	にぶい黄褐色	10YR7/3	φ1～2ミリの小石	普通	—		加曾利E	外面縦位方向のミガキ。上げ底。	920-975
123	深鉢	底部	にぶい黄褐色	10YR7/4	φ1～2ミリの白色粒	普通	—		加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。上げ底。	920-975
124	土製円盤	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒	不良	LR			加曾利E	太さ2ミリの沈線による縦位区画。	920-980
125	土製円盤	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒、角閃石	普通					表面割離が多い。	920-995
126	土製円盤	にぶい黄褐色	10YR7/4	細かい砂粒	不良	—				無文。縁辺を打ち欠いて成形。	920-980
127	土製円盤	明黄褐色	10YR6/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	横斜			太さ4ミリの隙線による弧線状区画。	920-000
128	土製円盤	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	不良	—				無文。	920-985
129	土製円盤	褐	7.5YR4/4	φ1～3ミリの小石	普通	RL	横				920-000



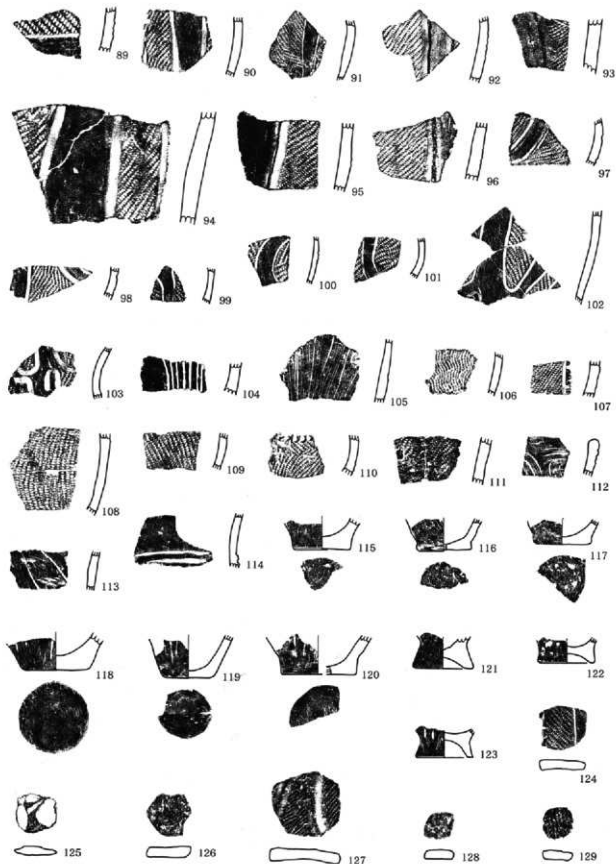
第162図 920グリッド出土土器(1)

0 20cm



第163図 920グリッド出土土器 (2)

0 20cm



第164図 920グリッド出土土器(3)

II区925グリッド出土土器観察表

図解No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 調査
1	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~5ミリの小石	良	—		阿玉台	太さ10ミリの断面三角形の弧線と幅10ミリの結節沈線文。	925-980
2	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/3	φ1~2ミリ小石	良			勝坂	横位連続爪形列。	925-995
3	浅鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		I群	太さ7ミリの隆線2本による重畳状の区画文。	925-005 赤色埋め
4	深鉢	口縁	明褐	7.5YR5/6	細かい砂粒	やや不良	—		勝坂	太さ4ミリと7ミリの隆線による横位区画と、斜位の区画文。	925-985
5	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1ミリの白色粒	良			勝坂	隆帯による突起。	925-995
6	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~3ミリの小石、金雲母	良	—		阿玉台	口縁から隆線が「Y」字状に垂下する。	925-975
7	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良			勝坂	幅6ミリの平行沈線で文様を横く。太さ8ミリの隆線が垂下する。	925-995
8	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		勝坂	太さ5ミリの隆線による突起。別みが入る。	925-985
9	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	良			I群	幅7ミリの隆帯。太さ3ミリの沈線文。	925-990
10	深鉢	口縁	橙	2.5YR6/6	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	良			I群	太さ4ミリの沈線2本を横位に、その間に太さ8ミリの隆線を施文。竹筴により斜位に沈線を蓋す。	925-990
11	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	良	—		I群	太さ5~6ミリの沈線で口縁部文様帯を区画し、中に縦位の沈線が充填される。	925-980
12	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/3	φ1~3ミリの砂粒、石英	普通			阿玉台	口縁部幅3ミリの縦の刻み目。三角縦状モチーフの隆帯。内面にも竹筴の衝突と爪形文を施文。	925-990
13	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの砂粒、小石、軽石粒	普通	RL	縦横	I群	口縁部太さ2ミリの沈線2本による区画。	925-000
14	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	普通			I群	半截竹筴により沈線を横位に施文。半截竹筴をぬきように衝突する。口縁部、胴部には平行沈線を斜位に施文。	925-990
15	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR5/4	φ1~2ミリの砂粒、小石	普通			勝坂	半截竹筴による平行沈線。	925-000
16	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石	良			阿玉台	無文鏡状口縁部に凹形の衝突。	925-985
17	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/3	細かい砂粒	良	—		勝坂	幅10ミリの刻みと隆線文。	925-975
18	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/6	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	良	RL	横	勝坂	太さ8ミリの隆線による区画。上面に半截竹筴による爪形文を施文する。太さ2ミリの沈線による三角状区画・印知文。	925-985
19	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~3ミリの砂粒、小石、軽石粒	普通			勝坂	太さ6ミリの隆帯による区画、爪形文も巡る。	925-990
20	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒、軽石粒	良			I群	太さ1~2ミリのヘラ状工具による横位の沈線。	925-005
21	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの砂粒	普通	—		勝坂	幅6ミリの爪形の刻み列。太さ3ミリの隆線による横位区画。	925-985
22	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1ミリの砂粒、金雲母	普通	—		五葉ヶ台	半截竹筴による横位、斜位の沈線文。	925-985
23	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの砂粒、小石	良	し		加曾利E	太さ3ミリの沈線による重畳文様。燃赤。	925-005
24	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	R		I群	沈線。棒状工具による衝突。燃赤。	925-990
25	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	普通	—		勝坂	太さ8ミリの隆線による渦巻文様。隆帯に刻みか施文される。	925-975
26	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良			I群	太さ8ミリの隆線による貼り付け。	925-995
27	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1ミリ前後の砂粒、金雲母	普通	—		阿玉台	隆線とそれに合う半截竹筴による押し引き文。	925-010
28	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~5ミリの砂粒、小石	良	RL	横	III群1類	幅10ミリの隆帯による箱内区画。突起部内面にも沈線文を持つ。	925-000

第4章 出土遺物

II区925グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 彫体	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
29	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/3	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒、雲母	普通	RL	横	Ⅲ群	幅10ミリの隆帯を横位に巡らす。隆帯上下を沈線状に施文。	925-990
30	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/3	φ1~3ミリの砂粒、石英	普通	RL	横	Ⅲ群	太さ8ミリの沈線2本とそれに挟まれる太さ2ミリの浮線文による斜位区画。	925-990
31	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	横	Ⅲ群	口縁部隆帯と沈線による渦巻状文様。	925-000
32	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1~3ミリの小石、砂粒	良	RL	斜	Ⅲ群	太さ8ミリの沈線による渦巻文。	925-995
33	深鉢	口縁	淡黄	2.5YR8/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横	Ⅲ群	太さ6ミリの沈線による横位の楕円区画。	925-990
34	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒	普通	LR	縦	Ⅲ群	太さ8ミリの沈線による区画。	925-000 赤色塗彩
35	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの白色粒	普通	RL	縦	Ⅲ群	口縁部に楕円、渦巻の文様を隆帯で隔く。	925-995
36	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1~2ミリの砂粒	普通	RL	縦	Ⅳ群	原形0段多。太さ6ミリの沈線による横位渦巻状区画。	925-985
37	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	やや不良	RL	横	Ⅳ群	幅8ミリの隆帯による横位区画。太さ3ミリの浮線による楕円区画。	925-000
38	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR7/4	細かい砂粒	良	LR	縦	加善利E	太さ5ミリの隆帯による横位区画と楕円状区画。	925-985
39	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒、角閃石	角	—	—	加善利E	太さ9ミリの沈線2条による横位区画。	925-005
40	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR7/4	φ1ミリの白色粒	不良	RL	斜	Ⅳ群	太さ5ミリの沈線による楕円区画。	925-995
41	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR7/3	細かい砂粒、角閃石	普通	RL	縦	Ⅲ群	太さ5ミリの沈線による横位区画と楕円状区画。	925-985
42	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	細かい砂粒	良	RL	縦	Ⅲ群	太さ8ミリの沈線による区画。	925-000
43	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	Ⅲ群	口縁部横位のヘラナデ。太さ3ミリの隆帯を横位に巡らす。	925-000
44	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR6/4	φ1ミリの砂粒	普通	RL	横	加善利E	太さ8ミリの沈線による縦線文。	925-985
45	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR7/2	φ1ミリの砂粒	良	—	—	加善利E	太さ5ミリの隆帯による楕円区画。	925-985
46	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR7/4	細かい砂粒	良	RL	V群	太さ7ミリの沈線による波状区画。	925-975	
47	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	RLR	縦	V群	口縁部太さ4ミリの沈線による縦位区画。	925-985
48	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR5/2	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	横	V群	太さ6ミリの沈線2本による楕円区画。羽状施文。	925-990
49	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦斜	V群	口縁部に半横竹首による刺突列。太さ6ミリの沈線による波状区画。	925-985
50	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR7/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒、雲母	普通	RL	横	V群	太さ4ミリの沈線2本の楕円区画。	925-990
51	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	普通	RL	横	Ⅳ群	羽状施文。	925-000
52	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR7/2	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	横	Ⅳ群	口縁部波状。太さ3ミリの沈線を横位に巡らす。	925-990
53	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横	Ⅳ群	太さ5ミリの沈線による横位区画。羽状施文。	925-000
54	深鉢	口縁	黄橙	7.5YR7/8	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	Ⅳ群	口縁部へラ横ナデ。太さ4ミリの沈線を横位に施文。	925-990
55	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい白色粒	普通	RL	縦	Ⅳ群	口縁部に太さ5ミリの沈線が巡る。	925-975
56	深鉢	口縁	灰黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横	Ⅳ群	太さ4ミリの沈線による波状施文。羽状施文。	925-990
57	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの砂粒	普通	—	—	Ⅳ群	口縁部へラ横ナデ。太さ3ミリの浮線文による縦・横位区画。	925-000
58	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	縦	Ⅳ群	口縁部横位の整形。太さ4ミリの隆帯による横位区画。	925-985
59	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR5/4	φ1ミリ前後の砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	Ⅳ群	口縁部施文。太さ6ミリの隆帯による横位の区画。	925-985
60	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	縦	Ⅳ群	太さ3ミリの隆帯による縦位区画。	925-005
61	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1ミリの白色粒多い	普通	LR	Ⅳ群	口縁部に幾地起線が巡る。	925-980	

Ⅱ区925グリッド出土土器調査表

図版No	種類・器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	施文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 調査
62	深鉢	口縁	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	Ⅵ群	口縁部施文帯位の彫形。頸部隆起線による縦位区画。	925-010
63	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	やや不良	RL	縦	Ⅵ群	太さ2ミリの沈線による「U」 「I」状の文様区画。	925-985
64	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	縦	Ⅵ群	口縁部横ナテ。沈線と突起。羽状施文。	925-000
65	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	縦	Ⅵ群	口縁部隆線による横位区画。太さ2ミリの沈線区画。口縁部ペン先状工具による削突。	925-000
66	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	縦	Ⅵ群	口縁部太さ2ミリの沈線による区画と削突。	925-000
67	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	横	Ⅵ群	口縁部ペン先状工具による2列の削突文。下部に太さ3ミリの隆起線による横位区画と沈線区画。	925-985 100と同一個体
68	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	白色粒多い	不良	RL		Ⅵ群	太さ5～6ミリの沈線による文様区画。無文部に磨り削し施文。	925-980
69	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	Ⅵ群	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	925-985
70	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	Ⅵ群	口縁部に横位の削突文。太さ7ミリの沈線による区画。	925-995
71	深鉢	突起	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの砂粒	普通	—		加曾利E	表面磨離多い。	925-985
72	深鉢	把手	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通			加曾利E		925-985
73	深鉢	突起	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	普通	—		舟名寺	円柱状突起。外側に削突文。	925-005
74	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの砂粒、軽石粒	良	RL	縦	Ⅵ群之内 縦斜	口縁部太さ3ミリの隆起線による横位区画。太さ2ミリの沈線による重傷文と磨り削し施文。	925-985
75	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	V群	太さ8ミリの隆線による横位区画。太さ6ミリの沈線による横位区画。	925-985
76	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	φ1ミリの小石	普通	—		Ⅵ群4類	幅12ミリに6条の磨状工具により波状に条線が引かれる。	925-975
77	深鉢	口縁	黄灰	2.5Y6/1	φ1～2ミリの砂粒、軽石粒	普通			Ⅵ群1類	幅12ミリの渦巻状の隆帯。	925-980
78	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	不良	—		Ⅵ群4類	口縁部ヘラ状工具による斜位の条線文。	925-010
79	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	φ1～3ミリの砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	925-985
80	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1～3ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E	太さ8ミリの沈線による横位区画と縦位区画。	925-985
81	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	925-985
82	深鉢	胴部	明黄褐	10YR7/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	外面縦位のヘラ削り。太さ2ミリの沈線による縦位区画。擦糸。	925-000
83	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	黒色粒	普通	RL		加曾利E	太さ5ミリの断面三角形になる隆帯による文様区画。	925-980
84	深鉢	胴部	黄橙	10YR8/6	細かい砂粒	不良	R		I群	幅15ミリの隆帯による横位区画。艶光。	925-000
85	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの白色粒	普通	RL		加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	925-980
86	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	φ1～2ミリの砂粒、軽石粒	良	LR	横	加曾利E	太さ7ミリの沈線による縦位区画。	925-000
87	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	925-985
88	深鉢	胴部	黄灰	2.5Y4/1	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	925-990
89	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1ミリの砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	925-985
90	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	横	加曾利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画。	925-005
91	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画。	925-985
92	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	925-985
93	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	砂粒	良	LR	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による重線。	925-995
94	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y6/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	原形0段多条。太さ5ミリの沈線による縦位区画。	925-985

第4章 出土遺物

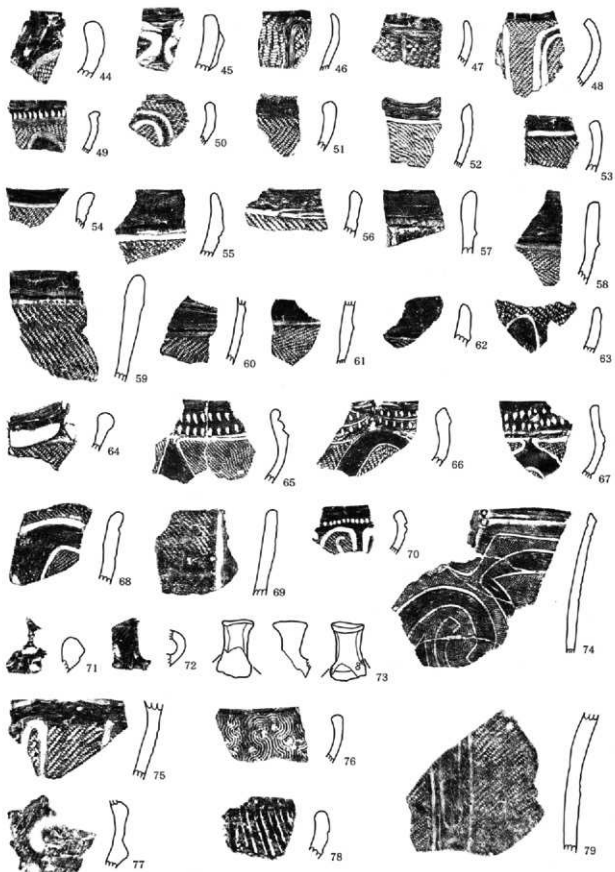
II区925グリッド出土土器観察表

図版No.	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
95	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	—	—	加曽利E	縦位の整形とミガキ。	925-985
96	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	—	—	加曽利E	太さ5ミリの沈線が垂下する。沈線間は、上下方向に擦痕。	925-995
97	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1~3ミリの小石	普通	—	—	雑群4類	太さ6ミリの沈線による縦位区画。赤線が施文される。	925-975
98	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	925-990
99	深鉢	胴部	明黄褐	2.5Y7/6	細かい砂粒、軽石粒	やや不良	LR	横斜	M群1類	太さ4ミリの沈線による横円状区画。	925-000
100	深鉢	口縁~ 胴部	黄灰	10YR4/1	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦横	M群1類	太さ3ミリの沈線による横円区画。	925-990 67と併し
101	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	黒色の細粒	普通	RL	横	M群1類	太さ3ミリの沈線による横円区画。	925-995
102	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	RL	横	M群1類	太さ2ミリの沈線による横円区画。	925-990
103	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石	良	RL	縦	加曽利E	太さ3~5ミリの沈線による縦位区画。	925-975
104	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曽利E	太さ2ミリの沈線による波状区画。	925-985
105	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒	良	RL	縦	加曽利E	太さ2ミリの沈線による横円区画。	925-985
106	深鉢	胴部	褐	10YR4/4	φ1~2ミリの砂粒、 軽石粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ8ミリの沈線による横円区画。一部擦痕。	925-000
107	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ6ミリの沈線による重凸文。	925-985
108	深鉢	胴部	橙	5YR6/8	φ1~2ミリの砂粒、 軽石粒	普通	LR	縦	加曽利E	太さ4ミリの沈線と太さ7ミリの沈線による横円状区画。	925-000
109	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1ミリの白色粒	普通	RL	—	加曽利E	幅5ミリの断面三角形になる隆帯。	925-980
110	深鉢	胴部	明黄褐	10YR7/6	φ1~2ミリの砂粒、 小石、軽石粒	普通	RL	縦横	加曽利E	太さ5ミリの隆帯(浮線文)による横・縦位区画。羽状縦文。	925-000
111	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦横	加曽利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	925-985
112	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画。	925-985
113	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1~2ミリの砂粒、 軽石粒	普通	LR	縦	加曽利E	加曽利E	925-990
114	深鉢	胴部	明黄褐	10YR6/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横	加曽利E	竹管による沈線。太さ3ミリの隆帯による縦位区画。	925-000
115	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦横	加曽利E		925-010
116	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	やや不良	RL	横	加曽利E		925-985
117	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	普通	—	—	雑群4類	条痕文。	925-000
118	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	雑群4類	櫛状工具による条線文。	925-985 瓦野系
119	深鉢	胴部~ 底部	浅黄橙	10YR8/4	φ1~2ミリの砂粒、 軽石粒	普通	—	—	加曽利E		925-000
120	深鉢	底部	明黄褐	10YR7/6	細かい砂粒	普通	—	—	加曽利E		925-000
121	深鉢	胴部~ 底部	灰黄	2.5Y7/2	φ1~2ミリの白色粒多い	良	—	—	加曽利E	外面横方向の整形。上げ底になる。	925-980
122	深鉢	胴部~ 底部	橙	5YR7/8	φ1~3ミリの砂粒、 軽石粒	やや不良	—	—	加曽利E		925-000
123	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの砂粒、 軽石粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ4ミリの沈線による横円状区画。底面へラナテ。	925-000
124	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	—	—	加曽利E		925-985
125	深鉢	底部	浅黄橙	10YR8/3	白色粒	良	—	—	加曽利E	外面横方向の整形。	925-980
126	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	—	—	加曽利E	へラナテ。	925-990
127	深鉢	胴部~ 底部	明黄褐	10YR7/6	φ1~3ミリの砂粒、 小石	やや不良	—	—	加曽利E		925-000
128	深鉢	外面 内面	灰白 黒褐	10YR8/2 10YR3/1	φ1~2ミリの白色粒	普通	—	—	加曽利E	無文。	925-995
129	深鉢	底部	浅黄橙	10YR8/4	φ1~2ミリ小石	良	—	—	加曽利E	上げ底。	925-980



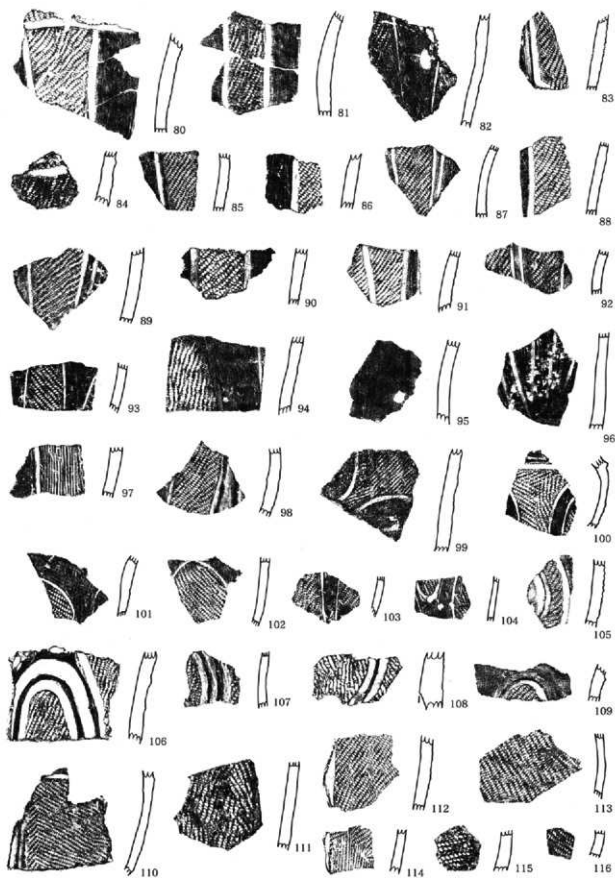
第165図 925グリッド出土土器 (1)

0 20cm



第166図 925グリッド出土土器(2)

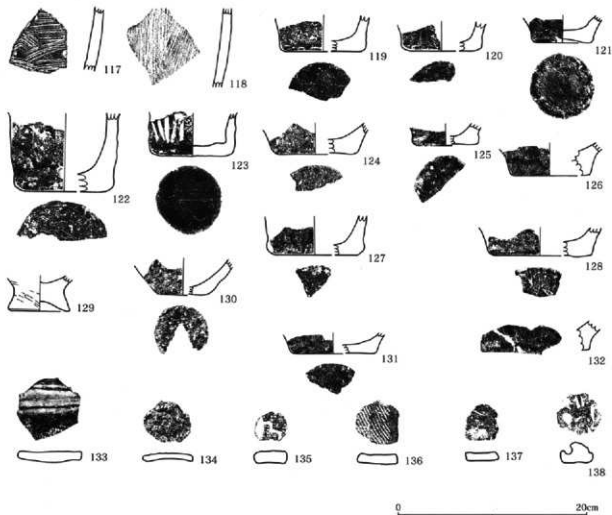
0 20cm



第167図 925グリッド出土土器(3)

0 20cm

第4章 出土遺物



第168図 925グリッド出土土器(4)

Ⅱ区925グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
130	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良			加曽利E	無文。	925-995
131	深鉢	底部	明黄褐	10YR6/6	φ1~2ミリの砂粒多い	不良			加曽利E	無文。	925-995
132	深鉢	底部	にぶい黄褐	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	普通	-		加曽利E		925-985
133	土製円盤	體		7.5YR7/6	φ1~3ミリの小石、黒色粒	普通	RL	縦		微隆起線で縦位の区画。	925-995
134	土製円盤	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの軽石粒、金雲母	普通	-		阿玉台		半截竹管による結節沈線文。	925-985
135	土製円盤	褐	7.5YR4/6	細かい砂粒	普通					竹管による山形の沈線。	925-000
136	土製円盤	淡黄	2.5Y8/3	白色粒	普通	LR				縦区画の沈線が無文される。	925-975
137	土製円盤	浅黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの砂粒	良	-				無文。	925-975
138	土製円盤	明褐	7.5YR5/6	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	やや不良					突起部、円状に隆帯を貼り、内側凹みにペン先状工具による刺突を施す。ヘラ状工具による沈線。	925-000

II区930グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
1	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石	良	—	—	露織c	幅3ミリの平行沈線を集約させた縦線と斜線を描く。ボタン状、棒状の粘土貼り付け。	930-990
2	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	—	—	前期木	太さ3ミリの沈線を集合させて横位の区画線と露織を描く。	930-990
3	深鉢	把手	にぶい黄褐	10YR6/4	細かい砂粒	普通	—	—	中間前半	幅14ミリの横状把手。その下部に沈線による逆三角状の文様。	930-980 横状把手
4	深鉢	突起	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒	良	—	—	磨版	太さ4ミリの露線が渦巻状に貼り付けられる。	930-995
5	深鉢	突起	橙	5YR6/8	φ1ミリの砂粒	良	—	—	磨版	口縁部突起。太さ2ミリの沈線による渦巻文。	930-985
6	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの小石、雲母	良	—	—	阿玉台	幅5ミリの爪形文。	930-980
7	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1ミリ以下の砂粒	良	—	—	磨版	口縁に横位の沈線。無文、外面丁寧なミガキ。	930-995
8	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石、砂粒、金雲母	普通	—	—	阿玉台	口縁波状を呈し、胴部口唇部棒状工具による刺突列を施す。胴部より腹位に半円状の突起を貼り付け上面に半截竹管による押し引き文。隆帯に沿って2列の角押文。	930-005
9	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~2ミリの小石	普通	—	—	磨版	太さ12ミリの露線とベン先状刺突列が施文される。	930-015
10	深鉢	突起	灰黄褐	10YR5/2	φ1ミリの白色粒、金雲母	良	—	—	阿玉台	—	930-970
11	深鉢	突起	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、石英	普通	—	—	磨版	口縁部波状を呈し胴部に隆帯を貼り付けられる。口唇部には、棒状工具による刺突。	930-980
12	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの小石多い	不良	—	—	阿玉台	幅5ミリの平行沈線と胴部沈線による横位文様。	930-010
13	深鉢	口縁	灰褐	5YR4/2	φ1ミリの砂粒、軽石粒	良	—	—	磨版	半截竹管による横位の爪形文。ベン先状工具による2列横位の刷み列。	930-985
14	深鉢	突起	にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒	普通	—	—	磨版	環状の突起を2つ重ね合わせる形で腹位に貼り付けられる。ベン先状工具による刷み列。片面には棒状工具による刺突が施文される。	930-005
15	深鉢	突起	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	—	—	磨版	突起は、棒状に貼り付けられる。片面に刷みを持つ。	930-990
16	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの小石	良	—	—	磨版	太さ7ミリの露線と刷み列による文様区画。	930-970
17	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの白色粒	良	—	—	磨版	太さ7ミリの露線と刷み列による文様区画。	930-970
18	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1~3ミリの小石	良	—	—	磨版	幅6~7ミリの平行沈線と露線を楕円形に施文し、区画内に刷面状の文様を施文する。	930-005
19	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	φ1~2ミリの白色粒、小石	普通	—	—	I群	太さ5ミリの沈線による渦巻文。	930-000
20	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1~2ミリの小石、金雲母	良	—	—	阿玉台	太さ10ミリの隆帯が横位に走る。横位の爪形列。	930-995
21	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石	普通	—	—	磨版	幅6ミリの平行沈線を横位に施文。ベン先状刺突や三角印刷文。	930-000
22	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	良	—	—	磨版	太さ5ミリの露線と棒状工具による刺突列。それにベン先状工具による刺突列。	930-985
23	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/8	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	横	I群	太さ8ミリの露線と2ミリの沈線文。	930-995
24	深鉢	胴部	橙	5YR6/8	細かい砂粒、軽石粒	良	L	—	I群	太さ6ミリの露線による斜位施文。太さ2ミリの沈線3条による垂直区画線。黒糸。	930-985

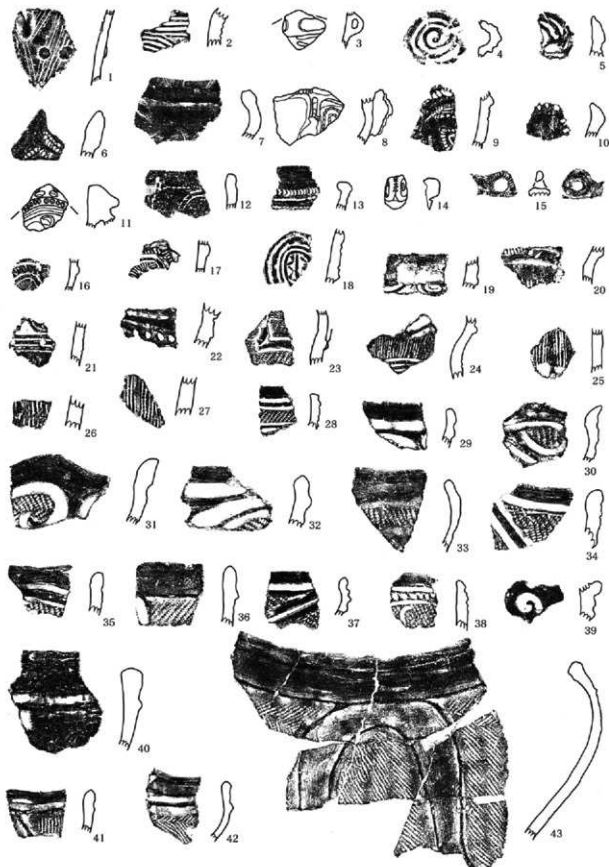
第4章 出土遺物

II区930グリッド出土土器観察表

図版No	種類・形状	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
25	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/8	φ1~3ミリの小石	良	L		I群	褐色。	930-985
26	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの小石	普通	LR		I群	褐色。	930-035
27	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~2ミリの黄色粒	良	LR		I群	褐色。	930-035
28	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい白色粒	良	LR	横	加曾利E	太さ4ミリの隆・沈線による文様区画。区画内に縄文が充填される。	930-030
29	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい黄色粒	良	—		加曾利E	口縁に太さ10ミリの沈線が巡る。隆線で帯状文。	930-020
30	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒、雲母	普通	RL	斜	加曾利E	太さ5ミリの沈線による横帯区画。	930-990 舌状突起
31	深鉢	口縁	灰白	10YR8/2	細かい黄色粒	普通	RL	縦 横	III群1類	口縁部に太さ10~12ミリの沈線で褐色文様を置く。	930-000
32	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒	普通	RL		加曾利E	太い沈線による口縁部横帯区画。	930-990
33	深鉢	口縁	明黄褐	10YR7/6	φ1ミリの砂粒多い	やや不良	RL	斜	加曾利E	隆部による口縁部横帯区画。全体に磨りつぶし。	930-995
34	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石	良	RL		加曾利E	太さ10ミリの隆・沈線による文様区画。	930-015
35	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	加曾利E	太さ5~7ミリの沈線による区画。区画下を縄文施文。	930-995
36	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの白色粒、小石	不良	LR	横	加曾利E	太さ4ミリの断面三角形の隆線で口縁部文様帯を区画する。横位の隆線から縦位区画の垂線が施文。	930-000
37	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの小石	良	RL	横	加曾利E	太さ5ミリの隆線による文様区画。	930-025
38	深鉢	口縁	明黄褐	10YR7/6	細かい砂粒	良	RRL	横	加曾利E	太さ5ミリの沈線で口縁を横位に区画している。区画内は太さ4ミリの沈線で弧線を置く。口縁にはφ5ミリの刺突が巡る。	930-995
39	深鉢	口縁	赤褐	2.5YR4/6	φ1~2ミリの砂粒、小石	良	—		加曾利E	楕円状の隆部で太さ5ミリの沈線で褐色文様の文様を施文。	930-985
40	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	普通	—		加曾利E	太い隆・沈線が口縁部に巡る。	930-975
41	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL	縦	VI群1類	太さ8ミリの沈線が口縁部に巡る。小波状口縁の頂部から縦位に隆線が付けられる。	930-000
42	深鉢	口縁	褐灰	10YR4/1	φ1~2ミリの小石、白色粒	良	LR	縦 横	VI群1類	口縁部に断面三角形の隆線が巡り、無文部と区別する。	930-990
43	深鉢	口縁~胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1~2ミリの砂粒	普通	LR	縦 横	VI群1類	隆起線による口縁区画。胴部に大波状の区画。胴部区画内磨り消し縄文。	930-995
44	深鉢	口縁	黄灰	2.5Y4/1	φ1~3ミリの砂粒	普通	RL	縦 横	VI群3類	口縁部隆起線による区画。0段多季。	930-995
45	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	VI群3類	太さ3ミリの沈線による横帯区画。	930-985
46	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒	良	LR	横	VI群3類	口縁部に断面三角形、太さ4ミリの隆線が巡る。	930-990
47	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黄色粒多い	普通	—		VI群3類	口縁部を隆線が巡る。	930-015
48	深鉢	口縁	黄灰	2.5Y4/1	細かい砂粒	普通	RL	横	VI群	口縁隆起線で区画。以下を縄文施文。	930-995
49	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	不良	LR		VI群	口縁部に浅い沈線が巡る。	930-990
50	深鉢	口縁	褐灰	10YR4/1	細かい砂粒	不良	LR	横	VI群	口縁部に太さ4ミリの沈線が巡る。	930-995
51	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石	良	RL		VI群	太さ4ミリの沈線が口縁を巡る。	930-990
52	深鉢	口縁	橙	5YR6/8	細かい砂粒	普通	LR RL	横	VI群	太さ5ミリの沈線で口縁部区画する。	930-995
53	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y6/2	φ1~2ミリの小石	良	RL	横 縦	VI群	太さ4ミリの沈線が口縁部に巡る。太さ2ミリの沈線による楕円形の文様。	930-975
54	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石	普通	—		VI群	口縁部に太さ4ミリの沈線が巡る。	930-010

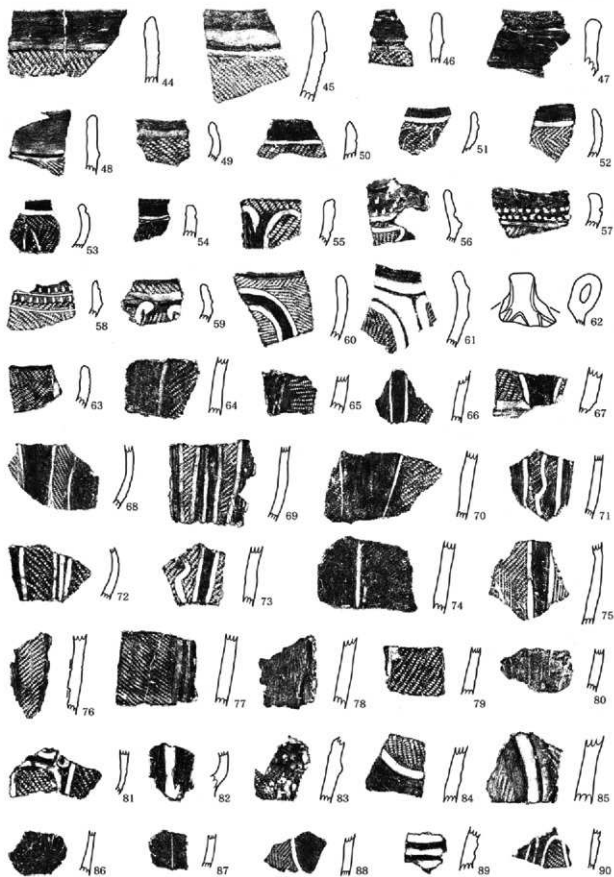
H区930グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	陶文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
55	深鉢	口縁	黒褐	2.5Y3/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	縦	縦	V群1期	太さ5ミリの沈線による帯状区画。	930-985
56	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～3ミリの小石、白色粒	良	LR	縦	V群	波状口縁。頂部に突起。隆線で口縁部文様帯を区画する。口縁部には刺突が加えられる。	930-990
57	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの砂粒	不良	LR	縦	V群2期	口縁部に太さ4ミリの沈線が回り、文様帯を区画。口縁は、幅3ミリの半波状管による2列の刺突列。	930-990
58	深鉢	口縁	黄橙	10YR8/6	微細な黒色粒含む	良	RL	横	V群2期	口縁部に2段の刺突。以下を縄文陶文。	930-995
59	深鉢	口縁	灰白	10YR8/2	φ1ミリの白色粒	良	RL	縦	V群1期	太さ10ミリの沈線で口縁部文様帯を区画。下位には、「」文。	930-990
60	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR8/4	φ1～2ミリの白色粒	良	LR	縦	V群	太さ4～5ミリの浅い沈線を2本対にして縦線を細く。	930-000
61	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1～5ミリの小石	普通	RL	縦	V群	断面三角の隆線による口縁部弧状の文様陶文。	930-015
62	深鉢	把手	淡黄	2.5Y8/4	細かい砂粒	普通	—	—	V群2期	口縁部環状把手。その下部に沈線による文様。	930-985 環状把手
63	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1～2ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E	太さ7ミリの沈線が縦位に施される。	930-005
64	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	φ1～3ミリの白色粒、小石	不良	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位の区画。	930-000
65	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	φ1～3ミリの小石多い	良	LR	斜	加曾利E	断面三角形の隆線による縦位区画。	930-020
66	深鉢	胴部	にぶい黄	7.5YR5/4	φ1～2ミリの砂粒	良	LR	横	加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	930-980
67	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。無文部は磨り消し陶文。	930-975
68	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ2ミリの沈線による縦位区画。	930-985
69	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/3	φ1～3ミリの小石	良	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	930-000
70	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～3ミリの小石	良	RL	縦	加曾利E	太さ2ミリの沈線による縦位区画。無文部を広くとる。	930-990
71	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～3ミリの小石	良	RL	縦	加曾利E	太さ5～6ミリの沈線による縦位区画。区画内には同じ沈線による波状文。	930-000
72	深鉢	胴部	陶灰	10YR4/1	φ1～2ミリの白色粒	良	LR	縦	加曾利E	太さ4～6ミリの沈線が縦位に施文。	930-975
73	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1ミリの砂粒、黑色粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線が2本対になる縦位区画の縁と波状の沈線が施文される。	930-995
74	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y7/3	砂粒多い	不良	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線で縦位区画。	930-980
75	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1ミリの砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ6ミリの沈線2本対になり、垂下する。下半部には縄文に代わり糸線が施される。	930-995
76	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの白色粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	930-990
77	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの小石	不良	LR	縦	加曾利E	断面三角の低い隆線で縦位に施文。	930-005
78	深鉢	胴部	灰白	2.5Y8/2	φ1～2ミリの黄色粒、小石	普通	—	—	加曾利E	低い隆線による縦位区画。無文部は、縦位方向の彫形。	930-000
79	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい白色粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	930-025
80	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの小石、砂粒	普通	—	—	加曾利E	太さ2ミリの沈線による縦位区画。	930-990
81	深鉢	胴部	陶灰	10YR4/1	φ1～3ミリの白色粒	良	LR	縦	V群	太さ4ミリの沈線による縦位の区画と筋状区画。区画内には、縄文が充填される。	930-975
82	深鉢	口縁	黄灰	2.5Y5/1	φ1～3ミリの小石	良	—	—	加曾利E	太さ8ミリの沈線が「」状に施される。	930-975



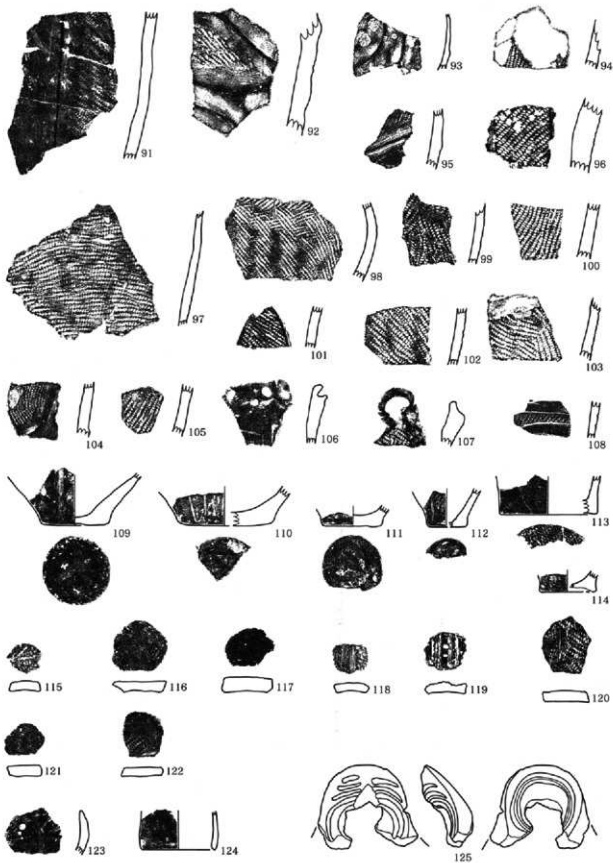
第169図 930グリッド出土土器(1)

0 20cm



第170図 930グリッド出土土器 (2)





第171図 930グリッド出土土器(3) 0 20cm

H区930グリップ出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	施文 器種	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
83	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1~2ミリの白色 色粒	不良	LR	縦	加曾利E	断面三角形の隆縁が口縁部に連る。	930-980
84	深鉢	胴部	黒褐	2.5Y3/1	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による弧線状区画。	930-985
85	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1~2ミリの砂 粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ10ミリの2本対になる隆縁で 弧線を織く。	930-995
86	深鉢	胴部	明黄褐	10YR7/6	φ1~3ミリの小 石	—	—	—	加曾利E	縦位の整形。	930-980
87	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y8/4	細かい砂粒	不良	—	—	加曾利E	太さ1ミリの沈線が施文される。	930-980
88	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による帯状区画。	930-980
89	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	φ1~2ミリ小石	良	—	—	加曾利E	隆・沈線が横位に施文される。	930-025
90	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	不良	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による帯状区画。	930-980
91	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	φ1ミリの白色 色粒	良	RL	—	VI群	断面三角形の隆縁による縦位区画。	930-020
92	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	φ1~3ミリの砂 粒、小石	良	RL	横	VI群	幅10ミリの隆部で文様帯をなす。	930-995
93	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/1	φ1~2ミリの小 石多い	良	—	—	VI群	薄手の土器。7ミリの隆縁で曲線 を織く。	930-995
94	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1~2ミリの白 色粒	普通	RL	—	加曾利E	表面剥落多い。	930-980
95	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの白 色粒	不良	RL	—	VI群	断面三角形の隆縁による縦位の区画。	930-000
96	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリ小石	普通	RL	縦	加曾利E	沈線による縦位区画。	930-005
97	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/3	φ1~2ミリ小石	普通	RL	斜	加曾利E	縄文施文。	930-000
98	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1ミリの砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	縄文を間隔を空けて施文。	930-995
99	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	RL	—	加曾利E	—	930-015
100	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR4/3	φ1~2ミリ小石	普通	RL	—	加曾利E	—	930-990
101	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの白 色粒多い	普通	LR	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による帯状区画。	930-010
102	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい白色粒	普通	LR	縦	加曾利E	—	930-000
103	深鉢	胴部	黒	2.5Y2/1	φ1ミリの白色 粒多い	良	LR	横	加曾利E	縄文原体を変えて羽状縄文を作る。 0段多糸。	930-995
104	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの小石	普通	RL	—	加曾利E	断面三角形の隆縁で帯状区画を作る。	930-980
105	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリ小石	不良	RL	—	加曾利E	—	930-990
106	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1~2ミリ小石	良	—	—	堀之内	口縁部が緩やかな装状になる。頂部 に2つの刺突。他に貫通した孔。 頂部の刺突の下に孔が有るが粘土 より埋められている。	930-980
107	深鉢	突起	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリ前後の 砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	後期	口縁部帯状突起の突起。頂部や かま状に広がる。	930-005
108	深鉢	胴部	黒褐	2.5Y3/1	細かい砂粒	良	LR	—	堀之内	太さ1ミリの沈線による帯状区画。 無文部は磨り消し縄文。	930-990
109	深鉢	胴部～ 底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小 石多い	普通	—	—	加曾利E	太さ8ミリの浅い沈線が縦位に施 文。	930-980
110	深鉢	胴部～ 底部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小 石	良	—	—	加曾利E	太さ3ミリの沈線が縦位の区画を 作る。	930-990
111	深鉢	底部	浅黄橙	10YR8/3	φ1~2ミリの白 色粒、小石	普通	—	—	不明	—	930-000
112	深鉢	胴部～ 底部	浅黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	930-985
113	深鉢	胴部～ 底部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの小石	良	—	—	後期	底面に網代状。外面縦位に整形。	930-980
114	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの白 色粒	良	—	—	不明	上げ底。	930-980
115	土製円盤	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	不良	—	—	—	—	縄文が施文されるが原体ははっきり しない。	930-995
116	土製円盤	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小 石	普通	—	—	—	—	底部片を転用している。	930-005

第4章 出土遺物

II区930グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	地文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
117	土製円盤		褐	7.5YR4/3	φ1~2ミリの小石	良	—	—		無文。	930-975
118	土製円盤		にぶい黄褐色	10YR6/4	細かい砂粒	不良	—	—		浅い沈線による縦位の区画線。縁辺を打ち欠いて成形。	930-990
119	土製円盤		淡黄	2.5Y8/3	φ1ミリの砂粒、金雲母	普通	—	—	阿玉台	太さ6ミリの隙線による2条の横位区画。隙線には刻み列を施文する。隙線に沿ってベン先状工具と半截竹管による沈線を施文。	930-985
120	土製円盤		淡黄	2.5Y8/3	φ1ミリの小石、白色粒	不良	RL	—	加曽利E		930-990
121	土製円盤		浅黄	2.5Y7/3	φ1~2ミリの小石	普通	—	—		無文。縁辺を打ち欠いて成形。	930-005
122	土製円盤		橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	RL	—	加曽利E	磨り消し縄文で縦位の区画。	930-980
123	鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	黒色粒	不良	—	—		外面に整形痕。	930-020 ミニチュア土器
124	甕	底面	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	—	—	土器	内外面ともミガキ整形。	930-000
125	深鉢	把手	黒褐	7.5YR3/1	φ1~2ミリの砂粒、小石	普通	—	—	勝坂	太い沈線が弧を描く。口縁上端に付き、横状になる。	930-990 横状把手

II区935グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	地文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
1	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒	良	—	—	諸磯c	口縁部に棒状の粘土貼り付け。地文は、幅4ミリの平行沈線を条線状に施文。	935-990
2	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの小石	普通	—	—	勝坂	幅6ミリの刻み列が横位に施文される。頸部との区画には、太さ2ミリの沈線が通る。	935-005
3	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~3ミリの小石	良	—	—	前期末	幅3ミリの隙線が縦位に施文される。	935-040
4	深鉢	口縁	暗赤褐	5YR3/3	φ1~3ミリの小石、金雲母	良	—	—	阿玉台	口縁部に隙線による横位区画。区画内には、2列のベン先状列突。	935-990
5	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	φ1~3ミリの小石、金雲母	普通	—	—	阿玉台	太さ2ミリの押し引き沈線で口縁部文様を区画。区画内を3条の押し引き沈線が縦位に施文。	935-030
6	深鉢	口縁	橙	5YR7/6	φ1~2ミリの砂粒、雲母	普通	—	—	勝坂	太さ8ミリの隙線に刻みと列突を施す。	935-995
7	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石、雲母	良	—	—	阿玉台	幅5ミリの平行沈線による押し引き沈線による文様。	935-005
8	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1ミリの砂粒、金雲母	良	—	—	阿玉台	太さ5ミリの隙線による口縁部文様とベン先状工具による2条2組の押し引き刻み列。	935-870
9	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR6/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒、金雲母	良	—	—	阿玉台	隙線上面に竹管による押し引き。竹管による沈線。口縁部上面には、へら状工具による刻みを入れる。	935-980
10	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~2ミリの小石	良	—	—	勝坂	口縁部にベン先状の刺突列。	935-020
11	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒	普通	—	—	勝坂	太さ10ミリの隙線に爪形文。	935-995
12	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	—	—	I群	太さ6ミリの隙線による横位区画と横位区画。	935-975
13	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~3ミリの砂粒、小石	普通	—	—	阿玉台	隙線に竹管による爪形文を施す。	935-985
14	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~2ミリの小石	良	—	—	勝坂	無文。口縁に尖突。	935-005
15	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR6/4	φ1ミリの白色粒	良	—	—	勝坂	無文の整形。	935-005
16	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~3ミリの砂粒、小石	普通	—	—	阿玉台	口縁に半截竹管による押し引き文。	935-995
17	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1ミリ以下の砂粒	良	—	—	I群	口縁に交互列突列と隙線刻みが付けられる。	935-020
18	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/8	φ1~3ミリの小石	不良	—	—	勝坂	太さ7~8ミリの断面斜状の隙線で文様帯を区画する。区画内を幅4ミリの平行沈線と隙線が施文。	935-030

Ⅱ区935グリッド出土土器観察表

図録 No	種類・器種	部位	色調	記号	胎土	焼成 温度	胎文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考	
19	深鉢	胴縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1〜3ミリの砂粒、金雲母	普通		阿玉台	竹管による押し引きと刺突。	935-000	
20	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	細かい砂粒	普通	—	藤原	太さ5ミリの隆線による横位・斜位区画。それに沿うように幅8ミリの爪形の網み列。	935-975	
21	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/4	φ1〜3ミリの砂粒、金雲母	普通		阿玉台	隆線貼り付け後平行沈線。	935-000	
22	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/8	細かい砂粒、小石	良		藤原	横位の平行沈線。ヘラ先による刺突の刻み。	935-980	
23	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1〜2ミリの砂粒、軽石粒	普通		藤原	幅5ミリの隆帯、筋条帯。	935-995	
24	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1〜2ミリの砂粒	良	RL	I群	太さ4ミリの沈線による方形区画。	935-015	
25	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	LR	I群		935-020	
26	深鉢	胴部	橙	5YR6/8	φ1〜2ミリの砂粒、軽石粒、石英	普通	R	藤原	擦糸。	935-985	
27	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒、軽石粒	良	—	Ⅱ群1類	太さ6ミリの隆線による渦巻状文とそれに沿うヘラ状工具による渦巻状沈線。横位の沈線。	935-010	
28	深鉢	口縁	灰オリーブ	5Y8/2	φ1〜3ミリの小石	普通	—	Ⅱ群	太さ15ミリの沈線による横位区画。	935-970	
29	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1〜2ミリの砂粒、雲母	普通		Ⅱ群1類	太さ5ミリの沈線、突起を持つ。	935-995	
30	両耳壺	口縁	淡黄	2.5Y8/3	φ1〜2ミリの砂粒、軽石粒	やや不良	LR RL	Ⅱ群2類	口縁部に浮線を描き、突起がつく。羽状刺突。	935-995	
31	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	Ⅱ群	幅12ミリの隆帯による区画。	935-000	
32	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1〜2ミリの砂粒	普通	LR	Ⅱ群	口縁に浮線を描く。	935-995	
33	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	Ⅱ群	口縁部幅7ミリの隆帯による横位の突起。	935-010	
34	深鉢	口縁	灰白	7.5YR8/2	細かい砂粒	普通	LR	Ⅱ群	口縁に太さ3ミリの沈線を描く。	935-995	
35	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	Ⅱ群	口縁部波状を呈し、太さ6ミリの沈線による区画を施す。	935-975	
36	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒、白色粒	良	—	Ⅱ群	口縁部に太さ6ミリの沈線が寄り、短文帯と区画する。	935-990	
37	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒	普通	RL	Ⅱ群	口縁に太さ8ミリの沈線による区画。	935-000	
38	深鉢	口縁	浅黄橙	7.5YR8/3	φ1〜3ミリの小石	普通	RL	Ⅱ群	口縁に太さ9ミリの沈線を描く。太さ10ミリの隆線による区画。	935-995	
39	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒、軽石粒	普通		加曾利E	口縁部無文。横ナデ。胴部太さ6ミリの沈線による横位区画。	935-980	
40	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	加曾利E	口縁部無文帯。横位の彫形。	935-010	
41	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1ミリの砂粒	普通	—	加曾利E	太さ5ミリの沈線による横位区画。14ミリの隆線による斜位の区画。	935-975	
42	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/5	φ1〜3ミリの砂粒、軽石粒	普通		加曾利E	太さ10ミリの沈線。	935-995	
43	深鉢	把手	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	Ⅱ群	加曾利E	把手、上面はナデ。	935-995
44	深鉢	胴部	暗赤灰	2.5YR3/1	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	Ⅱ群	加曾利E	太さ7ミリの沈線区画。染痕。	935-995
45	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1ミリの砂粒、金雲母	良	LR	Ⅱ群	加曾利E	口縁部波状。口縁に沿って2条の沈線を描く。	935-975
46	両耳壺	把手	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1〜2ミリの砂粒	良	—	加曾利E		935-975	
47	深鉢	口縁	にぶい黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	普通	RL	Ⅱ群	加曾利E	隆線による筋目区画。	935-990
48	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	RL	Ⅱ群	加曾利E	口縁に太さ9ミリの沈線を描く。太さ4ミリの沈線による区画、羽状刺突。	935-995
49	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1〜2ミリの小石	普通	LR	Ⅱ群1類	太さ10ミリの沈線が口縁部に沿って、口縁部には曲線文様を描く。	935-005	

第4章 出土遺物

日区935グリッド出土土器観察表

図版No	種別・器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置
50	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/4	φ1~2ミリの白色粒	不良	RL	縦	V群	太さ7ミリの浅い沈線が縦線を描く。	935-030
51	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR8/4	細かい白色粒多い	普通	RL	縦	V群	太さ7~8ミリの隆線による文様。	935-005
52	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/4	細かい砂粒、雲母	普通	LR	縦	V群	太さ6ミリの沈線。	935-995
53	深鉢	口縁	灰黄褐色	10YR5/2	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	良	RL	縦	V群	口縁部環状突起。口縁部ペン先状工具による刺突。	935-985
54	深鉢	口縁	浅黄褐色	10YR8/3	細かい砂粒、雲母	良	RL	横	V群	口縁部に突起を持ち、ペン先状の刺突。太さ5ミリの沈線。	935-995
55	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	横	V群	口縁にφ4ミリの竹管による刺突を回す。同竹管により沈線文。	935-000
56	深鉢	口縁	黒灰	5YR4/1	細かい砂粒	良	RL	横	V群	口縁に太さ7ミリの沈線を回し、ヘラ状刺突。	935-995
57	深鉢	口縁	黒褐色	10YR3/1	細かい砂粒	良	RL	縦	V群	太さ8ミリの沈線で区画する。	935-995
58	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒、雲母	やや不良	LR	縦	V群	口縁に浮線を回す。	935-995
59	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR5/3	細かい砂粒	良	LR	横	V群	羽状横文。	935-000
60	深鉢	口縁	赤黒	10R2/1	φ1ミリの小石、白色粒	普通	LR	縦	V群	口縁幅3ミリの浮線。	935-995
61	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR6/4	φ1ミリの白色粒が多い	普通	RL	縦	V群	口縁部に前面三角形の隆線による無文帯との区画。	935-020
62	深鉢	口縁	黒褐色	10YR3/1	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	良	RL	横	V群	口縁に浮線を回す。	935-995
63	深鉢	口縁	淡黄	5YR8/3	細かい砂粒	良	LR	縦	V群	口縁に太さ5ミリの浮線を回す。	935-995
64	深鉢	口縁	灰	5Y4/1	細かい砂粒	良	LR	縦	V群	口縁に太さ3ミリの浮線。	935-995
65	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR6/4	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL	横	V群	太さ4ミリの強い隆線が口縁部に沿る。	935-030
66	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR4/3	細かい砂粒	普通	RL	横	V群	口縁部横位の浮線文、横ナデ。	935-985
67	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/4	φ1ミリの砂粒、角閃石	普通	RL	横	V群	太さ4ミリの隆起線による横位区画。	935-010
68	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	LR	横	V群	口縁部太さ3ミリの沈線。羽状横文。	935-000
69	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒多い	不良	LR	縦	V群	太さ10ミリの沈線が通る。	935-005
70	深鉢	口縁	にぶい赤褐色	5YR5/4	細かい砂粒	良	RL	横	V群	口縁部沈線を通らす。	935-000
71	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR6/3	細かい砂粒	良	LR	横	V群	口縁部へラ状工具による沈線を回す。羽状横文。	935-000
72	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	普通	RL	横	V群	縄文原体0段多糸。太さ3ミリの隆起線による帯門区画。	935-010
73	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの小石	やや不良	—	—	加曽利E	口縁部無文帯。横位の整形。	935-010
74	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	φ1~3ミリの小石	普通	RL	—	加曽利E	太さ5ミリの沈線2条で縦位の無文帯区画。	935-005
75	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ5ミリの沈線区画(無垂文)。	935-995
76	深鉢	胴部	橙	5YR6/8	φ1~2ミリの砂粒、小石	良	RL	縦	加曽利E	太さ4ミリの浮線と幅5ミリの竹管による沈線の縦位区画。	935-980
77	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ7ミリの沈線による縦位区画とヘラナデ。	935-985
78	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曽利E	太さ3ミリの沈線。	935-995
79	深鉢	胴部	橙	5YR7/6	φ1~3ミリの砂粒、小石	普通	RL	縦	加曽利E	太さ10ミリの沈線。	935-995
80	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR6/3	φ1ミリの白色粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ6ミリの沈線2条で縦位の無文帯区画を作る。	935-005
81	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	φ1ミリの砂粒	普通	LR	横	加曽利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	935-010
82	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画(無垂文)。	935-000
83	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曽利E	太さ3ミリの隆線による縦位区画。	935-985

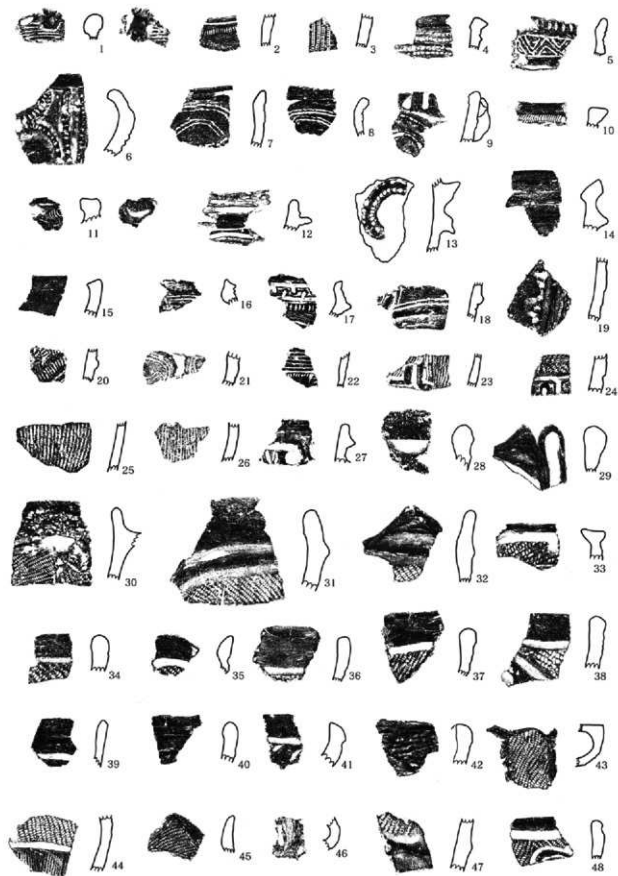
II区935グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 調査
84	深鉢	胴部	褐灰	7.5YR5/1	φ1~5ミリの小石、白色粒	良	LR	縦	加曾利E	太き沈線が横位に施文される。	935-990
85	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E	太き5ミリの浮線区画。	935-995
86	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E	太き7ミリの沈線による縦位区画。	935-000
87	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通	R		加曾利E	太き2ミリの縦位の浮線文。縦位のヘラナダ。黒点。	935-985
88	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1~3ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	太き5ミリの浮線区画。	935-995
89	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	縦	加曾利E	太き8ミリの沈線による縦位区画。	935-980
90	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい白色粒	普通	RL		加曾利E	太き6ミリの沈線を縦位に施文。	935-005
91	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	太き7ミリの沈線(垂文)。	935-995
92	深鉢	胴部	明褐灰	7.5YR7/2	φ1ミリの白色粒	不良	RL		加曾利E	太き3ミリの浮線による縦位区画。	935-990
93	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太き7ミリの沈線による縦位区画。	935-985
94	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	太き3ミリの沈線区画。付加沈線。	935-995
95	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/8	φ1~3ミリの砂粒、小石	良	RL	縦	V群	縦位のヘラナダ。竹筥による沈線区画。	935-980
96	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	V群	太き3ミリの沈線による区画。	935-000
97	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	V群	太き3ミリの沈線で区画。	935-995
98	深鉢	胴部	浅黄橙	2.5YR8/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	V群	ペン先状工具による縦沈線。	935-995
99	深鉢	胴部	暗灰黄	2.5Y5/2	φ1ミリの白色粒	普通	RL		V群		935-005
100	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR8/4	φ1ミリの小石	良	LR		加曾利E	太き6ミリの浅い沈線による縦位の区画。	935-035
101	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	良	—		加曾利E	縦位の整形。	935-005
102	深鉢	胴部	灰白	7.5YR8/2	細かい砂粒	良	LR	縦	加曾利E	太き2ミリの沈線で区画。	935-995
103	深鉢	胴部	黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	良	—		加曾利E	ヘラナダ。	935-985
104	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの白色粒	不良	RL		加曾利E	太き3ミリの沈線による縦位区画。	935-015
105	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦斜	加曾利E	太き3ミリの沈線による縦位区画。	935-000
106	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	細かい白色粒	良	RL		加曾利E	太き4ミリの沈線による文様区画。	935-990
107	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太き5ミリの沈線(垂文)。	935-995
108	深鉢	胴部	灰白	10YR8/1	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	V群	太き9ミリの沈線区画。	935-995
109	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの小石	良	RL		加曾利E	太き3ミリの浅い沈線による文様区画。区画内は磨り消し調文。	935-035
110	深鉢	胴部	明褐灰	7.5YR7/2	細かい砂粒	良	RLR		加曾利E	太き6ミリの沈線による縦位区画。縄文原形消や段合磨り。	935-990
111	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通	RL	横	V群	太き2ミリの沈線で区画。	935-995
112	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR6/4	細かい砂粒	良	RL	縦横	V群	太き3ミリの沈線区画。	935-000
113	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR6/3	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	良	RL	横	V群	太き2ミリの沈線による区画。	935-995
114	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	良			V群	太き2ミリの沈線。	935-000
115	深鉢	胴部	淡橙	5YR8/4	細かい砂粒	普通			V群	太き5ミリの沈線で区画。	935-995
116	深鉢	胴部	灰褐	7.5YR5/2	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	横	V群	太き8ミリの隆起線による縦位区画と太き5ミリの隆起線による横位区画。	935-010
117	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの砂粒、小石	やや不良	RL	縦	V群2層D	口縁部剥突。太き5ミリの沈線による横位区画。	935-980
118	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	やや不良	LR	横	V群	浮線による区画。	935-995
119	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	普通	—		加曾利E	太き3ミリの隆起線による弧線状区画。	935-010
120	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	白色粒多い	不良	LR		加曾利E	隆起による「Y」字状の文様。	935-990
121	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1~2ミリの白色粒	普通	LR		加曾利E	太き1ミリの沈線による扇葉形の区画。	935-015
122	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒、軽石粒	良			加曾利E	太き3ミリの沈線による縦位・斜位の区画。	935-985
123	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1~2ミリの砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太き4ミリの沈線による縦位区画。	935-985
124	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR6/3	細かい砂粒	不良	RL		加曾利E	太き6ミリの隆起による文様施文。	935-990

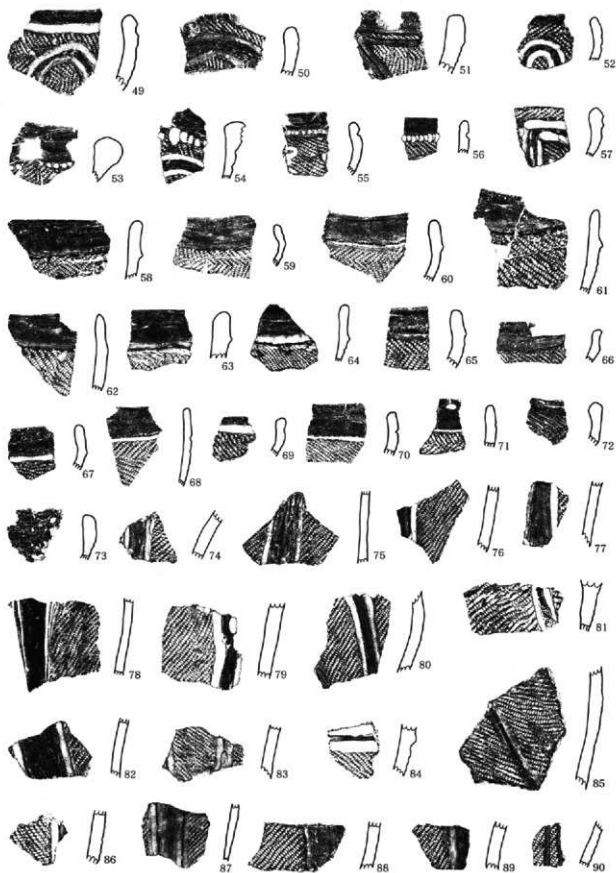
第4章 出土遺物

Ⅱ区935グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
125	浅鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1~2ミリの小石多い	良	—	—	I群	扉面部上部に太き3ミリの沈線が波状に施文される。	935-005
126	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	良	LR	横	加曾利E	太き6ミリの浮線。羽状施文。	935-995
127	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、角閃石	普通	RL	横	VI群	太き3ミリの隆起線による横位区画。	935-975
128	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利E	太き5ミリの沈線による横位区画。棒状工具によりφ6ミリの刺突列。	935-010
129	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒、小石	普通	RL	縦	加曾利E	太き10ミリの沈線による区画。縦方向のナデ。	935-995
130	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの砂粒	普通	LR	横斜	加曾利E	太き5ミリの沈線による区画。	935-010
131	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石、黒色粒	良	RL	—	称名寺	口縁部に太き6ミリの低い隆線が逆り無文帯を作る。胴部は太き2ミリの沈線で曲線を描き「J」字文。無文帯は、磨り消し施文。	935-005
132	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	—	—	称名寺	口縁部嘴状の突起。外面ペン先状工具による2列ずつの刺突列。	935-010
133	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの砂粒	良	LR	—	称名寺	太き3ミリの沈線による文様区画。	935-015
134	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	普通	—	—	堀之内	太き3ミリの浮線による横位区画。	935-000
135	深鉢	胴部	灰褐	5YR6/2	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	RL	—	加曾利E		935-990
136	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	LR	縦	加曾利E		935-995
142	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	加曾利E	縄文を帯状に施文。	935-005
138	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E		935-995
139	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通	LR	縦横	加曾利E		935-980
140	深鉢	胴部	黒褐	10YR3/1	細かい砂粒	普通	LR	縦斜	加曾利E		935-985
141	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~2ミリの小石	不良	LR	—	加曾利E	太き15ミリの沈線が横位に巡る。	935-990
142	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	φ1ミリの白色粒	普通	RL	—	加曾利E		935-990
143	深鉢	胴部	黒褐	10YR3/2	細かい砂粒多い	良	LR	—	加曾利E	縄文を帯状に施文。	935-990
144	両耳壺	把手	灰黄	2.5Y6/2	細かい砂粒	普通	RL	—	加曾利E		935-000
145	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	普通	RL	縦横	後期	太き3ミリの沈線による区画。	935-995
146	深鉢	胴部	黄褐	10YR5/6	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	LR	横	加曾利E		935-975
147	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/4	φ1~3ミリの小石多い	良	RL	—	加曾利E		935-035
148	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	良	—	—	加曾利E		935-045
149	深鉢	胴部	灰褐	5YR4/2	φ1~2ミリの白色粒	普通	—	—	加曾利E	細かい条線が縦位に施文される。	935-990
150	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	条線。	935-045
151	深鉢	胴部	明黄褐	10YR7/6	細かい砂粒	普通	LR	—	加曾利E	擦糸。	935-975
152	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1~2ミリの砂粒	普通	—	—	加曾利E	条直文。	935-000
153	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利E	太き3ミリの隆起線による縦位区画。	935-045
154	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1ミリの砂粒	普通	—	—	加曾利E	無文。	935-010
155	深鉢	底部	橙	7.5YR7/8	φ1~2ミリの砂粒	普通	—	—	加曾利E	外面縦位の整形。	935-030
156	深鉢	胴部~底部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの白色粒	普通	—	—	加曾利E	縦位方向の整形。	935-020
157	深鉢	底部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E		935-985
158	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/3	白色粒	良	—	—	加曾利E	無文。縦位の整形。	935-990
159	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	白色粒多い	不良	—	—	加曾利E		935-990
160	深鉢	胴部~底部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	縦位方向の整形。	935-020
161	深鉢	底部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	普通	—	—	中京後半		935-995
162	深鉢	胴部~底部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~2ミリの砂粒、小石	普通	—	—	加曾利E	へうによる横位、縦位のミガキ。	935-980
163	深鉢	胴部~底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石	不良	—	—	加曾利E	外面縦位の整形。	935-030
164	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの砂粒、小石	やや不良	—	—	加曾利E		935-000

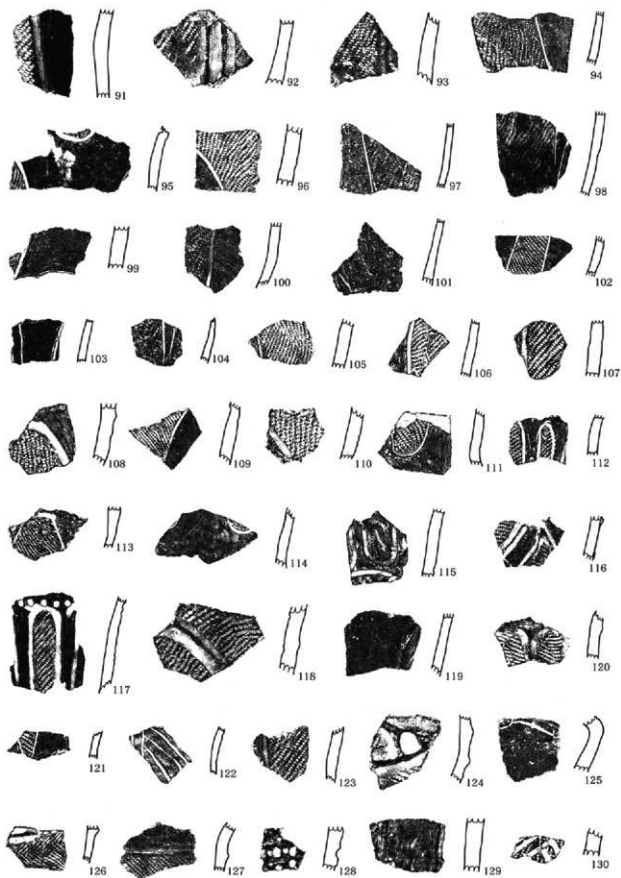


第172図 935グリッド出土土器 (1)



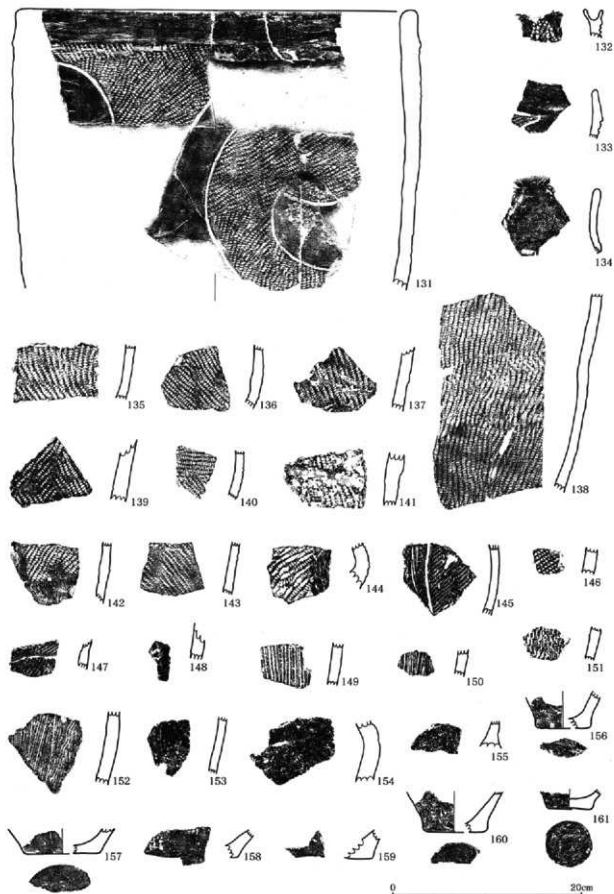
第173図 935グリッド出土土器(2)

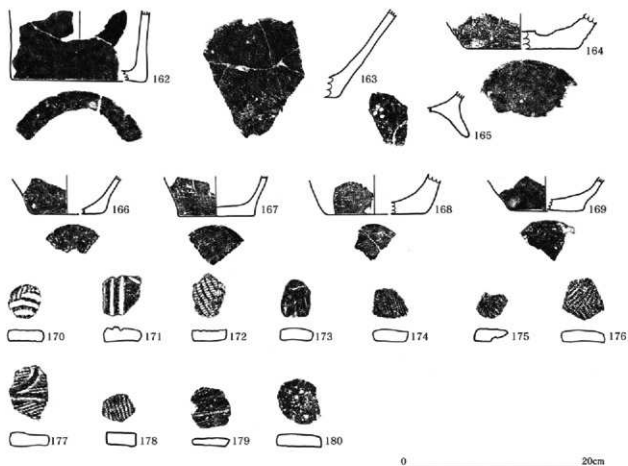
0 20cm



第174図 935グリッド出土土器 (3)

0 20cm





第176図 935グリッド出土土器 (5)

II区935グリッド出土土器観察表

図版 No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 彫体	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
165	深鉢	底部	浅黄橙	10YR8/3	細か～砂粒	普通				高台になる。	935-995
166	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/2	細か～砂粒	普通			中期後半		935-995
167	深鉢	底部	にぶい黄褐	10YR5/3	細か～砂粒	良	—		加曾利E		935-990
168	深鉢	底部	橙	5YR6/6	φ1～2ミリの砂粒	普通			加曾利E	底部ヘラナデ。	935-985
169	深鉢	底部	にぶい橙	5YR7/3	細か～砂粒	普通			中期後半	底面ナデ。	935-995
170	土製内盤		明赤褐	5YR5/6	細か～砂粒	良	RL			外縁を長く磨いて成形している。	935-025
171	土製内盤		明赤褐	5YR5/8	φ1～2ミリの砂粒	普通			磨版	太さ5ミリの浮線。沈線区画。	935-995
172	土製内盤		にぶい黄	2.5Y6/3	φ1ミリの白色粒	普通	LR		加曾利E	縁辺を打ち欠いて成形。	935-005
173	土製内盤		灰白	7.5YR8/2	細か～砂粒	普通				磨版が激しく不明。沈線か。	935-995
174	土製内盤		灰褐	5YR6/2	細か～砂粒	普通				急稜文。	935-995
175	土製内盤		にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～3ミリの砂粒	不良			中期	磨版が激しく不明。	935-000
176	土製内盤		浅黄橙	7.5YR8/3	細か～砂粒	普通	LR RL	横	加曾利E	羽状織文。	935-995
177	土製内盤		浅黄橙	10YR8/4	φ1～2ミリの砂粒。軽石粒	普通			磨版	幅4ミリの隆帯による区画。筋条帯。	935-995
178	土製内盤		にぶい黄	2.5Y6/3	細か～砂粒	普通	RL		中期		935-000
179	土製内盤		浅黄橙	10YR8/4	φ1～2ミリの砂粒	良	—		加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	935-010
180	土製内盤		にぶい黄橙	10YR7/4	細か～砂粒	普通	—			外縁を打ち欠き成形している。	935-025

第4章 出土遺物

日区940グリッド出土土器観察表

図版 No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
1	深鉢	突起	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	普通	—	—	勝坂	大波状口縁の把手部。波頂部から隆縁が垂下する。隆縁と口縁に沿って竹管による刺突列。	940-010
2	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	—	—	勝坂	太さ5ミリの隆縁による三角状区画とそれに沿う半横竹管による結節状線。区画内を竹管による刺突。	940-015
3	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	不良	—	—	阿玉台	押し引きの爪形文で渦巻文。	940-985
4	深鉢	突起	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1~2ミリの砂粒、金雲母	普通	—	—	阿玉台	ヘラ状工具による刻み。竹管による刺突。ペン先状工具による刺突。	940-990
5	深鉢	口縁	橙	5YR6/8	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒、金雲母	普通	—	—	阿玉台	太さ8ミリの沈線による横位区画。爪形文により太さ2ミリの沈線を横位に施文。	940-990
6	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの小石	不良	—	—	勝坂	太さ10ミリの隆縁を弧状に貼り付ける。	940-005
7	深鉢	口縁	暗褐	10YR3/4	φ1ミリの砂粒、金雲母	良	—	—	阿玉台	口縁部短文。口縁部内側に幅14ミリの折り返し。	940-025
8	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	—	—	勝坂	隆縁で弧を描くが密着している。	940-015
9	深鉢	口縁	褐灰	7.5YR4/1	φ1~3ミリの砂粒、小石	良	—	—	勝坂	幅10ミリの隆帯による横位施文。ヘラ状工具による刺突列。	940-980
10	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1~3ミリの金雲母	良	—	—	阿玉台	隆帯に刻み。	940-000
11	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—	—	勝坂	幅10ミリの爪形文による横位の刻み列。太さ2ミリの沈線による縦位区画。	940-970
12	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1~3ミリの小石	良	—	—	勝坂	太さ6ミリの隆縁による三角状区画とその上面に刻み列が入る。	940-975
13	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの砂粒	普通	—	—	勝坂	太さ10ミリの隆縁による縦位区画。その上面に刻み列その下部にも同様の隆縁による区画。	940-025
14	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの砂粒	普通	—	—	勝坂	ヘラ状工具による刻み列。	940-970
15	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/8	φ1ミリ白色小石	不良	—	—	阿玉台	隆縁と押し引きの沈線文。	940-985
16	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	砂粒多い	良	—	—	勝坂	横位の連続爪形列。	940-985
17	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	細かい砂粒	良	—	—	勝坂	連続する爪形列とペン先状刺突列。	940-995
18	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/8	φ1ミリの小石	普通	RL	横	加曾利E	太さ3ミリの沈線による区画。	940-975
19	深鉢	口縁	にぶい橙	5YR6/4	細かい砂粒	良	—	—	I群	太さ8ミリの隆縁による文様区画。	940-995
20	深鉢	口縁	暗赤褐	5YR3/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	良	RL	横	I群	口縁は大きく外反。幅2~3ミリの隆帯による区画。	940-990
21	深鉢	突起	橙	5YR6/6	φ1ミリ前後の金雲母	普通	—	—	勝坂		940-985
22	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	良	—	—	勝坂	口縁部は内斜する。口縁上面、内面は指ナシ。	940-990
23	深鉢	口縁	褐灰	10YR5/1	φ1~2ミリの小石	普通	—	—	加曾利E	無文。	940-995
24	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/1	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	—	—	勝坂	ヘラナデ。	940-980
25	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~3ミリの砂粒	普通	—	—	加曾利E	口縁を隆縁で帯門区画する。	940-000
26	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	—	—	加曾利E	太さ3ミリの沈線により縦位区画され、横位の沈線が充填される。	940-985
27	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい黒色粒	良	—	—	勝坂	太さ8ミリの隆縁で文様区画し、太さ4ミリの沈線が充填される。	940-985
28	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	不良	—	—	加曾利E	幅15ミリの隆帯と沈線。	940-980
29	深鉢	胴部	暗褐	7.5YR3/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	—	—	勝坂	太さ5ミリの沈線による渦巻状放射状文様。	940-030
30	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒	良	—	—	加曾利E	太さ14ミリの隆帯で無文。	940-985
31	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石	良	—	—	勝坂	太さ4ミリの沈線による横位・斜位の区画。	940-970
32	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	—	—	勝坂	幅6ミリで4本の棒状工具で波状文を描く。	940-010
33	深鉢	胴部	暗褐	7.5YR3/4	φ1~3ミリの小石	良	RL	斜	加曾利E	隆・沈線を波状に施文。	940-000

Ⅱ区940グリッド出土土器観察表

図版 No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	胎文 原形	胎文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
34	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	φ1~2ミリの黒色粒	不良	—	—	加曽利E	太い沈線による横位区画と横円区画文様。	940-020
35	深鉢	口縁	浅黄褐色	10YR8/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	横	加曽利E	口縁部太き15ミリの沈線による横位区画。	940-990
36	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/3	φ1~2ミリの小石、金雲母	普通	RL	横	加曽利E	隆帯の沈線による口縁部の区画。	940-995
37	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	横	加曽利E	太き10ミリの隆線による区画。	940-025
38	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/3	φ1ミリ以下の小石	普通	不明	不明	加曽利E	太き10ミリの沈線で口縁部に横円の区画を作る。	940-996
39	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	加曽利E	太き10ミリの隆線とそれに沿う太き8ミリの沈線による横円区画。	940-975
40	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR8/4	細かい砂粒	良	RL	横	加曽利E	太き7ミリの沈線による横位区画。	940-975
41	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/2	細かい砂粒、角閃石	普通	—	—	加曽利E	口縁部に太き5ミリの隆線により胎文帯を区画。	940-025
42	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~5ミリの小石	良	LR	—	加曽利E	太い隆線と沈線で口縁部文様を区画する。	940-005
43	深鉢	口縁	灰黄褐色	10YR5/2	細かい砂粒、角閃石	普通	—	—	加曽利E	口縁部に太き5ミリの隆線により胎文帯を区画。	940-025
44	浅鉢	口縁	橙	2.5YR6/8	細かい砂粒	良	—	—	加曽利E	—	940-990
45	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒	不良	—	—	加曽利E	幅6ミリの櫛状工具による波状線。	940-985
46	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR5/3	細かい砂粒	普通	LR	横	加曽利E	隆線に横円形の区画。	940-000
47	深鉢	口縁	浅黄褐色	10YR8/4	φ1ミリの砂粒、白色の小石	普通	LR	横	加曽利E	隆線と太き5ミリの沈線が横位区画。	940-000
48	深鉢	口縁	灰黄褐色	10YR6/2	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太き15ミリの沈線が横位に走る。	940-985
49	深鉢	口縁 へ 胴部	にぶい黄褐色	10YR6/4	φ1ミリの砂粒	普通	LR	縦	加曽利E	太き8ミリの隆線と太き5ミリの沈線による横位区画。縦位の糸線が胴部に施される。	940-015
50	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	普通	LR	縦	Ⅵ群	断面三角形の太き5~8ミリの隆線が口縁部に走り胎文帯と区画。	940-010
51	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y6/2	細かい砂粒	良	RL	横	Ⅵ群	口縁部に微隆起線による横位の区画線。	940-000
52	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y8/4	φ1~3ミリの黄色粒多い	不良	RL	横	Ⅵ群	口縁部に微隆起線が走り、胎文帯と区画。	940-005
53	深鉢	口縁	黄灰	2.5Y8/1	細かい砂粒	普通	LR	横	Ⅵ群	口縁部に微隆起線による横位区画。	940-000
54	深鉢	口縁	浅黄褐色	10YR8/3	φ1ミリの小石	普通	LR	横	Ⅵ群	口縁に沿って隆線が横位の区画。	940-995
55	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	φ1ミリの砂粒	普通	RL	横	Ⅵ群	口縁部に微隆起線が横位の区画。	940-000
56	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR6/3	φ1ミリの小石多い	普通	LR	横	Ⅵ群	口縁部に微隆起線が横位に走る。	940-995
57	深鉢	口縁	暗灰黄	2.5Y5/2	φ1~3ミリの白色粒多い	良	LR	縦	Ⅵ群	太き2ミリの隆線が口縁部に走り胎文帯を区別する。	940-005
58	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒	普通	—	—	Ⅵ群	口縁部に太き7ミリの沈線が横位に走る。口縁を折り返している。	940-000
59	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	白色粒	良	—	—	Ⅵ群	太き5ミリの断面三角の隆線が口縁部に走り胎文帯と区画する。	940-005
60	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	横	Ⅵ群	口縁部無文帯。太き5ミリの隆起線による横位区画。	940-030
61	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリ以下の小石	普通	RL	縦	Ⅵ群	太き5ミリの沈線が口縁部に走る。	940-995
62	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの砂粒	普通	LR	横	Ⅵ群	口縁部に太き4ミリの横位区画。	940-000
63	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	φ1ミリの白色粒多い	良	RL	縦	Ⅵ群	太き3~4ミリの隆線が口縁部に走り胎文帯と区画する。胴部には、同じ沈線で文様を描く。	940-005
64	深鉢	口縁	橙	10YR4/4	細かい砂粒	普通	RL	—	Ⅵ群	口縁部上端に横方向の彫形。	940-020
65	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	Ⅵ群	太き7ミリの沈線による波状区画。	940-975
66	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/4	φ1ミリの砂粒	普通	RL	縦	Ⅵ群	太き6ミリの沈線による波状区画。	940-975

II区940グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 番
67	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横	V群	太さ4ミリの沈線、羽状縄文。	940-990
68	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	VI群	太さ3ミリの沈線による横位区画と横位の区画。	940-015
69	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	RL		VI群	太さ4ミリの沈線による弧状の文様。無文部は、磨り消し縄文。	940-005
70	深鉢	口縁	橙	2.5YR6/8	φ1ミリの砂粒	良	RL	横斜	VI群	口縁部無文帯横位のものが写影。太さ3ミリの隆起線による横位区画。	940-030
71	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	RL		VI群	太さ4ミリの沈線が口縁に沿って延る。口縁部には曲線の文様。	940-010
72	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y8/3	細かい砂粒、軽石粒	普通			VI群	ペン先状工具による2列の刺突列。太さ1ミリの横位2条の沈線。	940-015
73	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの砂粒	不良			VI群	太さ5ミリの沈線。	940-000
74	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1ミリの砂粒	普通	LR	横	VI群	液状口縁。太さ2ミリの沈線による区画。	940-030
75	両耳壺	把手	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの白色粒	普通	RL		VI群2期		940-020 横状把手
76	深鉢	口縁	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	不明		VI群	太さ3ミリの沈線による横位区画。	940-015
77	深鉢	胴部	黄灰	2.5Y6/1	細かい砂粒	良	LR		VI群	断面三角形の低い隆線による文様施文。	940-005
78	両耳壺	口縁~胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの小石	普通	LR	横	VI群1期	太さ5ミリの隆線による口縁部横位区画文様。胴部は赤線施文。	940-975
79	深鉢	胴部	黄橙	10YR8/6	細かい砂粒	普通	LR, RL	縦横	加曾利E	太さ5~7ミリの沈線区画。無文。0段多条。	940-990
80	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR4/3	細かい砂粒	普通	RL	横	加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	940-015
81	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	LR	横	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。半盛竹管による縦ノズ。	940-980
82	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y8/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	940-000
83	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	940-000
84	深鉢	胴部	黄褐	2.5Y5/3	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ7ミリの隆線による縦位区画。	940-030
85	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	940-980
86	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。へらによる縦磨り。	940-980
87	深鉢	胴部	暗灰黄	2.5Y5/2	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ10ミリの沈線と隆線による赤線。	940-000
88	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~3ミリの砂粒、石英、雲母	良	RL	縦	加曾利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画。	940-980
89	深鉢	胴部	褐灰	10YR4/1	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの浮線による縦位区画。0段多条。	940-980
90	深鉢	胴部	褐灰	7.5YR5/1	φ1ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E	太さ8ミリの隆線による縦位区画。	940-985
91	深鉢	胴部	黄灰	2.5Y4/1	φ1ミリの砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	940-000
92	深鉢	胴部	明黄褐	10YR7/6	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ8ミリの沈線による縦位区画。	940-980
93	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1~2ミリの白色粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ6ミリの沈線による縦位の区画。	940-985
94	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	III群2期	太さ14ミリの沈線。その間に太さ8ミリの浮線による縦位区画。	940-990
95	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	RL		VI群	太さ4ミリの沈線による文様を描く。	940-005
96	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E	隆線と沈線による横位区画。	940-000
97	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	VI群	太さ5ミリの沈線による「U」「n」状の文様。	940-015
98	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石	普通	RL	斜	加曾利E	太さ7ミリの沈線による縦位区画。	940-000
99	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1~3ミリの小石	良	LR	縦	加曾利E	断面三角形の隆線による文様施文。	940-005
100	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y8/3	細かい黒色粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画。	940-985
101	深鉢	胴部	浅黄	5Y8/3	φ1ミリの白色粒、砂粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	940-000

Ⅱ区940グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
102	深鉢	胴部	にぶい黒	7.5YR5/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通			Ⅱ群4類	縦位の平行沈線文。半軟竹管による太さ4ミリの沈線文。	940-980
103	深鉢	胴部	にぶい黒	7.5YR6/3	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	やや不良	RL	縦	加曾利E	太さ7ミリの沈線による縦位区画。半軟竹管による縦位のナデ。	940-980
104	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石	普通	LR	横	加曾利E	隆・沈線による帯門区画文様。	940-010
105	深鉢	胴部	にぶい黒	5YR6/4	φ1~3ミリの砂粒、軽石粒	良	LR	横	加曾利E	太さ6ミリの沈線による帯門区画。棒状工具による横位の刺突文。	940-980
106	深鉢	胴部	黒褐	2.5Y3/1	φ1~3ミリの小石	良	LR	縦	加曾利E	太さ4ミリの隆線が下下。隆線間は磨り消し縄文。	940-000
107	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通			加曾利E	太さ4ミリの縦位の沈線と縦位のナデ。	940-980
108	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ8ミリの浮線による縦位区画。	940-990
109	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの白色粒多い	良	RL	縦	加曾利E	太さ2ミリの沈線が2本対り縦位区画。区画間に太さ4ミリの波状沈線が垂下する。	940-995
110	深鉢	胴部	灰白	10YR2/8	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの浮線による縦位区画。	940-980
111	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	940-030
112	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの小石	良	RL	横	加曾利E	太さ1ミリの沈線が垂下する。	940-995
113	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒、角四石	普通	RL	横	加曾利E	太さ2ミリの隆起線による縦位区画。	940-030
114	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y3/7	細かい白色粒多い	不良	RL		加曾利E	太さ4ミリの沈線による文様区画。無文磨り消し縄文。	940-020
115	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	不良			加曾利E	太さ2ミリの沈線。	940-000
116	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	940-980
117	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの小石多い	普通	RL		加曾利E	太さ4ミリの沈線が縦位に面書き無文帯を作る。	940-020
118	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	940-990
119	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	黒色粒多い	普通	RL	縦	加曾利E	太さ6ミリの隆線による縦位区画。	940-000
120	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		加曾利E	太さ5ミリの隆起線による縦位区画。	940-025
121	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒	普通			加曾利E	太さ4ミリの沈線が文様を描く。	940-000
122	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	横	加曾利E	太さ11ミリの沈線による帯門区画。	940-980
123	深鉢	胴部	黒褐	2.5Y3/2	φ1ミリの白色粒	良	LR	縦	加曾利E	太さ5ミリの隆線による帯門文様。	940-000
124	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL		加曾利E	太い隆線2本で縦位の区画を作る。	940-020
125	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1~2ミリの砂粒	普通	RL	斜	加曾利E	太さ6ミリの隆線による帯門区画。	940-980
126	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	LR	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線が口縁文様帯を区画する。	940-000
127	深鉢	胴部	明黄褐	10YR6/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	縦8ミリの隆帯による縦位区画。太さ2ミリの浮線による縦位区画。	940-990
128	深鉢	胴部	暗褐	10YR3/3	φ1ミリの白色粒多い	良	RL	縦	加曾利E	太さ8ミリの沈線による縦位区画。	940-000
129	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL		加曾利E	断面三角形の太さ3ミリの隆線が曲線文様を作る。	940-010
130	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒多い	不良	RL		加曾利E	断面三角形の太さ3ミリの隆線が曲線文様を作る。	940-010
131	深鉢	胴部	橙	5YR6/8	φ1~3ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの隆線による縦位区画。	940-000
132	深鉢	胴部	にぶい黒	7.5YR5/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ12ミリの隆線と沈線による縦位の区画。区内に褐色の沈線文。	940-985
133	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y8/3	φ1ミリの砂粒	不良	LR	横	加曾利E	太さ4ミリの隆線が孤線を描く。	940-985
134	深鉢	胴部	黄橙	10YR8/6	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの浮線文による帯門区画。	940-980
135	深鉢	胴部	暗オリーブ灰	5GY4/1	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL		加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位の区画。	940-010
136	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの黒色粒	普通	LR	斜	Ⅱ群	太さ4ミリの隆線と沈線が帯門の区画。	940-995

第4章 出土遺物

日区940グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文	筋文	分類	文様の特徴	出土位置
137	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黄色粒	不良	LR		M群	太さ3ミリの沈線による「U」「F」状の文様。	940-005
138	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石	良	LR	横	M群	太さ5ミリの沈線の櫛門区画文様。	940-975
139	深鉢	胴部	にぶい黄	2.5Y6/3	細かい黒色粒	普通	RL	縦	M群	太さ2~3ミリの沈線による文様区画。無文部は磨り消し縄文。	940-005
140	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石	普通	RL		M群	太さ2~3ミリの沈線による弧状の文様区画。無文部は磨り消し縄文。	940-005
141	深鉢	胴部	黄灰	7.5YR5/1	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	縦	M群	太さ4ミリの浮線文による櫛門区画。	940-980
142	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	やや不良	RL	斜	M群	太さ4ミリの沈線による櫛門区画。	940-000
143	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/4	φ1~2ミリの小石	不良	RL		M群	太さ2ミリの沈線による文様区画。	940-005
144	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	やや不良	RL	縦	M群	太さ4ミリの沈線による長櫛門区画。	940-000
145	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	不良	LR	横	M群	太さ7ミリの沈線による櫛門区画。	940-010
146	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通			M群	太さ2ミリの沈線による縦位区画、菱形区画。	940-980
147	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横	M群	太さ3ミリの沈線による櫛門区画。	940-015
148	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい白色粒	良	RL		M群	太さ2ミリの沈線による櫛門区画。無文部磨り消し縄文。	940-010
149	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	良	RL	縦	M群	太さ2ミリの沈線による櫛門区画。	940-980
150	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	LR		M群	太さ1ミリの沈線で文様を区画する。無文部は、縦位方向の整形による磨り消し縄文。	940-010
151	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒、軽石粒	やや不良	LR	縦	M群	太さ5ミリの浮線文による縦位区画。	940-980
152	深鉢	胴部	黄灰	2.5Y4/1	φ1ミリの白色粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位の区画。	940-985
153	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR4/7	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E		940-030
154	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E		940-980
155	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	LR	横	加曾利E		940-000
156	深鉢	胴部	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E		940-995
157	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	LR	斜	加曾利E		940-030
158	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの小石	普通	RL	斜	加曾利E		940-995
159	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	砂粒、雲母	普通	LR		加曾利E		940-020
160	深鉢	胴部	黄橙	7.5YR8/8	φ1~2ミリの砂粒、小石	普通	LR	縦	加曾利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画。	940-990
161	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	940-990
162	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/3	繊維含む	普通	RL	横	加曾利E		940-995
163	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	φ1ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E		940-995
164	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E		940-985
165	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	RL	縦	加曾利E		940-985
166	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E		940-980
167	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~3ミリの小石	普通	RL	斜	加曾利E	縄文を斜めに施す。	940-000
168	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E		940-990
169	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E		940-995
170	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1~2ミリの白色粒	不良	RL	縦	加曾利E	太さ7ミリの機織2条で横位施文。	940-985
171	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒多い	不良	RL		加曾利E		940-020
172	深鉢	胴部	黒褐	2.5Y3/1	φ1ミリの白色粒	良	LR	縦	加曾利E		940-000
173	陶耳壺	把手	灰黄	2.5Y6/2	白色粒多い	良	LR	縦	加曾利E	槽状把手	940-005
174	深鉢	胴部	明黄灰	7.5YR7/2	φ1ミリの小石	普通	RL	横	加曾利E	太さ6ミリの沈線による櫛門区画。	940-985
175	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの砂粒、小石	やや不良			加曾利E	平截竹貫による平行沈線。	940-980

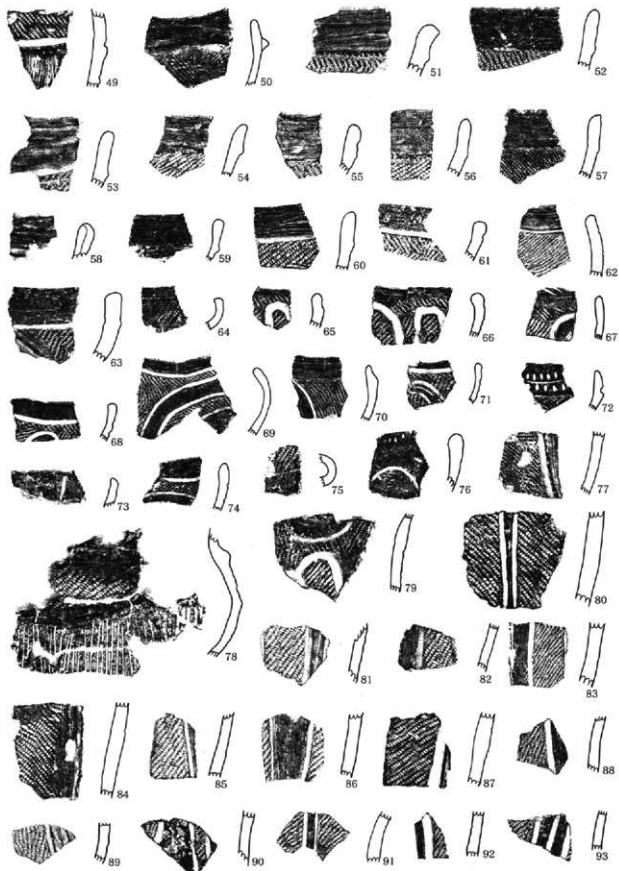
Ⅱ区940グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 調査
176	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/3	細かい砂粒	普通	R		加曾利E	無文。	940-015
177	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの砂粒、 礫石粒	普通	R		加曾利E	無文。	940-980
178	深鉢	胴部	黒褐	7.5YR3/2	細かい砂粒、 礫石粒	普通			加曾利E	条痕文。	940-980
179	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良			加曾利E	条痕文。	940-990
180	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒、 礫石粒	普通			加曾利E	条痕文。	940-980
181	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1~2ミリの小石、 白色粒	普通			加曾利E	幅12ミリの櫛状の工具で波状沈線 を垂下させる。	940-995
182	深鉢	胴部	にぶい黄	2.5Y6/4	φ1~3ミリの小石	良			加曾利E	幅12~13ミリの櫛状工具による条線。	940-005
183	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通			加曾利E	櫛状工具による条線。	940-975
184	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒	良			加曾利E	条痕文。	940-980
185	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	普通			加曾利E	5本単位の櫛状工具による縦位の 波状条文。	940-025
186	深鉢	口縁	暗灰黄	2.5Y4/2	φ1~3ミリの小石	良	LR		加曾利E	称名寺 小波状口縁頂部に突起を持ち、こ こを基点として沈線による文様が 施文される。	940-020
187	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒、 礫石粒	良			後期	太32ミリの櫛脚文。半截竹管による 結節沈線。無文。	940-980
188	深鉢	底部	黄黄橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	不良			加曾利E	外面横位の彫形。無文。	940-020
189	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの小石	普通			加曾利E	無文。	940-995
190	深鉢	胴部~ 底部	浅黄橙	7.5YR8/3	φ1~2ミリの砂粒、 礫石粒	やや 不良			加曾利E		940-980
191	深鉢	底部	浅黄	2.5Y7/3	φ1~2ミリの白 色粒	普通			加曾利E	外面横位のミガキ整形。	940-020
192	深鉢	胴部~ 底部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~2ミリの白 色粒	普通			加曾利E	外面横位のミガキ整形。	940-020
193	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの白色 粒、砂粒	良			加曾利E	無文。	940-000
194	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小 石多い、雲母	不良			加曾利E		940-005
195	深鉢	底部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~2ミリの砂粒、 礫石粒	普通			加曾利E		940-980
196	深鉢	底部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通			加曾利E	無文。	940-000
197	深鉢	底部	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~2ミリの砂粒、 礫石粒	良			加曾利E		940-990
198	深鉢	底部	浅黄	2.5Y8/3	φ1~2ミリの砂粒	普通			加曾利E		940-015
199	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石	良			加曾利E	底面がやや丸みを帯びる。外面は、 縦位のミガキ整形。	940-010
200	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1~3ミリの小石	普通			加曾利E	外面ミガキ整形。	940-015
201	深鉢	胴部~ 底部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通			加曾利E	外面は縦位のミガキ整形。	940-010
202	深鉢	底部	灰白	10Y7/1	φ1ミリの白色 粒、礫石粒	不良				無文。	940-000
203	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	普通				無文。	940-995
204	碗	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通				口縁近くにはφ3ミリの孔が2つ開 けられる。土製品。	940-010
205	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	不良				無文。	940-995
206	土製円盤		明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの白 色粒	良	RL	縦			940-985
207	土製円盤		赤褐	5YR4/6	細かい砂粒、 雲母	普通					940-975
208	土製円盤		にぶい橙	5YR6/4	φ1~2ミリの白 色粒	普通				無文。	940-995
209	土製円盤		黄橙	7.5YR7/8	細かい砂粒	普通			加曾利E	縄文施文。厚減多く不明。	940-000



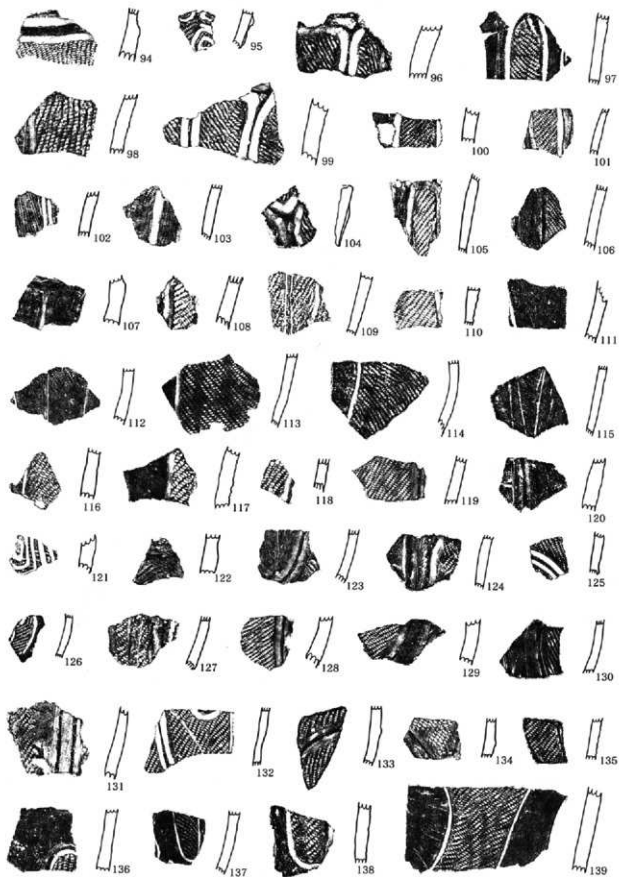
第177図 940グリッド出土土器(1)

0 20cm



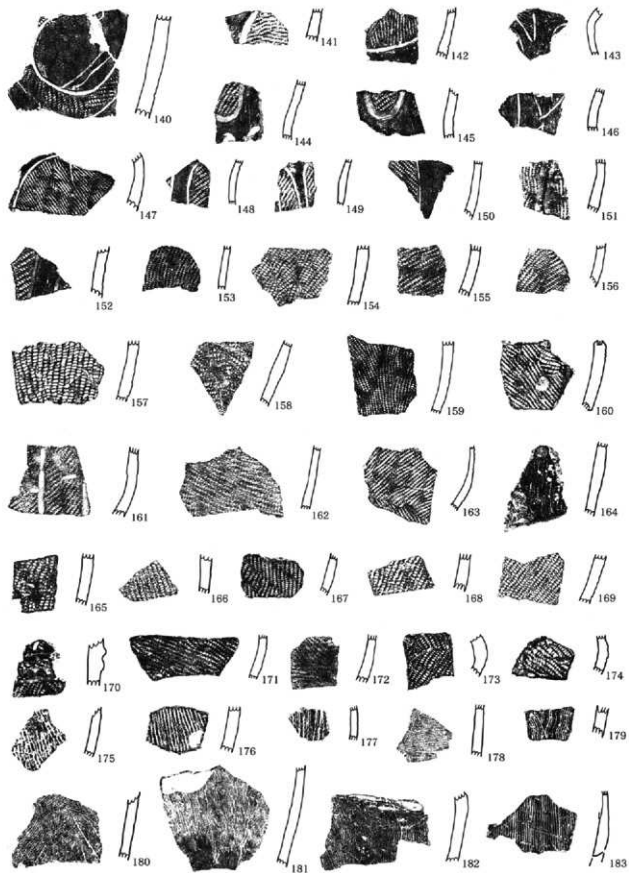
第178図 940グリッド出土土器(2)

0 20cm



第179図 940グリッド出土土器 (3)

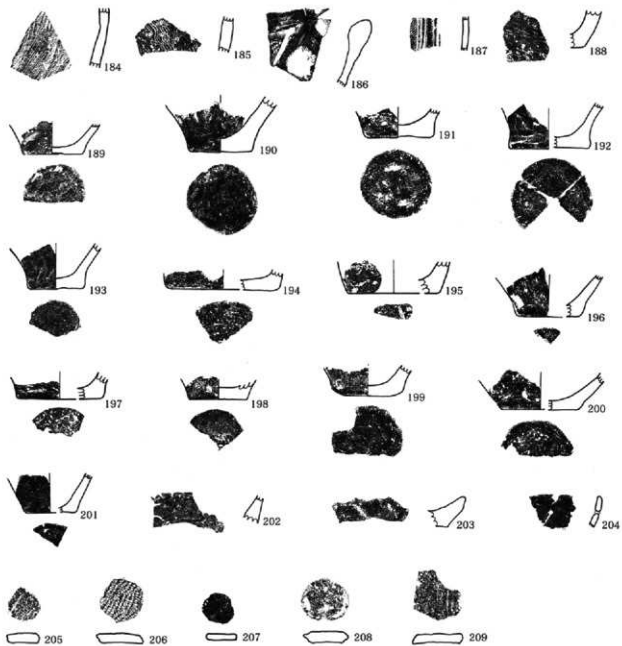
0 20cm



第180図 940グリッド出土土器 (4)



第4章 出土遺物



0 20cm

第181図 940グリッド出土土器(5)

Ⅱ区945グリッド出土土器観察表

図版 No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	構成 地文 彫文	彫文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考	
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通		Ⅰ群	隆帯による櫛門区画、竹管による 結線沈線。	945-985	
2	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	不良		阿玉台	2本対して交互割突。	945-990	
3	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの小 石	普通	RL	Ⅰ群	太さ20ミリの隆線が横位に施文さ れる。	945-020	
4	深鉢	胴部	にぶい黄	7.5YR5/4	φ1~2ミリの黄 色粒	良	—	Ⅰ群	幅7ミリの平行沈線による隆線に 加え、文様区画内には太さ1ミリの 沈線が斜めに引かれる。	945-975	
5	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの砂 粒	普通	LR	Ⅰ群	太さ5~8ミリの隆線で渦巻状の文 様を描く。黒糸。	945-975	
6	深鉢	胴部	暗赤褐	2.5YR2/2	φ1~3ミリの砂 粒、軽石粒	良		Ⅰ群	太さ3ミリの沈線区画、爪形文。	945-985	
7	深鉢	胴部	にぶい黄	7.5YR5/4	φ1~2ミリの砂 粒、小石	普通		Ⅰ群		945-985	
8	深鉢	胴部	赤褐	10R4/4	φ1~2ミリの砂 粒、小石	良		Ⅰ群	太さ2ミリの沈線区画、厚さ10ミ リの突起、爪形文と矢羽状の刺突。	945-985	
9	深鉢	口縁～ 胴部	にぶい橙	5YR6/4	φ1~3ミリの小 石	良	—	Ⅰ群	胴部に太さ5~8ミリの隆線と幅6 ミリの平行沈線が横位に施文され、 文様帯を区画する。	945-970	
10	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR5/3	φ1~2ミリの白 色粒	良	—	加曾利E	太さ5~6ミリの隆線で文様を描く。	945-015	
11	深鉢	口縁	にぶい黄	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小 石、金雲母	普通		阿玉台	無文。	945-990	
12	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの白 色粒、小石	良		Ⅰ群	口縁と胴部に区画する太さ4ミリの 沈線、胴部に弧状の沈線が施文。	945-990	
13	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽 石粒	良	R	Ⅰ群	横位の沈線、ペン先状工具による 矢羽状刺突。黒糸。	945-985	
14	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒、軽 石粒	良		Ⅰ群	口縁部がギガ。太さ4ミリの隆線 を2本横位施文。	945-980	
15	深鉢	口縁	にぶい赤褐	2.5YR5/4	細かい砂粒、軽 石粒	良	LR	Ⅰ群	Ⅰ群	竹管による沈線区画。	945-985
16	深鉢	口縁	にぶい赤褐	2.5YR4/3	細かい砂粒、小 石	良	RL	Ⅰ群	へら状工具による沈線、爪形文、 ペン先状工具による刺突。	945-985	
17	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1ミリの砂粒	良		Ⅰ群	横位に連続交互刺突文。	945-990	
18	深鉢	口縁	赤灰	2.5YR5/1	φ1~2ミリの砂 粒、軽石粒	良	LR	Ⅰ群	太さ6ミリの隆帯。	945-985	
19	深鉢	胴部	にぶい赤褐	2.5YR4/4	φ1ミリの白色 粒	良		加曾利E	沈線による櫛門区画横位に連続交 互割突。	945-990	
20	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	白色粒多い	普通	—	Ⅰ群	隆線による櫛門区画文様。太さ5 ミリの浅い沈線が横位に施文。	945-025	
21	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの砂 粒、軽石粒	普通		Ⅰ群	太さ7ミリの隆線による横位区画。 竹管による沈線。	945-985	
22	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/4	φ1~3ミリの小 石	普通	RL	Ⅰ群	太さ7ミリの沈線で口縁横位区画。	945-995	
23	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの黄 色粒多い	不良	—	Ⅱ群	太さ6ミリの沈線による櫛門区画。	945-010	
24	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	良	RLR	Ⅱ群	幅5ミリの隆帯による櫛門区画。 太さ4ミリの沈線による横位区画。	945-980	
25	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1~3ミリ小石	普通	RL	Ⅱ群	太い隆線による櫛門区画。	945-975	
26	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1~3ミリの 小石	普通	LR	Ⅱ群	太い隆線による口縁部区画と櫛門 区画文様。	945-970	
27	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/8	φ1~3ミリの小 石	良	RL	Ⅱ群	太さ15ミリの沈線による櫛門区画。	945-975	
28	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/4	φ1~3ミリの小 石	良	RL	Ⅱ群	太さ10ミリの沈線による櫛門区画。	945-975	
29	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小 石	普通	RL	Ⅱ群	加曾利E	太さ10ミリの沈線が口縁に施る。	945-015
30	深鉢	把手	灰黄	2.5Y7/2	φ1~3ミリの小 石	良	—	加曾利E	太い沈線で弧状の文様を描く。	945-970	

第4章 出土遺物

日区945グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
31	深鉢	口縁	浅黄	2.5YR/3	細かい白色粒	不良	LR	横	加曾利E	太き12ミリの沈線が口縁に巡る。	945-020
32	深鉢	口縁	にぶい橙	5YR7/4	φ1~2ミリの小石	不良	RL	横	加曾利E	浅い沈線と低い隆線により口縁部に横門区画が作られる。	945-975
33	深鉢	口縁	灰白	10YR8/2	φ1~3ミリの小石、白色粒	普通	RL	横	加曾利E	隆線により、口縁部文様と胴部文様を区画する。	945-000
34	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通			加曾利E	横位のヘラナデ。	945-985
35	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通			加曾利E	隆線による口縁部区画、太き5ミリの沈線による横門文。	945-990
36	深鉢	胴部	浅黄橙	7.5YR8/3	細かい黒色粒	不良	RL	斜	加曾利E	隆線による横門区画文様。	945-025
37	深鉢	口縁~胴部	浅黄	2.5YR7/4	細かい砂粒	不良	LR	横	Ⅲ群	隆線により、口縁部文様に横門区画、黒色文様が描かれる。	945-975
38	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	砂粒多い	普通	LR	横	加曾利E	幅5ミリの平行沈線による文様施文。	945-020
39	両耳壺	口縁~胴部	明黄褐	2.5Y7/6	φ1~3ミリの小石多い	良	RL	横	Ⅴ群1類	口縁部は隆線によって無文部が区画される。その下に横門の区画、縄文が充填される。胴部には、太き2ミリの沈線による条線文。	945-975
40	深鉢	口縁	明褐	7.5YR5/6	φ1~3ミリの小石	良	RL	縦	加曾利E	口縁部に太き8ミリの隆線が巡る。隆線のうちは無文帯になる。	945-975
41	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太き10ミリの隆線が横位に巡る。	945-995
42	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/3	白色粒多い	不良	LR	横	Ⅴ群	口縁部に隆線が横位に巡る。	945-025
43	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	黒色粒	不良	RL	横	Ⅴ群	太き5ミリの隆線が口縁部に巡り、無文帯を区画する。	945-025
44	深鉢	口縁	浅黄橙	7.5YR8/3	細かい砂粒	不良	RL	横	Ⅴ群	太き4ミリの隆線が口縁部に巡り、無文帯を区画する。	945-025
45	深鉢	口縁	灰白	7.5YR8/2	細かい砂粒多い	不良	RL	横	Ⅴ群	太き4ミリの隆線が口縁部に巡り、無文帯を区画する。	945-025
46	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	φ1ミリの白色粒、砂粒	普通			Ⅴ群	隆線により横位の施文。	945-995
47	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	白色粒多い	良	RL	横	Ⅴ群	口縁部に隆線が横位に巡る。	945-025
48	深鉢	口縁	暗灰黄	2.5Y5/2	白色粒多い	普通	LR	横	Ⅴ群	口縁下に太き5ミリの沈線が横位に巡る。	945-990
49	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石、黄色粒	普通	RL	縦	Ⅴ群	太き8ミリの沈線による低線が引かれる。	945-975
50	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石	良	RL	横	Ⅴ群	太き5ミリの隆線による区画。区画内には、縄文が充填される。	945-015
51	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	Ⅴ群	口縁部に前面三角の隆線を巡らす。沈線で「冂」状の文様を描く。	945-000
52	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	白色粒	普通			Ⅴ群2類	太き1ミリの沈線による条線で波状に施文。口縁部は無文帯を持つ。	945-025
53	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	RL	横	Ⅴ群3類	口縁部幅5ミリの横位区画と斜位区画。ヘラナデ。	945-985
54	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	白色粒多い	普通	LR	横	Ⅴ群	口縁部に低い隆線が巡り無文部と文様部を区画する。隆線が文様部は横門区画を作る。	945-025
55	両耳壺	把手	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	良	RL	縦	Ⅴ群1類	把手上端部が舌状に突起となる。	945-020 舌状突起
56	深鉢	胴部	黒褐	2.5Y3/2	細かい砂粒	良	RL		加曾利E		945-010
57	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1ミリの小石	良	RL	縦	加曾利E	太き4ミリの沈線が横位の区画。	945-995
58	深鉢	胴部	灰褐	5YR6/2	φ1ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E	太き6ミリの沈線と隆線による横位の区画。	945-995
59	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1ミリの白色粒	不良	RL	縦	加曾利E	太き15ミリの沈・隆線による横位区画。	945-995
60	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1~2ミリの小石多い	普通	LR	縦	加曾利E	太き5ミリの沈線3条が対になり横位の区画を作る。	945-010

Ⅱ区945グリッド出土土器観察表

図版No	種類	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 彫刻	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
61	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線による垂線。	945-990
62	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	不良	LR	縦	加曾利E	爪彫文(キョウビラ文)。竹管による結節沈線。	945-985
63	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒	良	RL	横	加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	945-980
64	深鉢	胴部	淡黄	2.5YR8/3	細かい砂粒	不良	RL	縦	加曾利E	細い沈線による縦位の区画により無文部を作る。	945-010
65	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	φ1-2ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E	太さ7ミリの沈線による縦位区画。	945-995
66	深鉢	胴部	浅黄褐色	7.5YR8/4	φ1ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位の区画。	945-995
67	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの浅い沈線で縦位の無文部区画を作る。	945-975
68	深鉢	胴部	淡黄	2.5YR8/3	φ1-3ミリの小石	普通			加曾利E	太さ2ミリの縦位の条線が描きされる。	945-990
69	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による区画。	945-010
70	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1-3ミリの小石	良	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線が縦位に施文。	945-020
71	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1ミリの砂粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ7ミリの断面三角形の隆線が縦位に施文される。隆線に沿って太さ4ミリの沈線施文。無文部は、縦方向の整形痕。	945-975
72	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	細かい砂粒	良	-		加曾利E	太さ8ミリの沈線による縦位区画。無文部縦位のミガキ整形による磨り消し施文。	945-006
73	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	φ1-3ミリの小石、白色粒	普通	LR	縦	Ⅱ群	微隆線による縦位の区画。	945-000
74	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR6/3	φ1-2ミリの小石	良	RL	横	Ⅱ群	太さ4ミリの隆線で横位区画。胴部は、沈線による縦位区画。	945-002
75	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	白色粒	普通	RL	縦	Ⅱ群	太さ3ミリの微隆線による横円区画。無文部はミガキによる磨り消し施文。	945-025
76	深鉢	胴部	暗灰黄	2.5Y5/2	φ1ミリの白色粒、砂粒	良	RL	横	Ⅱ群	太さ3ミリの沈線による横位区画。無文部はへら状のミガキ痕が残る。	945-995
77	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1-3ミリの小石	普通	LR	縦	Ⅱ群	太さ3ミリの微隆線による横円区画。無文部は磨り消し施文。	945-025
78	深鉢	胴部	橙	5YR7/6	細かい砂粒	普通	LR	縦	Ⅱ群	太さ3ミリの低い隆線による縦位の区画線で無文部を作る。	945-025
79	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR7/4	黒色粒	不良	LR	横	Ⅱ群	隆・沈線による横円区画内を横文充填。無文部は磨り消し施文。	945-025
80	深鉢	胴部	淡橙	5YR8/4	細かい砂粒	不良	LR	縦	Ⅱ群	磨り消し施文で縦位の無文部を作る。	945-025
81	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1-2ミリの小石	良	RL	横	Ⅱ群	太さ5ミリの断面三角形の隆線で縦位区画を作る。	945-015
82	深鉢	胴部	灰赤	2.5YR8/2	φ1-2ミリの砂粒、小石	普通	RL	縦	Ⅱ群	太さ4ミリの沈線による上半放状、下半逆「U」状になる区画。	945-985
83	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/3	細かい砂粒	普通	LR	縦	Ⅱ群	隆・沈線による横円区画。磨り消し施文。	945-025
84	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR6/3	細かい砂粒	不良	RL	縦	Ⅱ群	太さ2ミリの沈線による横円文様。無文部は磨り消し施文。	945-020
85	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/4	細かい砂粒	不良	LR	斜	Ⅱ群	太さ1ミリの沈線による文様区画。	945-025
86	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	φ1-2ミリの白色粒	不良	LR	縦	Ⅱ群		945-020
87	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/3	φ1ミリの小石	良	LR	縦	Ⅱ群	太さ4ミリの沈線が垂下する。	945-990
88	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	φ1ミリの白色粒	普通	RL	縦	Ⅱ群	太さ2ミリの沈線による縦位区画。	945-990
89	深鉢	胴部	浅黄褐色	10YR8/3	φ1-2ミリの小石	普通	RL	縦	Ⅱ群	太さ5ミリの沈線による横円区画。	945-990
90	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1-3ミリの小石、白色粒	普通	LR	縦	Ⅱ群	太さ2ミリの沈線による文様区画。	945-020
91	深鉢	胴部	浅黄褐色	10YR8/3	φ1-2ミリの小石	良	RL	縦	Ⅱ群	沈線による縦位区画。	945-995
92	深鉢	胴部	浅黄褐色	7.5YR8/4	φ1-2ミリの白色粒、砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ4-6ミリの隆線による弧線文。	945-995

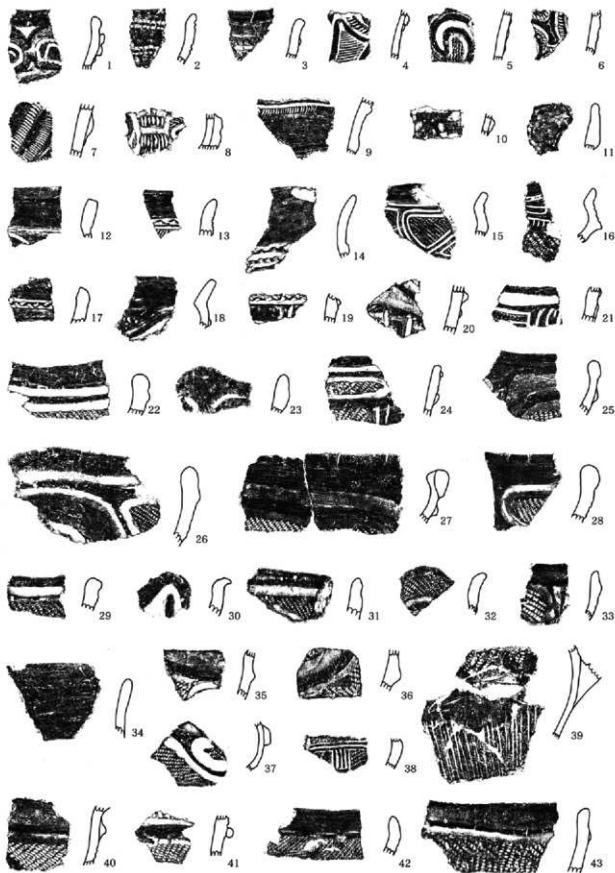
第4章 出土遺物

H区945グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	地文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
93	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太き5~6ミリの沈線による帯状区画。 ヘラ状工具による斜位の沈線。斜位のヘラ削り。	945-005
94	深鉢	胴部	オリーブ褐	2.5Y4/3	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	縦	加曽利E	太き2ミリの沈線による区画。	945-985
95	深鉢	胴部	ぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	縦	加曽利E	太き3ミリの沈線に地文される。無文帯縦方向のみがき。	945-015
96	深鉢	胴部	ぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石	普通	RL	縦	加曽利E	太き5ミリの隆線による帯状区画により無文帯を作る。	945-025
97	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	不良	LR	縦	加曽利E	断面三角形の太き3~4ミリの隆線に地文される。	945-000
98	深鉢	胴部	ぶい黄橙	10YR7/2	細かい白色粒	普通	RL	縦	加曽利E	太き4~5ミリの沈線に弧線を描く。	945-015
99	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/3	φ1~3ミリの小石	良	-	-	Ⅷ群1期	太き6ミリの沈線に弧線を描く。	945-020
100	深鉢	胴部	ぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	-	-	加曽利E	太き6ミリの隆線による文様区画。	945-020
101	深鉢	胴部	ぶい黄橙	10YR8/3	細かい白色粒	不良	-	-	加曽利E	太き6ミリの隆線による文様区画。	945-020
102	両耳壺	口縁~胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石多い	小良	RL	縦	Ⅷ群1期	口縁部は隆線によって無文帯が区画される。その下に横線の区画。縄文が充填される。胴部には、太き2ミリの沈線による条線が施文。	945-975
103	深鉢	胴部	ぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	小良	-	-	加曽利E	太き1ミリの沈線5~6本単位で条線状に施文。	945-975
104	深鉢	口縁	ぶい黄橙	10YR6/3	φ1~3ミリの小石	小良	RL	横	後期	波状口縁。口縁に沿って太き3ミリの隆線が無文帯を区画。口縁部文様は、太き3ミリの沈線による文様区画。	945-010
105	深鉢	口縁	浅黄橙	7.5YR8/4	細かい砂粒	普通	LR	横	称名寺	小波状口縁になる。胴部に突起が付けられ、そこから沈線で区画された縄文帯が作られる。無文帯は磨り消し縄文。	945-025
106	深鉢	口縁	ぶい橙	7.5YR7/3	細かい砂粒	良	LR	横	称名寺	太き3ミリの沈線による文様区画。口縁部に無文帯を持つ。	945-025
107	深鉢	口縁	ぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	縦	後期	太き3ミリの沈線による横円区画。ヘラミガキ。	945-005
108	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	不良	RL	横	称名寺	波状口縁頂部に小突起を持つ。頂部突起から太き4ミリの沈線が弧状に施文され、無文帯を区画する。	945-010
109	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	良	LR	横	堀之内	太き1ミリ以下の沈線による文様施文。縄文原形も細い。口縁部内側に凹線が通る。	945-970
110	深鉢	胴部	黄橙	7.5YR7/8	細かい砂粒	普通	LR	縦	称名寺	太き3ミリの沈線に「J」字を描く。無文帯は磨り消し縄文。	945-025
111	深鉢	胴部	ぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	良	RL	横	加曽利E	太き2~4ミリの隆線で渦巻状の文様区画を作る。無文帯は、縦方向に帯形が見られる。	945-025
112	深鉢	胴部	ぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	加曽利E	幅10ミリの隆線と太き2ミリの沈線による区画。	945-985
113	深鉢	胴部	赤褐	2.5YR4/6	細かい砂粒	良	RL	横	称名寺	太き3~4ミリの沈線による横円区画。	945-025
114	両耳壺	把手	淡黄	2.5Y8/3	φ1~3ミリの小石	良	RL	縦	加曽利E	縄文。	945-970 横状把手
115	深鉢	胴部	ぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石	普通	RL	縦	加曽利E	縄文。	945-990
116	深鉢	胴部	ぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石	普通	RL	縦	加曽利E	縄文。	945-025
117	深鉢	胴部	灰	5Y4/1	φ1ミリの白色粒	普通	RL	横	加曽利E	縄文。	945-990
118	深鉢	胴部	明濁灰	7.5YR7/2	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL	斜	加曽利E	縄文が帯状に施文される。	945-025
119	深鉢	胴部	ぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石	普通	LR	斜	加曽利E	縄文が帯状に施文される。	945-020 長野系

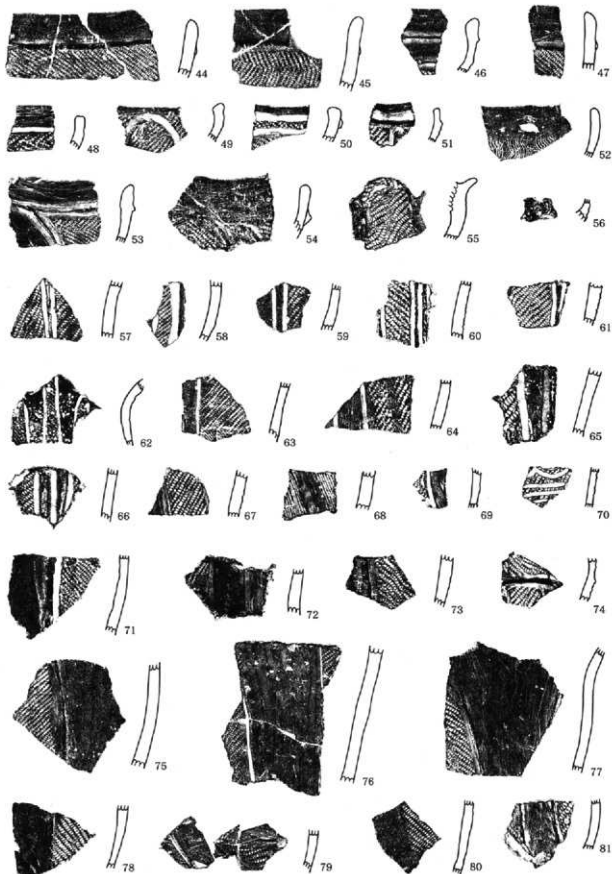
Ⅱ区945グリッド出土土器観察表

図版No.	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	胎文 胎体	胎文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
120	深鉢	胴部	浅黄褐色	10YR8/3	細かい砂粒	良	RL	斜	加曽利E		945-005
121	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR5/3	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曽利E		945-985
122	深鉢	胴部	灰黄褐色	10YR5/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	横	加曽利E		945-980
123	深鉢	胴部	浅黄褐色	10YR8/4	細かい白色粒	普通	LR	縦	加曽利E		945-995
124	深鉢	胴部	浅黄褐色	7.5YR8/4	細かい砂粒	良	LR	縦	加曽利E		945-005
125	深鉢	胴部	赤黒	7.5R2/1	φ1~2ミリの小石	良	RL	縦	加曽利E	縄文。	945-995
126	深鉢	胴部	黄灰	2.5Y4/1	細かい白色粒	普通	RL	斜	加曽利E	縄文。	945-990
127	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	φ1~2ミリ小石	不良	RL	縦	加曽利E		945-970
128	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1~2ミリ小石	不良	RL	横	加曽利E	微隆起部で磨削区画文様を作る。	945-020
129	深鉢	胴部	にぶい褐色	7.5YR5/3	細かい砂粒	普通	RL	横	加曽利E		945-020
130	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR6/4	細かい砂粒	良	RL	横	加曽利E		945-020
131	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR5/3	細かい砂粒	普通	RL	横	加曽利E		945-020
132	深鉢	胴部	灰白	10YR8/1	細かい砂粒多い	普通	RL	縦	加曽利E		945-007
133	深鉢	胴部	にぶい褐色	7.5YR6/4	φ1~3ミリ小石	良	LR	縦	加曽利E		945-004
134	深鉢	胴部	浅黄褐色	10YR8/4	φ1ミリの小石	普通			加曽利E	幅2~3ミリの平行沈線による条線。	945-990
135	深鉢	胴部	にぶい褐色	7.5YR5/3	φ1~2ミリの砂粒、小石	普通	R		加曽利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	945-985
136	深鉢	胴部	淡黄	2.5YR8/3	細かい白色粒	良	—		加曽利E	幅10ミリで7~8本の溝状工具による条線。	945-000
137	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR6/3	φ1~3ミリの小石	普通	—		加曽利E	太さ1ミリ以下の短い沈線5~6本単位で波状に施文。	945-025
138	深鉢	底部	にぶい褐色	7.5YR6/4	φ1~3ミリの小石	不良	—		加曽利E	表面剥落多い。	945-975
139	深鉢	底部	明赤褐色	5YR5/6	細かい砂粒	良	—		加曽利E		945-020
140	深鉢	底部	にぶい褐色	7.5YR5/4	白色粒多い	良	—		加曽利E	上げ紙で、丁寧なミガキ。	945-970
141	深鉢	底部	明赤褐色	5YR5/6	φ1~3ミリの砂粒、小石	普通			加曽利E		945-985
142	深鉢	底部	淡褐色	5YR8/3	白色粒	不良	—		加曽利E	底部穿孔。	945-020
143	深鉢	底部	淡黄	2.5Y8/3	φ1ミリの白色粒	普通			加曽利E	底部無文。	945-995
144	深鉢	底部	にぶい黄褐色	10YR7/3	φ1~3ミリの白色粒多い	普通	—		加曽利E	表面荒れている。	945-005
145	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄褐色	2.5Y6/3	細かい砂粒	不良	—				945-010
146	深鉢	底部	浅黄褐色	7.5YR8/4	φ1~2ミリの小石、白色粒	不良			加曽利E	無文。	945-996
147	深鉢	底部	にぶい褐色	7.5YR7/4	φ1~3ミリの小石	不良	—		加曽利E	外面横位の整形。	945-025
148	深鉢	底部	褐色	2.5YR6/8	φ1~3ミリの小石	良	—		加曽利E	外面横位のミガキによる丁寧な整形。	945-025
149	深鉢	底部	褐色	2.5YR6/6	φ1~3ミリの小石	良	LR		加曽利E	太さ2ミリの沈線が縦位に施文。	945-025
150	深鉢	底部	にぶい褐色	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通			加曽利E	外面縦位のミガキ。	945-015
151	器台	器	褐色	7.5YR6/6	細かい砂粒	良			加曽利E	器台に凹形の透かしが見られる。	945-020
152	深鉢	底部	にぶい赤褐色	2.5YR5/4	φ1~3ミリ小石	普通			加曽利E		945-985
153	蓋	縁のみ	明褐	7.5YR5/6	細かい砂粒	普通			将名寺		945-025
154	土製円盤		赤褐色	10R5/4	細かい砂粒	不良			加曽利E	幅6ミリの平行沈線で渦巻状の文様を描く。	945-996
155	土製円盤		灰黄褐色	10YR4/2	白色粒	普通	—			無文。外縁を磨いて成形。	945-015
156	土製円盤		浅黄褐色	10YR8/3	φ1~2ミリの小石	良				無文。	945-990
157	土製円盤		にぶい黄褐色	10YR6/4	φ1~2ミリ小石	普通	RL	横	加曽利E	太さ3ミリの隙線による斜位区画。	945-985
158	土製円盤		淡黄	2.5YR8/3	φ1~2ミリ砂粒	普通					945-985
159	土製円盤		にぶい赤褐色	5YR5/4	φ1~3ミリの砂粒、軽石粒、石英	普通	RL, LR				945-005
160	土製円盤		にぶい黄褐色	10YR5/3	φ1~3ミリの小石多い	普通	—			無文。縁辺を打ち欠いて成形。	945-010
161	土製円盤		明褐	7.5YR5/6	砂粒多い	普通	—			無文。縁辺を打ち欠いて成形。	945-010
162	土製円盤		にぶい赤褐色	2.5YR5/4	φ1~2ミリの砂粒、石英	普通			五領ヶ台	半截竹管による平行沈線と爪形文。	945-980



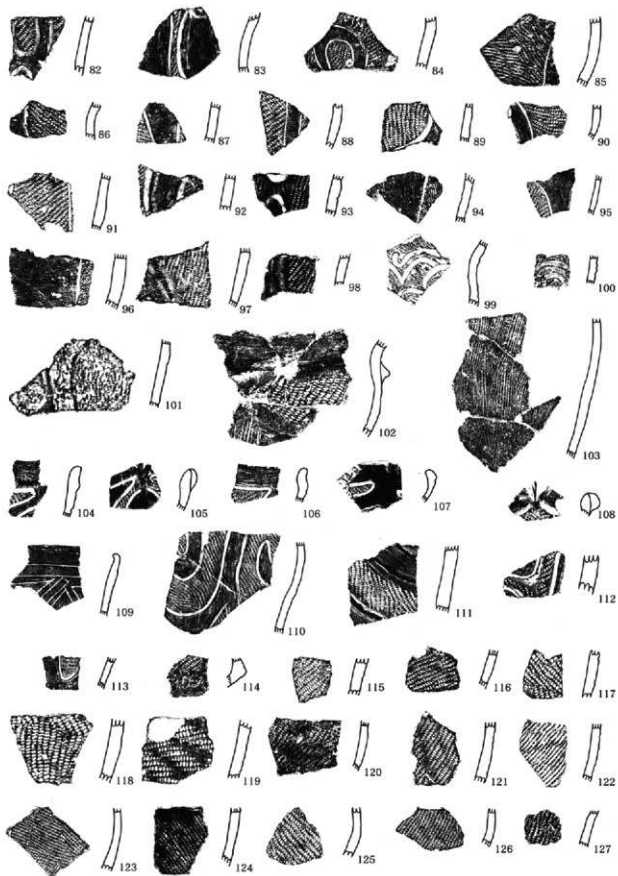
第182図 945グリッド出土土器 (1)

0 20cm



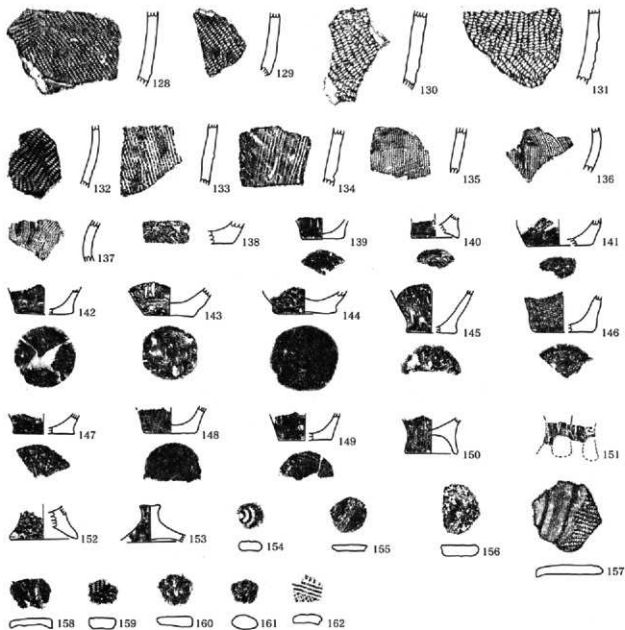
第183図 945グリッド出土土器 (2)

0 20cm



第184図 945グリッド出土土器(3)

0 20cm



第185図 945グリッド出土土器 (4)

第4章 出土遺物

II区950グリッド出土土器観察表

図版No	種類・形状	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 彫体	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
1	深鉢	口縁	黒褐	7.5YR3/1	φ1~3ミリの小石	普通	RL	横	蒔絵b	幅4ミリの平行沈線を縦位に施文。	950-970
2	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの白色粒	良	RL	横	前期~中期	半截竹管による爪形文を口縁に横位に施文。	950-000
3	深鉢	突起	にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒	良	-		勝版	太さ2ミリの沈線による弧線文。	950-980
4	深鉢	口縁	淡黄	2.5YR5/3	φ1~2ミリの白色粒、金雲母	良			阿玉台	幅8ミリの刷み列と隆線で文様を描く。	950-995
5	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	RL		中期	太さ6~8ミリの隆線で文様を区画、隆線上には横文が施文される。	950-995
6	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	金雲母	良	-		勝版	幅5ミリの平行沈線を連続させて縦位に施文。	950-015
7	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR4/3	φ1~2ミリの小石、金雲母	良	-		阿玉台	隆線による文様区画と押し引きによる沈線。	950-990
8	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの小石、金雲母	不良	-		阿玉台	波状口縁部に突起が付けられる。	950-015
9	深鉢	突起	にぶい橙	5YR6/4	φ1~2ミリの小石多い	普通	-		勝版	口縁部表側に突起。	950-995
10	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~2ミリの小石	良	-		勝版	隆線による槽凹区画、隆線に沿って幅6ミリの爪形文が施文。	950-990
11	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	金雲母	良	-		阿玉台	無文。外周縁方向の彫形。	950-015
12	深鉢	突起	にぶい橙	7.5YR6/4	砂粒多い	普通	-		勝版	隆線による口縁部文様区画。区画内は、交互刺突文が充填される。	950-990
13	深鉢	突起	赤褐	5YR4/8	φ1~3ミリの小石	良	RL		勝版	口縁部突起。	950-015
14	深鉢	把手	灰黄褐	10YR6/2	φ1ミリ黄色粒	普通	-		中期	土器口縁の装飾把手。	950-995
15	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	白色粒多い	良	-		勝版	ベン先状押し引き文。粘土罐の彫り付け文。	950-980
16	深鉢	把手	赤褐	5YR4/6	φ1~2ミリの小石	良	-		中期	口縁部に付く把手。	950-990
17	深鉢	突起	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~2ミリの小石、金雲母	良	-		阿玉台	隆線による区画と幅6ミリの波行沈線による文様区画。	950-980
18	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの白色粒	普通	-		勝版	太さ6ミリの隆線と沈線刷みが平行する。	950-010
19	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1~3ミリの小石	普通	-		勝版	太さ4ミリの沈線による押し引きの縦線文。	950-990
20	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	不良	-		勝版	太さ7~8ミリの隆線で横位に区画、隆線上は、刷みが付けられる。	950-995
21	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~2ミリの小石、金雲母	良	-		阿玉台	爪形文が施文される。	950-970
22	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	良	-		勝版	隆線を縦位に施文。半截竹管による横位の施文。	950-980
23	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの白色粒	普通	-		勝版	太さ10ミリの隆線と爪形文。	950-005
24	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石、金雲母	良	-		阿玉台	幅4ミリの平行沈線を波状に施文し押し引きの沈線を縦位に施文。	950-990
25	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石	良	-		勝版	太さ8ミリの隆線に刷みを持つ。	950-995
26	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	不良	-		勝版	隆線で文様を割り付け連続の刷み目を施文。	950-970
27	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/3	φ1~2ミリの白色粒	良	-		勝版	太さ8ミリの隆線に刷みを施す。太さ3ミリの沈線による弧線。	950-970
28	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/3	金雲母	良	-		阿玉台	太さ10ミリの隆線による横位区画。幅6ミリの平行沈線による波状文。	950-990
29	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~3ミリの小石、金雲母	普通	-		阿玉台	隆線による胴部横位区画。隆線に沿って幅10ミリの刷み列。幅7ミリの平行沈線を縦位に施文。	950-985
30	深鉢	胴部	灰褐	5YR4/2	白色粒、金雲母	良	-		阿玉台	胴部隆線で区画する文様は、幅6ミリの平行沈線により波状文や結節状施文が描かれる。	950-000

II区950グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 彫刻	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
31	深鉢	胴部	淡黄	2.5YR8/3	細かい砂粒	不良	—	—	磨版	隆線と沈線による文様筋文。	950-995
32	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1~2ミリの 小石、白色粒	普通	LR	横	磨版	幅8ミリの平行沈線と隆線で文様を作る。文様区画内に縦文光斑。	950-000
33	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	黒色粒、金雲母	普通	—	—	磨版	太い隆線による文様区画。	950-970
34	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1~3ミリ小石	良	—	—	磨版	幅11ミリの平行沈線による弧線。	950-000
35	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~2ミリの小石、 金雲母	良	—	—	阿玉台	幅6ミリの平行沈線を波状に施文。	950-015
36	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの小石	良	—	—	阿玉台	幅7ミリの平行沈線による波状文。	950-990
37	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~2ミリの白色 粒が多い	良	—	—	磨版	粘土隆線による「N」字状の貼付。 粘土には刷みが施文される。	950-980
38	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~3ミリ小石	良	—	—	阿玉台	太さ8ミリの隆線に刷みを施す。	950-970
39	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~2ミリの小石、 金雲母	良	—	—	阿玉台	隆線による文様区画。平行沈線を 3本平行させて文様を細く。	950-990
40	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1~2ミリの小石	不良	RL	—	中期	幅4ミリの半截竹管による平行沈線と、隆線による横位区画。	950-000
41	深鉢	胴部	褐灰	5YR4/1	φ1~3ミリの小石	普通	—	—	磨版	太さ10ミリの隆線で渦巻状に施文。 隆線に沿って連続する爪形文が施文される。	950-000
42	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/8	φ1ミリの小石	良	—	—	阿玉台	隆線と沈線による文様区画。ペン先状突起。	950-015
43	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/4	砂粒、雲母	普通	—	—	阿玉台	太さ3~4ミリの隆線と押し引きの沈線による文様区画。区画内には幅17ミリの刷み刷が施文される。	950-010
44	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	—	—	磨版	沈線による横位区画文。	950-990
45	深鉢	胴部	赤褐	2.5YR4/6	φ1ミリの白色粒	良	—	—	磨版	太さ2ミリの沈線による横位区画。 連続する刷みが付けられる。	950-015
46	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの小石	普通	—	—	磨版	沈線による区画内を斜線が充填する。区画に三角印刻が施文。	950-000
47	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	—	—	磨版	太さ7~8ミリの隆線が貼り付けられる。隆線上は、「ハ」の字状に刷みが付けられる。	950-985
48	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/6	細かい砂粒	良	—	—	磨版	太さ4ミリの沈線による文様筋文に刷み刷が加えられる。	950-020 長野系
49	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒	良	—	—	阿玉台	太さ6ミリの沈・隆線による筋文。	950-970
50	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの白色粒	良	—	—	阿玉台	太さ10ミリの隆線による文様区画。 区画内に太さ2ミリの押し引き沈線が施文される。	950-010
51	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR4/2	φ1~2ミリ砂粒	普通	RL	—	I群	隆線による横位の区画と渦巻、渦糸。	950-970
52	深鉢	口縁	淡黄	2.5YR8/3	φ1~2ミリ小石	良	RL	縦	II群	太さ5ミリの隆線を渦巻状に施文。	950-995
53	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR6/4	φ1~3ミリの小石	普通	—	—	加曽利E	太さ4ミリの沈線による円形、斜線などの文様筋文。	950-000
54	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~3ミリの小石、土塵粉片	良	—	—	I群	隆線で文様帯を区画。区画内を沈線が充填される。	950-985
55	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR6/4	φ1~2ミリの小石	良	—	—	II群	隆線による文様区画。	950-990
56	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL	横	加曽利E	太さ7ミリの太い隆線を刷歯状に施文。	950-975
57	深鉢	胴部	褐灰	10YR5/1	細かい砂粒	普通	—	—	加曽利E	太さ4ミリの沈線による筋文。	950-000
58	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/4	φ1ミリの白色粒	良	—	—	加曽利E	地文は半截で太さ5ミリの隆線が「J」状に貼り付けられる。	950-005
59	深鉢	胴部	暗赤褐	5YR3/4	φ1ミリ以下の白色粒が多い	良	RL	縦	加曽利E	太さ5~8ミリの隆線を横位に施文。	950-000
60	深鉢	胴部	淡黄	2.5YR8/3	白色粒多い	不良	RL	縦	加曽利E	隆線による横位区画。	950-025
61	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	細かい砂粒	普通	LR	—	加曽利E	渦糸。	950-000
62	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	細かい砂粒	良	—	—	加曽利E	交互突起と沈線による横位区画。	950-990
63	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/4	φ1ミリの砂粒	良	—	—	加曽利E	交互突起による「コ」の字文。	950-010
64	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの白色粒が多い	普通	—	—	加曽利E	隆線による横位区画と縦位の赤線。	950-025

H区950グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
65	深鉢	胴部	にぶい赤褐色	5YR4/4	細かい砂粒	普通	LR	横	加曾利E	太さ4ミリの沈線3条で区画。黒点。	950-970
66	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	太さ4ミリの沈線を横位に施文。	950-970
67	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	不良	—	—	加曾利E	太さ5～6ミリの隆線で横位区画。 並行して太さ4ミリの沈線施文。	950-010
68	深鉢	胴部	にぶい赤褐色	5YR4/4	φ1ミリの小石	良	LR	横	加曾利E	太さ5ミリの沈線による文様施文。	950-970
69	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/4	白色粒	普通	RL	横	Ⅲ群	口縁に太さ17ミリの沈線による文様区画。	950-015
70	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR5/4	細かい砂粒	普通	RL	横	Ⅲ群	口縁部に沈線による帯門区画。	950-015
71	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒	普通	RL	横	Ⅲ群	隆・沈線で口縁部を横位に区画。	950-000
72	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1ミリ白色粒	普通	RL	横	加曾利E	隆線による帯門区画。	950-980
73	深鉢	口縁	黄褐色	2.5Y5/3	細かい砂粒	良	—	—	加曾利E	太さ10ミリの隆線による横位区画。 地文は糸線。	950-975
74	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR6/4	細かい砂粒多い	普通	LR	横	加曾利E	隆・沈線による口縁部帯門区画。	950-015
75	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR5/3	細かい白色粒	良	RL	縦	加曾利E	口縁部を横線起線で区画し、太さ8～10ミリの沈線で「J」状文を描く。	950-985
76	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	白色粒	不良	—	—	加曾利E	太い隆・沈線で帯門区画の文様を描く。	950-015
77	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	RL	横	Ⅲ群1類	太く浅い沈線による口縁部帯門区画。 内面には渦巻状の沈線を施文。	950-020 舌状突起
78	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR5/4	細かい砂粒多い	良	RL	横	Ⅲ群1類	太さ7～8ミリの沈線による渦巻。	950-010 舌状突起
79	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	白色粒	不良	—	—	Ⅲ群	太い沈線による帯門区画。	950-970
80	深鉢	口縁	灰白	5Y8/2	φ1～2ミリの小石	普通	RL	横	Ⅲ群1類	口縁部に太さ7～8ミリの沈線で帯門区画を作る。	950-995 舌状突起
81	両耳壺	口縁	にぶい黄褐色	10YR6/3	細かい砂粒	不良	—	—	Ⅳ群1類	太い隆・沈線による帯門区画文様。 地文は、糸線。	950-990
82	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	φ1ミリの黄色粒	良	RL	横 縦	V群1類	口縁部を横位の沈線で区画。「J」 状や曲線文様を描く。	950-985 舌状突起
83	両耳壺	把手	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒。軽石粒	良	RL	横 斜	Ⅳ群1類	把手中央部に沈線による文様区画。	950-005 舌状突起
84	深鉢	口縁	暗灰黄	2.5Y5/2	白色粒	普通	—	—	加曾利E	隆線で口縁部に帯門区画。	950-030
85	深鉢	口縁	灰褐色	7.5YR5/2	φ1～3ミリの小石	良	—	—	加曾利E	隆線による帯門区画。	950-980
86	深鉢	把手	にぶい橙	7.5YR6/4	白色粒	普通	—	—	Ⅵ群2類	沈線により把手両面に「O」状の 文様。	950-985 橋状把手
87	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	φ1～2ミリの白色粒	普通	—	—	加曾利E	外面ミガキによる横位の整形。	950-995
88	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y6/2	黒色粒。白色粒	普通	RL	横 斜	加曾利E	太さ20ミリの隆線による口縁部帯 門区画。	950-005
89	深鉢	胴部	浅黄褐色	10YR8/4	細かい砂粒	不良	—	—	加曾利E	太さ7～8ミリの沈線による渦巻文 様と縦位の区画線。	950-995
90	深鉢	把手	にぶい橙	7.5YR6/4	白色粒	良	RL	—	Ⅳ群1類	幅6ミリの爪形文。波状口縁。把 手には、太沈線で「J」状の文様。	950-985
91	深鉢	口縁	灰黄褐色	10YR6/2	φ1～2ミリの白色粒	普通	RL	横 縦	V群2類	太さ6ミリの沈線による口縁部区 画。口縁部文様区画内は、波状に 沈線を磨り消し、「J」状文を配 する。	950-995 舌状突起
92	浅鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	φ1～3ミリの小石	普通	—	—	Ⅳ群3類	太さ10ミリの沈線で口縁部無文帯 を区画する。胴部は、糸線が施文 される。	950-985 93と同一 個体
93	浅鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/2	φ1～3ミリの小石	普通	—	—	Ⅳ群3類	太さ10ミリの沈線で口縁部無文帯 を区画する。胴部は、糸線が施文 される。	950-995 92と同一 個体
94	浅鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	φ1～3ミリの小石多い	普通	—	—	加曾利E	口縁部片。横位方向のミガキ整形。	950-995
95	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/4	φ1～2ミリの小石	良	LR	縦	Ⅵ群3類	隆起線で口縁部を横位に区画。	950-035

Ⅱ区950グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
96	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~2ミリの白色粒	普通	—	—	Ⅵ群3類	口縁部に段を持つ。外面縦位の帯形模。	950-995
97	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	良	RL	横縦	Ⅵ群1類	口縁部にφ3~5ミリの横内刺突列。太さ5ミリの沈線による「U」「H」の連続する文様。無文部はミガキによる磨り消し縄文。	950-996
98	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1~2ミリの小石	不良	RL	斜	Ⅵ群3類	太さ5ミリの沈線による口縁部区画と文様施文。	950-000
99	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR5/3	φ1ミリの白色粒	良	LR	横	Ⅵ群3類	太さ5~8ミリの沈線による口縁部区画と帯形施文。	950-010
100	深鉢	口縁	暗灰黄	2.5Y5/2	細かい砂粒	不良	RL	縦	Ⅵ群3類	口縁に沿って太さ12ミリの沈線が走る。	950-995
101	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/1	φ1~3ミリの白色粒	良	—	—	Ⅵ群3類	口縁部無文部。頸部との区画に沈線が走る。	950-015
102	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/2	細かい白色粒	普通	LR	縦	Ⅵ群3類	口縁に沿って太さ8ミリの浅い沈線が走る。	950-015
103	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	砂粒	不良	RL	縦横	Ⅵ群3類	口縁部に太さ8ミリの沈線が走る。	950-015
104	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	φ1~2ミリの白色粒	普通	—	—	Ⅵ群3類	太さ2ミリの沈線が縦位に条線状に施文。	950-015
105	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR6/4	細かい砂粒	良	RL	縦横	Ⅵ群3類	太さ6ミリの沈線による口縁部区画。	950-010
106	深鉢	口縁	にぶい橙	5YR6/4	白色粒多い	普通	LR	加曽利E	口縁に無文部を持つ。	950-990	
107	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	黒色粒	普通	RL	横	加曽利E	口縁部に沈線が短く無文部を区画する。	950-990
108	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR5/3	φ1ミリの白色粒	普通	RL	横	V群2類	太さ5ミリの沈線による「J」状の文様。	950-010
109	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR5/3	φ1ミリの砂粒	良	LR	縦	V群2類	太さ5ミリの沈線による帯形区画と刺突。	950-990
110	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/8	白色粒	良	RL	縦	加曽利E	沈線による褐色の文様区画。	950-975
111	深鉢	口縁~ 胴部	にぶい黄褐色	10YR7/4	細かい砂粒	不良	RL	縦	加曽利E	太さ5ミリの沈線が縦位の区画を作る。	950-985
112	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	φ1ミリの黄色粒	不良	RL	縦	加曽利E	太さ8ミリの沈線2本を対にして縦位の区画を作る。	950-995
113	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR7/4	φ1~5ミリの小石	不良	RL	縦	加曽利E	太さ5~6ミリの沈線による縦位区画。	950-995
114	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい白色粒	良	LR	縦	加曽利E	太さ8ミリの沈線が2本対になり縦位の区画をする。	950-995
115	深鉢	胴部	浅黄褐色	10YR8/3	φ1~2ミリの黄色粒	不良	RL	縦	加曽利E	太さ7ミリの沈線を2本対にして縦位の区画。無文部磨り消し縄文。	950-995
116	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y6/2	黒色粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ9ミリの沈線が縦位の区画。	950-970
117	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	黒色粒多い	普通	RL	縦	加曽利E	太さ6ミリの沈線が縦位の区画。	950-010
118	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ5ミリの沈線を2本対にして縦位に区画する。	950-990
119	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒	普通	LR	加曽利E	太さ6ミリの沈線が縦位に施文。	950-990	
120	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y8/3	白色粒多い	良	RL	縦	加曽利E	太さ5ミリの沈線による縦位の区画。無文部磨り消し縄文。	950-025
121	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR5/3	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ5~6ミリの沈線が縦位に施文。	950-010
122	深鉢	胴部	橙	2.5Y6/6	細かい砂粒	良	RL	縦	加曽利E	太さ6~7ミリの沈線による縦位の区画。	950-980
123	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR5/3	黒色粒	良	RL	縦	加曽利E	沈線による縦位の区画。	950-990
124	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	砂粒多い	不良	RL	縦	加曽利E	太さ2ミリの沈線による縦位の区画。	950-030
125	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL	縦	加曽利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	950-995
126	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	7.5YR5/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曽利E	太さ5ミリの沈線による縦位の区画。	950-010
127	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/2	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曽利E	太さ5~10ミリの沈線による方形区画。	950-995

第4章 出土遺物

日区950グリッド出土土器一覧表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 標高
128	深鉢	口縁	ぶい・橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの黒色粒	不良	RL	縦	加曽利E	太さ7ミリの沈線で楕円区画を作る。	950-995
129	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの小石	良	RL	横	加曽利E	太さ5ミリの隆・沈線による文様。	950-020
130	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒	良	RL	縦	加曽利E	太さ8ミリの沈線が重下し。縦位の区画を作る。	950-000
131	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/4	φ1ミリの小石	不良	RL	斜	加曽利E	太さ5ミリの隆線による楕円区画。	950-000
132	深鉢	胴部	ぶい・褐	7.5YR5/4	砂粒多い	普通	RL	縦	加曽利E	太さ5~8ミリの隆・沈線による縦位区画。	950-010
133	深鉢	胴部	ぶい・黄褐	10YR7/3	黒色粒	不良	RL	縦	加曽利E	太い隆・沈線による胴部楕円区画。	950-030
134	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの白色粒	普通	LR	縦	加曽利E	太さ2ミリの隆線の沈線で文様区画。磨り消し施文。	950-015
135	深鉢	胴部	ぶい・黄褐	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL	斜	加曽利E	太さ4ミリの隆線による弧状文。	950-995
136	深鉢	口縁~胴部	明黄褐	10YR6/6	白色粒	不良	LR	横	IV群	隆・沈線による口縁部楕円区画。	950-015
137	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	黒色粒多い	不良	RL	縦	VI群	太さ5ミリの沈線による楕円区画。区画内に施文を光填する。	950-995
138	深鉢	胴部	ぶい・黄褐	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL	横	加曽利E	太さ5~8ミリの沈線による文様区画。磨り消し施文。	950-010
139	深鉢	胴部	灰	5Y4/1	白色粒多い	良	LR	横	加曽利E	隆・沈線による楕円区画。	950-975
140	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1~3ミリの小石、白色粒	普通	RL	横	加曽利E	太さ5ミリの沈線による弧線文。	950-000
141	深鉢	口縁	ぶい・赤褐	5YR4/4	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL	横	加曽利E	太さ4ミリの隆線を3条帯色形に磨り付ける。	950-970
142	深鉢	胴部	ぶい・黄褐	10YR6/3	白色粒多い	普通			加曽利E	隆・沈線による口縁部楕円区画。	950-000
143	深鉢	胴部	ぶい・橙	7.5YR6/4	φ1ミリの小石	良			加曽利E	太さ4ミリの沈線による文様区画。地文は細い条線。	950-980
144	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	φ1~2ミリ小石	普通	RL	斜	VI群	太さ4~10ミリの沈線で渦巻文。	950-985
145	深鉢	胴部	ぶい・黄褐	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	斜	加曽利E	隆線による文様区画。	950-015
146	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	φ1~2ミリの小石	良			VI群	太さ3~5ミリの隆線で渦巻を描く。	950-030
147	深鉢	口縁	褐灰	10YR4/1	細かい砂粒	良			加曽利E	口縁部に沈線による楕円区画。区画内円形の髹文。	950-990
148	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	φ1~2ミリの小石	普通			加曽利E	隆線と楕円区画により文様4描かれる。	950-985
149	深鉢	胴部	ぶい・黄褐	10YR7/4	白色粒	不良			加曽利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画。	950-975
150	深鉢	胴部	ぶい・橙	7.5YR7/4	細かい砂粒多い	不良	RL	横	VI群3類	太さ5ミリの沈線で縦位の区画を作る。	950-030
151	深鉢	胴部	灰白	2.5Y7/1	φ1~3ミリの白色粒	普通			VI群3類	太さ4ミリの沈線を縦位に施文。地文は、条線。	950-995
152	深鉢	胴部	ぶい・橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石	普通	RL		VI群3類	太さ2~4ミリの沈線が縦位に施文され区画される。	950-985
153	両耳壺	口縁~胴部	褐灰	10YR8/1	φ1~2ミリの小石多い	普通	RL	横	称名寺	太さ2ミリの沈線による「J」字文。楕状把手を持つ。	950-010 楕状把手
154	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	黒色粒	不良	RL	縦	称名寺	口縁部は、隆起線により区画される。隆起線から太さ2ミリの沈線で楕円区画が施文される。	950-025
155	深鉢	口縁	ぶい・黄褐	10YR7/2	φ1ミリの白色粒	良	LR	横	称名寺	太さ3ミリの沈線による文様区画。口縁部改直部に突起が付く。	950-015
156	深鉢	口縁	ぶい・黄褐	10YR6/3	φ1~2ミリの小石	不良	RL	横	称名寺	太さ3~4ミリの沈線で口縁部文様を描く。	950-995
157	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	黒色粒	不良			称名寺	小波状口縁で改直部に突起が付き、突起からは、沈線が口唇に沿って施文。口縁部には、太さ4ミリの沈線が縦帯状に施文される。	950-015
158	深鉢	口縁	ぶい・橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの黄褐色粒	良	LR	斜	称名寺	太さ5ミリの沈線で口縁部を横位区画。波状口縁部に突起が付く。	950-985
159	深鉢	胴部	ぶい・橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	不良	RL	縦	称名寺	太さ2ミリの沈線による文様区画。	950-980
160	深鉢	胴部	ぶい・褐	7.5YR6/3	黒色粒	普通	LR	縦	称名寺	太さ3ミリの沈線による楕円区画。	950-980

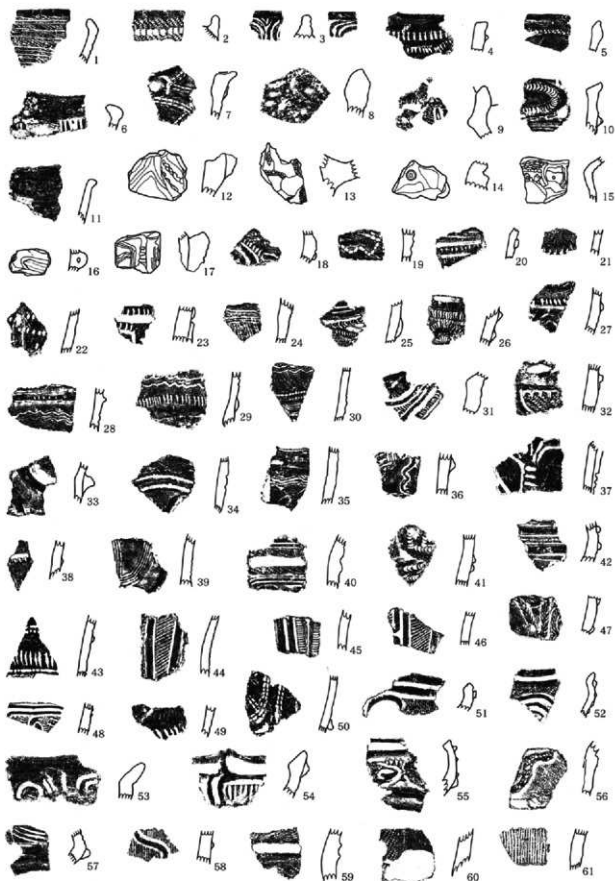
H区950グリッド出土土器観察表

図版No	種類・形状	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
161	深鉢	口縁	にぶい黄緑	10YR7/3	細かい砂粒	普通	—	—	称名寺	太さ2ミリの沈線による区画文様。無文部は、丁寧に磨かれている。	950-995
162	深鉢	胴部	黒褐	7.5YR3/1	φ1~2ミリの白色粒	良	RL	縦	称名寺	太さ5~6ミリの沈線による文様区画。無文部は丁寧に磨かれている。	950-995
163	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	黒色粒多い	普通	RL	縦	称名寺	太さ6ミリの沈線による木葉形の文様。区画内に縄文が充填される。	950-995
164	深鉢	胴部	にぶい黄緑	10YR6/4	細かい白色粒	普通	LR	—	称名寺	太さ4~5ミリの沈線による文様区画。燃糸。	950-020
165	深鉢	胴部	にぶい黄緑	10YR7/2	細かい砂粒	普通	LR	縦	称名寺	太さ3ミリの沈線で「0」状の文様を描く。	950-025
166	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y7/3	φ1~2ミリの小石	普通	LR	斜	称名寺	太さ4ミリの沈線による横門区画。	950-990
167	深鉢	胴部	黒褐	2.5Y3/1	φ1~2ミリの白色粒	普通	—	—	後期	太さ6ミリの沈線による文様施文。	950-000
168	深鉢	胴部	褐灰	7.5YR4/1	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL	横	称名寺	太さ4ミリの沈線を描く。	950-985
169	深鉢	胴部	にぶい黄緑	10YR7/3	細かい砂粒	不良	—	—	称名寺	太さ2ミリの沈線による横門区画。	950-980
170	深鉢	胴部	にぶい黄緑	10YR6/4	φ1~2ミリの小石	不良	LR	縦	称名寺	太さ2ミリの沈線による文様区画。	950-035
171	深鉢	胴部	にぶい黄緑	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL	横	称名寺	太さ4~10ミリの沈線で渦色を描く。	950-985
172	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/4	細かい砂粒、黄色粒	普通	RL	横	加曾利E	1段2条の原形。0段の太さが異なる。	950-010
173	深鉢	胴部	にぶい黄緑	10YR7/3	白色粒	普通	RL	縦	加曾利E	太い沈線による縦位区画。	950-970
174	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	細かい白色粒	良	RL	縦	加曾利E	—	950-970
175	両耳壺	突起	にぶい黄褐	10YR5/4	白色粒	普通	RL	縦	V群1類	縄文施文。	950-975 橋伏把手
176	深鉢	口縁	黄灰	2.5Y5/1	φ1~3ミリ小石	普通	RL	横	加曾利E	口縁部と隆起線による文様区画。	950-980
177	深鉢	胴部	明褐灰	7.5YR7/2	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	加曾利E	—	950-980
178	深鉢	胴部	淡黄緑	10YR8/3	黒色粒多い	普通	LR	縦	加曾利E	太さ5~8ミリの隆起で文様を描く。	950-000
179	深鉢	胴部	にぶい黄緑	10YR6/3	白色粒	普通	LR	斜	加曾利E	—	950-015
180	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5Y8/4	φ1ミリの小石	不良	LR	縦	加曾利E	まばらに縄文を施文。	950-030
181	深鉢	胴部	にぶい黄緑	10YR6/4	細かい砂粒	普通	RL	斜	加曾利E	六角形に縁道を打ち欠いて成形。	950-010 土製内蓋か
182	深鉢	胴部	にぶい黄緑	10YR7/4	φ1~2ミリの白色粒	不良	LR	斜	加曾利E	—	950-000
183	両耳壺	把手	にぶい橙	7.5YR7/3	白色粒	良	RL	横	V群2類	橋伏把手	950-980
184	深鉢	胴部	にぶい赤褐	2.5YR5/4	細かい砂粒	良	L	—	加曾利E	燃糸。	950-980
185	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの小石	不良	L	—	加曾利E	燃糸を条線状に施文。	950-025
186	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒	良	LR	—	加曾利E	燃糸。	950-980
187	深鉢	胴部	灰白	2.5Y7/1	φ1~2ミリの白色粒	不良	—	—	加曾利E	条線が縦位に施文。	950-995
188	深鉢	胴部	にぶい黄緑	10YR7/3	細かい砂粒	普通	LR	—	加曾利E	燃糸。	950-980
189	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1ミリの黒色粒	普通	—	—	加曾利E	外面ミガキ整形。内面保付着多い。	950-030
190	両耳壺	把手	淡黄緑	10YR8/4	白色粒	普通	—	—	V群	無文。	950-000 橋伏把手
191	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y7/4	φ1~3ミリ小石	普通	—	—	V群4類	—	950-990
192	深鉢	胴部	にぶい黄緑	10YR7/3	φ1ミリの白色粒	普通	—	—	V群2類	幅12ミリに5本の橋伏工具による沈線の燃糸。	950-020
193	深鉢	胴部	オリーブ黒	5Y3/1	φ1~2ミリの小石	普通	—	—	加曾利E	太さ1ミリの沈線が縦位に施文。縦位のミガキ整形。	950-985
194	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	φ1~2ミリの白色粒	普通	—	—	加曾利E	外面縦位のミガキ整形。	950-025
195	深鉢	胴部	にぶい黄緑	10YR6/4	φ1~2ミリの白色粒	普通	—	—	V群4類	条線が施文される。	950-000

第4章 出土遺物

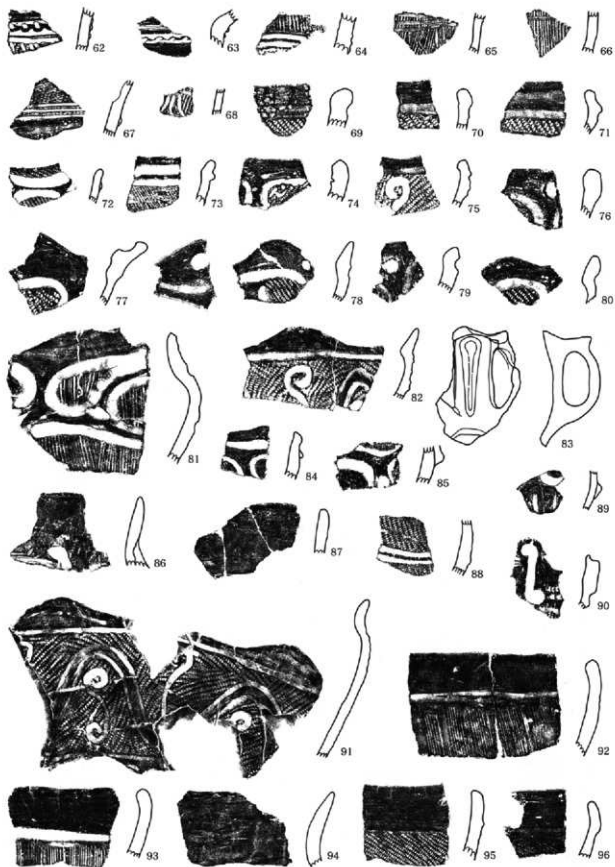
II区950グリッド出土土器観察表

図版No.	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 彫刻	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
196	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	φ1~2ミリの黄 色粒	普通	—	—	罐群4類	太さ3~4ミリの浅い沈線が縦位の 区画。地文は糸線が施文される。	950-995
197	深鉢	底部	淡黄	2.5Y8/3	φ1~2ミリ小石	普通	—	—	加曾利E	外面ミガキ整形。	950-995
198	深鉢	底部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~2ミリ小石	普通	—	—	加曾利E	外面ミガキ整形。	950-980
199	浅鉢	底部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~2ミリの白 色粒	—	—	—	土師器	—	950-000
200	深鉢	胴部~ 底部	明褐	7.5YR5/6	φ1~2ミリの小 石	普通	—	—	加曾利E	細い沈線を糸線状に引く。	950-065
201	深鉢	胴部~ 底部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの小 石	普通	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線を2本対にして 縦位の区画を作る。無文部磨り消 し縄文。	950-990
202	深鉢	胴部~ 底部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	—	—	加曾利E	外面ミガキ整形。高台状の底部。	950-030
203	深鉢	底部	橙	5YR7/6	白色粒多い	普通	—	—	加曾利E	外面ミガキ整形。	950-970
204	深鉢	胴部~ 底部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの白 色粒多い	普通	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの浅い沈線が縦位に施 文される。	950-010
205	深鉢	底部	褐	7.5YR4/6	φ1~3ミリの小 石、金雲母	不良	—	—	阿玉台	外面整形。	950-010
206	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄褐	10YR5/4	細かい砂粒	不良	—	—	加曾利E	外面ミガキ整形。	950-990
207	深鉢	底部	橙	5YR6/8	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	—	950-975
208	甕	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	砂粒	良	—	—	土師器	外面ミガキ整形。古墳時代。	950-030
209	深鉢	胴部~ 底部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~3ミリの小 石	普通	—	—	加曾利E	外面ミガキ整形。	950-980
210	深鉢	胴部~ 底部	淡黄	2.5Y8/3	φ1~2ミリの小 石	不良	—	—	加曾利E	外面縦位のミガキ整形。	960-025
211	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄褐	10YR7/3	細かい砂粒多い	不良	—	—	加曾利E	上げ底になる。外面ミガキ整形。	960-020
212	深鉢	底部	灰白	2.5Y8/2	φ1~2ミリの小 石	良	—	—	加曾利E	全体に摩滅。	950-995
213	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの白色 粒	普通	—	—	加曾利E	外面に乱雑な整形痕。	950-005
214	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1~2ミリの小 石	普通	—	—	加曾利E	—	950-995
215	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	砂粒	不良	—	—	加曾利E	糸線が施文。	950-010
216	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	—	—	加曾利E	縦位方向の沈線。	950-025
217	深鉢	胴部~ 底部	にぶい橙	7.5YR7/3	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	太さ6ミリの沈線を縦位に施文。	950-970
218	深鉢	底部	灰白	7.5Y8/2	白色粒	不良	—	—	加曾利E	無文。	950-995
219	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの白 色粒	良	—	—	加曾利E	太さ3ミリの沈線を縦位の区画。 高台形の底部になる。	950-995
220	深鉢	突起	褐	7.5YR4/6	φ1~3ミリの小 石	良	—	—	中期	土器に付けられた突起部。渦巻状 の文様施文。	950-015
221	注口土器	注口部	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒	良	—	—	罐之内	注口土器の注口部。楕状になる肥 手が付く。	950-995
222	土製円盤	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの小石	普通	—	—	—	—	糸線が施文される。	950-000
223	土製円盤	赤褐	5YR4/6	白色粒	普通	LR	—	加曾利E	無文。	950-990	
224	土製円盤	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~2ミリの黒 色粒	不良	—	—	—	—	底部片転用の土製円盤。	950-000
225	土製円盤	にぶい褐	7.5YR6/3	φ1~2ミリの小 石	良	—	—	—	—	無文。底部片転用。	950-000
226	土製円盤	赤橙	10R6/8	φ1~3ミリの小 石	普通	—	—	—	—	底部片転用。	950-015
227	土製円盤	褐灰	10YR4/1	細かい砂粒	普通	RL	—	加曾利E	—	950-985	
228	土製円盤	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1~3ミリの小 石	不良	—	—	—	—	950-990	
229	土製円盤	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	—	—	—	—	無文。	960-010



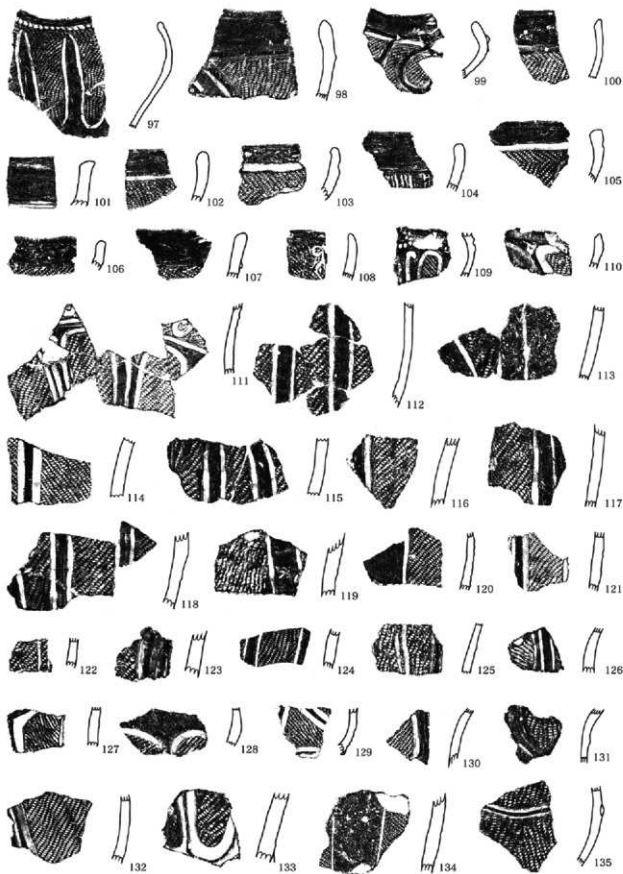
第186図 950グリッド出土土器 (1)

第4章 出土遺物



第187図 950グリッド出土土器(2)

0 20cm



第188図 950グリッド出土土器(3)

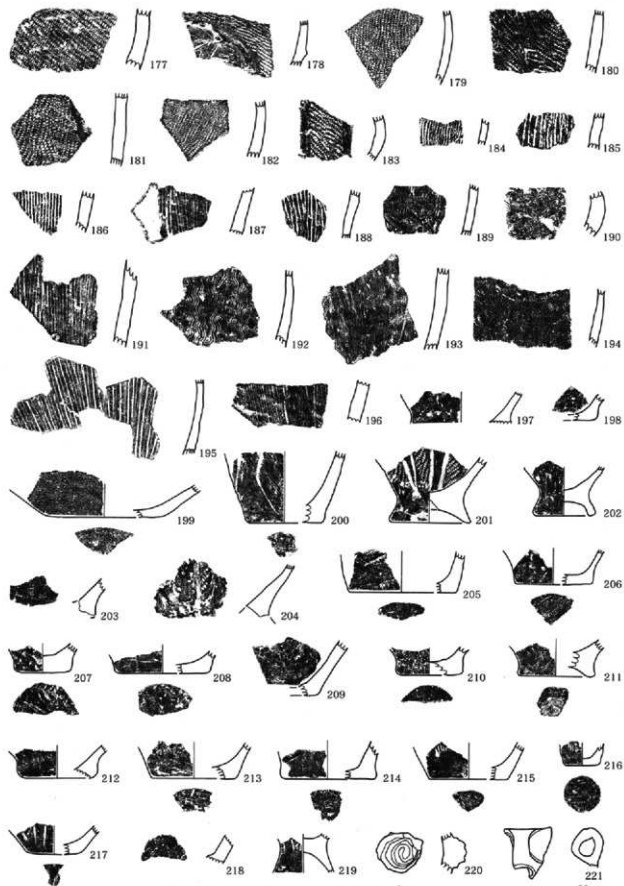
0 20cm

第4章 出土遺物



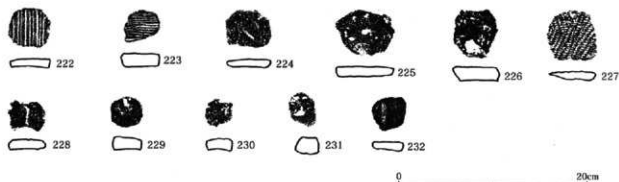
第189図 950グリッド出土土器(4)

0 20cm



第190図 950グリッド出土土器 (5)

第4章 出土遺物



第191図 950グリッド出土土器 (6)

II区950グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
230	土製円盤		にぶい黄褐色	10YR6/4	φ1~2ミリの小石	不良	—			無文。底部片転用。	950-000
231	土製円盤		赤褐色	2.5YR4/6	白色粒多い	不良	—			口縁突起を転用。	950-000
232	土製円盤		にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒	不良				全体に厚減。	950-895

II区955グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原休	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
1	深鉢	口縁	にぶい赤褐	2.5YR5/3	φ1ミリの小石、 金雲母	良	—	—	阿玉台	隆線による磨円区画。	955-000
2	深鉢	口縁	灰	7.5Y4/1	φ1~3ミリの小石 多い	不良	—	—	磨取	幅7~8ミリの爪形文が口縁に沿って施文される。	955-990
3	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの白色粒	良	—	—	磨取	隆線により文様帯を区画。太さ1ミリの沈線と、印刻による文様。	955-015
4	深鉢	口縁突起 起	にぶい赤褐	5YR5/3	φ1ミリの小石、 金雲母	良	—	—	阿玉台	ペン先状の刺突列を2列並列させ文様を描く。	955-000
5	深鉢	口縁	赤褐	2.5YR4/6	φ1~3ミリの小石、 金雲母	良	—	—	阿玉台	波状口縁頂部に突起。突起部から縦位に隆線が施文される。粘土の輪積み痕が残る。	955-030
6	深鉢	口縁	褐灰	10YR4/1	φ1ミリの小石、 金雲母	良	—	—	阿玉台	波状口縁頂部から隆線が垂下する。	955-020
7	深鉢	突起	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの白色粒、 金雲母	良	—	—	阿玉台	大波状口縁の突起部。縁に刻みを待つ。	955-980
8	深鉢	口縁	にぶい黄	7.5YR5/4	φ1~2ミリの小石	普通	—	—	阿玉台	幅5ミリの平行する押し引き文を横位に施文。	955-025
9	深鉢	把手	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	—	—	阿玉台	波状口縁把手。縁に刻みを持つ。幅3ミリの結節沈線が2条出る。中央部に透かしが付けられる。	955-980
10	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒、 金雲母	良	—	—	阿玉台	太さ4ミリの隆線が横位に区画し、磨円区画を作る。	955-025
11	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/6	φ1~3ミリの小石	良	—	—	阿玉台	隆線による磨円区画と、太さ2ミリの波状沈線が施文される。	955-025
12	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1~3ミリの小石	良	RL	横	磨取	太さ6~8ミリの隆線による文様区画。隆線に刻み施文。区画内は、幅4ミリの平行沈線と爪形文。	955-015
13	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1~2ミリの黒色粒	普通	LR	斜	磨取	太さ4ミリの沈線による文様施文。	955-020
14	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~3ミリの小石	不良	—	—	加曾利E	隆線と押し引きの沈線。	955-010
15	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの白色粒	不良	—	—	磨取	幅18ミリの爪形文が横位に施文される。	955-995
16	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの小石	良	—	—	—	太さ10ミリの隆線が縦位に施文される。隆線には指頭圧痕。浅く太い沈線が縦位に施文される。	955-015
17	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	φ1~3ミリの小石、 金雲母	普通	—	—	阿玉台	太さ5ミリの隆線による文様帯区画。隆線に沿って連続する爪形文。横位と縦位では施文方向を変えている。隆線状の文様帯では、平行沈線による磨円状の文。	955-975
18	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1~3ミリの白色粒、 金雲母	良	—	—	磨取	太さ5ミリの断面三角形になる隆線とそれに沿って押し引きの沈線が施文される。	955-995
19	深鉢	胴部	灰褐	5YR4/2	細かい砂粒	良	—	—	磨取	太さ10ミリの隆線が消色状に施文。隆線の上に刻みを施す。	955-975
20	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	白色粒	普通	—	—	—	太さ5ミリの隆線が垂下し、太さ1ミリの沈線が斜めに施文。	955-000
21	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	細かい砂粒	普通	—	—	磨取	幅4ミリの平行沈線と幅7ミリの爪形文による文様施文。文様の交点には三角の印刻が施文される。	955-005
22	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/3	φ1~3ミリの小石、 白色粒、 金雲母	良	—	—	阿玉台	隆線により口縁部文様帯を区画。隆線が口縁部に三角形の文様が作られる。隆線に沿って押し引きの沈線。胴部には、幅6ミリの平行沈線が波状文を施文。	955-990

第4章 出土遺物

II区955グリッド出土土器調査表

図版No	種類・部位	色調	記号	胎土	構成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
23	深鉢 胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1ミリの小石	良	RL		勝版	太さ5~6ミリの隆線と平行沈線による文様施文。隆線上に縄文施文。	955-020
24	深鉢 胴部	にぶい橙	7.5YR7/3	白色粒	不良	—		勝版	幅10ミリの爪形列と太さ3ミリの押し引きの沈線2列を並行施文。	955-000
25	深鉢 胴部	明褐	7.5YR5/6	細かい砂粒	良	—		勝版	太さ5~6ミリの隆線と太さ3ミリの沈線による文様区画。	955-995
26	深鉢 胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの小石	良	—		勝版	幅5ミリの平行沈線による縦線と爪形文。	955-000
27	深鉢 胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	砂粒、金雲母	良	—		阿玉台	太さ5~6ミリの隆線による貼り付け文と爪形文。沈線が施文。	955-000
28	深鉢 胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石、金雲母	良	—		阿玉台		955-005
29	深鉢 胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの小石、金雲母	良	—		阿玉台	太さ10ミリの隆線が弧を描く。隆線に沿って2列の割突。	955-975
30	深鉢 口縁	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~2ミリの小石、金雲母	良	—		阿玉台	隆線により口縁部文様帯と胴部を区画。口縁部文様には、帯円区画の隆線が施文。隆線に沿って押し引きの沈線。	955-045
31	深鉢 胴部	灰白	5Y8/1	細かい砂粒	普通	RL	縦	阿玉台	隆線と沈線による口縁部区画。	955-000
32	深鉢 胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~3ミリの小石	良	—		阿玉台	太さ10ミリの隆線を縦位に貼り付ける。幅5ミリの平行沈線で波状文を施文。	955-000
33	深鉢 口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒	良	—		II群	沈線により口縁部に帯円区画文様を描く。	955-000
34	深鉢 口縁	赤褐	5YR4/6	φ1~3ミリの小石	普通	—		I群	口縁に交互割突。	955-005
35	深鉢 胴部	黄灰	2.5Y4/1	φ1~2ミリの小石	普通	RL		加曾利E	太さ6ミリの波状沈線が弧を描く。	955-990
36	深鉢 胴部	明黄褐	10YR7/6	φ1~3ミリの小石	良	—			太さ6ミリの隆線による縦線。	955-980
37	深鉢 胴部	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒	良	LR		加曾利E	太さ15ミリの隆線と太さ3ミリの沈線で文様を描く。黒糸。	955-005
38	深鉢 胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~3ミリの小石、白色粒多い	普通	LR		I群	隆線による扇子状の文様。黒糸。	955-030
39	深鉢 胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石	不良	RL	横	II群	太さ10ミリの隆線で文様施文。	955-010
40	深鉢 口縁~胴部	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線3条で縦位に区画。	955-970
41	深鉢 胴部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~2ミリの小石	良	LR		II群	太さ4~5ミリの隆・沈線が横位に施文。黒糸。	955-980
42	深鉢 口縁	灰	7.5Y5/1	φ1~2ミリの小石	良	LR	横	II群	太さ4~6ミリの隆線を横位に貼り付ける。	955-020
43	深鉢 口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの黒色粒	良	RL		III群	太い隆線が口縁部に弧を描く。口縁部文様は、帯円・円形の区画。	955-015
44	深鉢 口縁	褐灰	10YR4/1	φ1~3ミリの小石	良	RL	横	加曾利E	太さ5~6ミリの隆線が帯円区画。隆線区画内に縄文が施文される。	955-010
45	深鉢 口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの小石	普通	LR	縦	加曾利E	太さ8ミリの沈線で帯円区画を作る。口唇部は横方向の丁字ナデ。	955-010
46	深鉢 口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~2ミリの白色粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ8ミリの沈線が口唇部に弧なり、無文帯と区画する。	955-025
47	深鉢 口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~2ミリの小石	良	LR	縦	IV群	太さ10ミリの隆・沈線による口縁部帯円区画と縦位に沈線が施文される。	955-975
48	深鉢 口縁	淡黄	2.5Y8/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	加曾利E	太い隆・沈線で口縁部文様区画。	955-980
49	深鉢 口縁	褐灰	7.5YR4/1	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL	横	加曾利E	太さ6ミリの隆・沈線による帯円区画と小渦巻文。口縁は、波状になり舌状の突起。	955-975
50	深鉢 口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	白色粒多い	普通	RL	斜	加曾利E	隆線による口縁部区画。	955-005
51	深鉢 口縁	橙	7.5YR6/6	白色粒	普通	—		加曾利E	沈線による文様施文。	955-005

日区955グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原形	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
52	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	—	—	加曽利E	太さ2ミリの沈線による方形の区画。区画内には、太さ1ミリ以下の細い沈線が斜めに充填される。	955-980
53	深鉢	口縁～胴部	陶灰	10YR4/1	φ1～3ミリの小石	普通	RL	斜	加曽利E	隆・沈線による槽口区画と小渦巻文。	955-975
54	深鉢	口縁	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒	良	RL	横	加曽利E	太さ12ミリの沈線が口縁部文様区画を作る。	955-000
55	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの砂粒	良	—	—	加曽利E	口縁部に深い沈線で槽口文様が施される。	955-015
56	両耳壺	把手	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの白色粒	良	—	—	加曽利E		955-020 槽状把手
57	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1～2ミリの小石	不良	—	—	加曽利E	隆・沈線による文様区画内。槽口区画には、条線が充填。	955-025
58	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	白色粒多い	普通	RL	縦	加曽利E	隆線と沈線による文様施文。	955-005
59	深鉢	胴部	赤陶	5YR4/6	φ1～2ミリの白色粒	良	RL	縦	加曽利E	太さ5～8ミリの隆線による横位区画。隆線には指頭圧痕。	955-995
60	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石	良	RL	縦	V群	太さ2～3ミリの沈線による文様区画。	955-035
61	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	LR	縦横	V群	太さ4ミリの隆線が口縁部に巡る。無文帯と区画する。太さ4ミリの沈線で槽口文を作り、無文帯と磨り消し無文帯を分ける。	955-030
62	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの小石、白色粒	不良	RL	縦横	V群	太さ5ミリの沈線が口縁部に巡り無文帯と区画する。	955-015
63	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの小石	良	LR	縦	V群1類	波状口縁で頂部から太さ5～6ミリの隆線が弧状に施文される。太さ3ミリの沈線で三角形の区画文。	955-015
64	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの小石多い	普通	RL	横	V群	太さ3～4ミリの沈線で方形区画。	955-000
65	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	φ1～2ミリの小石	普通	RL	縦横	V群	太さ4ミリの隆線により口縁部を無文帯と区画。太さ3ミリの沈線で文様帯を区画。	955-995
66	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1～3ミリの白色粒	良	—	—	V群	口縁部に隆起線が巡り、文様帯を区画する。	955-980
67	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの小石	不良	RL	縦横	V群	太さ5ミリの沈線が口縁部に巡り無文帯と区画する。	955-015
68	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	RL	縦	V群1類	太さ4ミリの沈線による槽口文様。無文帯は丁寧なミガキによる磨り消し施文。	955-010
69	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	良	RL	横	V群	太さ4ミリの沈線による文様施文。無文帯は、磨り消し施文。	955-030
70	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	黒色粒	普通	RL	横	V群	太さ5ミリの沈線による文様区画。	955-010
71	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/3	φ1ミリの黄色粒	普通	LR	斜	加曽利E	太さ6ミリの沈線による文様施文。	955-010 舌状突起
72	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの小石	不良	—	—	V群4類	内面に折り返して口縁を作っている。外面には、条線が引かれる。	955-005
73	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	砂粒多い	普通	RL	縦	V群	太さ4ミリの沈線を2本対にして縦位の区画。	955-010
74	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの小石	不良	—	—		無文。	955-990
75	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	黒色粒多い	不良	—	—	加曽利E	口縁部を沈線で区画。	955-975
76	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの白色粒	良	RL	横	V群	口縁部に微隆起線による区画。	955-055
77	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	白色粒	普通	RL	横	V群	太さ4ミリの沈線が口縁部に巡る。	955-000
78	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	黒色粒多い	普通	LR	縦	V群	太さ3ミリの沈線が口縁部に巡る。胴部には本葉状の文様。	955-975

第4章 出土遺物

II区955グリッド出土土器観察表

図版No	種類・器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
79	深鉢	口縁	ぶい・黄褐色	10YR6/4	黒色粒多い	普通	—	—	加曾利E	指頭による押圧で弧を描く。内面に縦位の彫形。	955-005
80	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒	普通	LR	横	VI群	口縁部に浅い沈線が走る。	955-030
81	深鉢	口縁	ぶい・橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの小石	普通	RL	横	VI群	口縁に太き10ミリの沈線が走る。	955-010
82	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	白色粒多い	不良	RL	横	VI群	口縁部に隆線による区画。	955-035
83	深鉢	口縁	浅黄褐色	10YR8/3	白色粒多い	良	LR	縦	VI群	口縁部に隆線が走り無文部と区画する。	955-980
84	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	黒色粒	不良	LR	縦	VI群	口縁部外側をわずかに凹ませ、口唇を肥厚させる。太き3ミリの沈線が弧を描く。	955-005
85	深鉢	口縁	灰黄褐色	10YR4/2	砂粒多い	普通	RL	斜	V群	口縁に1列にφ8ミリの円形刺突。太き3ミリの横円形が施文。	955-005
86	深鉢	口縁	黄灰	2.5Y4/1	砂粒	普通	RL	斜	V群	φ5~6ミリの横円形の刺突を口唇に沿って施文。	955-010
87	深鉢	口縁	ぶい・黄褐	10YR5/3	白色粒多い	良	RL	横	V群	口縁に2×5ミリの刺突列。太き3ミリの沈線による横円形区画。	955-005
88	深鉢	口縁	灰白	5Y7/2	φ1~3ミリの小石	不良	LR	横	V群	口縁下に爪形の刺突列。	955-000
89	深鉢	口縁	灰黄褐色	10YR6/2	細かい砂粒	良	RL	横	V群	口縁部に刺突列。	955-000
90	深鉢	口縁	灰黄褐色	10YR4/2	砂粒多い	普通	RL	縦	V群	太き4ミリの押し引きによる沈線。	955-010
91	深鉢	胴部	ぶい・黄褐色	10YR6/4	φ1~3ミリの小石	普通	LR	縦	加曾利E	太き8ミリの隆・沈線で渦巻を描く。	955-025
92	深鉢	口縁～胴部	ぶい・黄褐色	10YR7/3	φ1~2ミリの白色粒多い	普通	RL	縦	III群	隆線による口縁部横円形区画。それにつながる胴部へ太き18ミリの沈線が垂下する。	955-975
93	深鉢	突起	赤褐	5YR4/8	φ1~2ミリの小石	—	—	—	加曾利E	太い隆線を弧状に作る。口縁部突起。	955-970
94	両耳壺	把手	ぶい・黄褐色	10YR6/4	細かい砂粒	不良	LR	横	VI群		955-025 横状把手
95	両耳壺	口縁～胴部	橙	7.5YR7/6	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	VI群	口縁部を隆・沈線で区画する。区画内は、縄文が充填される。胴部は、平行沈線による条線が施文。	955-020
96	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	普通	RL	横	加曾利E	断面三角隆線による渦巻文。	955-025
97	深鉢	胴部	ぶい・橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの小石	普通	LR	横	加曾利E	太き4ミリの沈線で文様区画と波状の垂線。	955-010
98	深鉢	胴部	ぶい・黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太き4ミリの沈線を波状に垂下させる。	955-975
99	深鉢	口縁～胴部	ぶい・黄褐色	10YR7/3	φ1~3ミリの小石	良	RL	斜	加曾利E	断面三角の低い隆線による横円形区画。区画にない縄文が充填される。	955-025
100	深鉢	口縁	ぶい・黄褐色	10YR7/4	φ1ミリの白色粒。黒色粒	不良	RL	縦	加曾利E	隆・沈線による口縁部横円形区画。	955-995
101	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石	良	—	—	加曾利E	外面縦位のミガキ整形。	955-025
102	深鉢	胴部	灰白	2.5Y8/2	φ1~2ミリの小石	不良	RL	縦	VI群	断面の隆線と沈線による口縁部横円形区画。	955-000
103	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	白色粒	普通	RL	斜	VI群	太き3ミリの沈線で横円形区画文様を作る。	955-980
104	深鉢	胴部	ぶい・橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	不良	LR	縦	加曾利E	太き7ミリの浅い沈線により横円形区画を作る。	955-010
105	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/4	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	幅6ミリの平行沈線を縦位に施文。	955-975
106	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1~3ミリの小石	普通	LR	横	VI群	太き5ミリの沈線で縦位区画を作る。縄文は、腹部。	955-990
107	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	良	LR	縦	III群	太き5ミリの沈線による縦位区画と「J」状の文様。	955-010
108	深鉢	胴部	ぶい・橙	7.5YR7/6	黒色粒	良	RL	縦	加曾利E	太き8ミリの沈線による縦位区画。磨り消し施文。	955-035
109	深鉢	胴部	ぶい・黄褐色	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	良	RL	縦	加曾利E	太き4ミリの沈線により口縁部に横位区画と縦位の区画。	955-000

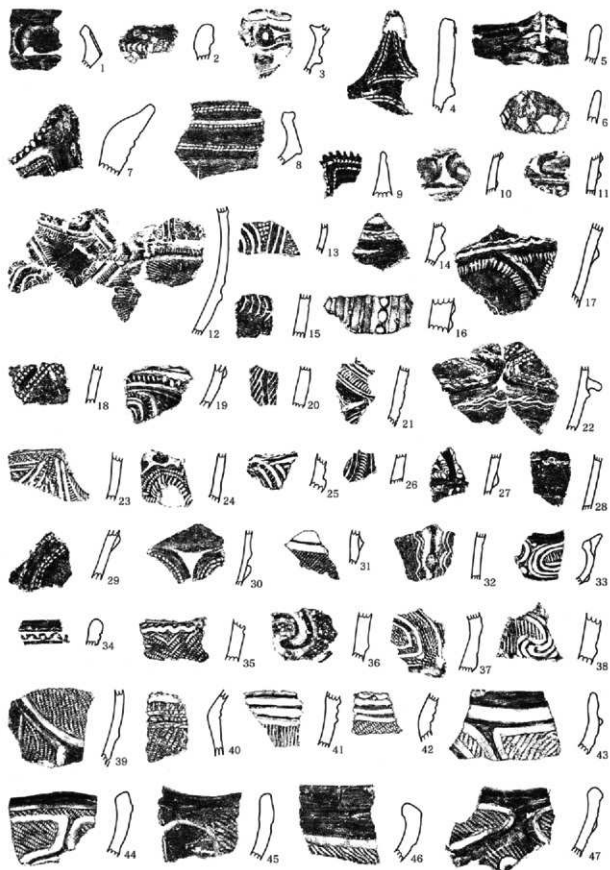
H区955グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
110	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ3~4ミリの隠線で「U」状の区画。区画内は、磨り消し施文。	955-015
111	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/4	細かい砂粒、黒色粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線2本が対になり縦線区画を作る。	955-990
112	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	—	—	加曾利E	幅7ミリの平行沈線による縦線区画。区画内に斜線が充填される。	955-985
113	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの白色粒	不良	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線が横円区画を作る。	955-015
114	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~2ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E	縄文原体は、0段多素。太さ6ミリの隠線が縦位に付けられる。	955-990
115	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y6/2	φ1~2ミリの小石、白色粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ7ミリの沈線による縦線区画。	955-975
116	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E	太さ5~8ミリの隠線2本が対になって縦線の区画。	955-010
117	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/8	φ1~2ミリの白色粒	不良	RL	縦	加曾利E	太さ2ミリの沈線が縦位に施文され無文帯区画を作る。	955-980
118	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線が縦位の区画。無文部は磨り消し施文。	955-010
119	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	φ1~2ミリの白色粒	普通	LR	縦	VI群	太さ5~6ミリの隠線で文様施文。	955-010
120	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR6/4	φ1ミリの小石	普通	RL	縦	VI群	太さ4ミリの沈線が横円区画。	955-005
121	深鉢	胴部	オリーブ黒	10Y3/1	φ1~2ミリの小石	良	RL	横	VI群	太さ15ミリの浅い沈線と細い縦線による縦線。	955-970
122	深鉢	胴部	浅黄褐色	10YR8/3	白色粒多い	不良	RL	縦	VI群	太さ5~6ミリの隠線による文様区画。	955-035
123	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1~3ミリの小石	普通	RL	縦	VI群	太さ6ミリの断面三角の隠線による文様区画。	955-030
124	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの小石	不良	RL	縦	VI群	太さ5~8ミリの隠線で文様を描く。	955-010
125	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石	良	RL	斜	VI群	太さ5ミリの沈線が染色状に施文。無文部は、丁寧なミガキによる磨り消し施文。	955-020
126	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	VI群	太さ2~4ミリの沈線が縦位に施文。	955-995
127	深鉢	胴部	明黄褐	10YR6/6	φ1~3ミリの小石	不良	RL	横	VI群	太さ7ミリの沈線による横円区画。	955-985
128	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	普通	RL	横	VI群	太さ3ミリの沈線が横円区画を作る。	955-015
129	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	φ1~3ミリの小石	良	RL	縦	VI群	太さ3ミリの沈線が「J」字文、波状の垂下する沈線文を描く。	955-000
130	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR6/4	白色粒多い	不良	RL	縦	VI群	隠線で弧を描く。	955-995
131	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/4	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	RL	縦	VI群	太さ6ミリの断面三角の隠線による文様区画。	955-030
132	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	VI群	太さ3ミリの沈線による横円区画。	955-005
133	深鉢	胴部	褐灰	7.5YR4/1	細かい砂粒、白色粒	良	RL	縦	VI群	5ミリの隠線で弧を描く。	955-975
134	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~2ミリの黄色粒	普通	LR	横	加曾利E	太さ1ミリの沈線による文様施文。	955-005
135	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/8	砂粒	良	RL			無文。	955-970
136	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/8	φ1~2ミリ小石	不良	LR			無文。	955-985
137	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/4	φ1~3ミリの白色粒	不良				全体に磨滅が多く文様が見えない。	955-980
138	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	黒色粒多い	不良	RL	縦	加曾利E	隠線による横円区画。	955-035
139	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	LR			無文。	955-995
140	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	不良	LR		加曾利E	無文がまばらに施文される。	955-015

第4章 出土遺物

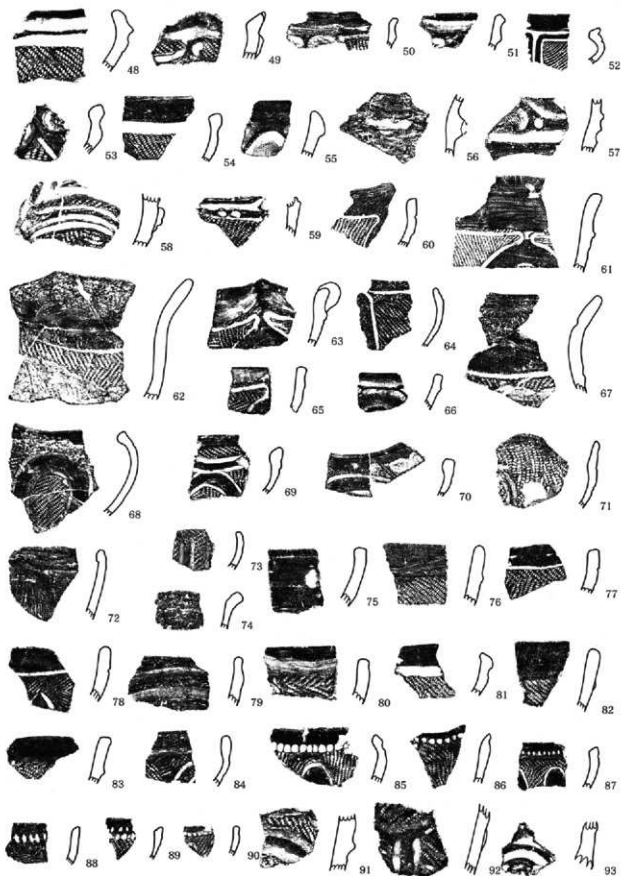
II区955グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 紋体 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考	
141	深鉢	胴部	灰褐色	5YR4/2	細かい砂粒	良	—	加曾利E	条線が弧状に施文される。	955-975	
142	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの小石	良	—	加曾利E	環状工具で間隔を開けた弧線文。	955-995	
143	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒	普通	—	加曾利E	太さ1~2ミリの沈線を縦位に施文。	955-000	
144	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~3ミリの小石、金粟母	普通	—	加曾利E	縦位方向のミガキ整形。	955-000	
145	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	細かい砂粒	不良	—	—	無文。	855-015	
146	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5Y5/4	φ1~3ミリの小石	普通	—	加曾利E	まばらな条線。	955-990	
147	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	白色粒多い	普通	RL	加曾利E	—	955-000	
148	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/4	細かい砂粒多い	普通	RL	縦	—	955-980	
149	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E	隆起線による縦位の区画。	955-975
150	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの小石	普通	RL	加曾利E	—	955-030	
151	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒多い	不良	LR	加曾利E	—	955-035	
152	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1ミリの白色粒多い	不良	LR	縦	加曾利E	—	955-015
153	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/4	細かい砂粒	不良	RL	縦	加曾利E	—	955-010
154	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	φ1~3ミリの小石多い	不良	—	—	全体に薄減しており文様が見えない。	955-015	
155	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	—	955-015
156	深鉢	胴部	明黄褐	10YR6/6	φ1~2ミリの小石	普通	LR	縦	加曾利E	太さ6ミリの沈線を縦位に施文し、区画する。	955-020
157	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	白色粒多い	良	RL	横	加曾利E	—	955-980
158	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの小石	普通	RL	横	加曾利E	—	955-035
159	深鉢	胴部→ 底部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの小石	良	LR	加曾利E	黒糸。	955-005	
160	深鉢	胴部→ 底部	にぶい黄褐色	10YR6/4	白色粒多い	普通	—	加曾利E	外面縦位のミガキ整形。	955-015	
161	深鉢	胴部→ 底部	にぶい黄褐色	10YR6/3	φ1ミリの砂粒	良	—	加曾利E	外面縦位のミガキ整形。	955-015	
162	深鉢	胴部→ 底部	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい白色粒	良	—	—	幅3ミリの平行沈線が縦位に施文される。縦位方向のミガキ整形。	955-000	
163	深鉢	胴部→ 底部	にぶい黄褐色	10YR7/4	黒色粒	良	—	—	—	955-985	
164	深鉢	胴部→ 底部	にぶい黄褐色	10YR7/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E	浅い沈線による縦位区画。区画内には横文施文。	955-015
165	深鉢	胴部→ 底部	にぶい褐	7.5YR6/3	白色粒多い	普通	—	—	外面縦位のミガキ整形。	955-000	
166	深鉢	胴部→ 底部	にぶい橙	7.5YR6/4	黒色粒多い	良	—	加曾利E	縦方向の整形。	955-035	
167	深鉢	底部	にぶい黄褐色	10YR6/3	φ1~2ミリの小石、白色粒	普通	—	加曾利E	—	955-025	
168	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの小石	普通	—	加曾利E	沈線による縦位の区画。	955-010	
169	深鉢	胴部→ 底部	橙	5YR7/6	白色粒多い	普通	—	—	縦位方向のミガキ整形。	955-980	
170	深鉢	底部	橙	5YR6/6	φ1~3ミリの小石、白色粒	普通	—	加曾利E	外面縦位のミガキ整形。上げ底になる。	955-015	
171	深鉢	底部	灰褐	5YR4/2	細かい砂粒	普通	—	加曾利E	—	955-975	
172	深鉢	底部	橙	5YR6/6	φ1ミリの白色粒	普通	—	加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。高台になる。	955-010	
173	深鉢	胴部→ 底部	橙	2.5YR6/6	φ1~2ミリの小石	良	RL	横	加曾利E	—	955-015
174	土製円盤	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの小石	不良	—	—	—	縁辺を打ち欠いて成形。	955-005	
175	土製円盤	赤	10R5/8	白色粒	普通	LR	横	—	太い隆線が弧状に施文される。	955-970	
176	深鉢	突起 口縁→ 胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒	良	—	称名寺	波状口縁の突起。	955-980	
177	深鉢	口縁→ 胴部	にぶい黄褐色	10YR7/4	φ1ミリ以下の黒色粒	良	RL	横	堀之内	口頸部に無文帯を持つ。胴部は、太さ3ミリの沈線が弧状に施文。	955-020
178	甕	底部	橙	5YR6/6	φ1~3ミリの小石	普通	—	土師器?	—	955-010	
179	甕	底部	浅黄	2.5Y7/3	φ1~3ミリの小石	普通	—	—	古式土師器底部。	955-005	
180	深鉢	底部	橙	5YR6/6	φ1~3ミリの小石	普通	—	加曾利E	高台。蓋の組み込みの可能性もある。	955-010	



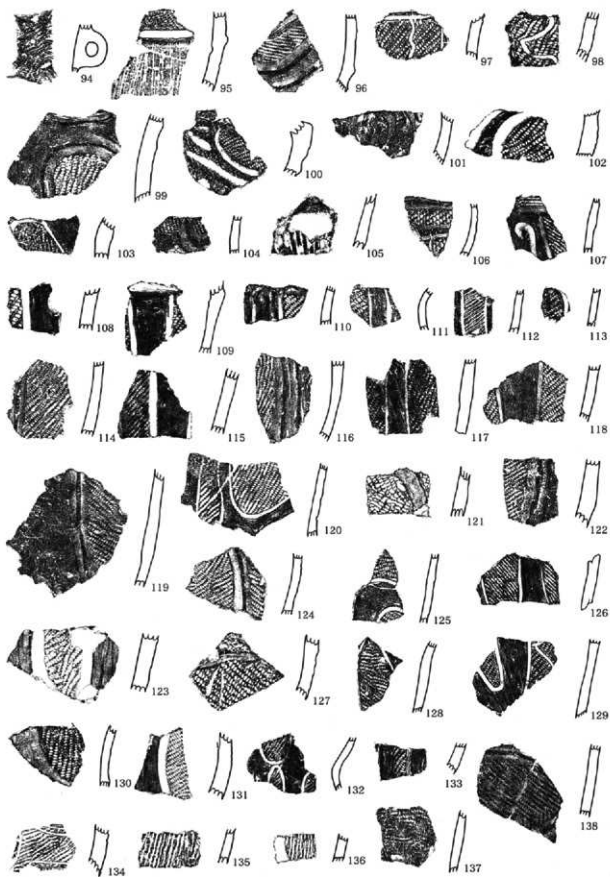
第192図 955グリッド出土土器(1)

0 20cm



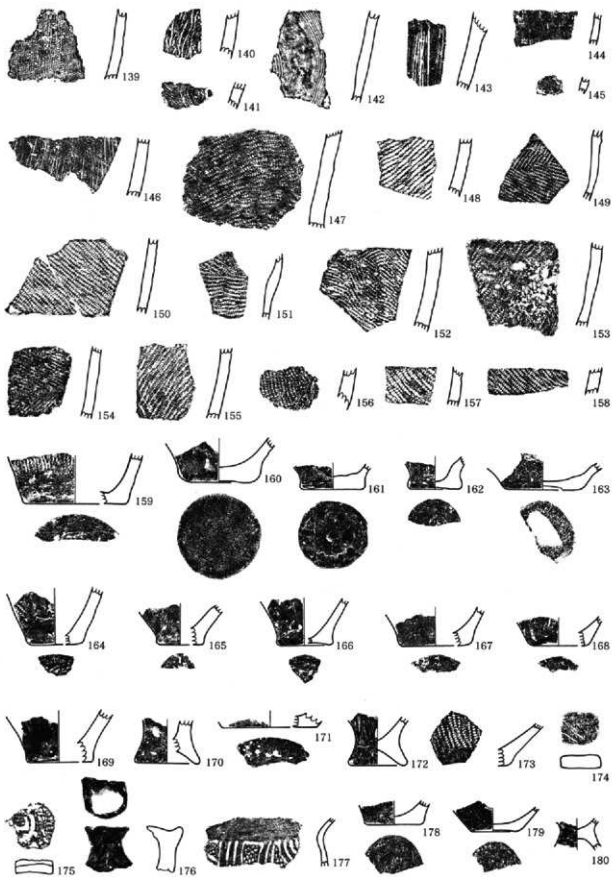
第193図 955グリッド出土土器(2)

0 20cm



第194図 955グリッド出土土器 (3)

0 20cm



第195図 955グリッド出土土器(4)

II区960グリッド出土土器観察表

図版No.	種類器種	部位	色調	記号	胎土	構成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
1	深鉢	口縁	暗赤褐	5YR3/6	細かい砂粒多い、雲母	良	—	—	磨版	口縁部に交互刺突による「コ」の字文が施される。口縁部には隠線が渦巻状に施文。	960-995
2	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~3ミリの小石	良	—	—	磨版	隠線で口縁部文様帯を方形に区画し、区画内には太き3~4ミリの沈線が充満。	960-995
3	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの黄色粒	良	—	—	磨版	無文外面横位のミガキ整形。	960-980
4	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	—	—	磨版	指頭圧痕を持つ隠線で口縁部文様を区画する。口縁部内には、帯形文や沈線による施文。	960-990
5	土製品		にぶい黄橙	10YR8/4	φ1~2ミリの白色粒	良	—	—	磨版	縁辺にベン先状の刺突列が2段施文される。	960-995
6	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの黄色粒	普通	—	—	磨版	幅7ミリの平行先状刺突と隠線による文様施文。	960-025
7	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	φ1~3ミリの白色粒	良	—	—	磨版	断面三角の隠線に幅10ミリの刷みが横行して施文される。	960-980
8	浅鉢	口縁	にぶい赤褐	2.5YR4/4	φ1~2ミリの白色粒、金雲母	良	—	—	磨版	外面横位のミガキ整形。	960-995
9	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの黒色粒	普通	—	—	磨版	幅8ミリの爪形文による施文。一部を印刷状に施文。	960-975
10	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR6/3	φ1~3ミリの小石	良	—	—	磨版	太い沈線による口縁部文様区画。	960-020
11	深鉢	口縁	にぶい赤褐	2.5YR5/4	細かい砂粒	良	—	—	磨版	幅5ミリの平行沈線が横位に施文される。	960-015
12	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/3	φ1~3ミリの小石	良	—	—	磨版	幅11ミリの平行沈線が横位に施文される。沈線内には、矢羽状の刷み。	960-995
13	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒多い	良	—	—	磨版	刷みの付いた隠線と沈線が弧状に施文される。	960-025
14	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒多い	良	—	—	磨版	隠線で円形の文様を描く。	960-980
15	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒、雲母	普通	—	—	磨版	幅8ミリの隠線が垂下する。それに並行して幅5ミリの平行沈線が施文される。	960-975
16	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい白色粒	不良	—	—	磨版	断面三角形の隠線と幅5ミリの刷み列で文様を作り、間にベン先状の刺突列が施文される。	960-000
17	深鉢	把手	褐	7.5YR4/4	φ1~3ミリの小石	良	—	—	磨版	大波状の把手、口唇部に刷みを持つ。	960-020
18	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの小石	良	RL	—	加曽利E	木目状彫赤文。円筒下層?彫赤。	960-000
19	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/3	φ1~3ミリの小石、金雲母	良	—	—	阿玉台	口縁に沿って押し引きの沈線が2条施文。口縁部文様帯には、波状に施文。	960-995
20	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの白色粒	良	—	—	阿玉台	口唇に刷みを持つ。口縁部には、櫛状工具による連続刺突。	960-970
21	深鉢	口縁突起	にぶい褐	7.5YR5/4	金雲母多い	良	—	—	阿玉台	波状口縁突起部、口唇部に刷みが施される。口縁部に平行沈線が波状に施文。	960-985
22	深鉢	口縁	褐	10YR4/4	φ1~3ミリの小石、金雲母	普通	—	—	阿玉台	太き5ミリの沈線と隠線による文様区画。	960-990
23	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	良	—	—	阿玉台	太き10ミリの隠線とそれに沿って押し引きの沈線が渦巻状に施文される。	960-005
24	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの小石、雲母	良	—	—	阿玉台	幅13ミリの半截竹管による文様施文。	960-980
25	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	砂粒、金雲母	普通	—	—	阿玉台	太き6ミリの隠線とそれに沿って押し引きの沈線が施文される。	960-995

第4章 出土遺物

II区960グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	彫文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
26	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの小石、 金雲母	良	—		阿玉台	大き7ミリの隆線による文様区画。 上部には、幅5ミリの平行沈線が 縦溝状に施文される。	960-985
27	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	φ1～3ミリの 小石、金雲母	良	—		阿玉台	大き6ミリの隆線が横位に回り、 文様帯を分ける。幅5ミリの平行 沈線を隆線に沿って押し引きして いる。上部には、逆弧状の施文。	960-995
28	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの 小石、金雲母	良	—		阿玉台	外面横方向の彫形。	960-985
29	深鉢	胴部～ 底部	にぶい赤褐	5YR5/3	φ1～3ミリの 白色粒、金雲母	良	—		阿玉台	縦位に指頭圧痕を持つ。粘土線を 貼り付けている。	960-995
30	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR4/2	φ1～2ミリの 白色粒多い	良	—		I群	太い隆線2条で口縁部に波状文を 施文。	960-020
31	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR6/4	黒色粒多い	普通	—		I群	隆線による円形の文様区画。	960-980
32	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの黄色 粒	普通	—		加曾利E	大き3～4ミリの隆線による文様区 画。	960-975
33	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～3ミリの 小石	良	—		阿玉台	幅10ミリの爪彫文が施文される。	960-995
34	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	LR		加曾利E	隆線が横位に回る。黒点。	960-000
35	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの黄色 粒	普通	RL	縦	加曾利E	頸部を大き2ミリの沈線で横位に 区画。	960-995
36	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/3	φ1～3ミリの 小石	普通	LR	横	加曾利E	大き4ミリの沈線が縦線を描くよ うに施文される。	960-995
37	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	φ1～3ミリの 小石	不良			加曾利E	大き8ミリの隆線による楕円区画。	960-000
38	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	φ1～2ミリの 白色粒	良			加曾利E	大き7ミリの沈線横位施文。沈線 内に割突。	960-010
39	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの 小石	良	—		加曾利E	大き12ミリの隆線が横位に施文さ れる。隆線区画に平行・直交する ように大き2ミリの沈線が彫かれる。	960-000
40	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	良	—		I群	幅5ミリの平行沈線による横位区画。 交互割突による連続「コ」字文。	960-975
41	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい黒色粒	良	RL	横	加曾利E	隆線による楕円区画。区画内を横 文が充填する。	960-990
42	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/8	φ1ミリの白色 粒多い	普通	—		加曾利E	浅い沈線が口縁部に横位に回る。 口縁部には縦線が施文される。	960-985
43	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～2ミリの 小石	普通	RL	横	加曾利E	太い沈線で口縁部を区画。	960-980
44	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒多い	普通	RL	横	II群	太い隆・沈線による楕円区画。楕 円区画の間には、φ15～17ミ リの円形押圧による凹み。	960-995
45	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	白色粒多い	普通	RL	横	加曾利E	口縁部に大き8ミリの隆線を挟む ように沈線が横位に施文される。	960-000
46	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの 小石多い	普通	—		加曾利E	隆線により文様区画が施文される。	960-985
47	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～3ミリの 小石、白色粒	普通	RL	横	加曾利E	大き5～6ミリの沈線2条による無 文帯。	960-980
48	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒	普通	RL	縦	VI群	大き4～6ミリの隆・沈線による楕 円文。	960-010
49	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	白色粒	良	RL	横	加曾利E	塊く太い沈線による楕円区画。	960-005
50	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR6/3	細かい砂粒	不良	RL	横	加曾利E	太い沈線が横位に回る。	960-010
51	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	φ1～2ミリの 小石	普通	—		加曾利E	太い隆線で文様を区画し、文様の 交点は、突起状になる。	960-000
52	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの 白色粒	普通	RL	縦	加曾利E	大き3～4ミリの沈線2条による磨 り消し縄文の無文帯で帯位の区画。	960-020

H区960グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
53	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	黒色粒多い	不良	RL	横	加曾利E	口縁部に沿って太さ12ミリの沈線が走る。	960-000
54	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	黒色粒多い	不良	RL	横	加曾利E	口縁部に沿って太さ12ミリの沈線が走る。	960-000
55	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい白色粒多い	普通	LR	縦横	加曾利E	太さ8ミリの沈線による横文文様区画で無文帯を区画する。	960-975
56	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1~3ミリの小石	不良	-	-	加曾利E	太さ2ミリの沈線で口縁部を区画する。	960-980
57	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	細かい白色粒	不良	LR	縦横	VI群	浅い沈線が口縁部を走る。無文帯を区画する。	960-975
58	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	白色粒多い	良	LR	縦横	VI群	太さ4ミリの沈線が横位に走り、口縁部無文帯を区画。	960-980
59	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	LR	縦横	VI群	口縁部に隆線と沈線が走り、無文帯と文様帯を区画する。文様帯は、より細い2ミリの沈線で弧状の文様を描く。文様内磨り消し施文。	960-025
60	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	LR	横	VI群	口縁部に太さ5ミリの沈線が走る。横位の沈線下には、「 \cap 」状の文様施文。	960-000
61	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	RL	横斜	VI群	太さ9ミリの浅い沈線が口縁部に走る。文様帯内は、弧状の文様を沈線で描く。磨り消し施文。	960-975
62	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	φ1~3ミリの小石	普通	-	-	VI群	断面三角の隙線による口縁部区画。無文帯を区画する。	960-015
63	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、黒色粒	良	RL	横	VI群	太さ8ミリの浅い沈線が口縁部に走り無文帯を区画する。	960-975
64	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL	縦	VI群	太さ3~4ミリの沈線と隆線が口縁部を走り無文帯を作る。太さ3ミリの沈線が文様区画する。	960-980
65	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	LR	VI群	太さ4~6ミリの隙線で方形に区画。施文。	960-005	
66	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの白色粒	普通	RL	横	VI群	太い隆・沈線による横位区画。	960-015
67	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石、白色粒	良	LR	横	加曾利E	口縁部無文帯。	960-010
68	深鉢	口縁	にぶい黄	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石	良	-	-	加曾利E	口縁部無文帯。	960-010
69	両耳壺	把手	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい白色粒	普通	LR	横	VI群		960-990 橋状把手
70	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒		RL	縦横	V群	太さ2ミリの沈線による弧状の文様。口縁部には、交互斜突列が2段施文される。	960-995
71	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	V群	口縁部にφ8ミリの円形の斜突列。口縁部には、太さ6ミリの沈線が「 \cap 」状に施文される。	960-000
72	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	白色粒多い	不良	-	-	V群4類	太さ2ミリの沈線をやや間隔を開けて垂線状に施文。	960-985
73	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	白色粒多い	不良	-	-	V群4類	太さ2ミリの沈線をやや間隔を開けて垂線状に施文。	960-985
74	深鉢	突起	にぶい黄橙	10YR7/4	白色粒	普通	RL	斜	加曾利E	波状口縁、突起部。	960-015
75	深鉢	突起	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	不良	RL	縦	加曾利E	波状口縁の突起。太い沈線。	960-980
76	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの小石、白色粒	普通	RL	縦	VI群	太さ6ミリの沈線による文様区画。磨り消し施文による無文帯。	960-975
77	両耳壺	把手	浅黄	2.5Y7/3	φ1ミリの白色粒	良	RL	横	V群		960-985 橋状把手
78	深鉢	胴部	にぶい黄	7.5YR7/4	φ1ミリの白色粒	良	LR	横	加曾利E	細い隙線で文様施文。	960-980
79	深鉢	把手	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	良	LR	斜	VI群2類	口縁部は無文であるが、把手下部付近の器面には縦文が施文。	960-995 橋状把手

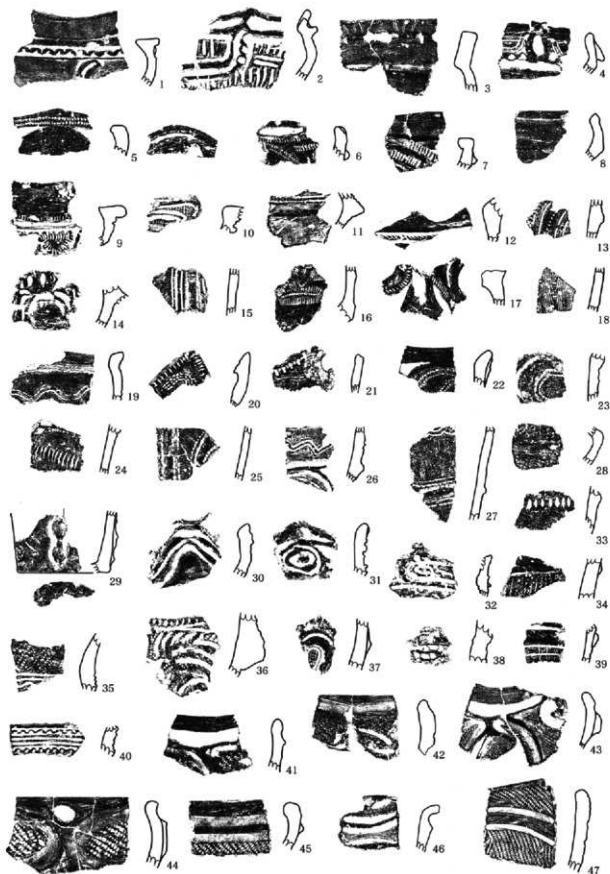
第4章 出土遺物

H区960グリッド出土土器調査表

図版No	種類図種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
80	深鉢	胴部	ぶい・黄緑	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画。	960-015
81	深鉢	胴部	ぶい・黄緑	10YR6/4	φ1~2ミリの白色粒	普通	LR	縦	加曽利E	太い横・沈線で口縁部、胴部文様帯を区画する。	960-990
82	深鉢	胴部	ぶい・褐	7.5YR6/3	φ1ミリの小石	普通	RL	縦	加曽利E	太さ6~8ミリの沈線による縦位区画。	960-020
83	深鉢	胴部	ぶい・黄緑	10YR7/3	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL	横	加曽利E	太さ7ミリの沈線による文様区画。	960-000
84	深鉢	胴部	ぶい・黄緑	10YR7/4	φ1~2ミリの白色粒	不良	LR	縦	加曽利E	隙線による文様施文。	960-980
85	深鉢	胴部	ぶい・黄緑	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ3ミリの沈線による文様区画。	960-000
86	深鉢	胴部	ぶい・黄緑	10YR6/4	細かい砂粒	良	RL	横	加曽利E	太さ3ミリの沈線が縦位に施文。	960-985
87	深鉢	胴部	ぶい・黄緑	10YR7/3	φ1ミリの白色粒	良	LR	縦	加曽利E	断面三角の隙線による縦位区画。	960-035
88	深鉢	胴部	ぶい・黄緑	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ4ミリの浅い沈線2本による無文部で縦位区画を作る。	960-990
89	深鉢	胴部	ぶい・橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ10ミリの沈線が2本対になり縦位の区画を作る。	960-000
90	深鉢	胴部	ぶい・黄緑	10YR7/3	砂粒	不良	LR	縦	加曽利E	太さ5ミリの沈線が縦位の区画を作る。磨り消し施文による無文部。	960-000
91	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの小石	普通	RL	縦	加曽利E	太さ3ミリの沈線が縦位区画。	960-005
92	深鉢	胴部	ぶい・褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石	普通	RL	縦	加曽利E	太さ5ミリの浅い沈線による縦位区画で無文部を作る。	960-000
93	深鉢	胴部	ぶい・黄緑	10YR7/3	細かい砂粒	不良	RL	縦	加曽利E	太さ4ミリの沈線による文様区画。	960-000
94	深鉢	胴部	橙	5YR7/6	細かい砂粒	不良	RL	縦	加曽利E	太さ5ミリの沈線が縦位に施文され、磨り消し施文による無文部を作る。	960-985
95	深鉢	胴部	浅黄緑	10YR8/4	細かい砂粒	不良	RL	縦	加曽利E	太さ1ミリの沈線による縦位の施文と磨り消し施文による無文部。	960-040
96	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/4	φ1~3ミリの小石	不良	LR	縦	加曽利E	太さ4ミリの沈線が縦位に施文され無文部区画を作る。	960-995
97	深鉢	胴部	ぶい・黄緑	10YR6/4	φ1~2ミリの小石	良	LR	縦	加曽利E		960-005
98	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	白色粒	良	RL	縦	加曽利E	太さ4ミリの沈線が縦位に施文される。	960-005
99	深鉢	胴部	ぶい・黄緑	10YR6/3	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曽利E	太さ4ミリの浅い沈線2本による無文部で縦位区画を作る。	960-990
100	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL	縦	加曽利E	隙線による縦位区画。	960-980
101	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曽利E	太さ5ミリの沈線が縦位に施文され無文部を作る。	960-025
102	深鉢	胴部	ぶい・黄緑	10YR7/4	細かい砂粒	不良	RL	縦	加曽利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画。	960-000
103	深鉢	胴部	ぶい・黄緑	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	VI群	断面三角の隙線による褐色文様。	960-015
104	深鉢	胴部	ぶい・黄緑	10YR7/3	細かい砂粒	普通	LR	縦	VI群	太さ10ミリの隙線が縦位に施文。	960-030
105	深鉢	胴部	ぶい・黄緑	10YR7/2	φ1~2ミリの小石、白色粒	普通	RL	斜	VI群	太さ6ミリの沈線が断門を隔く。	960-980
106	深鉢	胴部	ぶい・黄緑	10YR7/2	φ1~3ミリの小石、白色粒	普通	RL	縦	加曽利E	断面三角の隙線による縦位文様区画。	960-980
107	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	φ1~3ミリの小石	良	RL	縦	VI群	断面三角の隙線による文様区画。	960-015
108	深鉢	胴部	ぶい・褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	—	—	VI群	断面三角の隙線による褐色文。	960-015
109	深鉢	胴部	ぶい・黄緑	10YR6/4	φ1~3ミリの白色粒	良	LR	縦	加曽利E	太さ6~8ミリの沈線による文様区画。	960-010
110	深鉢	胴部	ぶい・黄緑	10YR7/3	白色粒	良	RL	縦	加曽利E	太さ3~4ミリの隙線による縦位の弧状になる文様が施文される。	960-055
111	深鉢	胴部	ぶい・黄緑	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	良	RL	縦	VI群	太さ2ミリの沈線が縦位の横間区画を作る。	960-000
112	深鉢	胴部	ぶい・橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石、黄色粒	良	RL	縦	VI群	太さ4ミリの沈線による文様区画。	960-980

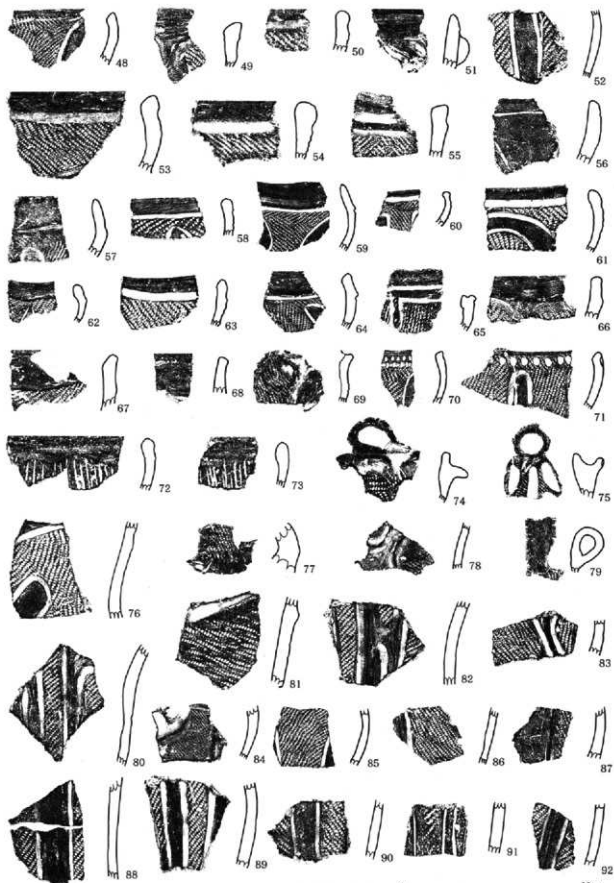
Ⅱ区960グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原体	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
113	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/4	細かい砂粒	不良	RL	縦	M群	太さ5ミリの沈線による弧線文。	960-045
114	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR6/3	φ1~3ミリの小石	良	RL	縦	M群	太さ3~4ミリの沈線による文様区画。	960-970
115	深鉢	胴部	にぶい褐色	7.5YR7/4	φ1ミリの砂粒	普通	RL	縦	M群	縦・沈線で文様を描く。	960-010
116	深鉢	胴部	褐色	7.5YR6/6	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL	縦	M群	太さ2ミリの沈線による文様施文。	960-985
117	深鉢	胴部	暗褐色	7.5YR3/4	φ1~2ミリの小石	良	LR		加曾利E	擦糸。	960-985
118	深鉢	胴部	褐色	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石	良	LR		加曾利E	間隔を開けて擦糸文施文。	960-990
119	深鉢	胴部	にぶい赤褐色	5YR5/4	φ1~2ミリの小石	良	RL		加曾利E	擦糸。	960-035
120	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR6/3	細かい砂粒	良	—		雑群4類	細い条線が6~8本単位で縦位に施文される。	960-010
121	深鉢	胴部	浅黄褐色	10YR8/3	細かい砂粒	不良	—		雑群4類	幅2~3ミリの平行沈線が条線状に施文される。	960-000
122	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	φ1~3ミリの小石多い	良	—		雑群4類	太さ1ミリ以下の細い沈線で条線を施文。	960-035
123	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	φ1ミリの白色粒	良	—		雑群4類	太さ1ミリ以下の沈線を密にして条線を引いている。	960-035
124	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR6/3	細かい白色粒	良	LR	縦	加曾利E	縄文を帯状に施文。	960-010
125	深鉢	胴部	淡黄	2.5YR/3	φ1~2ミリの黒色粒	普通	LR	縦	加曾利E		960-975
126	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/4	φ1~2ミリの黒色粒	普通	LR	縦	加曾利E		960-975
127	深鉢	胴部	黒褐色	10YR3/1	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	加曾利E		960-980
128	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR5/3	白色粒	普通	LR	斜	加曾利E	縄文が帯状に施文。隆帯圧痕文土器。	960-025
129	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/4	細かい白色粒	良	RL	斜	加曾利E	厚底0段多条。	960-025
130	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	2.5Y6/3	細かい白色粒	良	RL	横	加曾利E	縦の隆線による文様区画。	960-990
131	深鉢	胴部	淡黄	2.5YR/3	細かい黒色粒	不良	RL	縦	加曾利E		960-975
132	深鉢	胴部	明赤褐色	5YR5/6	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E		960-005
133	深鉢	胴部	明赤褐色	5YR5/6	φ1ミリの小石	普通			加曾利E	太さ1ミリの細い沈線が縦位に施文。	960-985
134	土製円盤		明赤褐色	5YR5/6	細かい砂粒	良	LR		加曾利E	縁辺を打ち欠いて成形。擦糸。	960-055
135	深鉢	胴部~ 底部	浅黄褐色	10YR8/4	φ1~3ミリの小石	—			加曾利E	無文。表面にφ2~3ミリの割罫施文。	960-975
136	土製円盤		褐色	7.5YR6/6	φ1~2ミリの白色粒	良	—		阿玉台	隆線と爪形文施文。	960-970
137	土製円盤		にぶい褐色	7.5YR5/4	φ1~2ミリの黄色粒	普通	—		加曾利E	底部を転用。	960-000
138	土製円盤		褐色	5YR6/6	細かい砂粒	良	—			表面割罫。底面片を利用。	960-030



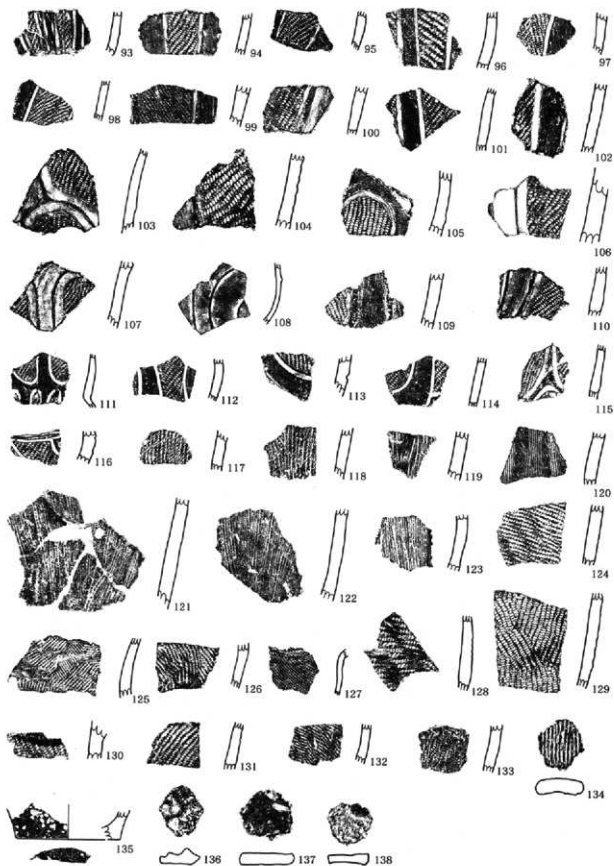
第196図 960グリッド出土土器 (1)

0 20cm



第197図 960グリッド出土土器 (2)

0 20cm



第198図 960グリッド出土土器(3)

0 20cm

II区965グリッド出土土器調査表

回数No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置
1	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/4	細かい砂粒	良	LR		前期	黒糸文横位に施文。口縁部に施み。	965-035
2	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR6/3	細かい砂粒	良			前期	結節状文で結節部以外は押圧が弱く原形が見えない。	965-975
3	深鉢	胴部	暗褐色	10YR3/3	φ1ミリの小石	良	RL	横	前期末	結節状文による縦線り文。	965-010
4	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR4/3	細かい砂粒	普通	LR	縦	前期末	縦線り文。	965-000
5	深鉢	胴部	にぶい褐色	5YR6/4	細かい砂粒	良	-		勝取	波状口縁把手。	965-030
6	深鉢	突起	黒褐色	10YR3/2	細かい砂粒、金雲母	普通			勝取	口縁部反環状の突起。	965-970
7	深鉢	口縁	にぶい赤褐色	5YR5/4	砂粒多い	良			勝取		965-980
8	深鉢	口縁	褐色	7.5YR4/4	黒色粒	普通	-		勝取	太き3ミリの沈線。	965-025
9	深鉢	胴部	赤褐色	5YR4/6	φ1-2ミリの小石、雲母	良	-		勝取	隆線による文様区画。	965-995
10	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/4	φ1-2ミリの小石	良	-		勝取	隆線による横位区画。上部は、波状の沈線。	965-030
11	深鉢	口縁	赤褐色	2.5YR4/6	φ1-2ミリの砂粒、靱石粒	普通	RL	縦	勝取	幅10ミリの隆帯による横位区画。弧線状区画。さらに幅4ミリの隆起線による方形区画。	965-970
12	深鉢	口縁	にぶい褐色	7.5YR5/4	砂粒、金雲母	普通	-		阿玉台	隆線の両側に連続する割突列。	965-000
13	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR6/4	白色粒	不良	-		勝取	太き2ミリの沈線による方形区画。区画内には、斜線が施文される。	965-995
14	深鉢	胴部	褐色	7.5YR4/1	φ1ミリの白色粒、雲母	良	-		阿玉台	隆線施文。地文に幅3ミリの平行沈線施文。	965-985
15	深鉢	胴部	にぶい褐色	5YR6/4	金雲母	普通	-		阿玉台	隆線による「Y」字文。半截竹管による爪形文が隆線に並行する。	965-000
16	深鉢	口縁	にぶい褐色	7.5YR7/4	φ1ミリ黒色粒	不良	-		阿玉台	隆線による「Y」字文様。	965-040
17	深鉢	突起	にぶい褐色	7.5YR6/3	φ1-2ミリの小石、金雲母	不良	-		阿玉台	波状口縁。隆線による突起。押し引きの沈線。	965-980
18	深鉢	胴部	にぶい赤褐色	10YR5/4	φ1-3ミリの小石	良	-		阿玉台	幅2ミリの平行沈線を集合化させた文様施文。	965-995
19	深鉢	胴部	灰黄褐色	10YR5/2	φ1ミリの小石、雲母	良	-		阿玉台	隆線と押し引きによる沈線。	965-995
20	深鉢	胴部	にぶい赤褐色	5YR4/4	φ1-2ミリの小石	良	-		勝取	太き4-6ミリの隆線が横位に広がる。キョタピラー文が施文。	965-985
21	深鉢	胴部	にぶい赤褐色	5YR4/4	φ1-2ミリの小石	良	-		勝取	隆・沈線で方形区画。区画内にキョタピラー文が施文。	965-990
22	深鉢	胴部	褐色	7.5YR4/3	細かい砂粒	良	-		勝取	キョタピラー文とベン先状割突による施文。	965-990
23	深鉢	胴部	にぶい褐色	5YR6/4	細かい砂粒	普通			勝取	幅6ミリの平行沈線。沈線に合うようにベン先状の割突を施文。	965-985
24	深鉢	胴部	にぶい褐色	7.5YR5/4	φ1-2ミリの小石	良	-		勝取	太き1ミリの沈線を3本にして波状に施文。	965-990
25	深鉢	胴部	にぶい褐色	7.5YR5/4	φ1ミリの小石	普通	-		勝取	太き2ミリの沈線と爪形による文様。	965-995
26	深鉢	胴部	赤褐色	5YR4/6	細かい砂粒	良	-		阿玉台	幅4ミリの平行沈線が弧状に施文。	965-995
27	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒、雲母	普通	-		阿玉台	幅7ミリの爪形列。	965-980
28	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR6/3	金雲母	良	-		阿玉台	隆線と押し引き沈線による文様。	965-995
29	深鉢	胴部	にぶい褐色	7.5YR7/4	φ1-3ミリの小石多い	普通	-		阿玉台	キョタピラー文。	965-030
30	深鉢	胴部	にぶい赤褐色	10YR5/4	φ1-2ミリの小石、雲母	普通	-		阿玉台	キョタピラー文による弧状の施文。割突状になる平行沈線。	965-995
31	深鉢	口縁	灰黄褐色	10YR4/2	砂粒	良	-		I群	隆線による文様。	965-035
32	深鉢	口縁	にぶい赤褐色	2.5YR5/3	φ1ミリの小石	普通	RL	縦	II群	太い隆線による横位区画と渦巻文。	965-020

第4章 出土遺物

II区965グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
33	深鉢	口縁	灰褐色	7.5YR4/2	φ1~2ミリの小石	普通	—	—	加曾利E	口縁部に隆起線が通る。太く浅い沈線が弧を描く。	965-985
34	深鉢	口縁	にぶい褐色	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	—	—	—	外面に筋みを付す隆線。	965-995
35	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/4	φ1ミリの砂粒	普通	RL	横	Ⅲ群2類	太さ10ミリの隆線による口縁部文様槽内区画。	965-000
36	深鉢	把手	にぶい黄褐色	10YR6/3	砂粒	普通	RL	横	Ⅲ群1類	波状口縁。隆・沈線による文様。	965-035
37	深鉢	口縁	灰白	5Y8/2	φ1~2ミリの小石	普通	LR	横	Ⅲ群	太い隆線による槽内区画。	965-005
38	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	普通	—	—	Ⅳ群4類	口縁部に幅8ミリの渦巻状沈線。ヘラ状工具による縦位の沈線。	965-965
39	深鉢	口縁	にぶい褐色	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石	普通	RL	斜	加曾利E	隆起線で口縁部無文帯を区画。口縁部には槽内区画を作る。	965-970
40	深鉢	口縁	にぶい褐色	7.5YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E	幅8ミリの沈線による文様区画。	965-965
41	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	白色粒多い	良	—	—	加曾利E	隆線による曲線。	965-995
42	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	普通	RL	斜	Ⅲ群	隆線による曲線。	965-995
43	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒多い	不良	RL	横斜	Ⅵ群	太さ3ミリの沈線による槽内区画。	965-980
44	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	太さ5ミリの隆線による幅内横位区画。	965-965
45	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	φ1ミリの白色粒	普通	RL	横	加曾利E	太い隆線による槽内区画。	965-015
46	深鉢	口縁	褐色	10YR4/1	φ1ミリの小石	良	RL	縦	Ⅳ群	隆線と沈線による槽内区画。	965-015
47	深鉢	口縁	にぶい褐色	7.5YR7/3	φ1ミリの砂粒	普通	—	—	加曾利E	太い隆帯に突起が付けられ横位区画する。区画下は、太さ4ミリの沈線による弧線。磨上式。	965-975
48	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	φ1ミリの白色粒	不良	—	—	加曾利E	波状口縁の頂部。隆・沈線で文様を描く。	965-975
49	深鉢	口縁	にぶい褐色	7.5YR6/4	黒色粒	普通	RL	横	Ⅵ群	太さ5ミリの隆線による文様区画。	965-985
50	深鉢	口縁	にぶい黄	2.5Y6/3	φ1~2ミリの小石	良	RL	縦	Ⅵ群	太さ6ミリの沈線で文様を区画。口縁部区画は、隆・沈線による。	965-990
51	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR6/4	φ1~3ミリの小石	普通	LR	横	Ⅵ群	太さ2ミリの沈線で口縁を区画する。	965-035
52	深鉢	口縁	灰黄褐色	10YR6/2	細かい砂粒	普通	LR	横	Ⅵ群	口縁部に太さ4ミリの沈線が通る。	965-025
53	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR6/4	細かい砂粒	良	RL	縦	Ⅵ群	太さ3~5ミリの沈線による文様。波状口縁。舌状突起	965-015
54	深鉢	口縁	にぶい褐色	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	RL	縦横	Ⅵ群	太さ7ミリの沈線による口縁部区画。	965-990
55	深鉢	口縁	にぶい褐色	7.5YR6/4	黒色粒多い	普通	LR	縦横	Ⅵ群	太さ2ミリの沈線が口縁部に通る。胴部は、沈線が2本対になり渦巻状になる。無文帯は磨り消し織文。	965-020
56	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	φ1ミリの白色粒	良	RL	横	Ⅵ群	太さ5ミリの沈線による文様区画と突起。	965-975
57	深鉢	口縁	オリーブ黒	7.5Y3/1	φ1ミリの白色粒、黒色粒	普通	RL	横	Ⅵ群	太さ5~8ミリの沈線により、口縁部槽内文様に区画。	965-020
58	深鉢	口縁	にぶい褐色	7.5YR6/3	φ1ミリの小石	普通	LR	横	Ⅵ群	口縁に太さ2ミリの沈線が通る。	965-040
59	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/2	φ1ミリの白色粒	良	RL	横	Ⅵ群	太さ4ミリの沈線が口縁に通る。	965-975
60	深鉢	口縁	灰	7.5Y4/1	φ1ミリの白色粒	普通	RL	横	Ⅵ群	口縁部に太さ6ミリの沈線が通る。	965-000
61	深鉢	口縁	明褐色	7.5YR5/6	黒色粒	普通	RL	横	Ⅵ群	口縁に沈線が通らず無文帯と区画する。	965-995
62	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y7/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	Ⅵ群	口縁部無文帯横位の整形。	965-965
63	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	縦横	Ⅵ群	口縁部横位の整形。幅16ミリの盛り状の突起。	965-965
64	深鉢	口縁	黄灰	2.5Y5/1	φ1~2ミリの小石	不良	RL	横	Ⅵ群	口縁部に隆起線が通る。	965-000

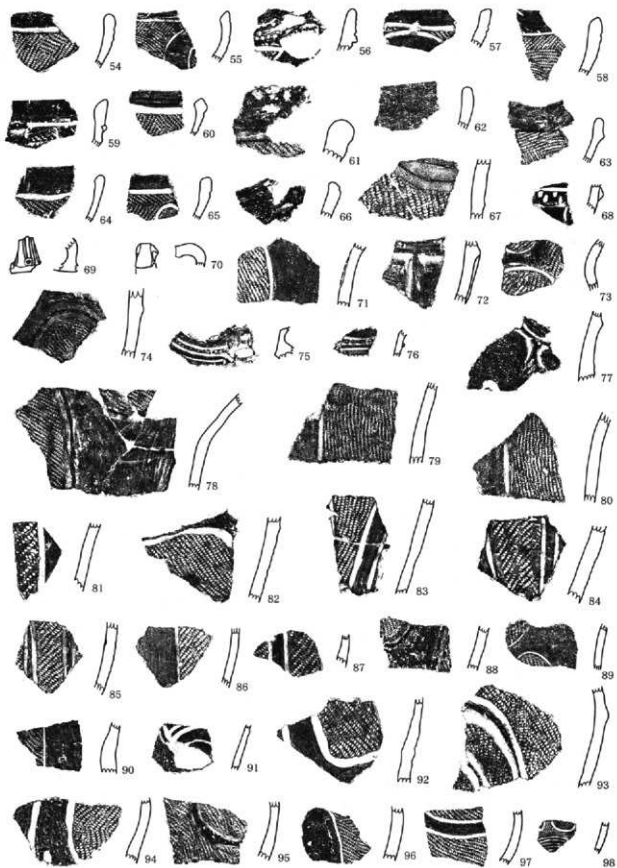
Ⅱ区965グリッド出土土器観察表

図案 No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 彫体	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
65	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦 横	V群	口縁部に5ミリの沈線が彫る。胴部は、太さ4ミリの沈線で文様帯を区画。	965-020
66	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/3	φ1~2ミリの小石	良	—	—	加曾利E	横位の帯形肌。	965-030
67	深鉢	胴部	灰青	7.5YR5/2	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ3ミリの隆起線による弧線区画。	965-965
68	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	太さ10ミリの隆起線による横位区画。隆起線には交互の筋み。	965-030
69	注口	把手	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	—	—	加曾利E	—	965-995
70	両耳甕	把手	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	—	—	加曾利E	無文。	965-995 965-995 横状把手
71	深鉢	胴部	褐灰	10YR4/1	細かい白色粒	普通	LR	縦	V群	太さ4ミリの沈線による帯形区画。無文部上下方向のミガキによる磨り消し肌文。	965-040
72	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/3	細かい砂粒	普通	RL	横	加曾利E	太さ6ミリの隆起線による方形区画の区画。	965-970
73	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による弧線状区画。	965-965
74	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	RL	縦 斜	V群	太さ3ミリの隆起線による帯形区画。	965-965
75	注口	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの小石	良	—	—	加曾利E	筋みを持つ隆起線と沈線。把手が付く。	965-995
76	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	LR	—	加曾利E	太さ2~3ミリの沈線が横位に施文。	965-995
77	深鉢	胴部	黄黄	2.5YR3/3	白色粒	普通	RL	横	加曾利E	隆起線による文様区画。	965-000
78	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石、黒色粒	普通	LR	縦	V群	太さ5ミリの隆起線による帯形区画。	965-020
79	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	V群	太さ4ミリの隆起線による縦位区画。	965-965
80	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ5ミリの隆起線による縦位区画。	965-965
81	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒多い	良	RL	縦	加曾利E	太さ6ミリの沈線による文様区画。	965-980
82	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E	隆・沈線による文様区画。	965-000
83	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ6ミリの沈線2本対になり弧を描く。	965-020
84	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線2本対になる縦位区画。	965-020
85	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。	965-970
86	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	965-970
87	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ3~4ミリの沈線を2本対にした縦位の区画。	965-005
88	深鉢	胴部	にぶい黄	2.5Y6/3	白色粒多い	普通	RL	—	加曾利E	隆起線による高倉文。	965-010
89	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	V群	太さ3ミリの沈線による弧状の区画。無文部磨り消し肌文。	965-970
90	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	φ1ミリの小石	良	LR	縦	加曾利E	太さ2ミリの沈線による縦位区画。	965-000
91	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	砂粒、金賞母	良	—	—	加曾利E	隆起線と魚鱗状に引かれる沈線。	965-000
92	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	横	V群	太さ10ミリの沈線による方形区画。	965-000
93	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1ミリの小石	普通	RL	横	V群	太さ5~10ミリの隆起線による高倉文。	965-000
94	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	普通	RL	—	V群	太さ5ミリの沈線による帯形区画。	965-000
95	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	V群	太さ6~7ミリの隆起線による帯形区画。	965-970
96	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR8/4	φ1ミリの小石	普通	LR	—	加曾利E	太さ4ミリの沈線による帯形区画。無文部磨り消し肌文。	965-025
97	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	白色粒多い	普通	RL	横	V群	太さ3ミリの沈線を2本対にして文様を描く。	965-005
98	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	LR	縦	V群	太さ2~3ミリの沈線による弧線。	965-995
99	深鉢	胴部	灰黄青	10YR5/2	φ1~3ミリの小石	不良	—	—	V群4類	帯形の条線。	965-020
100	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒	普通	RL,R	縦	加曾利E	—	965-970



第199図 965グリッド出土土器 (1)

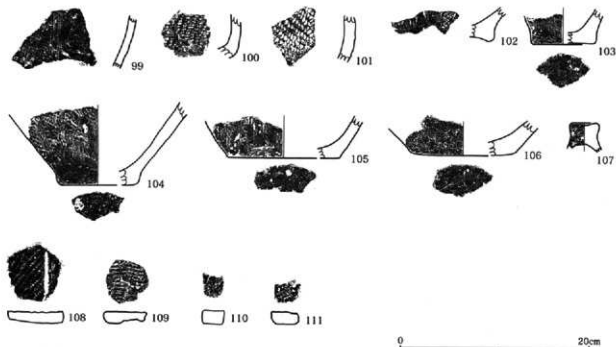
0 20cm



第200図 965グリッド出土土器(2)

0 20cm

第4章 出土遺物



第201図 965グリッド出土土器 (3)

日区965グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原形	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置備考
101	深鉢	胴部	にぶい赤褐色	5YR4/4	φ1~2ミリの小石	良	RL	横	加曾利E		965-970
102	深鉢	底部	にぶい黄褐色	10YR7/4	φ1ミリの小石	良	RL	縦	加曾利E	底部、上げ底になる。	965-975
103	深鉢	胴部~底部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通			加曾利E	底部側面ミガキによる雲形。	965-965
104	深鉢	胴部~底部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	-		窪群4類	幅9ミリの棒状工具による縦位の波状沈線。	965-970
105	深鉢	胴部~底部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	やや不具	-		加曾利E	縦位の条線。	965-970
106	深鉢	胴部~底部	橙	2.5YR6/8	細か4砂粒	普通			加曾利E		965-970
107	蓋	握み	灰白	2.5Y8/2	φ1~2ミリの小石、黒色粒	不良			加曾利E		965-005
108	土製円盤		にぶい黄褐色	10YR7/4	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL		加曾利E	太さ3ミリの沈線が垂下する。	965-995
109	土製円盤		にぶい黄褐色	10YR7/3	細か4砂粒、軽石粒	普通			加曾利E	縁辺を打ち欠いて成形。	965-970
110	土製円盤		にぶい赤褐色	5YR5/4	細か4砂粒	普通			加曾利E		965-970
111	土製円盤		明褐	7.5YR5/6	細か4砂粒	普通			加曾利E		965-995

H区970グリッド出土土器観察表

図版No	種類・部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
1	深鉢	口縁	赤褐	2.5YR4/6	φ1~2ミリの小石	普通		磨取	横位の彫形。	970-010
2	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/3	φ1~2ミリの砂粒	良		磨取	太さ7ミリの沈線による渦巻状区画。	970-025
3	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR6/4	細かい砂粒、角閃石	普通		磨取	太さ3ミリの横・縦位の沈線による方形区画。区画内を1ミリの沈線が斜位に充填される。	970-980
4	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	φ1~2ミリの小石、金雲母	良		磨取	口縁部半蔵竹管による太さ1ミリの刻み列。下部に竹管による横・斜位の平行沈線。	970-980
5	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/4	細かい砂粒	普通		磨取	太さ3ミリの丸い棒状工具による押し引き沈線。	970-980
6	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	普通		磨取	口縁部太さ7ミリの隆線が横位に延る。下部に半蔵竹管により長さ17~18ミリの鋸歯状の平行沈線と刻み列。	970-980
7	深鉢	把手	にぶい黄褐	10YR6/4	細かい砂粒	普通	一	阿玉台	環状の把手で太さ5ミリの隆線と幅4ミリの刻み列による区画。	970-995
8	深鉢	突起	赤褐	5YR4/8	細かい砂粒、金雲母	良		阿玉台	環状突起。へう状工具による棒状の刺突文。	970-005
9	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR6/4	細かい砂粒、金雲母	普通		阿玉台	竹管による幅3ミリの刻み列。	970-980
10	深鉢	口縁	にぶい黄	2.5YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	普通		阿玉台	太さ10ミリの隆線による横位区画。ペン先状工具による横位の2列の結節沈線。	970-995
11	深鉢	口縁	黒褐	7.5YR3/2	φ1~2ミリの軽石、金雲母	普通		阿玉台	幅8ミリの隆線状突起を貼り付ける。半蔵竹管による結節浮線。	970-020
12	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの小石、金雲母	普通		阿玉台	半蔵竹管による結節沈線で渦巻きを描く。	970-980
13	深鉢	胴部	にぶい黄	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	一	磨取	幅2ミリの平行沈線による楕円区画。区画内に楕円状の突起を貼付。突起面にペン先状の刺突列。	970-980
14	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/8	細かい砂粒、軽石粒	良		五個ヶ倉	太さ3ミリの横位隆線区画。へう状工具による縦位の連続沈線。	970-005
15	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~2ミリの小石	良	RL 横	磨取		970-000
16	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/4	細かい砂粒	良	一	磨取	口縁部幅7ミリの爪形の刻み列による三角モチーフの文様。内側をペン先状工具により連続刺突。	970-980
17	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/6	細かい砂粒	普通		磨取	窪み沈線による波状文。縦位に刻みを入れる。	970-975
18	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの小石、軽石粒	普通	一	磨取	幅3ミリの平行沈線2列の縦・横位の区画。内側を半蔵竹管で爪形の刻み列。	970-000
19	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/6	φ1ミリの小石、軽石粒	良	一	磨取	太さ1ミリの沈線3条による文様施文。沈線に沿って爪形文。	970-000
20	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒、金雲母	普通	一	磨取	太さ2ミリの縦位の沈線と太さ21ミリの横位の沈線列の中を幅1ミリの沈線が充填。	970-000
21	深鉢	突起	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒、軽石粒	良	一	磨取	太さ10ミリの隆線に刻み列を施文し、環状の隆線を貼り付ける。その外側は沈線を巡らす。	970-000
22	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/4	φ1ミリの小石、軽石粒	普通		磨取		970-980
23	深鉢	突起	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒、軽石粒	良	一	磨取	縦位のミガキ彫形。環状隆線に刻み列を施す。	970-990
24	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	細かい砂粒	普通		磨取	平行沈線と太さ5ミリの隆線による横位区画。	970-005

第4章 出土遺物

II区970グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 彫体	彫文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 番号
25	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/6	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	—	—	阿玉台	太さ6ミリの隆線による横位区画。へう状工具による波状の押し引き文。ヘン先状工具による弧状の押し引き文。	970-000
26	深鉢	胴部	橙	5YR6/8	細かい砂粒、金雲母	普通	—	—	阿玉台	半截竹管による結節浮線文。太さ7ミリの隆線による区画。	970-005
27	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒	普通	—	—	阿玉台	幅2ミリの平行沈線区画による横位区画。	970-980
28	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒、金雲母	普通	—	—	阿玉台	太さ5ミリの隆線による横・斜位の区画。	970-000
29	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/4	φ1ミリの小石、軽石粒	普通	—	—	阿玉台	口縁部太さ4ミリの隆線による横位波状区画。へう状工具による2条の押し引き文。	970-000
30	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの小石	普通	—	—	阿玉台	太さ12ミリの横・縦位の隆線と太さ7ミリの波状の隆線。	970-000
31	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	細かい砂粒、金雲母	—	—	—	阿玉台	幅10ミリの爪形刻み列。	970-985
32	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒、軽石粒、金雲母	普通	—	—	阿玉台	幅10ミリの爪形の刻み列。	970-980
33	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの小石	普通	—	—	I群	口縁部ベン先状工具による連続した削書状の刻み列。下部に2条の太さ2ミリの沈線が廻る。隆帯に爪形刻みを持つ。	970-980
34	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	I群	幅4ミリの結節の平行沈線と波状沈線。	970-980
35	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	φ1~2ミリの小石	不良	—	—	I群	太さ10ミリの隆線による横位区画。太さ4ミリの隆線による横位の褐色状文様と方形区画。	970-000
36	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	良	—	—	I群	太さ5ミリの沈線による縦・横位区画。へう状工具による沈線を充填。	970-995
37	深鉢	口縁	洗黄	2.5Y7/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL	斜	I群	太さ4ミリの沈線による弧線状区画。	970-985
38	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの小石、軽石粒	普通	—	—	加曾利E	太さ3ミリの沈線と太さ5ミリの隆線による重弧文。	970-980
39	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	RL	横	Ⅱ群I類	口縁部波状を呈し太さ8ミリの沈線による南門区画。口縁裏側にも沈線文様。	970-995
40	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	太さ9ミリの沈線による横位区画。	970-015
41	深鉢	口縁	黄褐	10YR5/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	Ⅱ群I類	口縁部太さ12ミリの隆線による横位南門区画。隆線の上にφ18ミリの指面仕組。	970-980
42	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	LR	横	Ⅱ群2類	太さ10ミリの沈線による「 ∞ 」文様。	970-995
43	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	—	—	Ⅱ群I類	太さ10ミリの沈線による南門区画。口縁部上側に沈線による「 ∞ 」文。舌状突起	970-995
44	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/1	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦横	Ⅲ群	太さ4ミリの沈線による南門区画。	970-985
45	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	—	—	加曾利E	太さ10ミリの沈線2条による横位区画。	970-975
46	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	横	Ⅱ群	太さ5~10ミリの隆線による南門。褐色、「 ∞ 」文様。	970-995
47	深鉢	口縁	にぶい黄	2.5Y6/3	細かい砂粒	良	RL	横	加曾利E	太さ8ミリの沈線2条による横位区画。	970-995
48	深鉢	口縁	洗黄	2.5Y7/4	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	加曾利E	太さ6ミリの隆線による褐色文。口縁部太さ4ミリの沈線による横位区画。	970-980

Ⅱ区970グリッド出土土器観察表

項 No	種類	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分 類	文様の特徴	出土位置 備考
49	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石	普通	RL	横	加曽利E	口縁部外側に押し返し状に粘土層が重なる。太さ4ミリの沈線と太さ5ミリの隆線による横位区画。	970-000
50	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1~2ミリの小石、軽石	普通	RL	縦	Ⅲ群	隆線とそれに沿う太さ6ミリの沈線による横位区画と方形区画。	970-015
51	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの小石	普通	RL	縦	加曽利E	太さ7ミリの横位の隆線と重下する沈線による方形区画。	970-030
52	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石	普通	RL	縦	Ⅳ群	太さ10ミリの沈線2条による横位区画。	970-010
53	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石	普通	RL	縦	Ⅲ群	太さ6ミリの隆線による横位・閉円区画。	970-015
54	深鉢	突起	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒、軽石	普通	RL	縦	加曽利E	太さ6ミリの隆線と太さ3ミリの沈線による閉円区画。	970-025
55	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	不良	—	—	加曽利E	太さ4ミリの縦位波状区画と刺突文。	970-995
56	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曽利E	太さ10ミリの隆線による閉円区画。	970-025
57	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石	良	RL	縦	Ⅳ群	太さ3ミリの沈線による横位区画。	970-995
58	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒、軽石	普通	RL	縦	Ⅳ群	口縁部横位の整形。太さ3ミリの沈線による横位区画。	970-025
59	深鉢	口縁	陶灰	10YR5/1	細かい砂粒、軽石	普通	—	—	Ⅳ群	太さ6ミリの隆線による横位区画と弧線状区画。	970-015
60	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	細かい砂粒、軽石	普通	RL	縦	V群	口縁部φ6ミリの棒状工具による羽状の刺突。沈線による刺突文。	970-980
61	深鉢	口縁	明黄褐	10YR6/6	細かい砂粒、軽石	不良	LR	縦	Ⅳ群3類	太さ3ミリの横・縦位の隆起線による文様区画。無文部消し刺突。	970-000
62	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/6	φ1ミリの小石	不良	—	—	V群2類	太さ5ミリの沈線による横位区画と斜位区画。細口縁部には、円形の刺突列。細い沈線による条線。	970-995
63	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石、軽石	普通	RL	縦	Ⅳ群3類	太さ1ミリの隆線による横位区画と太さ3ミリの隆起線による弧線状区画と三角状区画。	970-015
64	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	RL	縦	Ⅳ群	口縁部横位の整形。太さ5ミリの隆線による横位区画。	970-985
65	深鉢	口縁	洗黄	2.5YR/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	Ⅳ群	太さ4ミリの隆線による横位区画。	970-985
66	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石	良	LR	横	Ⅳ群	太さ6ミリの沈線による横位区画。	970-000
67	深鉢	口縁	明黄褐	10YR7/6	細かい砂粒	普通	LR	横	Ⅳ群	口縁部横位の整形。	970-005
68	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	Ⅳ群	太さ6ミリの隆線による横位区画と弧線状区画。	970-015
69	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒、軽石	普通	RL	横	加曽利E	太さ5ミリの沈線2条を波状口縁に沿って巡らす。	970-015
70	深鉢	口縁	陶灰	10YR4/1	細かい砂粒、軽石	普通	RL	縦	Ⅳ群	太さ2ミリの沈線による横位区画と弧状区画。口縁部横位の整形。	970-030
71	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽石	普通	LR	横	Ⅳ群	口縁部太さ4ミリの沈線を横位に巡らす。羽状刺突。	970-015
72	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	—	—	加曽利E	横位のミガキ整形。	970-985
73	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	—	—	加曽利E	口縁部無文部。横位のミガキ整形。	970-995
74	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの小石	良	LR	縦	Ⅳ群	口縁部横位のミガキ整形。	970-035
75	深鉢	口縁	にぶい橙	5YR6/4	φ1~3ミリの小石	普通	RL	縦	Ⅳ群	口縁部横位の整形。太さ5ミリの隆線による横位区画。	970-985
76	深鉢	突起	灰オリーブ	5Y4/2	細かい砂粒、軽石	良	—	—	加曽利E	ラッパ状の突起。	970-985
77	深鉢	突起	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽石	普通	—	—	加曽利E	口縁部噴状突起。	970-000

第4章 出土遺物

日区970グリッド出土土器観察表

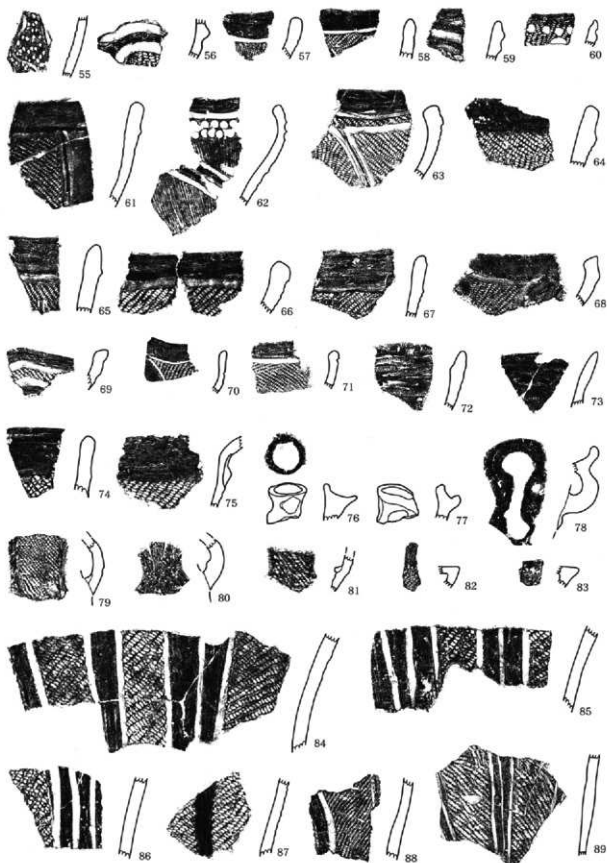
図版 No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
78	両耳壺	把手	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒	普通	—		V群1類	把手中央部に太さ10ミリの沈線 で「フ」文と刺突。	970-985 楕状把手
79	両耳壺	把手	にぶい黄褐色	10YR7/4	細かい砂粒、 石粒	普通	LR	縦	V群		970-005 楕状把手
80	両耳壺	把手	にぶい黄褐色	10YR7/2	細かい砂粒	普通			V群	無文。	970-015 楕状把手
81	両耳壺	把手	灰	7.5Y5/1	細かい砂粒、 石粒	普通	LR	縦	V群		970-985 楕状把手
82	深鉢	把手	にぶい黄褐色	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL		加曽利E		970-225
83	深鉢	把手	暗灰黄	2.5Y5/2	細かい砂粒	良	RL	縦	加曽利E		970-025
84	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒、 石粒	良	RL	縦	加曽利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画。 無文部磨り施し無文。	970-980
85	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒、 石粒	良	RL	縦	加曽利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画。 無文部磨り施し無文。	970-980
86	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	細かい砂粒、 石粒	良	RLR	縦	加曽利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画。	970-980
87	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR6/3	細かい砂粒、 石粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ15ミリの沈線による縦位区画。	970-985
88	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曽利E	太さ8ミリの沈線による縦位区画。	970-010
89	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曽利E	太さ2ミリの沈線3条1組による縦 位区画。	970-015
90	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	V群	太さ3ミリの隆起線による縦位区 画。	970-025
91	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	細かい砂粒	普通	R		V群	太さ3ミリの隆起線2条による縦 位区画。磨り。	970-015
92	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曽利E	太さ2ミリの沈線による縦位区画。 原形0段多条。	970-015
93	深鉢	胴部	浅黄橙	7.5YR8/4	細かい砂粒、 石粒	普通	RL	縦	V群	太さ3ミリの隆起線による縦位区 画。	970-035
94	深鉢	胴部	灰白	5Y7/2	細かい砂粒、 石粒	普通	LR	縦	加曽利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	970-985
95	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	細かい砂粒	良	RL	縦	加曽利E	太さ5ミリの沈線2条による縦位 区画。	970-040
96	深鉢	胴部	オリーブ風	5Y3/1	細かい砂粒、 石粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ3ミリの隆起線による縦位区 画。	970-030
97	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR7/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曽利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	970-040
98	深鉢	胴部	黄褐	2.5Y5/3	細かい砂粒	普通	—		加曽利E	太さ2ミリの沈線による弧線状の 区画。	970-980
99	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ4ミリの沈線2条による縦位 区画。	970-025
100	深鉢	胴部	黄灰	2.5Y4/1	細かい砂粒	普通	RL	横	V群	太さ4ミリの沈線による二重の楕 円区画。羽状無文。	970-020
101	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	V群	太さ2ミリの沈線による「U」 「U」状の文様。	970-015
102	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/4	細かい砂粒	普通			V群	太さ3ミリの隆起線による楕円状 区画。	970-020
103	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒	普通	RL	縦	V群	太さ4ミリの沈線による文様。磨 り施し。	970-975
104	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	V群	太さ3ミリの沈線による楕円区画。	970-985
105	深鉢	胴部	灰白	5Y8/2	細かい砂粒	普通	LR	縦	V群	太さ3ミリの沈線による「U」文。	970-985
106	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒	普通			V群4類	6条1単位の楕円工具による条線。	970-980
107	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒	普通	LR	横	加曽利E		970-035
108	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR6/3	φ1~2ミリの小 石、糖石粒	普通			加曽利E	縦位の彫形。	970-015
109	深鉢	胴部	にぶい黄	2.5Y6/3	φ1ミリの砂粒	普通	RL	縦	加曽利E	太さ3ミリの沈線による弧状の区 画。	970-985
110	深鉢	胴部	オリーブ風	7.5Y3/1	細かい砂粒、石 灰	普通	RL	横	加曽利E	太さ4ミリの沈線による二重の楕 円区画。	970-975

日区970グリッド出土土器調査表

調査No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成 地文 彫文	胎文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
111	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通		加曾利E		970-005
112	深鉢	胴部	褐色	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	RL	加曾利E	編文を帯状に施文。	970-980
113	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	普通	RL	加曾利E		970-985
114	深鉢	胴部～ 底部	にぶい黄褐色	10YR6/4	細かい砂粒	普通	—	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	970-995
115	深鉢	胴部～ 底部	にぶい黄褐色	10YR6/3	φ1～3ミリの小石	普通	—	加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	970-995
116	深鉢	胴部～ 底部	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒	普通		加曾利E	ミガキによる彫形。	970-975
117	深鉢	胴部～ 底部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	普通	—	加曾利E	胴下部縦位のミガキ彫形。	970-000
118	深鉢	突起	にぶい褐	7.5YR6/3	細かい砂粒	良		堀之内	φ22ミリのボタン状の突起で太さ2ミリの隆線と沈線。ペン先状工具による突起で文様を描く。外面には、隆線に刻みを連続して入れる。	970-005
119	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	細かい砂粒	普通		堀之内	縦位のミガキによる彫形。	970-005
120	深鉢	胴部～ 底部	にぶい黄褐色	10YR7/4	φ1～2ミリの小石	普通		加曾利E	横位のミガキ彫形。	970-035
121	深鉢	底部	褐色	5YR6/6	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通		加曾利E		970-015
122	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通		加曾利E	縦位のミガキ彫形。	970-980
123	深鉢	胴部～ 底部	にぶい黄褐色	10YR6/3	細かい砂粒	良		堀之内	底面網代痕。	970-005
124	土製円盤		赤褐	5YR4/6	細かい砂粒	普通	—	勝坂	ヘラ状工具による刻み列。幅2ミリの平行沈線。	970-980
125	土製円盤		赤褐	5YR4/6	φ1～2ミリの小石	不良		加曾利E		970-980
126	土製円盤		褐	7.5YR4/4	細かい砂粒	普通				970-010
127	土製円盤		にぶい黄褐色	10YR5/3	φ1～2ミリの小石、軽石粒	普通	—		六角形になる土製円盤。縁辺を打ち欠いている。	970-000

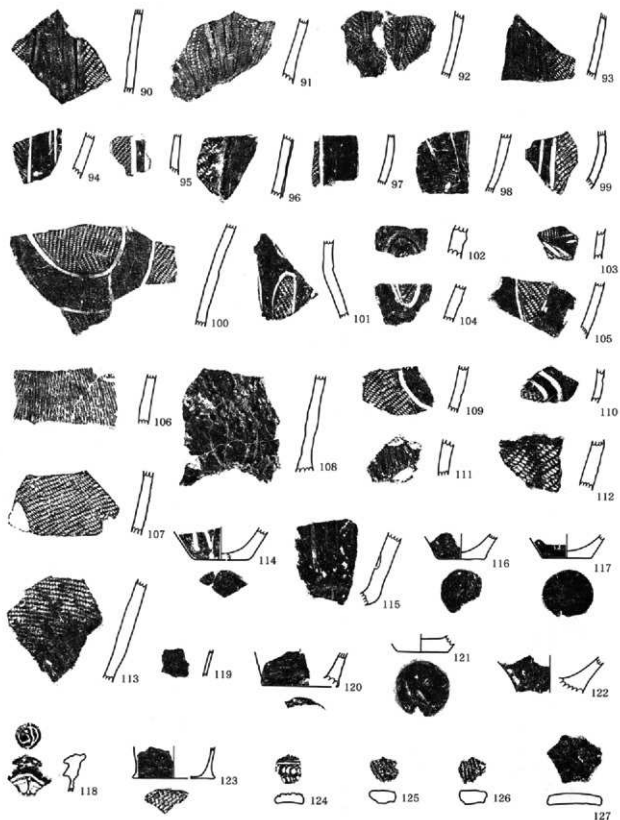


第202図 970グリッド出土土器(1) 0 20cm



第203図 970グリッド出土土器 (2)

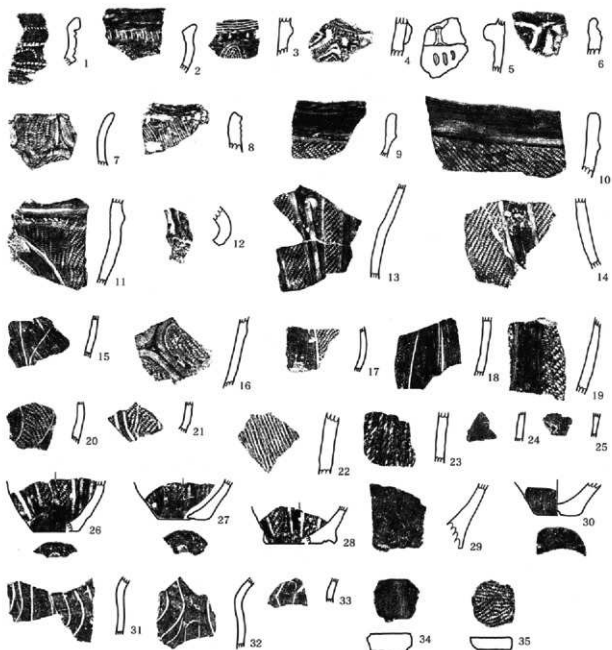
0 ————— 20cm



第204図 970グリッド出土土器(3)

Ⅱ区975グリッド出土土器調査表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
1	深鉢	口縁	灰褐	5YR4/2	φ1ミリの小石、 金雲母	良	—	—	阿玉台	口縁部太き10ミリの隆線による 横位区画。太き6ミリの隆線による 区画と押し引き沈線による文様。	975-020
2	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒、金 雲母	普通	—	—	阿玉台	幅5ミリの刻み列。	975-015
3	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/8	φ1～2ミリの小石、 金雲母	良	—	—	五領ヶ台	太き10ミリの隆線による横位区画。 隆線には刻み列。沈線による波状 文様。	975-025
4	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/8	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	—	—	膳坂	太き8ミリの隆線による三角形の 区画。隆線には爪形の刻み列施文 する。隆線に沿って2条の沈線。	975-015
5	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1～3ミリの小石、 金雲母	普通	—	—	阿玉台	三角構み上の突起、横位の爪形文。	975-025
6	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	普通	LR	横	加曾利E	口縁部太き6ミリの隆線と太き4 ミリの沈線による方形区画。	975-015
7	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太き3ミリの隆起線による弧線区 画。	975-005
8	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/8	φ1～2ミリ小石	不良	—	—	加曾利E	傷付工具による条線。	975-015
9	深鉢	口縁	オリーブ黒	7.5Y3/1	細かい砂粒	良	RL	縦	Ⅱ群	口縁部横位の整形。太き4ミリの 隆起線による横位区画。	975-030
10	深鉢	口縁	明黄褐	10YR6/6	細かい砂粒、軽 石粒	良	RL	横	Ⅱ群	口縁部横位の整形。太き3ミリの 断面三角の隆線による横位区画。	975-020
11	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	Ⅱ群	口縁部太き10ミリの隆起線による 横位区画。太き3ミリの沈線による 重弧状の区画。	975-005
12	深鉢	把手	灰褐	7.5YR4/2	φ1ミリの砂粒、 軽石粒	普通	—	—	中期前半		975-030
13	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒、軽 石粒	良	RL	縦	加曾利E	太き5ミリの沈線による縦位区画 と「J」文。	975-020
14	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR6/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太き5ミリの沈線による縦位区画。	975-010
15	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	太き2ミリの沈線による縦位区画。	975-015
16	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR6/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太き5ミリの隆起線による横円区 画。	975-005
17	深鉢	胴部	オリーブ黒	7.5Y3/1	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太き2ミリの沈線による縦位区画 と弧線区画。	975-005
18	深鉢	胴部	橙	5YR6/8	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	太き3ミリの沈線による縦位区画。	975-015
19	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/8	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太き4ミリの沈線による縦位区画。	975-015
20	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR7/3	細かい砂粒、軽 石粒	普通	RL	横	Ⅱ群	太き2ミリの沈線による弧線区画。	975-030
21	深鉢	胴部	オリーブ黒	7.5Y3/1	細かい砂粒	普通	RL	縦	Ⅱ群	太き3ミリの沈線2条による横円 区画。	975-005
22	深鉢	胴部	暗赤褐	5YR3/3	φ1ミリの砂粒	良	LR	—	加曾利E	条線。	975-010
23	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒	普通	LR	—	加曾利E	条線。	975-000
24	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの砂粒	良	—	—	加曾利E	無文。	975-005
25	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR6/3	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	無文。	975-005
26	深鉢	胴部～ 底部	明黄褐	10YR7/6	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太き4ミリの沈線による縦位区画。	975-015
27	深鉢	胴部～ 底部	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	太き3ミリの沈線による縦位区画。	975-020
28	深鉢	胴部～ 底部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒、軽 石粒	普通	RL	縦	加曾利E	太き3ミリの沈線による縦位区画。	975-015
29	深鉢	胴部～ 底部	にぶい黄褐	10YR6/3	φ1ミリの小石	良	—	—	加曾利E	外面ミガキ整形。	975-020
30	深鉢	胴部～ 底部	にぶい黄褐	10YR6/4	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	外面ミガキ整形。	975-020
31	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	普通	—	—	赤名寺	太き2ミリの沈線による縦位区画 と弧線区画。	975-005
32	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	—	—	赤名寺	太き2ミリの沈線による区画。	975-005
33	深鉢	胴部	にぶい黄	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	—	—	赤名寺	太き2ミリの沈線による区画。	975-005
34	土製円盤	にぶい黄	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	—	—	—	加曾利E	縁辺を打ち欠いて成形。	975-020
35	土製円盤	明赤褐	5YR5/8	細かい砂粒	普通	LR	—	—	加曾利E		975-015



第205図 975グリッド出土土器

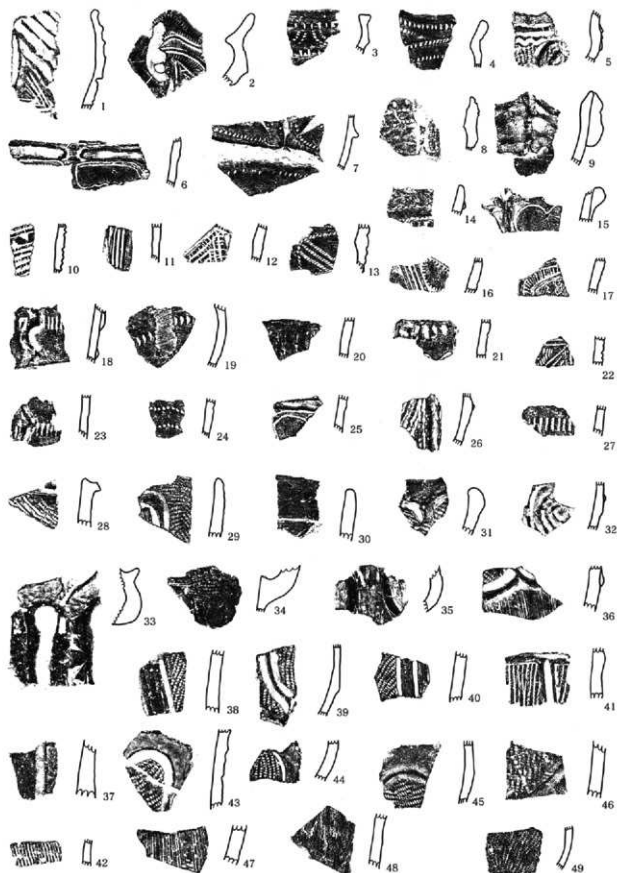
II区980・985グリッド出土土器観察表

図版No	施器器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
1	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/3	φ1~3ミリの小石	良	—	—	五領ヶ台	太さ4ミリの断面三角の隆線による斜線と弧線。幅4ミリの平行沈線による扇形状の沈線。	980-010
2	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~3ミリの小石	良	—	—	勝取	波状口縁。頂部から隆線による渦巻文が貼り付けられる。隆線には、筋みが施文。隆線間には、幅5ミリの平行沈線と刻み充て。	980-010
3	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/3	φ1~2ミリの白色粒	良	—	—	加曾利E	口縁に刻み。口縁部文様帯に刻みを待つ。口縁部を施文。文様帯内は、φ5ミリの刺突列による曲線文。	980-980
4	深鉢	口縁	暗赤褐	5YR3/2	φ1~3ミリの小石、金雲母	良	—	—	勝取	波状口縁。幅5ミリの爪形文による刻み列が施文される。	980-980
5	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/3	φ1~3ミリの白色粒	良	RL	—	勝取	太さ5~6ミリの隆線による弧状の文様。押し引きの沈線と波状の沈線が口縁部と胴部を区画する。	985-015
6	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/3	φ1~2ミリの小石、金雲母	良	—	—	阿玉台	隆線で横長の帯状区画。下部に太さ1ミリの沈線を施文。押し引きの隅丸方形区画。	985-015
7	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~2ミリの白色粒、金雲母	良	—	—	阿玉台	太い隆線で胴部を区画。幅5ミリの刻み列が施文される。	980-980
8	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/3	φ1~3ミリの小石、金雲母	良	—	—	阿玉台	波状口縁。隆線による縦区画。太さ2ミリの押し引きによる沈線。	980-980
9	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~2ミリの小石、白色粒、雲母	良	—	—	阿玉台	波状口縁頂部から隆線が垂下する。隆線には、輪積み痕が残る。	985-015
10	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	—	—	十三善製	幅5ミリの平行沈線と三角印筋。	980-010
11	深鉢	胴部	にぶい赤褐	2.5YR4/3	細かい砂粒	良	—	—	五領ヶ台	幅5ミリの平行沈線が垂下する。	980-010
12	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	普通	—	—	勝取	幅5ミリの平行沈線に直交する刻みを施文。	980-995
13	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~3ミリの小石	良	—	—	勝取	太さ4ミリの竹管による沈線と爪形文により隅丸方形の文様を置く。	980-010
14	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~2ミリの白色粒、雲母	良	—	—	阿玉台	隆線が横位に巡り、波状の沈線。	980-995
15	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR4/3	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	—	—	阿玉台	「V」字状に隆線が貼り付けられる。太さ1ミリの沈線が連弧状に施文。	985-015
16	深鉢	胴部	にぶい赤褐	2.5YR5/4	細かい砂粒	良	—	—	勝取	幅5ミリの平行沈線と爪形文による刻み施文。	980-980
17	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/4	細かい砂粒	良	RL	—	勝取	幅6ミリの平行沈線による弧線文と刻み列。	985-015
18	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの小石、白色粒	良	—	—	阿玉台	太さ8ミリの断面三角の隆線が波状に垂下する。幅13ミリの刻み列が横位に施文される。	985-015
19	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	φ1~2ミリの小石、雲母	良	—	—	阿玉台	隆線が剥落。幅10ミリの爪形文横位施文。	980-985
20	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒、雲母	良	—	—	阿玉台	外面ミガキ整形。	985-015
21	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1~2ミリの小石	良	—	—	阿玉台	幅8ミリの爪形文。	980-980
22	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい白色粒	良	—	—	勝取	幅5ミリの半截竹管による文様区画。区画内を沈線が充填される。	980-980
23	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~5ミリの小石、雲母	良	—	—	阿玉台	太さ5~6ミリの隆線が扇形状に垂下。幅12ミリの刻み列が横位施文。	985-015
24	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/4	φ1~3ミリの小石	良	—	—	阿玉台	幅2ミリの半截竹管による押し引きの沈線で曲線を置く。	980-980
25	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの小石、雲母	良	—	—	阿玉台	低い隆線が横位に施文される。太さ1ミリの沈線による押し引き文。	985-015

第4章 出土遺物

日区980・985グリッド出土土器観察表

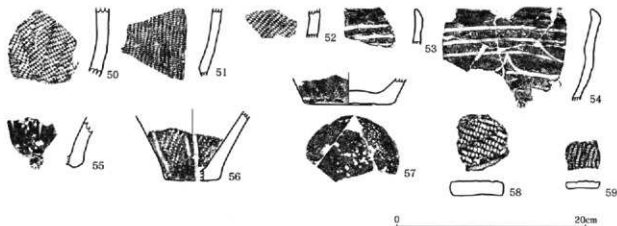
図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 備考
26	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~3ミリの小石、金雲母	良	—	—	阿玉台	隆線による垂線と弧線、これらに竹管による刺突が加えられる。	980-010
27	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/6	φ1~3ミリの小石、金雲母	良	—	—	阿玉台	幅10ミリの筋み列が横位に施文。	985-015
28	深鉢	口縁	赤褐	2.5YR4/6	φ1~3ミリの小石	普通	—	—	加曾利E	隆線横位区画。	980-985
29	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの白色粒、雲母	良	LR	—	V群2類	太さ5~10ミリの浅い沈線が弧を描く。	980-010
30	深鉢	口縁	にぶい黄	2.5Y6/4	φ1~3ミリの小石、白色粒	普通	—	—	VI群	太さ4ミリの浅い沈線が口縁部に沿る。	980-985
31	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR6/4	φ1~3ミリの小石	普通	LR	—	加曾利E	口縁部を肥厚させ帯門区画を作る。	985-015
32	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石、金雲母	良	—	—	加曾利E	太さ4~6ミリの断面三角の隆線で帯文様施文。	980-010
33	両耳壺	把手	にぶい黄褐	10YR7/4	φ1~2ミリの白色粒多い	普通	—	—	VI群1類	太い沈線で「J」状の文様を描く。	980-000 橋状把手
34	両耳壺	把手	にぶい黄褐	10YR6/3	細かい白色粒	普通	LR	—	VI群2類	縄文施文。	980-980 橋状把手
35	両耳壺	把手	にぶい黄褐	10YR6/4	φ1~2ミリの白色粒	普通	—	—	VI群1類	無文。外面縦位の整形。	980-000 橋状把手
36	深鉢	口縁~胴部	にぶい黄褐	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL	—	加曾利E	太さ8ミリの隆線で帯門区画。区画内は縄文が充填。頸部以下は、幅12ミリの橋状工具による条線。	980-005
37	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR7/4	φ1~3ミリの小石	良	RL	縦	加曾利E	太さ10ミリの沈線による縦位区画。	980-995
38	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR7/4	φ1~3ミリの白色粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画。	980-995
39	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR6/3	φ1~3ミリの小石、白色粒	普通	RL	—	加曾利E	太さ5ミリの断面三角の隆線が弧を描く。	980-005
40	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線が縦位に施文される。無文部磨り消し縄文。	980-005
41	深鉢	胴部	暗灰黄	2.5Y5/2	φ1~2ミリの白色粒	良	LR	—	加曾利E	太さ5ミリの隆線による縦位の区画に太さ4ミリの隆線2条が垂下する。提傘。	980-010
42	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	普通	LR	—	加曾利E	提傘。	980-995
43	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	不良	RL	—	VI群	太さ3ミリの断面三角の隆線による帯門区画。	980-010
44	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR6/4	細かい砂粒	普通	RL	—	VI群	太さ3ミリの沈線による帯門区画。	980-000
45	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	細かい白色粒多い	不良	RL	—	VI群	隆線による帯門区画。区画内に縄文が充填される。	980-010
46	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	不良	LR	—	VI群	全体に摩滅している。隆線による区画。	980-995
47	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR6/4	φ1ミリの白色粒	普通	—	—	加曾利E	太さ1ミリの沈線が条線状に施文される。	980-000
48	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~3ミリの小石	良	—	—	加曾利E	外面に斜位のミガキ整形。	980-985
49	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR6/3	細かい砂粒	不良	RL	—	加曾利E		985-015
50	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	φ1~2ミリの小石	普通	RL	—	加曾利E		980-985
51	深鉢	胴部	オリーブ褐	2.5Y4/3	φ1~2ミリの白色粒多い	良	RL	—	加曾利E		980-010
52	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR6/3	φ1~3ミリの小石	普通	RL	—	加曾利E		980-980
53	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	φ1~3ミリの黄色粒多い	良	—	—	後期		980-000 54と同一器種
54	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR6/3	φ1~3ミリの黄色粒多い	良	—	—	後期	太さ4ミリの沈線による縦位の区画と三支柱の文様。	980-000 53と同一器種
55	深鉢	胴部~底部	明褐	7.5YR5/6	φ1~2ミリの白色粒	普通	—	—	加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	980-980



第206図 980・985グリッド出土土器(1)

0 20cm

第4章 出土遺物



第207図 980・985グリッド出土土器 (2)

II区980・985グリッド出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 厚体	施文 方向	分類	文様の特徴	出土位置 層	考
56	深鉢	胴部→ 底部	にふい黄	10YR7/4	φ1~2ミリの小 石	不良	RL		加曾利E	太さ4ミリの浅線2条で縦位の区画。	980-985	
57	深鉢	胴部→ 底部	橙	7.5YR6/6	粗かい・砂粒	普通	—		加曾利E		980-995	
58	土製円盤	浅黄橙	10YR8/4		粗かい・砂粒	普通	RL		加曾利E		980-000	
59	土製円盤	にふい黄橙	10YR7/4		粗かい・砂粒	不良	RL		加曾利E	縁辺を打ち欠いて成形。	980-005	

日区表出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 器体	地文 方向	分類	文様の特徴	備考
1	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かゝ砂粒	普通	LR		十三首提	太さ4ミリの筋節浮線文。	
2	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かゝ砂粒	良	—		十三首提	半数竹管による刺突と平行沈線。	
3	深鉢	口縁	明褐	7.5YR5/6	細かゝ砂粒	良	—		勝取	幅8ミリの平行沈線と爪形文。	
4	深鉢	口縁	赤褐	2.5Y4/6	細かゝ砂粒	良	—		勝取	内外面赤色塗布。	
5	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かゝ砂粒	普通	—		勝取	太さ10ミリの隆線による刻み。	
6	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの白色粒多い	不良	—		勝取	太さ2ミリの沈線による文様区画内に爪形文を充填する。	
7	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/4	φ1ミリの白色粒	良	—		勝取	口縁には浅い刻みが指文。口縁部には、押し引きの沈線が施文。	
8	深鉢	突起	にぶい褐	7.5YR5/4	白色粒	良	—		勝取	深鉢把手、めがね状に把手が付けられる。角には、横位の刻み。	
9	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの小石	良	—		勝取	太さ4ミリの沈線と太さ10ミリの隆線で文様を描く。	
10	浅鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	φ1ミリの小石	良	—		勝取	外面に横位のミガキ整形。	
11	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの白色粒	良	—		勝取	太さ10ミリの沈線による文様。	
12	深鉢	口縁	明褐灰	7.5YR7/2	黒色粒	良	—		阿玉台	幅5ミリの竹管状のもので押し引きの沈線。	
13	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	雲母	良	—		阿玉台	幅5ミリの平行沈線による押し引き文。	
14	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石、金雲母	良	—		阿玉台	横位に連続する爪形文。	
15	深鉢	突起	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの小石	—			阿玉台	押し引きの沈線。	
16	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	金雲母	普通	—		阿玉台	幅4ミリの竹管による押し引き文。	
17	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1~2ミリの小石、金雲母	良	—		阿玉台	太さ8ミリの隆線と押し引きの沈線。	
18	深鉢	口縁	暗褐	10YR3/3	φ1ミリの白色粒	良	—		阿玉台	隆線による半円状の区画とそれに並行する押し引き沈線。隆線には刻みが入る。	
19	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/4	砂粒、金雲母	良	—		阿玉台	隆線による爪形文。押し引きの刺突文。	
20	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	黒色の砂粒	良	—		阿玉台	口縁部に刻みを持つ隆線と筋節沈線で文様を描く。	
21	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの白色粒、金雲母	良	—		阿玉台	幅15ミリの連続する爪形列が弧状に施文。	
22	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR7/3	φ1~3ミリの小石多い	普通	—		1群	太さ2ミリの沈線による文様区画と爪形文。	
23	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	細かゝ砂粒、金雲母	良	—		勝取	太さ8ミリの隆線に刻みを持つ。太さ5ミリの沈線で区画。	
24	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	細かゝ砂粒	良	—		勝取	ペン先状の刺突列と爪形文列が横位に施文。	
25	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	白色粒	良	—		勝取	幅10ミリの連続する爪形文が横位に施文される。	
26	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	砂粒	良	—		勝取	太さ2ミリの沈線を直交させて文様を描く。	
27	深鉢	口縁~胴部	明赤褐	5YR5/6	細かゝ白色粒	良	—		勝取	横位の区画と平行沈線による文様施文。	
28	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1~2ミリの小石、雲母	不良	—		阿玉台	押し引きの沈線と隆線が傾下する。	
29	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR7/4	細かゝ砂粒	普通	—		阿玉台	幅12ミリのへら状工具による刻み。	
30	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの小石、金雲母	良	—		阿玉台	横位の爪形文。	
31	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	金雲母	普通	—		阿玉台	幅12ミリの横位に連続する刻み列。	

日区表土出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	施文 地文 方向	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
32	深鉢	胴部	ぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの白色粒多い	普通	—	—	阿玉台	横方向の連続爪形文。	
33	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	太さ2ミリの沈線による褐色文。	
34	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの小石	良	—	—	I群	幅5ミリの平行沈線横位施文。交互刺突による「コ」の字文。	
35	深鉢	口縁	ぶい黄褐色	10YR7/3	φ1ミリの砂粒	普通	—	—	I群	交互刺突による「コ」の字文。	
36	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	φ1ミリの白色粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ2~4ミリの隆・沈線による方形の文様。	
37	深鉢	口縁	ぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの砂粒	良	—	—	I群	粘土紐を刺突状に施文。	
38	深鉢	口縁	ぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石、金粟母	良	—	—	加曾利E	幅7ミリの平行沈線と三角の印刷。	
39	深鉢	口縁	ぶい黄褐色	10YR6/4	φ1ミリの小石	普通	—	—	加曾利E	口縁部に交互刺突による「コ」の字文。	
40	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒	良	RL	縦横	加曾利E	隆線による褐色文様。	
41	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/6	φ1ミリの白色粒	普通	—	—	加曾利E	口縁部に太さ5ミリの沈線が並行する。沈線間に竹管による交互刺突。	
42	深鉢	胴部	ぶい黄褐色	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	良	—	—	加曾利E	太さ5ミリの隆線による垂文。	
43	深鉢	口縁	ぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの小石	良	LR	横	II群	隆線による褐色。	
44	深鉢	口縁	ぶい黄褐色	10YR7/3	φ1ミリの小石	普通	—	—	加曾利E	隆線による文様区画。	
45	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	隆線による楕円の区画。	
46	深鉢	口縁	ぶい橙	5YR8/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ20ミリの隆線と沈線による縦位の区画。	
47	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	砂粒	不良	RL	横	加曾利E	太さ4ミリの隆線による褐色。	
48	深鉢	口縁	ぶい橙	7.5YR7/4	φ1~3ミリの小石	普通	—	—	加曾利E	口縁部横位のミガキ整形。	
49	深鉢	胴部	明黄褐	10YR6/6	細かい砂粒	良	RL	斜	加曾利E	太さ3~5ミリの隆・沈線による文様施文。	
50	深鉢	胴部	ぶい赤褐	5YR5/4	φ1ミリの白色粒	普通	LR	—	加曾利E	太さ2ミリの沈線が胴部に沿る。褐色。	
51	深鉢	口縁~胴部	ぶい黄褐色	10YR7/3	φ1ミリの小石	良	RL	縦	II群	太さ9ミリの沈線で口縁部を区画し、胴部に縦位の区画。	
52	深鉢	口縁	ぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒	普通	LR	縦横	IV群I類	太い隆線で口縁部文様帯に帯門の区画。胴部に太さ6ミリの沈線で縦位の区画。	舌状突起
53	深鉢	胴部	ぶい黄褐色	10YR7/3	φ1ミリの小石	良	RL	横	加曾利E	太さ8ミリの隆線による褐色文様。	
54	深鉢	口縁	明褐	7.5YR5/6	細かい砂粒	普通	LR	縦	IV群I類	太さ8ミリの沈線による褐色区画。	舌状突起 頂部突起
55	深鉢	口縁	ぶい黄褐色	10YR7/4	黒色粒	普通	RL	縦	II群	幅広い隆線による帯門区画。	
56	深鉢	口縁	ぶい黄褐色	10YR7/3	φ1ミリの白色粒	良	—	—	II群	波状口縁突起。太い沈線で口縁部帯門区画。	舌状突起
57	深鉢	突起	浅黄褐色	7.5YR8/4	細かい砂粒	不良	—	—	加曾利E	口縁に沈線施文の波状口縁。波頂部に透し孔を持つ。	舌状突起
58	深鉢	口縁突起	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	—	—	加曾利E	波状口縁頂部内外面に「の」文飾文。	舌状突起
59	深鉢	口縁	浅黄褐色	10YR8/3	φ1~2ミリの白色粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ7~8ミリの隆・沈線による口縁部文様区画。波状口縁の端部には沈線による「の」文。	舌状突起
60	深鉢	突起	ぶい橙	7.5YR6/4	黒色粒	良	—	—	加曾利E	波状口縁突起。太い沈線による「」文。	舌状突起
61	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	LR	縦	加曾利E	隆線による口縁部区画。	
62	深鉢	口縁突起	ぶい黄褐色	10YR7/2	細かい白色粒	不良	—	—	加曾利E	太い沈線による帯門区画。突起頂部に「の」文飾。	舌状突起
63	深鉢	胴部	ぶい黄褐色	10YR7/4	細かい黒色粒多い	普通	RL	横	加曾利E	隆線による帯門の区画。	
64	深鉢	胴部	ぶい黄褐色	10YR7/3	細かい黒色粒	良	RL	横	加曾利E	太い隆線による帯門の区画。	

II区表土出土土器観察表

図版No	種類器類	部位	色調	記号	胎土	集成	地文 彫体	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
65	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/4	φ1ミリの小石	普通	RL	横	加曽利E	隆縁による槽門の区画。	
66	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/4	白色粒	良	RL	横	加曽利E	φ10ミリの円形突起。太い沈線による口縁部槽門区画。	
67	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/4	φ1ミリの白色粒が多い	普通	—	—	加曽利E	隆縁による区画。	
68	深鉢	口縁	浅黄褐色	10YR8/4	白色粒多い	普通	—	—	加曽利E	口縁に文様区画線の隆縁を貼り付ける。	
69	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR8/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	Ⅲ群	太い隆縁と沈線による口縁部槽門区画。	
70	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	φ1ミリの小石	良	—	—	加曽利E	太き10ミリの沈線による孤線。	
71	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR8/4	φ1ミリの白色粒	良	RL	横	加曽利E	太い沈線で口縁を槽門区画。	
72	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	黒色粒	普通	RL	縦	Ⅲ群	口縁と胴部の分割線に太き10ミリの沈線。太き4ミリの垂下する線の沈線。	
73	深鉢	口縁突起	にぶい褐	7.5YR5/4	白色粒	良	—	—	加曽利E	波状口縁突起。外面ミガキ整形。口縁部には槽門区画文。	
74	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR8/4	細かい砂粒	普通	RL	斜	加曽利E	太い隆縁による槽門区画。	
75	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい黒色粒	良	RL	縦	Ⅲ群	太き8~12ミリの沈線による口縁部槽門区画文様と縦位の区画。	
76	深鉢	口縁	にぶい赤褐	2.5YR5/4	細かい砂粒。白色粒	良	LR	—	加曽利E	太き10ミリ以上の沈線と隆縁による槽門区画。	
77	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/2	細かい砂粒	不良	RL	縦	加曽利E	太き4ミリの沈線で口縁部文様を描く。	
78	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR6/4	細かい黒色粒	普通	RL	縦	加曽利E	太き7ミリの沈線による孤線。	
79	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	白色粒	普通	RL	—	加曽利E	太き3ミリの沈線による孤線。	
80	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR5/3	細かい砂粒	良	—	—	加曽利E	太い沈線による文様区画。	舌状突起
81	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/4	細かい砂粒	良	—	—	加曽利E	波状口縁。外面ミガキ整形。	舌状突起
82	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	黒色粒	普通	RL	横	Ⅳ群	隆縁で口縁部文様帯を区画。	
83	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/4	細かい砂粒	良	RL	横	加曽利E	隆縁による槽門区画。	
84	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR8/3	細かい砂粒	普通	RL	横	加曽利E	太い沈線による槽門区画。	
85	深鉢	口縁	浅黄褐色	10YR8/4	黒色粒多い	普通	LR	縦	加曽利E	太き4ミリの沈線で文様帯を区画する。	
86	深鉢	口縁	灰白	2.5Y8/2	細かい黒色粒	普通	RL	横	Ⅳ群	口縁部に太い沈線で文様区画。	
87	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	普通	—	—	Ⅳ群	口縁下に幅の広い凹線。	
88	深鉢	口縁	灰白	2.5Y8/2	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL	縦	Ⅲ群	隆縁で口縁を区画し、槽門文様を描く。	
89	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1ミリの小石	普通	RL	横	加曽利E	太き7ミリの沈線で口縁部文様を区画する。	
90	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/4	黒色粒多い	不良	—	—	加曽利E	太き4ミリの沈線で縦位に区画。	
91	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	Ⅲ群	太き12ミリの太い沈線が口縁に巡る。	
92	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	黒色粒多い	普通	RL	縦	加曽利E	口縁部に隆・沈線が巡る。	
93	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	黒色粒多い	普通	RL	縦	加曽利E	太き5ミリの沈線で文様帯を描く。	
94	深鉢	口縁	明黄褐	10YR7/6	φ1ミリの小石、紫目	普通	RL	斜	Ⅳ群	太き5~8ミリの隆縁で方形区画。	
96	深鉢	口縁	黒褐	2.5Y3/1	白色粒	良	RL	縦	Ⅳ群	小波状の口縁。頂部には小突起。突起から弧状に沈線が2条施文される。口縁部に沈線で区画された磨り消し施文。	
96	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1~2ミリの白色粒	普通	—	—	Ⅳ群	太き1ミリの沈線で文様を描く。	
97	両耳壺	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの小石	良	RL	縦	Ⅳ群	太い隆縁による文様区画。胴下手には条線が施文される。	
98	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの白色粒	普通	RL	縦	加曽利E	太き10ミリの沈線による縦位区画。	
99	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1ミリの白色粒	普通	LR	縦	Ⅳ群	太き4ミリの沈線による文様区画。	

第4章 出土遺物

日区表土出土土器観察表

図版 No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
100	深鉢	口縁突 起	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小 石	普通	—	—	加曽利E	口縁部が波状になり突起を持つ。	
101	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	斜	加曽利E	沈線で口縁部区画。	
102	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	黒色粒多い	普通	LR	斜	加曽利E	太さ14ミリの隆線で口縁部文様 帯を区画する。	舌状突起
103	深鉢	口縁	にぶい黄	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	LR	横	加曽利E	口縁部を隆線で横位に区画。	
104	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	RL	斜	加曽利E	口縁部に隆線と沈線による区画。	
105	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	白色粒	普通	RL	斜	加曽利E	太さ4ミリの沈線で尚巻文。	
106	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	横	加曽利E	口縁部に隆線と沈線による区画。	
107	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1ミリの小石	良	LR	縦	加曽利E	太さ5ミリの隆線による口縁部文 様帯区画。	
108	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	良	—	—	加曽利E	外面に横位のミガキ整形。	
109	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの小石	良	RL	横	加曽利E	口縁に太さ12ミリの沈線が通る。	
110	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒	普通	LR	横	加曽利E	太さ2ミリの沈線が通る。内面には 口縁直下に沈線。	
111	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒多い	不良	—	—	加曽利E		
112	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	RL	横	V群	太さ8ミリの沈線で口縁部文様帯 を区画する。	
113	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1ミリの小石、 黒色粒	普通	RL	縦横	V群	口縁部を横位に隆線で区画し、側 部に縦位の区画。	
114	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL	—	V群	口縁部に隆線と横位に区画。	
115	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小 石	普通	RL	横	V群	口縁部を太さ4ミリの隆線で区画。	
116	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	細かい白色粒	良	LR	横斜	V群	波状口縁に並行するように隆線と 無文帯を区画。	
117	深鉢	口縁	にぶい黄	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	RL	横	V群	太さ6ミリの沈線が口縁部に通る。	
118	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの小石	普通	RL	縦	V群	口縁部に8ミリの沈線が通る。	
119	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの小 石	普通	RL	横	V群	太さ20ミリの沈線が口縁部下に 通る。	
120	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR4/3	φ1ミリの砂粒	良	—	—	V群	無文。	
121	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの黒 色粒	普通	LR	縦	V群	太さ2ミリの沈線で口縁を区画。	
122	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1ミリの白色 粒	普通	RL	横	V群	口縁部に隆線と横位に区画。	
123	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの砂粒	良	RL	縦	V群	口縁部を肥厚させる。	
124	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	金雲母	良	—	—	V群	横位のミガキ整形。	
125	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	LR	斜	V群	太さ5ミリの隆線による口縁部横 位区画。	
126	浅鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒多い	普通	—	—	V群	横位のミガキ整形。	
127	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	黒色粒	良	RL	横	V群	口縁部に隆線と横位による区画。	
128	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	黒色粒	不良	RL	横	V群	口縁直下に7ミリの沈線が横位に 通る。	
129	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	RL	横	V群	口縁部を隆線と横位に区画する。	
130	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小 石	普通	RL LR	—	V群	太さ7ミリの沈線が口縁を通る。 羽状横文。	
131	深鉢	口縁	褐灰	10YR5/1	φ1~2ミリの小 石	良	RL	縦横	V群	口縁部に8ミリの沈線が通る。	
132	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1ミリの白色 粒	良	—	—	加曽利E	無文。口縁被頂部。	舌状突起
133	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	白色粒多い	普通	RL	横	V群	太さ2ミリの沈線が口縁を通る。	
134	四耳壺	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい白色粒	普通	RL	横	V群		機状把手
135	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの小石	良	—	—	加曽利E	外面に横位のミガキ整形。	
136	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	黒色粒	普通	LR	横	V群	口縁部に隆線と横位に区画。	
137	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1ミリの白色 粒	普通	LR	横	V群	口縁部に太い沈線が通る。	
138	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	良	RL	横	V群	口縁部に隆線が通る。	
139	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	黒色粒多い	普通	RL	横	V群	太さ5ミリの隆・沈線による口縁 部横位区画。	

日区表土出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	地文 方向	分類	文様の特徴	備考
140	深鉢	口縁	灰白	2.5YR/2	黒色粒多い	良	RL	縦	V群	太き7ミリの沈線で口縁部を横位に区画。太き3ミリの隠線による横位区画。	
141	器台	脚部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	良	—	—	加曾利E	外面に縦のミガキ整形。内面に横のミガキ整形。	
142	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	黒色粒多い	普通	—	—	加曾利E	横位のミガキ整形。	
143	浅鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	内外面にミガキ整形。	
144	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1ミリの白色粒	普通	LR	縦	V群	口縁部に太き4ミリの沈線が通る。補修孔あり。	
145	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	普通	LR	横	V群	口縁部に隠線隠線が横位の区画。	
146	深鉢	口縁	灰黄	2.5YR/2	φ1~2ミリの小石	良	RL	斜	V群	口縁部を隠線で区画。	
147	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1ミリの小石	普通	—	—	V群	頸部に太き3ミリの沈線が横文される。	
148	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	普通	RL	横	V群	太き5ミリの隠線による口縁部横位区画と縦位の区画。	
149	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	普通	RL	横	V群	隠線による口縁部区画と縦の区画。	
150	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1ミリの砂粒	普通	RL	縦	V群	口縁部隠線で区画し、胴部には沈線で渦巻を作る。	
151	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	白色粒	良	—	—	V群	太き3ミリの隠線で渦巻状の文様区画。	
152	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	良	LR	斜	V群	太き1ミリの沈線による文様縦文。口縁部は、隠線による区画。	
153	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	V群	太き2ミリの沈線による弧線。	
154	深鉢	口縁	黒褐	2.5Y3/2	細かい砂粒多い	良	RL	縦	V群	太き3ミリの沈線による文様区画。磨り消し横文による無文帯。	
155	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	良	RL	縦 横	V群	太き6~8ミリの沈線で口縁を巡らす。口縁部に弧線を施文。	
156	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	RL	斜	V群	太き2~4ミリの沈線による口縁部区画と楕円区画。	
157	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	LR	横	V群	太き4~6ミリの沈線による渦巻文。	
158	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、黒色粒多い	良	RL	横	V群	太き5ミリの隠線で口縁部を区画し、胴部へ延く。	
159	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	LR	縦	V群	太き4ミリの隠線で口縁部を区画。胴部に区画線が延く。	
160	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい白色粒	良	RL	縦	V群	太き3ミリの沈線による口縁部区画。太き1ミリの沈線による曲線文。	
161	深鉢	口縁	灰白	10YR8/2	細かい砂粒多い	普通	RL	縦	V群	太き4ミリの沈線で口縁部を区画。胴部には「J」字文。無文帯磨り消し横文。	
162	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの黒色粒多い	良	RL	縦	V群	太き15ミリの沈線で横位区画。太き4ミリの隠線で胴部文様を区画する。	
163	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	LR	横	V群	太き1ミリの沈線による文様区画。内面口唇下に沈線。	
164	両耳壺	口縁	にぶい黄	2.5Y6/3	細かい砂粒	普通	LR	横	V群	口縁部は隠線により区画され無文帯を持つ。胴部に楕円区画と把手の接線痕。	
165	深鉢	口縁	黄橙	7.5YR7/8	細かい砂粒	良	RL	縦 横	V群	太き4ミリの沈線で口縁部を区画し、弧を描く。	
166	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	砂粒	良	RL	縦	V群	太き5ミリの沈線による文様。	
167	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	V群	口縁部を区画する隠線に横文を施文。胴部に沈線による文様縦文。	
168	深鉢	口縁	黒灰	10YR4/1	黒色粒多い	普通	—	—	加曾利E	幅9ミリの平行沈線で横位に横文。	

II区表土出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
169	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR6/3	細かい砂粒	良	RL	横	称名寺	太さ3ミリの沈線による「J」字文。施文部は、磨り消し施文。	
170	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	黒色粒	普通	RL	横	Ⅳ群	隆起線による口縁部文様区画。	
171	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/3	砂粒多い	普通	RL	縦	Ⅳ群	太さ3ミリの隆線による口縁区画と胴部文様。	
172	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	Ⅳ群	太さ4ミリの沈線が口縁部下に走る。胴部に太さ2ミリの沈線で横円区画。	
173	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR6/3	φ1~2ミリの小石	良	LR	横	Ⅳ群	太さ6ミリの隆線による横円区画。	
174	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	RL	横	Ⅳ群	太さ7~9ミリの隆線の渦巻文様。	
175	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR6/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	Ⅳ群	太さ5ミリの沈線が口縁に走り、胴部に曲線で文様が描かれた。	
176	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	Ⅴ群	φ7ミリの刺突。太さ7ミリの沈線による文様区画。	
177	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/4	φ1ミリの小石	良	RL	縦	Ⅴ群	横位に円形の刺突。胴部には太さ3ミリの沈線による文様施文。	
178	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/4	細かい砂粒	不良	RL	縦	Ⅴ群	太さ2ミリの沈線を2条口縁に並行させる。沈線間にφ3ミリの刺突。	
179	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	細かい白色粒	普通	RL	縦	Ⅴ群	太さ6ミリの沈線が口縁に施文。口縁に円形の刺突あり。	
180	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	良	RL	横	Ⅴ群	太さ8ミリの沈線で口縁部を横位に区画。区画部分に縦位の沈線施文。	
181	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR6/4	細かい砂粒	良	RL	横	Ⅴ群	口唇部に判点文。	
182	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/4	φ1ミリの白色粒	普通	-	-	Ⅴ群	口縁部にφ6ミリの刺突。斜位の平行沈線。	
183	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	RL	横	Ⅴ群	太さ4ミリの沈線にφ3ミリの竹管による円形刺突。	
184	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR7/3	φ1ミリの黒色粒	良	LR	縦	Ⅴ群	口縁部に幅10ミリの爪形文。	
185	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	RL	縦	Ⅴ群	φ5ミリの円形刺突と沈線による渦線。	
186	深鉢	口縁	明黄褐	10YR7/6	φ1ミリの白色粒	普通	RL	横	Ⅴ群	太さ5ミリの沈線による横円区画とφ4~6ミリの刺突列。	
187	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	細かい白色粒	普通	-	-	Ⅴ群	太さ2ミリの沈線が口縁に二重に走る。沈線間に竹管による交互刺突列。	
188	深鉢	口縁	にぶい黄褐色	10YR5/3	細かい砂粒	普通	-	-	Ⅴ群	φ3~4ミリの刺突。	
189	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	不良	-	-	Ⅴ群	口縁にφ6ミリの円形刺突と沈線による縦位の区画。	
190	深鉢	口縁突起	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	RL		加曾利E	太さ4ミリの沈線が縦位に施文。	
191	深鉢	突起	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒	良	-	-	加曾利E	「J」状の文様が突起頂部に付く。	
192	深鉢	口縁突起	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	-	-	加曾利E	杯状になる突起。	
193	深鉢	突起	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通	RL	斜	加曾利E	頂部は、杯状に凹む。	
194	両耳壺	把手	浅黄橙	7.5YR8/4	細かい砂粒	不良	RL	横	加曾利E		横状把手
195	両耳壺	把手	にぶい黄褐色	10YR6/3	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E		横状把手
196	両耳壺	把手	にぶい黄	2.5Y6/3	細かい砂粒	普通	-	-	加曾利E		横状把手
197	深鉢	把手	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	RL	横	加曾利E	口縁把手。	
198	両耳壺	把手	にぶい黄褐色	10YR6/3	白色粒多い	普通	RL	横	Ⅴ群		横状把手
199	両耳壺	把手	にぶい黄褐色	10YR7/4	φ1ミリの黒色粒	良	-	-	Ⅴ群1類		横状把手
200	両耳壺	把手	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~2ミリの小石	良	-	-	Ⅴ群1類	沈線による横円文。	横状把手
201	両耳壺	把手	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒	普通	-	-	Ⅴ群1類		横状把手
202	両耳壺	把手	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	普通	-	-	Ⅴ群1類		横状把手

日区表土出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文原体	施文方向	分類	文様の特徴	備考
203	両耳壺	把手	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい白色粒	良	—	—	Ⅷ群1類		横状把手
204	両耳壺	把手	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒、黒色粒	良	—	—	Ⅷ群1類	沈線による斜円文。	横状把手
205	両耳壺	把手	浅黄	2.5Y7/3	白色粒	良	RL	縦	Ⅷ群2類		横状把手
206	両耳壺	把手	灰白	10YR8/2	白色粒多い	不良	—	—	Ⅷ群1類		横状把手
207	両耳壺	把手	灰黄褐色	10YR6/2	細かい砂粒	普通	RL	横	Ⅷ群2類		横状把手
208	両耳壺	把手	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	—	—	Ⅷ群1類	無文の把手。中央に焼成前の孔が附けられる。	
209	両耳壺	把手	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	良	—	—	Ⅷ群1類	塗彩土器。	横状把手
210	両耳壺	把手	浅黄	2.5Y7/3	黒色粒多い	良	RL	横	Ⅷ群2類		横状把手
211	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	良	—	—	加曾利E	太さ2ミリの沈線が文様を隔く。	
212	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR5/3	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	縦位に沈線施文。	
213	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	LR	加曾利E	太さ3ミリの沈線による文様区画。黒糸。		
214	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/2	φ1~2ミリの小石	不良	—	—	加曾利E	太さ4ミリの沈線が縦位に施文。	
215	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの小石	良	—	—	加曾利E	幅5ミリの平行沈線を集合化させ、縦位に施文。	
216	深鉢	胴部	にぶい赤褐色	5YR5/4	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	黒糸。	
217	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	良	—	—	加曾利E	太さ3ミリの沈線が横位に施文。	
218	深鉢	胴部	明赤褐色	5YR5/6	φ1~2ミリの小石	普通	—	—	加曾利E	太さ1ミリの沈線による条線。	
219	深鉢	胴部	明褐色	7.5YR5/6	φ1ミリの小石	普通	—	—	加曾利E	幅3~4ミリの平行沈線による条線。	
220	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	幅3~4ミリの間隔に沈線が条線状に引かれる。	
221	深鉢	胴部	にぶい黄	7.5YR5/4	φ1ミリの白色粒	良	—	—	加曾利E	縦位に沈線施文。	
222	深鉢	胴部	にぶい赤褐色	5YR5/4	φ1ミリの小石	良	—	—	加曾利E	太さ4ミリの沈線を縦位に施文。	
223	深鉢	胴部	明赤褐色	5YR5/6	φ1ミリの小石、白色粒	良	—	—	加曾利E	太さ3ミリの沈線による条線。	
224	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	良	LR	加曾利E	黒糸。		
225	深鉢	胴部	褐色	7.5YR4/3	φ1~2ミリの小石	良	—	—	加曾利E	幅3ミリの平行沈線が縦位に施文。	
226	深鉢	胴部	明褐色	7.5YR5/8	φ1~3ミリの白色粒	良	LR	加曾利E	黒糸。		
227	深鉢	胴部	明褐色	7.5YR5/8	白色粒	普通	LR	加曾利E	細い沈線が横位施文。黒糸。		
228	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの小石	良	—	—	加曾利E	横位の條帯。	
229	深鉢	胴部	にぶい赤褐色	5YR5/4	φ1ミリの小石	良	LR	加曾利E	黒糸。		
230	深鉢	胴部	明赤褐色	5YR5/6	φ1ミリの小石多い	普通	—	—	加曾利E	幅3ミリの間隔で条線状に施文。	
231	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの白色粒	普通	—	—	—	表面に擦痕。	
232	深鉢	胴部	黒褐色	10YR3/1	φ1~2ミリの白色粒多い	普通	—	—	加曾利E	条線による施文。	
233	深鉢	胴部	浅黄褐色	10YR8/3	φ1~2ミリの小石	普通	—	—	加曾利E	幅12ミリの横状工具による条線。	
234	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1~2ミリの白色粒	普通	—	—	加曾利E	幅2ミリの平行沈線による条線。	
235	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y8/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	沈線による縦の区画。付加条。	
236	両耳壺	胴部	明赤褐色	5YR5/6	φ1~3ミリの小石	良	RL	横	Ⅷ群	斜円区画内を縄文が充填。胴部は、太さ2ミリの沈線が施文される。	
237	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/4	黒色粒	良	—	—	加曾利E	幅2ミリの平行沈線が波状文を作る。	
238	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/4	φ1ミリの小石	普通	—	—	加曾利E	幅2ミリの平行沈線を集合化させた波状文。	
239	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの小石	良	LR	加曾利E	太さ2ミリの沈線が垂下する。		
240	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	黒色粒	普通	—	—	Ⅷ群4類	太さ8ミリの沈線による縦位区画。施文条線。	

第4章 出土遺物

日区表土出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
241	深鉢	胴部	にぶい黄	2.5Y6/3	φ1~2ミリの小石	普通	—	—	Ⅷ群4類	条線による施文。	
242	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒	普通	—	—	Ⅷ群2類	幅15ミリの波状工具による波状文。	
243	両耳壺	胴部	にぶい黄褐	10YR7/3	黒色粒多い	普通	LR	縦	Ⅷ群	上半に縄文施文し、胴部下半条線による施文。	
244	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR7/4	細かい砂粒	普通	—	—	Ⅷ群2類	幅2ミリの平行波線で曲線を描く。	
245	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの小石	良	LR	縦	加曾利E	太き2~3ミリの波線による縦位の区画。	
246	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR7/4	黒色粒	普通	RL	縦	加曾利E	太き2ミリの波線が垂下する。	
247	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1~3ミリの白色粒	良	RL	縦	加曾利E	太き6ミリの波線による縦位区画と波状線。	
248	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	細かい白色粒多い	普通	RL	縦	加曾利E	太き2ミリの波線による縦位区画。	
249	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい黒色粒	普通	—	—	加曾利E	太き2ミリの波線が垂下する。	
250	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの白色粒	普通	LR	縦	加曾利E	幅4ミリの平行波線による文様で弧を描く。	
251	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y6/2	φ1ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E	太き1ミリの波線で帯門区画と垂線。	
252	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR7/4	白色粒多い	良	RL	縦	加曾利E	太き6ミリの波線による縦位区画。	
253	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	白色粒多い	普通	RL	斜	加曾利E	太き4ミリの波線で縦位の区画。	
254	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR6/4	φ1~2ミリの小石、白色粒	良	RL	縦	加曾利E	太き5ミリの波線による縦位区画。	
255	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR6/3	φ1~2ミリの黒色粒	普通	RL	縦	加曾利E	太き6ミリの波線で縦位区画。	
256	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR6/3	φ1ミリの白色粒	普通	RL	縦	加曾利E	太き4ミリの波線による縦位区画。	
257	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E	太き6ミリの波線による縦位区画。	
258	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	不良	LR	縦	加曾利E	太き4ミリの波線による縦位区画。	
259	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	黒色粒	不良	—	—	加曾利E	太き1ミリの波線が貼り付ける。	
260	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR7/3	黒色粒	良	LR	横	加曾利E	波線による縦位区画。	
261	深鉢	胴部	黄灰	2.5Y4/1	細かい砂粒	良	RL	斜	加曾利E	太い波線による文様施文。	
262	深鉢	胴部	オリーブ黒	5Y3/1	φ1ミリの白色粒	良	RL	横	加曾利E	太き3ミリの波線による文様区画。磨り消し施文による無文帯。	
263	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	黒色粒	普通	—	—	加曾利E	太き5ミリの波線による縦位区画。	
264	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR7/3	φ1ミリの白色粒	普通	RL	縦	加曾利E	隆起線による縦位区画。	
265	深鉢	胴部	オリーブ黒	5Y3/2	φ1~2ミリの白色粒多い	普通	RL	縦	加曾利E	太き10ミリの波線による縦位区画。	
266	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR7/2	細かい砂粒、φ3ミリの白色粒	良	RL	縦	加曾利E	太き6ミリの波線による縦位区画。	
267	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒、白色粒	普通	LR	縦	加曾利E	太き4ミリの波線で縦位の区画。	
268	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	黒色粒	不良	RL	縦	加曾利E	太き2ミリの波線隆起線による縦位区画。口縁とは波線が区画される。	
269	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	黒色粒	普通	RL	縦	加曾利E	太き2ミリの波線による縦位区画。	
270	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR7/3	黒色粒多い	良	RL	横	加曾利E	太き4ミリの波線で2本波状に施文。	
271	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太き2ミリの波線が波状に施文される。	
272	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR7/2	φ1~2ミリの小石	普通	LR	縦	Ⅷ群	太き5ミリの波線が垂下する。	
273	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR7/3	細かい砂粒	良	LR	縦	Ⅷ群	隆起線で縦位の区画。	
274	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E	太き3ミリの波線による縦位区画。	
275	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR6/3	細かい黒色粒	普通	RL	縦	加曾利E	太き5ミリの波線による縦位区画。	
276	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太き4ミリの波線による縦位区画。	

日区表土出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原状	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
277	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの砂粒多い	普通	LR	縦	加曾利E	太さ1ミリの沈線が傘下し縦位の区画。磨り消し縄文による無文帯。	
278	深鉢	胴部	灰褐	7.5YR5/2	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線を縦位に施文。	
279	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい黒色粒	普通	RL	横	加曾利E	隆線による横円区画。	
280	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	普通	LR	縦	加曾利E	幅広い沈線と隆線による縦位の区画。	
281	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ5~8ミリの隆線で文様帯を区画する。	
282	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	砂粒多い	普通	RL	横	V群	太さ1ミリの沈線による文様区画。磨り消し縄文による無文帯。	
283	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR5/3	細かい砂粒	普通	RL	横	V群	太い沈線で曲線文。磨り消し縄文による無文帯。	
284	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの隆線による縦位区画。縄文が形状に施文される。	
285	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	LR	横	V群	太さ2ミリの沈線による弧線。磨り消し縄文。	
286	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの小石、黒色粒	良	RL	斜	V群	太さ4ミリの沈線による曲線文様。	
287	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	白色粒多い	良	RL	縦	V群	太さ3ミリの沈線による横円区画。	
288	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	横	V群	太さ4ミリの沈線で曲線を置く。	
289	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ6ミリの沈線による縦位区画。	
290	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y7/3	φ1ミリの白色粒	普通	LR	縦	V群	隆線による文様区画。	
291	深鉢	胴部	淡黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	良	RL	縦	V群	隆線を2本対にして無文帯を作り、胴部文様を付ける。	
292	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	黒色粒	普通	RL	縦	V群	隆線による褐色文様。	
293	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	LR	縦	V群	太さ2ミリの沈線による文様区画。磨り消し縄文による無文帯。	
294	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石、白色粒	普通	RL	縦	V群	隆線による文様区画。	
295	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	黒色粒	普通	LR	縦	V群	隆線で横円の区画。	
296	深鉢	胴部	にぶい黄	2.5Y6/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	V群	太さ3ミリの隆線による横円区画。	
297	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	RL	縦	V群	太さ8ミリの沈線による横円区画と「I」状沈線文。	
298	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの白色粒	普通	RL	縦	V群	太さ4ミリの沈線による文様区画。	
299	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの小石、黒色粒	良	RL	横	V群	太さ4ミリの沈線による縦位区画。	
300	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの白色粒	普通	RL	縦	V群	太さ4ミリの沈線で「U」「O」状の文様。	
301	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの小石	普通	LR	横	V群	太さ3ミリの沈線による文様区画。磨り消し縄文による無文帯。	
302	深鉢	胴部	灰	5Y4/1	φ1ミリの白色粒	普通	RL	縦	V群	隆・沈線で渦巻状の区画。	
303	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	白色粒	良	RL	横	V群	太さ2ミリの沈線で弧線による文様区画。磨り消し縄文による無文帯。	
304	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの小石	良	LR	縦	V群	太さ1ミリの沈線による文様区画。磨り消し縄文による無文帯。	
305	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	白色粒	普通	LR	縦	V群	隆線による横円の区画。	
306	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	LR	縦	V群	太さ2ミリの沈線による文様区画。磨り消し縄文による無文帯。	
307	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	V群	太さ2ミリの沈線で弧を置く。	
308	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	—	—	—	沈線が縦位に施文される。	
309	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	良	—	—	加曾利E		

第4章 出土遺物

日区表土出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	地文 方向	分類	文様の特徴	備考
310	深鉢	胴部	明黄褐	10YR6/6	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E		
311	盥耳壺	把手	灰白	10YR8/2	細かい白色粒	普通	RL	縦	加曾利E		横状把手
312	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	細かい砂粒多い	普通			加曾利E		
313	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	黒色粒	良			加曾利E		
314	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y6/2	φ1~2ミリの白色粒	良	LR	横	加曾利E	縄文が帯状に施文。	
315	深鉢	胴部	にぶい黄	2.5Y6/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E		
316	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	普通	RL	横	加曾利E		
317	深鉢	胴部	オリーブ黒	5Y3/1	φ1ミリの白色粒	普通	RL	横	加曾利E		
318	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	RL	斜	加曾利E	太さ3ミリの縄線による文様区画。	
319	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR5/3	細かい砂粒	普通	RL	横	加曾利E		
320	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/4	黒色粒多い	普通	RL	横	加曾利E		
321	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	不良	RL	斜	加曾利E		
322	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	砂粒	普通	RL	斜	加曾利E		
323	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR6/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E		
324	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの小石	良	RL	縦	加曾利E		
325	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの白色粒多い	普通	RL	縦	加曾利E		
326	深鉢	胴部	にぶい黄褐色	10YR7/3	黒色粒	普通	RL	縦	加曾利E		
327	深鉢	胴部	灰	N4/0	φ1ミリの砂粒	—	—	—	後期		
328	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄褐色	10YR7/4	細かい砂粒	普通	—	—	—	外面ミガキ整形。	
329	深鉢	胴部~ 底部	灰白	10YR8/2	細かい砂粒、白色粒多い	良	—	—	—		
330	深鉢	胴部~ 底部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~3ミリの小石	良	—	—	—	外面横方向のミガキ整形。	
331	深鉢	胴部~ 底部	にぶい橙	7.5YR7/3	細かい砂粒	良	—	—	加曾利E	外面ミガキ整形。	
332	深鉢	胴部~ 底部	橙	7.5YR7/6	φ1ミリの小石	普通	—	—	加曾利E		
333	深鉢	胴部~ 底部	浅黄褐色	7.5YR8/4	黒色粒多い	良	—	—	加曾利E		
334	深鉢	胴部~ 底部	明黄	7.5YR5/6	φ1ミリの小石	普通	—	—	加曾利E	外面ミガキ整形。	
335	深鉢	底部	にぶい黄褐色	10YR7/4	φ1ミリの白色粒	普通	—	—	加曾利E	上げ底になる。	
336	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄褐色	10YR7/4	φ1~3ミリの小石	普通	LR	横	加曾利E		
337	深鉢	胴部~ 底部	浅黄褐色	7.5YR8/4	φ1ミリの小石	普通	LR	縦	加曾利E	外面横方向のミガキ整形。	
338	深鉢	胴部~ 底部	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの小石	普通	—	—	—	外面ミガキ整形。	
339	深鉢	胴部~ 底部	にぶい橙	7.5YR7/4	黒色粒多い	良	—	—	加曾利E	外面ミガキ整形。	
340	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄褐色	10YR7/3	白色粒	良	—	—	古墳時代	外面横方向のミガキ。	土師器
341	深鉢	胴部~ 底部	浅黄褐色	10YR8/3	φ1ミリの白色粒	良	—	—	—	外面縦方向のミガキ整形。	
342	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄褐色	10YR7/3	白色粒含む	普通	—	—	加曾利E	太さ2ミリの沈線による縦位区画。	
343	深鉢	胴部~ 底部	浅黄褐色	10YR8/3	砂粒多い	普通	LR	横	加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。	
344	深鉢	底部	浅黄褐色	7.5YR8/4	黒色粒多い	普通	—	—	加曾利E	底部穿孔。	
345	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄褐色	10YR7/4	細かい砂粒	普通	—	—	—	外面ミガキ整形。	
346	深鉢	胴部~ 底部	明黄	7.5YR5/6	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E		
347	深鉢	胴部~ 底部	浅黄褐色	7.5YR8/3	φ1ミリの小石	良	—	—	加曾利E	外面ミガキ整形。	
348	深鉢	胴部~ 底部	にぶい黄褐色	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	良	—	—	—	外面丁寧なミガキ整形。	

日区表土出土土器調査表

図版No.	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
349	深鉢	胴部～ 底部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～2ミリの小石	良	—	—	加曾利E	底面横位のミガキ整形。	
350	深鉢	胴部～ 底部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～2ミリの小石				加曾利E		
351	深鉢	胴部～ 底部	にぶい黄橙	10YR7/4	白色粒多い	普通	—	—	加曾利E	沈線で縦の区画。	
352	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの白色粒多い	普通	—	—	加曾利E		
353	深鉢	胴部～ 底部	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの小石	不良	LR	斜	加曾利E		
354	深鉢	胴部～ 底部	にぶい橙	5YR6/4	φ1～2ミリの小石、黒色粒	普通	—	—	加曾利E		
355	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1ミリの白色粒	普通	—	—	加曾利E		
356	土製品		にぶい橙	7.5YR7/3	白色粒	良	—	—	加曾利E	環状になる土製品。	
357	深鉢	胴部～ 底部	浅黄橙	10YR8/4	φ1ミリの小石	普通	—	—	加曾利E	外面ミガキ整形。	
358	深鉢	胴部～ 底部	灰白	10YR8/2	φ1～3ミリの小石	良	—	—	加曾利E	外面ミガキ整形。	
359	深鉢	胴部～ 底部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1ミリの白色粒	良	—	—	古墳時代	底部高台状になる。外面ミガキ。	土師器
360	深鉢	胴部～ 底部	にぶい黄橙	10YR7/3	黒色粒	普通	—	—	加曾利E	外面ミガキ整形。	
361	深鉢	胴部～ 底部	明黄褐	10YR7/6	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E		
362	深鉢	胴部～ 底部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～3ミリの小石	良	—	—	加曾利E	外面ミガキ整形。	
363	深鉢	胴部～ 底部	浅黄橙	7.5YR8/4	白色粒	良	—	—	加曾利E		
364	深鉢	胴部～ 底部	にぶい黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	良	—	—	加曾利E		
365	深鉢	胴部～ 底部	浅黄橙	10YR8/3	φ1ミリの白色粒	普通	—	—	加曾利E	外面ミガキ整形。	
366	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの砂粒	良	—	—	加曾利E	縦位のミガキ整形。	
367	深鉢	胴部～ 底部	浅黄橙	10YR8/3	φ1～2ミリの小石、黒色粒	普通	—	—	加曾利E	外面ミガキ整形。	
368	深鉢	底部	橙	7.5YR8/6	φ1～2ミリの白色粒多い	普通	—	—	加曾利E		
369	深鉢	底部	橙	7.5YR7/6	砂粒多い	不良	—	—	加曾利E		
370	深鉢	胴部～ 底部	にぶい黄橙	10YR7/4	黒色粒	普通	—	—	加曾利E	縦位の沈線。	
371	深鉢	胴部～ 底部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	良	RI	横	加曾利E		
372	深鉢	胴部～ 底部	オリーブ黒	7.5Y3/2	φ1ミリの白色粒	普通	—	—	加曾利E		
373	深鉢	底部	橙	2.5YR6/6	φ1～2ミリの白色粒多い	良	—	—	加曾利E	底部に横位の押痕。	
374	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	—	—	加曾利E		
375	深鉢	底部	橙	7.5YR7/6	φ1～2ミリの小石	普通	—	—	加曾利E		
376	深鉢	胴部～ 底部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	—	—	加曾利E	外面ミガキ整形。	
377	深鉢	底部	浅黄橙	7.5YR8/4	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	外面に塗彩。	埴形土器
378	厨台	脚	浅黄橙	7.5YR8/4	黒色粒多い	普通	—	—	加曾利E		
379	土製円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの小石	良	—	—	阿玉台	外面ミガキ整形。	
380	土製円盤		暗灰黄	2.5Y4/2	金雲母	良	—	—	阿玉台	幅6ミリの平行沈線が扇筒状に施文される。	
381	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの白色粒	普通	—	—	加曾利E	底部内面を磨いている。底部片を転用。	
382	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石	普通	—	—		底部片を転用。	
383	七輪網		橙	5YR6/6							近代
384	土製円盤		にぶい黄橙	10YR4/3	φ1ミリの小石多い	普通	—	—	加曾利E	底部片を転用。	

第4章 出土遺物

日区表土出土土器観察表

図版No	種類器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	地文 原形	施文 方向	分類	文様の特徴	備考
385	土製円盤		にぶい黄褐色	10YR7/4	細かい砂粒	普通			加曾利E		
386	土製円盤		にぶい黄褐色	10YR6/4	φ1ミリの小石	普通		-	加曾利E		
387	土製円盤		にぶい黄褐色	10YR7/4	φ1~3ミリの小石	普通		-			幅2ミリの平行沈線を条線状にして遊戯に施文。 縁辺打ち欠き成形。
388	土製円盤		橙	7.5YR7/6	白色粒多い	普通		-			
389	土製円盤		にぶい黄褐色	10YR6/4	φ1~3ミリの小石	普通		-			
390	土製円盤		にぶい橙	5YR6/3	細かい砂粒	不良					縁辺打ち欠き成形。
391	土製円盤		灰白	10YR8/1	白色粒	不良					縁辺打ち欠き成形。
392	土製円盤		にぶい赤褐色	5YR4/3	φ1ミリの小石多い	良	LR		加曾利E		
393	土製円盤		にぶい黄褐色	10YR5/4	φ1~2ミリの小石	普通		-			
394	土製円盤		にぶい褐	7.5YR5/3	φ1ミリの白色粒	普通		-	加曾利E		
395	土製円盤		浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	不良	RL		加曾利E		
396	土製円盤		浅黄	2.5Y7/3	細かい白色粒	普通	RL		加曾利E		太さ5ミリの沈線が縦位に施文。
397	土製円盤		残黄褐色	10YR8/3	白色粒	良					縁辺打ち欠き成形。
398	土製円盤		にぶい黄褐色	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL		加曾利E		太さ2ミリの沈線が垂下する。
399	土製円盤		橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	良	RL		加曾利E		
400	すり鉢	胴部	明赤褐色	2.5YR5/6							現代
401	土製円盤		黒褐色	2.5Y3/1	細かい砂粒	良	RL		加曾利E		太さ2ミリの沈線による縦位区画。
402	耳飾り		黒褐色	2.5Y3/1	細かい砂粒						細かい沈線で褐色。弧線を描く。

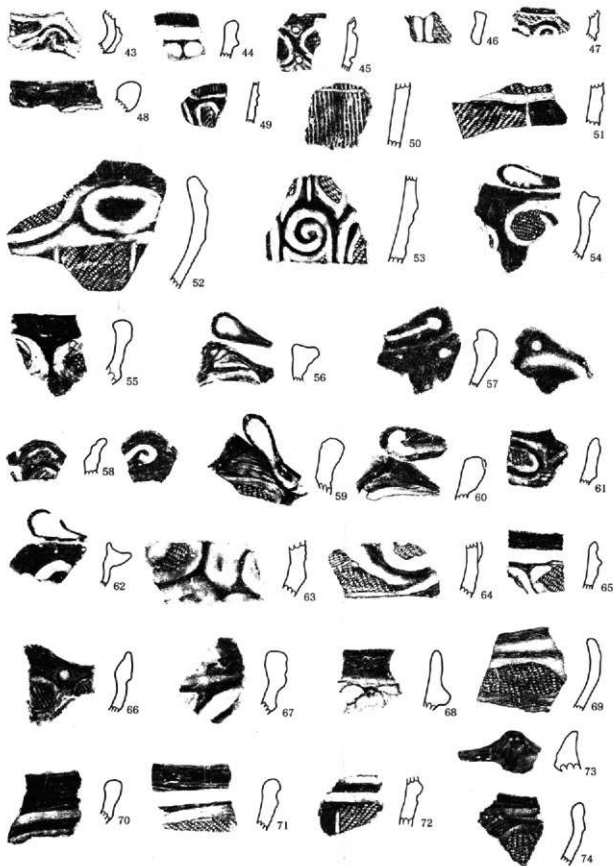
日区表土出土陶磁器観察表

図版No	器種	製作地	特徴
403	陶器 甕(孫太)	瀬戸・美濃	胴輪を厚めに施す。口縁部無輪。外面体部下位以下は鉄化粧。底部右回転糸切り無調整。底部中央、内外面から穿孔し榎木鉢に転用。18世紀頃以降。
404	陶器 灯明皿	瀬戸・美濃	口縁部から内面胴輪。口縁部外面から底部回転翼削り。19世紀。
405	磁器 碗	肥前?	焼成不良。外面の呉須は黒く黄色。松葉状の文様は手書き、柳状の文様はコンニャク焼。18世紀か。
406	磁器 猪口	肥前	外面に竹と松の染め付け。若干焼成不良で透明釉に貫入が入る。高台内不明跡。18世紀。
407	陶器 灯明皿	志戸呂	口縁部外面から内面胴輪。底部右回転糸切り無調整。内外面に油付き。18世紀中頃から後半。
408	磁器 小杯	肥前(佐世美系)	口縁部外面に紫線の染め付け。江戸時代。



第208圖 II区表土出土土器(1)

0 20cm

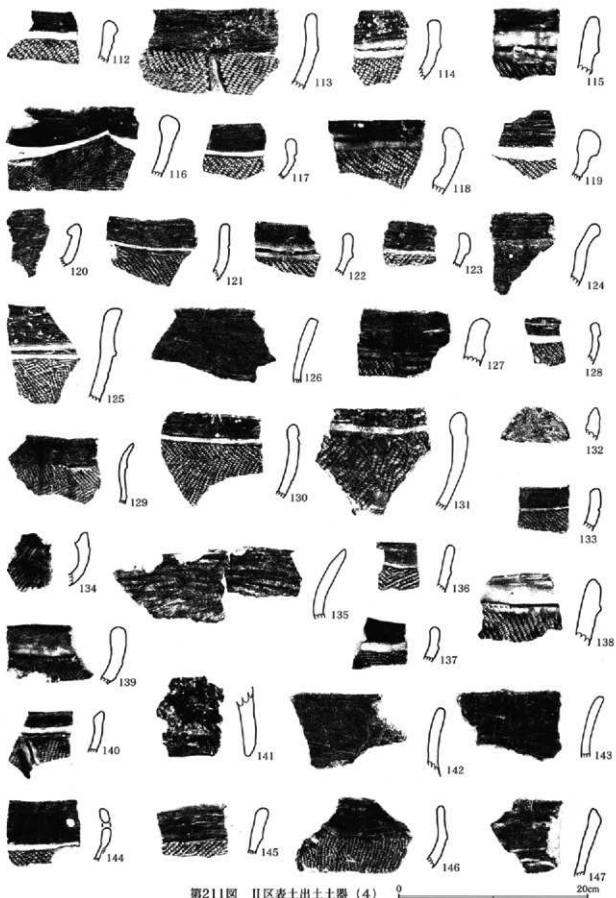


第209圖 Ⅱ区表土出土土器(2)

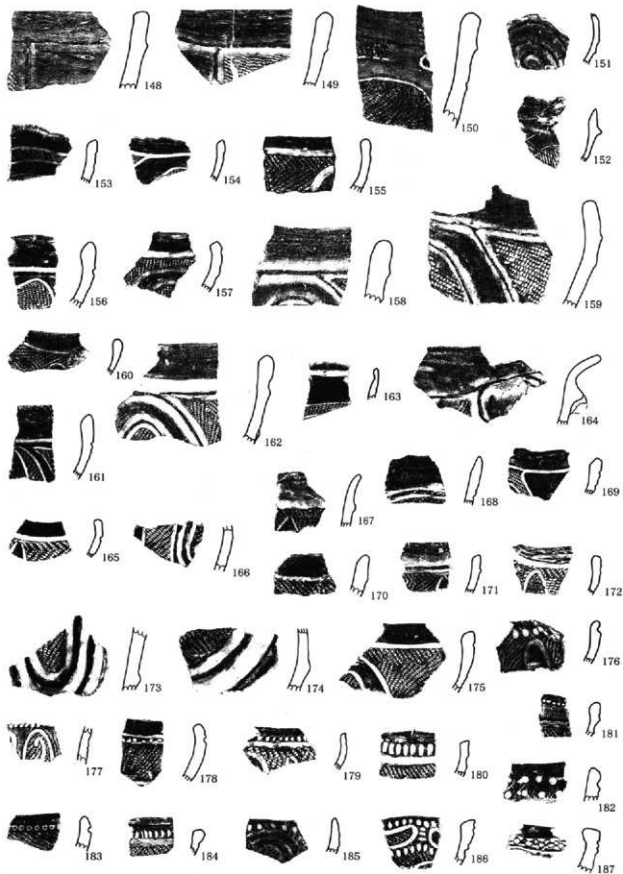
0 20cm



第210圖 II区表土出土土器(3)



第211图 II区表土出土土器(4)



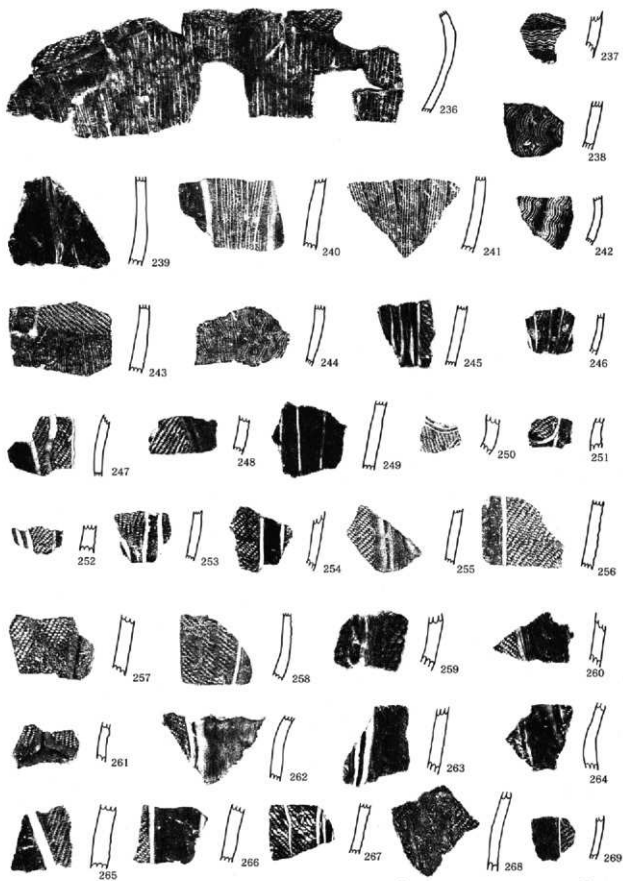
0 20cm 第212图 II区表土出土土器(5)

第4章 出土遺物



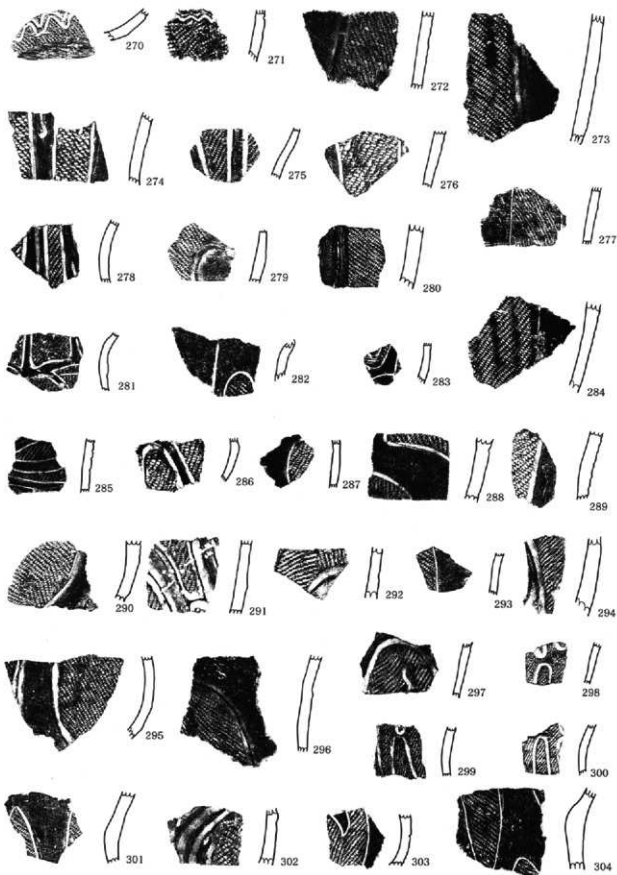
第213图 II区表土出土土器(6)

0 20cm



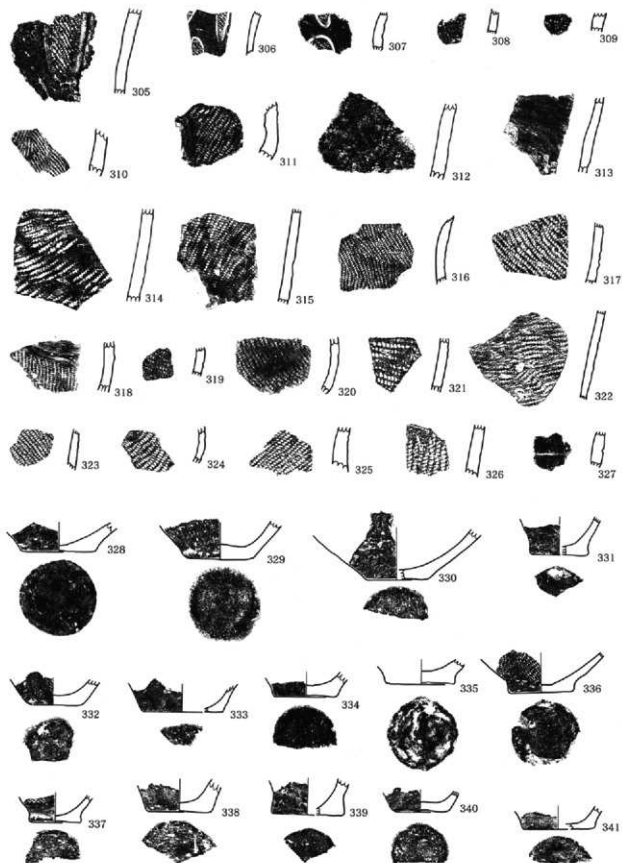
第214圖 II区表土出土土器(7)

0 20cm



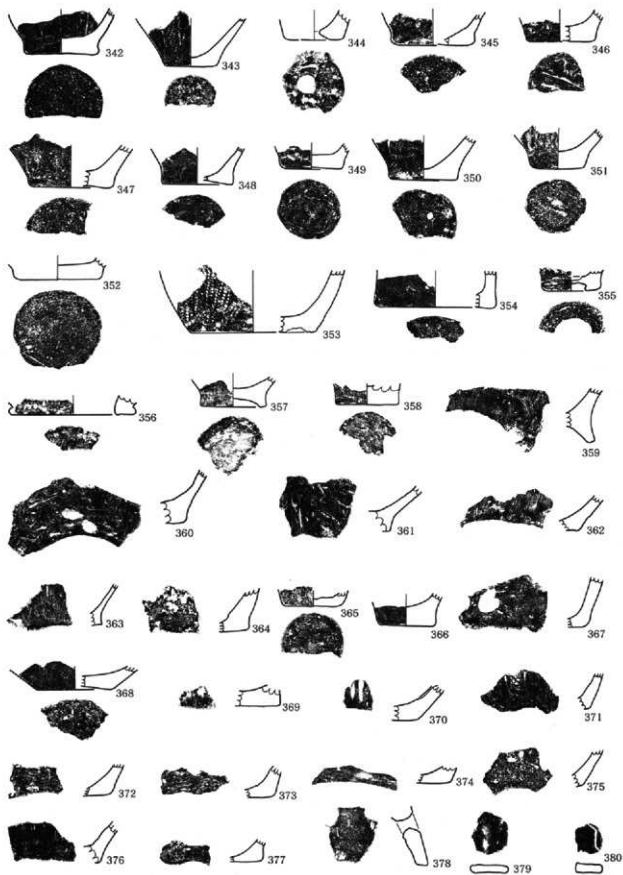
第215图 II区表土出土土器(8)

0 20cm



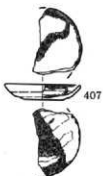
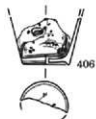
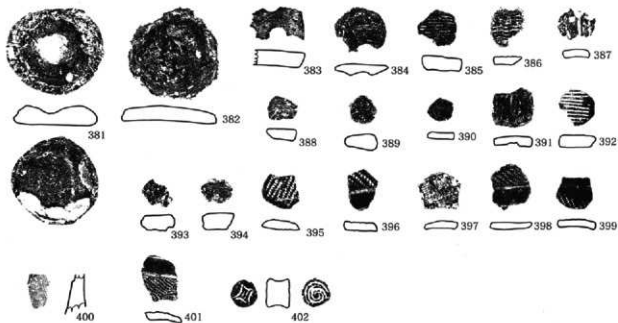
第216圖 II区表土出土土器(9)

0 20cm



第217图 II区表土出土土器(10)

0 20cm



第218图 II区表土出土土器(11)

第2節 出土石器

1 石器の分類基準

剥片石器はその技術形態の特徴にもとづき分類した。石鏃、石錐、楔形石器、打製石斧は形態が多様であるため、さらに細分をおこなった。礫石器は表面の痕跡にもとづき分類した。なお、磨痕、凹痕、敲打痕のうち複数の痕跡が一個体に観察される場合は、複合石器として分類した。

石鏃 両面加工により尖頭部を作出した小型薄手のもの。有茎と無茎が存在し、無茎石鏃はその基部形状により凹基、凸基、平基に細分した。

尖頭器 石鏃同様に両面加工により尖頭部を作出するが、石鏃に比べてより大型厚手であり、加工の粗いもの。石鏃未製品の可能性があるが、本報告では尖頭器として区別した。

石錐 剥片の一端に錐部を作出するもの。錐部の両側縁に二次加工が施されるものと、一側縁に折れ面を残してもう一側縁のみ二次加工が施されるものがある。後者はこれまで不定形石器に含めて理解されることがあったが、二次加工により作出される錐部形状を重視して石錐に含めた。錐部と基部の形態的特徴から、Ⅰ類：錐部と基部の境界が明瞭なもの、Ⅱ類：錐部と基部の境界が不明瞭なもの、Ⅲ類：錐部と基部に境界のない棒状加工のものに細分した。

楔形石器 剥片の両端に対向する剥離痕を有するもの。これまでに「剪断面」（阿村1983）と報告される特徴的な面や両極剥離痕、両端の潰れが伴う場合が多い。楔形石器は対向する剥離痕の組み合わせにより、Ⅰ類：上下端から対向する一対の剥離痕があるもの、Ⅱ類：上下端からの対向する一対の剥離痕とともに一側縁に剥離痕のあるもの、Ⅲ類：上下端、左右両側縁から対向する二対の剥離痕があるものに細分した。

スクレイパー 剥片の一端に連続する二次加工が施され、安定した角度の刃部が作出されるもの。刃部の角度や二次加工面の侵入度は個体により異なる。刃部の作出方法により、Ⅰ類：片面加工により作出されるもの、Ⅱ類：両面加工により作出されるものに細分した。

鋸歯縁石器 剥片の一端に鋸歯状の刃部を作出したものの。

打製石斧 剥片もしくは扁平な礫の二辺に連続的な二次加工を施して斧形に整形されたもの。刃部は二次加工によって作出される場合がほとんどであるが、素材剥片の縁辺を未加工のまま刃部に用いることがある。打製石斧は従来その平面形から短冊形、擲形、分銅形に細分されることが多いが、本遺跡から多数出土した打製石斧の形態差は連続的であり、さらに破損品を多く含むことから短冊形と擲形に細分することは必ずしも容易ではなかった。そのため、本報告では短冊・擲形と分銅形の二細分にとどめた。部位名称は、器体を長軸方向に三分して上位より基部・胴部・刃部とした。刃部としてよりふさわしい形状をとどめている、より幅広くある、あるいは摩擦や縁状痕がより明瞭に観察されるほうの端部を刃部と判断した。